令和2年度　仙松維第14号

仙台松島道路　春日PA身障者用駐車場等改築工事

（上り線）

設　　計　　図

仕様書

宮城県道路公社

A	意匠図	S	構造図	E	電気設備図	M	機械設備図
番号	図面名	番号	図面名	番号	図面名	番号	図面名
A-01	図面リスト	S-01	特記仕様書(構造関係その１)	E-01	電気設備工事特記仕様書	M-01	機械設備工事特記仕様書
A-02	特記仕様書１	S-02	特記仕様書(構造関係その２)	E-02	構内配電線路図	M-02	空調・換気設備　喫煙所詳細図
A-03	特記仕様書２	S-03	構造関係共通図(配筋標準図その１)	E-03	急速充電装置仕様書・参考姿図・急速充電用駐車場棟平面図		
A-04	特記仕様書３	S-04	構造関係共通図(配筋標準図その２)	E-04	身障者用・急速充電用駐車場棟　平面図		
A-05	特記仕様書４	S-05	構造関係共通図(配筋標準図その３)	E-05	電気設備　喫煙所棟平面図		
A-06	特記仕様書５	S-06	構造関係共通図(配筋標準図その４)	E-06	電気設備　喫煙所棟平面図(撤去図)		
A-07	配置図	S-07	構造関係共通図(配筋標準図その５)				
A-08	案内図	S-08	構造関係共通図(鉄骨標準図その１)				
A-09	敷地求積図	S-09	構造関係共通図(鉄骨標準図その２)				
A-10	面積表	S-10	ボーリング柱状図				
A-11	身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟　一般図	S-11	身障者駐車場棟(伏図・軸組図)				
A-12	身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟　詳細図	S-12	身障者駐車場棟(基礎リスト、鉄骨部材リスト、鉄骨詳細図)				
A-13	喫煙所棟　一般図	S-13	喫煙所棟(伏図、軸組図、基礎リスト、鉄骨部材リスト、鉄骨詳細図)				
A-14	喫煙所棟　詳細図	S-14	自動二輪用駐車場棟(伏図、軸組図、基礎リスト、鉄骨部材リスト、鉄骨詳細図)				
A-15	自動二輪用駐車場棟						
A-16	防鳥ネット設置　天井伏図						
A-17	あずまや棟						
A-18	サイン図						
A-19	外構平面図(撤去範囲)						
A-20	外構平面図(改修範囲)						
A-21	外構詳細図						
A-22	仮設計画図						
A-23	既存(解体撤去)　身障者用駐車場棟(意匠図)						
A-24	既存(解体撤去)　身障者用駐車場棟(構造図１)						
A-25	既存(解体撤去)　身障者用駐車場棟(構造図２)						
A-26	既存(解体撤去)　喫煙所棟(意匠図)						
A-27	既存(解体撤去)　喫煙所棟(構造図)						

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士　第302881号　下山田　勇

日付 2021・01・05・
古澤　克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ 図面リスト

図面番号 Ａ －０１

縮尺 A1: － A3: －

特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

１　工事番号・名称　春日PA(上り線)身障者用駐車場等改築工事
２　工　事　場　所　宮城県宮城郡利府町春日二ツ石
　　1-1の一部、1-5の一部、4-2の一部、20-18の一部

３　用途地域等
　都市計画区域（⊙　内　・　外）　用途地域（　指定のない区域　　）
　防火地域等（・　防火　・　準防火　⊙　指定なし　⊙　２２条　）
　その他の地域・地区（　市街化調整区域
４　主　要　用　途　自動車のみの交通の用に供する道路に設けられる休憩所
５　敷　地　面　積　10,900.83㎡
６　工　事　の　概　要　1.身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟　改築
　2.自動二輪用駐車場棟　新築
　3.喫煙所棟　改築
　4.既存身障者用駐車場棟　解体撤去
　5.既存喫煙所棟　解体撤去
　6.二輪専用駐車場周囲の整地

７　別 途 工 事　1.あずまや工事は別途とする。

８　そ　の　他　1.解体工事について：
　廃棄処理については、アスベスト含有調査や処理方法について、適切に処理する事。

９　特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
　⊙　構造特記仕様書　・　外構工事特記仕様書　・　植栽工事特記仕様書
　・　解体工事特記仕様書　⊙　電気設備工事特記仕様書　⊙　機械設備工事特記仕様書
　・　・

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

１．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(平成31年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし，標準仕様書に記載されていない事項は，「公共建築改修工事標準仕様書（平成31年版）（以下「改修標準仕様書」という。）「公共建築木造工事標準仕様書（平成31年版）」（以下「木造標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
２．特記仕様
　１）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　２）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　３）特記事項に記載の（　）、＜　＞及び［　］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般事項	①．一般事項	⊙　工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙　請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙　施工体系図を現場に掲示すること。 ・　工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※　図示
1 一般事項	②．適用基準等	⊙　建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成31年4月1日施行） ⊙　建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成28年版） ⊙　宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定 平成12年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜建築工事編及び解体工事編＞ （国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成30年度版） ・　建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成30年版）
1 一般事項	３．概成工期	工事工期より　　日前　(1.2.1)
1 一般事項	④．工事実績情報(CORINS)の登録	※　適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・　適用しない
1 一般事項	⑤．発生材の処理等	発生材の処理　(1.3.8) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの 種　類｜受入施設名｜所在地（Km）｜備考 ⊙　セメントコンクリート塊｜旭工業株式会社｜加美郡色麻町高根字新山前畑19 ⊙　アスファルトコンクリート塊｜旭工業株式会社｜加美郡色麻町高根字新山前畑19 ⊙　建設発生木材｜旭工業株式会社｜加美郡色麻町高根字新山前畑19 ・　建設汚泥 ・現場において再利用を図るもの（　　） ・その他の廃棄物（安定型)(　　) 受入れ施設名・所在地(km) ⊙その他の廃棄物（管理型)(瓦礫、石膏ﾎﾞｰﾄﾞ、ｽﾁｰﾙ、ｱﾙﾐ　) 受入れ施設名・所在地(km) 宮城県環境事業公社小鶴沢処理場 黒川郡大和町巣小鶴沢字大沢5 上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記にない場合は、監督職員と協議すること。 **また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。**
1 一般事項	⑥．電気保安技術者	⊙　適用する　※　適用しない　(1.3.3) (1.3.9)
1 一般事項	⑦．事故報告	工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
1 一般共通事項	⑧．建築材料等	材料の品質等　(1.4.2) 本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。 特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。 環境への配慮　(1.4.1) 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の該当する建築材料 １）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 ２）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ３）次の表示のあるＪＡＳ適合品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
1 一般共通事項	９．室内の空気中の化学物質濃度の測定	※　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.9) 試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。 測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3　・　0.08ppm） ※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3　・　0.05ppm） ※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3　・　0.07ppm） ※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値 3,800μg/m3　・　0.88ppm） ※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　200μg/m3　・　0.20ppm） 測定する室等：（　　） 採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。 測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を２部提出する。 ａ測定結果 ｂ試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数） ｃ試料採取方法，測定方法，使用した測定機器 測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。 ・　総揮発性有機化合物の測定 測定方法，測定物質及び測定か所等については，この仕様書の末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。 ※　室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。
1 一般共通事項	⑩．特別な材料の工法	「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は，当該製品の指定工法とする。
1 一般共通事項	⑪．建築基準法による風圧力等の指定	(8.4.3)(8.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.11.2～13.2)(16.14.5) 適用工事｜建築基準法の指定 ・　長尺金属板葺　⊙　折板葺｜風速(V0)　※３０　・ ・　粘土瓦葺　・　アルミニウム笠木｜地表面粗度区分　・Ⅱ　⊙Ⅲ ・　ガラスブロック・　ＡＬＣ外壁パネル｜多雪地域の指定　・有　⊙無 ・　押出成形セメント板外壁パネル ・　重量シャッター・　軽量シャッター ・　オーバーヘッドドア
1 一般共通事項	⑫．設計G.L.	※　図　示　　・　現状平均地盤高
1 一般共通事項	⑬．技　能　士	(1.5.2) ・　下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。 ※　下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。 ・　下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。 工事種目｜技能検定職種（技能検定作業） 以下の該当工事｜⊙該当する作業がある以下の職種（作業）の全て 仮設工事｜・とび（とび作業） 鉄筋工事｜・鉄筋施工（鉄筋組立作業） コンクリート工事｜・型枠施工（型枠工事作業） ・コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業） 鉄骨工事｜・とび（とび作業） ・鉄工（構造物鉄工作業） コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事｜・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業） ・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業） 防水工事｜・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　） 石工事｜・石材施工（石張り作業） タイル工事｜・タイル張り（タイル張り作業） 木工事｜・建築大工（大工工事作業） 屋根及びとい工事｜・建築板金（内外装板金作業） ・かわらぶき（かわらぶき作業） 金属工事｜・内装仕上施工（鋼製下地工事作業） ・建築板金（内外装板金作業） ・バルコニー施工（金属バルコニー工事作業） 左官工事｜・左官（左官作業） 建具工事｜・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業） ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事｜・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業） ・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） 塗装工事｜・塗装（建築塗装作業） 内装工事｜・内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・木質系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上工事作業　） ・表装（壁装作業） 排水工事｜・配管（建築配管作業） 舗装工事｜・路面表示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｲﾝﾏｰｶｰ作業　） 植栽工事｜・造園（造園工事作業）
1 一般共通事項	⑭．完成図等	営繕工事完成引渡要領（平成31年1月5日宮城県土木部営繕課・設備課策定）により作成する。 ※　完成原図（ケース収納）　１部 ※　青焼２つ折製本　３部 ※　青焼Ａ４版折製本（黒表紙金文字入）　１部 ※　青焼・白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　３部 ※　完成図面電子データJWW形式又はDXF形式 若しくはTIFF形式（解像度300DPI程度）　CD2枚 ※　作成する　・　作成しない 宮城県建築工事写真撮影要領により，完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原版（ネガ又は電子媒体）とともに監督職員に提出する。 なお，原版を電子媒体とする場合は，CD等で提出すること。
1 一般共通事項	⑮．完成写真(完成予想ﾊﾟｰｽ)	分類｜サイズ｜撮影箇所数｜部数｜提出様式 ※カラー・白黒｜※Ｌ・２Ｌ・六切り｜※宮城県写真撮影要領の完成写真程度・　箇所　枚｜※１部・部｜※正事用ボケット式程度・フリーアアルバム（台紙寸法323×270程度） ⊙ﾃﾞｼﾞﾀﾙ写真｜⊙圧縮率，撮影ﾓｰﾄﾞは監督員と協議の上決定する。 ⊙CDに記録し提出する。 ⊙完成予想ﾊﾟｰｽ｜⊙工事途中時に完成予想パース(上下線各1枚)作成のこと。 詳細は監督員と協議の上決定とする。
1 一般共通事項	⑯．設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
1 一般共通事項	⑰．火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　※　火災保険　※　建設工事保険 保険期間　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで
1 一般共通事項	18．住宅瑕疵担保責任	住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け ・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）
2 仮設工事	①．仮囲い	※　設ける　・　設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・シートゲート（H= 3m ，W= 2m ）×　　箇所
2 仮設工事	②．危害防止	※　シート張り　・　金網養生
2 仮設工事	③．交通誘導員	⊙　配置する（ 25日　× 2人　＝　50人/月）　※　配置しない
2 仮設工事	④．揚重機械器具	・　トラッククレーン（　ｔ吊り）×　　日 ・　（　ｔ吊り）×　　日
2 仮設工事	⑤．監督職員事務所	※　設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保） ・　設ける（規模　　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否） 備品（　　）
2 仮設工事	⑥．工事表示板	※　設置する（設置枚数　１枚）　・　設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。
2 仮設工事	⑦．事業コスト表示板	・　設置する（設置枚数　※　１枚　・　枚）　※　設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。
2 仮設工事	⑧．工事用水	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない
2 仮設工事	⑨．工事用電力	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない
2 仮設工事	⑩．工事用通路	※　指定しない　⊙　指定する（ 監督員と協議の上決定する事　）
2 仮設工事	⑪．足場等	(2.2.4) 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。
2 仮設工事	12．その他の仮設	
3 土工事	①．埋戻し及び盛土の種別	種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1) Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　㎥ 発生場所
3 土工事	②．建設発生土の処理	⊙　構外に搬出し適切に処理する。　(3.2.5) ・　構外指示の場所に搬出する。 受入れ施設名・所在地（km） ・　構内指示の場所に敷きならす。 ・　構内指示の場所にたい積する。
3 土工事	③．山　留　め	⊙　設置する　・設置しない　(3.3.1) ・　存置する　・存置しない　(3.3.3)
4 地業工事	1．既製コンクリート杭・鋼杭地業	杭の種類　(4.3.3)(4.4.3) ・　プレストレストコンクリート杭（JIS表示承認製品） ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 ・　鋼杭（JIS表示承認製品）　・鋼管ぐい　・H形鋼ぐい (4.3.3) 記号｜杭径（mm）｜長さ(m)及び種別｜設計支持力｜セット数｜備考 試験杭｜⊗ 本杭｜○ 継　手　※　アーク溶接継手又は建築基準法の　(4.3.6)(4.4.5) ・　規定に基づき認定された無溶接継手 先端部形状　・閉塞平坦型　・開放型 杭の施工法　(4.3.3)(4.4.3) ・　セメントミルク工法　(4.3.4) ・　特定埋込杭工法　(4.3.5)(4.4.4) （旧建築基準法第３８条の規定に基づき認定された工法）
4 地業工事	2．場所打ちコンクリート杭地業	杭打機の種類 ハンマーの種別　※　油圧パイルハンマー　・　ドロップハンマー パイルドライバー　※　三点支持式クローラークレーン 騒音・振動の測定　・　行う　※　行わない コンクリートの種別　・　Ａ種　・　Ｂ種　(4.5.4)(表4.5.1) 掘削工法　・　アースドリル工法　※　安定液使用　(4.5.5) ・　リバース工法 ・　オールケーシング工法 孔内の水張り　※　行う　・　行わない
4 地業工事	3．地盤改良	工　法（・　　）
4 地業工事	④．床下防湿層	※　設ける　地中梁がある場合は、250mm折り下がりとする。　(4.6.5) ・　設けない
4 地業工事	⑤．土間スラブ(土間コン)下断熱材	※　設ける　Ａ種押出法ポリスチレンフォーム保温版３種b 厚25mm敷き込みとし、施工範囲は建築工事標準詳細図（図7-01-1）による。 ・　設けない
4 地業工事	⑥．砂利地業	※　再生クラッシャラン　・　(　　)(4.6.2～3)
5 鉄筋工事	①．鉄筋の種別	(5.2.1)(表5.2.1) 規格名称｜種類の記号｜径（mm） 鉄筋コンクリート用棒鋼｜※　ＳＤ２９５Ａ｜※　Ｄ１６以下 ※　ＳＤ３４５｜※　Ｄ１９以上
5 鉄筋工事	2．溶接金網	※　JIS G 3551のJIS表示認証製品　(5.2.2) 線径(mm)　6.0　×　網目(mm)　100 使用箇所（　　）
5 鉄筋工事	③．鉄筋の継手	接合方法｜径(mm)｜施工箇所　(5.3.4) ※　重ね継手｜Ｄ１６以下｜スラブ、壁　等 ※　ガス圧接｜Ｄ１９以上｜はり　柱の主筋　等
5 鉄筋工事	4．耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ	施工箇所等｜表5.3.6の値に加える寸法(mm)　(5.3.5)
5 鉄筋工事	⑤．各部配筋	各部の配筋は，図示による。図示がなければ，標準仕様書 末尾資料の「各部配筋　参考図」による。　(5.3.7)
5 鉄筋工事	⑥．柱の帯筋	※　Ｈ形　・　Ｗ－Ｉ形　・ＳＰ形　(参考図 図2.2)
5 鉄筋工事	7．耐震壁を除く壁の開口部補強	・　Ａ形　※　Ｂ形　(参考図 表4.3～4.4)
5 鉄筋工事	8．はり貫通孔の補強	補強形式　※Ｈ３形以上　・Ｍ型　・ＭＨ型　(参考図 表7.1～7.3)
5 鉄筋工事	⑨．圧接完了後の圧接部の試験	試験方法　※　超音波探傷試験　⊙　引張試験　(5.4.10)
6 コンクリート工事	①．レディーミクストコンクリート	種　別　※　Ｉ類　・　Ⅱ類　(6.2.1)(表6.2.1) ⊙コンクリート用骨材の品質試験を実施する。(構造体コンクリートのみ) （アルカリシリカ反応試験(化学法)、密度試験、吸水率試験） ⊙コンクリート単位水量測定を実施する。
6 コンクリート工事	②．設計基準強度	普通コンクリート（JIS A 5308のJIS表示認証製品）　(6.2.2) Ｆｃ（N/mm2）｜適用箇所 ・　２４ ※　２１｜躯体全般 ・　１８
6 コンクリート工事	③．スランプ	基礎，基礎梁，土間スラブ　※　１５cm　・　１８cm　(6.2.4)(表6.2.2) 柱，梁，スラブ，壁　※　１８cm
6 コンクリート工事	④．打放し仕上げの種類	(6.2.5)(表6.2.4) 種別｜施工箇所 ・　Ａ　種 ※　Ｂ　種｜外巾木 ・　Ｃ　種
6 コンクリート工事	⑤．セメントの種類	(6.3.1) セメントの種類｜適用箇所 ※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種｜建物躯体（下記以外） ・　高炉ｾﾒﾝﾄB種｜基礎、地中梁 ・　ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種｜基礎、地中梁

特記	訂正		株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －02
					図名 上り線ＰＡ 特記仕様書１	縮尺 A1:- A3:-

6 コンクリート工事

⑥. 型枠 (6.8.2)

せき板の種類	板厚(mm)	適用箇所	備考
※ 合板	※ １２ ・		・宮城県グリーン製品
・ 床型枠用鋼製デッキプレート			
・ 断熱材兼用型枠			

ＭＣＲ工法用シート ※ 適用しない ・ 適用する

・ ひび割れ誘発目地の位置，形状，寸法 ※ 図示 (6.8.1)

7. 軽量コンクリート (6.10.1)(表6.10.1)

種別	適用箇所	所要気乾単位容積質量（ｔ／ｍ3）

8. 寒中コンクリート (6.11.4)

初期養生期間 コンクリート圧縮強度が５Ｎ/mm２に達するまで行うこと。

⑨. 無筋コンクリート (6.14.1)

コンクリートの種類	適用範囲
※普通コンクリート	※ (6.14.1)(4)(ア～カ)による
・	・

10. 流動化コンクリート

コンクリートのスランプ (6.15.2)(表6.15.1)

種別	ベースコンクリート(cm)	流動化コンクリート(cm)	
普通コンクリート	・１０ ・１２ ・１５	・１８ ・２１	

7 鉄骨工事

①. 鉄骨の製作工場 (7.1.3)

※ 指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場

・Ｓ ・Ｈ ⊙ Ｍ ・Ｒ ・Ｊ

・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有し、監督職員の承諾する工場

※ 施工監理技術者（※配置する ・配置しない） (7.1.4)

②. 鋼材の種別 (7.2.1)(表7.2.1)

材質	規格
⊙SS400 ⊙SSC400 ⊙STK400 ⊙STKR400 ⊙SN400B,C ⊙SN490B,C ・SM400 ・SM490	JIS表示認証製品

③. 高力ボルト (7.2.2)

⊗ トルシア形高力ボルト

⊙ ＪＩＳ形高力ボルト ・

⊙ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ・

④. 溶接部の試験 (7.6.12)

溶接部の外観試験

平12建告第1464号第二号に関する試験方法等

・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による

・抜き取り検査① ※抜き取り検査②

JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等

・JASS6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。 (7.6.12)

溶接の区分	AOQL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5 ※4.0	※６ ・	

⑤. 錆止め塗装 (7.8.2)(7.8.4)(表18.3.1)(表18.3.2)

種別	塗装範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲	
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲	溶融亜鉛メッキ以外の部分

6. 耐火被覆 (7.9.2)(7.9.4～8)

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	標準仕様書15章3節による	
・耐火材吹付け	建築基準法に基づき定められたものヌは認定を受けたもの	※半乾式 ・湿式
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・耐火塗料		

⑦. アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)

種別	適用箇所
・ Ａ 種	
※ Ｂ 種	構造図による
・ Ｃ 種	

⑧. 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)

種別	適用箇所	柱底均しモルタル
※ Ａ 種	構造図による	※無収縮モルタル
・ Ｂ 種		※無収縮モルタル

⑨. 溶融亜鉛めっき (7.12.4)(14.2.3)(表14.2.2)

種別	適用箇所
※ Ａ 種	柱、梁

8 押出成型セメント・ブロック・ＡＬＣパネル工事

1. 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2)

※ 空洞ブロック Ｃ(１６)

2. コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2)(表8.3.1)

※ 空洞ブロック Ｃ(１６)

3. ＡＬＣパネル (8.4.2)(8.4.3～5)(表8.4.2～4)

パネル構法	パネル種類	厚さ	幅	取付構法種別	施工箇所	耐火性能(時間)
・外壁パネル構法				・Ａ種 ・Ｂ種		・ 1
・間仕切壁パネル構法				・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種		・ 1
・屋根パネル構法				※Ｆ種		屋根 ・ 0.5
・床パネル構法				※Ｆ種		床 ・１ ・２

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材

・

4. 押出成形セメント板 (8.5.2～4)(表8.5.1～2)

工法	パネル種類	厚さ	幅	工法種別	施工箇所	耐火性能
・外壁パネル工法				・Ａ種 ・Ｂ種		建築基準法施行令第107条の規定に基づく技術基準
・間仕切壁パネル工法				・Ｂ種 ・Ｃ種		

9 防水工事

1. アスファルト防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～9)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ Ａ－		・ ＡＩ－	
・ Ｂ－		・ ＢＩ－	
・ Ｄ－		・ ＤＩ－	
・ Ｅ－１	屋内(便所・浴室)		

アスファルトの種類 JIS K2207のJIS表示認証製品 ※ ３種

・ 押さえ金物 (※アルミ製Ｌ－30×15×2.0 ・)

・ 断熱材 ※ Ａ種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材３種ｂＡ(スキン層付き)

・

・ 溶接金網 (規格)

・ 伸縮調整目地 (※成形伸縮目地 ・) (表9.2.1)

2. 改質アスファルトシート防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)

種別	施工箇所	シートの厚さ
・ AS－T		(表9.3.1～3)による
・ AS－J１		
・ ASI－T１		
・ ASI－J１		

改質アスファルトシートの種類 JIS A6013のJIS表示認証製品

・ 押さえ金物 ※アルミ製Ｌ－30×15×2.0 ・

・ 断熱材 ※ Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温板２種１号又は２号(透湿係数を除くJIS A9521規格に適合するもの)

・ 脱気装置 (種類・数量：改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ製造所の指定とする)

③. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)(9.4.3)(表9.4.1)

種別	厚さ (mm)	施工箇所	保護塗料（露出）
・ＳＥＦ１	※1.2 ・		※カラー ・シルバー
・ＳＥＦ２	※2.0 ・		
・ＳＥＭ１	※1.5 ・		※カラー ・シルバー
⊙ＳＥＭ２	※1.5 ・	喫煙所屋根	⊙シルバー
・ＳＥＭ３	※1.2 ・		

ルーフィングシートの種類 JIS A6008のJIS表示認証製品

・ 脱気装置 (種類・数量：ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ製造所の指定とする)

⊙ 絶縁シート (※発泡ポリエチレンシート t=2.0)

・ その他の材料（ ）

4. 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	保護塗料（露出）
・ウレタンゴム系	・Ｘ－１ バルコニー	※カラー ・シルバー
	・Ｘ－２ ひさし	※カラー ・シルバー
・ゴムアスファルト系	・Ｙ－１ 地下外壁	
	・Ｙ－２ 室内（便所・浴室）	

・ 脱気装置（材質：ステンレス製又はアルミ製 ・ ）

（設置数量： 箇所）

5. ケイ酸質系塗布防水 (9.6.2)(9.6.3)(表9.6.2)

種別	施工箇所
※Ｃ－ＵＩ ・Ｃ－ＵＰ	(表9.6.1)による

6. シーリング

※ 被着体との組み合わせは（表9.7.1）による。 (9.7.2)

⑦. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より１０年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。

塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

10 石工事

1. 石材 (10.2.1)(表10.1.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

石材の種類	品質	施工箇所	工法	産地・名称	仕上の種類

2. 清掃

床のワックスかけ ・ 行う ・ 行わない (10.1.5)

11 タイル工事

1. セラミックタイルの品質 (11.2.2)(11.3.2)

JIS A 5209のJIS表示認証製品

施工箇所	形状寸法(mm)	うわ薬 無釉	うわ薬 施釉	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 注文
		・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・

タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う

タイルの試験張り ※ 行わない ・ 行う

2. タイル下地コンクリート

あと張り工法の下地コンクリート素地面の処理 (11.2.7)(11.3.7)

・ 行う（下記のいずれかとする） ・ 行わない

素地表面処理の工法	下地モルタル	適用箇所
ＭＣＲ工法	(15.3.5(4)) による	
ＭＣＲ工法	ポリマーセメントモルタル	
目荒し工法（高圧水洗）	(15.3.5(4)) による	
目荒し工法（高圧水洗）	ポリマーセメントモルタル	

ＭＣＲ工法はせき板面にＭＣＲ工法用シート張りとし（6.8.2(5)）による。

目荒し工法の高圧水洗は（15.3.4(3)）による。

ポリマーセメントモルタルの調合は（15.3.3(4)）による。

3. セメントモルタルによるタイル張り (11.2.7)(表11.2.3)

内装タイルの工法

※ 改良積上げ張り 施工箇所（ ）

外装タイルの工法

※ 密着張り 施工箇所（ ）

・ 改良圧着張り 施工箇所（ ）

ユニットタイルの工法

※ マスク張り

4. 接着剤によるタイル張り (11.3.7)(表11.3.2)

内装タイルの工法

・ 接着剤張り 施工箇所（ ）

接着剤はJIS A 5548のJIS表示認証製品 (11.3.3)

5. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※ (表11.1.1)による ・図示 (11.1.3)

目地寸法※ (表9.7.3)による ・図示 (11.1.3)

6. 接着力試験

※ (表11.1.2)による (11.1.5)

12 木工事

①. 木材の表面仕上げ (12.1.4)(表12.1.1)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
手加工	・Ｈ－Ａ種	
	・Ｈ－Ｂ種	
	・Ｈ－Ｃ種	

含水率 下地材 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 (12.2.1)(表12.2.1)

造作材 ※ Ａ種 ・ Ｂ種

造作材の材面の品質 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 (12.2.1)(表12.2.2)

2. 造作用集成材

造作用集成材 12.2.1.(3)による (12.2.1)

見付け材面等級	ＪＡＳによる集成材	その他
	※ １等 ・ ２等	※ ＪＡＳ集成材１等同等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)	１０～１５	１０～１５

3. 造作用単板積層材

造作用単板積層材 12.2.1.(4)による (12.2.1)

	ＪＡＳによる集成材	その他
表面の化粧加工	・有（・天然木化粧加工 ・塗装加工）	・有（・天然木化粧加工 ・塗装加工）
	・無（ ）	・無（ ）
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)		

4. 直行集成板（ＣＬＴ）

造作用集成材 12.2.1.(5)による (12.2.1)

施工箇所	種別	樹種

5. 防腐・防蟻・防虫処理

薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 (12.3.1)

適用部位（ ） 保存処理性能区分 ・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

薬剤の加圧注入処理を行ったのち、現場における加工、切断、孔あけ等を行った箇所は、現場にて薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理を行う。

防虫処理 (12.3.2)

ラワン材 保存処理性能区分 ※Ｋ１

13 屋根及びといい工事

1. 長尺金属板葺 (13.2.2)(表13.2.1)

材種	規格	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
・カラー亜鉛鉄板（※片面塗装 ・両面塗装）	JIS G 3312	※0.4 ・	※瓦棒葺（心木なし）	
・ガルバリウム鋼板（※無塗装 ）	JIS G 3321	※0.4 ・	・	AL55%
※カラーガルバリウム鋼板（※カラー ）	JIS G 3322	※0.4 ・	・	AL55%
・		・	・	

※監督員の承諾する業者とする。

②. 折板葺 (13.3.2)(表13.2.1)

JIS A 6514のJIS表示認証製品

材種	規格	厚さ	山高及びピッチの区分	断熱材	耐火性能
・カラー亜鉛鉄板（屋根用規格品）	JIS G 3312	※0.8	・ 0920	・有（ mm）	・有（30分耐火）
・カラーガルバリウム鋼板（屋根用規格品）	JIS G 3322		・ 1525	⊙無	⊙無
・ポリ塩化ビニル被覆（SGのA種規格品）	JIS K 6744		・ 1730		
⊙ ﾌｯ素樹脂塗装ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板			⊙ 1750		

⊙形 式 （・ 重ね形 ⊙ はぜ締め形）

⊙軒先面戸 （⊙ 規格品 ）

3. 粘土瓦葺 (13.4.2)

JIS A 5208の表示認証製品

種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	凍害試験
				・ 行う

④. といい (13.5.2)(13.5.3)(表13.5.1)(表13.5.2)(表13.5.4)

といの材質

材種	防露
・配管用鋼管（ＳＧＰ）	※ (表13.5.3) により行う ・ 行わない
⊙硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	⊙ カラー

鋼管製といの防露巻き工法 （※ (表13.5.4)による）

※ 第一桝まで接続 ・ 樋受石（材質・規格 ）

⑤. ルーフドレン

※ 鋳鉄製 （※ 縦型 ⊙ 横型 ） (表13.5.1)

14 金属工事

①. あと施工アンカー

引抜き耐力の確認試験 ・ 行う ⊙ 行わない (14.1.3)

②. ステンレス表面処理

※ ＨＬ ・ (14.2.1)

(14.2.2)(表14.2.1)

種類	施工箇所	色合
・ ― 種		
・ ― 種		

(14.2.3)(表14.2.2)

種類	施工箇所
⊙ Ａ 種	柱、梁、小梁、屋根ブレース、雪止アングル
・ 種	

溶融亜鉛めっきの付着量試験 ※ 行わない ・ 行う

電気亜鉛めっきの被膜厚さ及び塩水噴霧試験 ※ 行わない ・ 行う

3. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

④. 鉄鋼の亜鉛めっき

⑤. 軽量鉄骨天井下地

野縁などの種類 (14.4.2)(表14.4.1)

屋内 ※ １９型 ・ ２５型 （室名： ）

屋外 ・ １９型 ※ ２５型

耐震性を考慮した補強 (14.4.3)(14.4.4)

※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）

耐風圧性を考慮した補強（ピロティ、屋外軒天井等）

※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）

床版の断熱材打込部分は断熱用インサートを使用する。

⑥. 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーなどの種類 (14.5.3)(表14.5.1)

※（表14.5.1）による ・

出入口及びこれに準ずる開口部の補強

※（14.5.4(5)）による ・

7. 金属成形板張り

種別 （ ） (14.6.2)(14.6.3)

表面処理（ ）

※ 割付図を作成し監督職員の承諾を受ける。

伸縮調整継手 ・ 設ける ・ 設けない

8. アルミニウム製笠木

表面処理 ※ ＢＢ-1種 ・ ＢＢ-2種 (14.7.2)(表14.7.1)(表14.2.1)

隅角部及び突当り部の役物の使用

※ 使用する（笠木本体製作所の仕様による。）

9. 手すり及びタラップ (14.8.2)(14.8.3)

	材料の種別	表面処理の種別
手すり	※ ステンレスSUS304	HL仕上程度
	・ 鋼 製	亜鉛めっきの場合表14.2.2のＣ種
タラップ	※ ステンレスSUS304	外部HL仕上程度，内部No.2B仕上程度
	・ 鋼 製	亜鉛めっきの場合表14.2.2のＣ種

10. 体育館の鋼製床下地材

※ JIS A 6519のJIS表示認証製品

15 左官工事

①. モルタル塗り (15.3.2)

モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料

既製目地材 ・ 設ける（施工箇所： 形状：図示による）

・ 設けない

床目地 ・ 設ける（押し目地工法） ・設けない (15.3.5)

2. セルフレベリング材

種別 ・ 石こう系 ・ セメント系 (15.5.2～3)(表15.5.1)

塗厚 ※ 10mm ・

3. 塗り仕上げ塗材仕上げ (15.6.2)(表15.6.1～2)

規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り材
・薄付け仕上げ塗材	・外装薄塗材 Ｅ ・内装薄塗材 Ｅ ・可とう形外装薄塗材 Ｅ	・砂壁状 ・砂壁状じゅらく ・ゆず肌	・吹付け ・ローラー	
・厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材 Ｃ ・内装厚塗材 Ｃ ・外装厚塗材 Ｅ ・	・	※吹付け ・こて塗り	
※複層仕上塗材	・複層塗材 ＣＥ ※複層塗材 Ｅ ・複層塗材 ＲＥ ・複層塗材 Ｓｉ ・防水形複層塗材 Ｅ ・防水形複層塗材 ＲＥ ・防水形複層塗材 ＣＥ ・	※ゆず肌 ・凸部処理 ・凸凹模様	・吹付け ※ローラー	溶剤 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 外観 ※つやあり ・メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・フッ素系
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状	・吹付け ・こて塗り	

複装仕上塗材の耐候性 ・ １種 ・ ２種 ※ ３種

4. ロックウール吹付け（耐火被覆は，７章による）

吹付け厚さ（mm） ※ 図示による ・ (15.12.3)

16 建具工事

①. 一般事項

防火戸の指定 (16.1.3)

・ 適用する（適用範囲は図示及び建具表による）

※ 建築基準法に基づく防火戸の指定又は認定を受けたもの(監督員の承認を受ける。)

※ 適用しない

特記 ・

訂正 ・

株式会社 ゴウ構造

一級建築士 第302881号 下山田 勇

日付 2021・01・05・

古澤 克彦 一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ 特記仕様書２

図面番号 Ａ －０３

縮尺 A1:- A3:-

16 建具工事

防火戸との連動 (16.1.3)
・ 適用する(適用箇所は建具表及び図示による)
・ 自動閉鎖機構 ・ ヒューズ装置 ・ 熱感知器 ・ 煙感知器
※ 適用しない

見本の作成等 (16.1.4)
製 作 ※ 行わない ・ 行う（建具表による）
仮 組 ※ 行わない ・ 行う（建具表による）

防犯建物部品 ※ 使用しない ・ 使用する（建具表による） (16.1.6)

(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

②. アルミニウム製建具

外部に面する建具性能等級等(コンクリート系下地及び鉄骨下地)

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
⊙ A 種	S－4 ⊙（ハンガー引き戸はS-1）	A－3	W－4	７０（引違い，片引き，上げ下げ窓で複層ガラスを使用する時で性能が確保できない場合は、１００）
・ B 種	S－5			
・ C 種	S－6	A－4	W－5	１００

※ 適用箇所は図示による

外部に面する建具性能等級等(木下地) (表16.2.2)

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ D 種	S－2	A－3	W－3	※建具表による
・ E 種	S－3			

※ 適用箇所は図示による

(表14.2.1)

表面処理	外部に面する建具	※ BB－1種 ⊙ BB－2種
	内 部 建 具	※ BC－1種 ・ BC－2種

BB－2種，BC－2種の場合 ・ブロンズカラー（※標準色 ・濃色）
・ステンカラー ⊙シルバー(艶消)

防音ドアセット，防音サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の遮音性能等級 ・ T－1 ・ T－2 ・ T－3

断熱ドアセット，断熱サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の断熱性能等級 ・ H－2 ・ H－3

耐震ドアセット，耐震サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級 ・ D－1 ・ D－2

3．網戸

使用方法による区分 ※外面納まりの可動式 (16.2.3)
・内部納まりの開き式
・防虫網（線径0.25mm 網目16-18メッシュ）
・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS 316) ※合成樹脂

・防鳥網 ※ステンレス（SUS304）線径1.5mm ピッチ15mm

4．樹脂製建具

外部に面する建具性能等級等 (16.3.2)(表16.3.1)(表16.3.2)
(コンクリート下地系及び鉄骨下地)

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ A 種	S－4	A－4	W－4	※建具表による
・ B 種	S－5		W－5	
・ C 種	S－6			

※ 適用箇所は図示による

木下地

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ D 種	S－4	A－4	W－3	※建具表による
・ E 種	S－5			

※ 適用箇所は図示による

防音ドアセット，防音サッシ (表16.3.3)
・ 適用する（適用範囲は図示による） ※ 適用しない
適用する場合の遮音性能等級 ・ T－1 ・ T－2

断熱ドアセット，断熱サッシ (表16.3.4)
・ 適用する（適用範囲は図示による） ※ 適用しない
適用する場合の断熱性能等級 ・ H－4 ・ H－5 ・H－6

表面色 (16.3.4)
・標準色（白） ・特注色（・黒 ・ブラウン ・シルバー）

5．鋼製建具

簡易気密型ドアセット (16.4.2)(16.4.4)(表16.4.1)(表16.4.2)
※ 使用する（適用箇所は図示とする）

気密性 ※ A－3 ・
水密性 ※ W－1 ・
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ S－4 ・ S－5 ・ S－6

鋼 板 (16.4.3～4)
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)

建具寸法が(16.4.4(1))を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区 分		使用箇所	厚さ (mm)
窓	枠類	枠，方立，無目	(表16.4.2)に同じ
出入口	枠類	一般部分	2.3
	戸	中骨	2.3
上記以外			(表16.4.2)に同じ

標準型鋼製建具 ※ 使用する ・ 使用しない (16.4.6)

16 建具工事

6．鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット (16.5.2～4)(表16.5.1)
※ 使用する(適用箇所は図示による)
気密性 ※ A－3 ・
・ 使用しない

戸の鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具 ※ 使用する ・ 使用しない (16.5.6)
標準型鋼製軽量建具の小窓枠，がらり ※ 鋼製 ・ アルミ製

7．ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット (16.6.2～5)
※ 使用する（適用箇所は図示とする）
気密性 ※ A－3 ・
水密性 ※ W－1 ・
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ S－4 ・ S－5 ・ S－6

表面処理 ※ HL ・
鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ かど出し曲げ

8．木製建具

(16.7.2～4)
建具材の加工、組立時の含水率 ・A種 ※B種 ・C種
かまち戸の樹種 かまちは杉上小節程度 桟，鏡板は杉無節程度
ふすまの上張り ※ 新鳥の子程度又はビニル紙程度
ふすまの種類 ※ 戸ふすま 工法（・ 在来型 ・ チップ型）

⑨. 建具用金物

(16.8.2)(表16.8.1)

金 物 の 種 類	型 式	製 造 所
シリンダー箱錠		
本締り付きモノロック		
レバーハンドル	レバー長さ L=130程度	錠前類と同一製造所
モノロック		
シリンダー本締り錠		
グレモン錠		
ドアクローザー		
フロアヒンジ		
ヒンジクローザー	ピボット形	
ピボットヒンジ		JIS表示認証製品
戸あたり	あおり止め付き	

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具(準標準型共)のドアクローザー、シリンダー箱錠は公共工事標準型とする。
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント取付位置は、建具表による。

マスターキーの製作 ⊙ 要 ・ 不要 (16.8.4)
・ 不要(既存マスターキーで施解錠可能とする。)

10．自動ドア開閉装置

引き戸用検出装置の種類 ・ 光線（反射）センサー (16.9.3)(表16.9.4)
・ タッチスイッチ
※補助センサーを設置する(補助光電センサー)

凍結防止装置 ・ 要 ※ 不要
全半開装置 ※ 設ける（半開幅＝ ）
・ 設けない

11．重量シャッター

(16.11.2)(表16.11.1)

種 類	シャッターケース	耐風圧強度	開閉方式	保護装置
・ 管理用シャッター	※ 設ける ・ 設けない	建具表及び図示による	※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※ 設ける ・ 設けない
・ 防火シャッター ・ 外壁用 ・ 屋内用	※ 設ける ・		※ 上部電動式（手動併用）	障害物感知装置（自動閉鎖型）を設ける。
・ 防煙シャッター				

スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3)
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)

12．軽量シャッター

(16.12.2～4)(表16.12.1)

開閉形式	シャッターケース	耐風圧強度	スラットの形状	保護装置
※ 手動式 ・ 上部電動式（手動併用）	※ 設ける ・ 設けない	建具表及び図示による	※ インターロッキング型 ※ オーバーラッピング型	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※ 設ける ・ 設けない

スラットの材質 (16.12.3)
※塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)

13．オーバーヘッドドア

(16.13.2)(16.13.3)

材 質	開閉方式	収納形式	耐風圧性能	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	※ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	・ 50 ・ 75 ・100 ・125 (JIS A4715による強さの区分)	※ 溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ ステンレス鋼板

保護装置
障害物感知装置 ※ 設ける ・ 設けない

16 建具工事

⑭. ガラス

(16.14.2)(16.14.3)
※ 外部の建具に使用するガラスは、建築基準法に基づく耐風圧性能を有すること。

※ ガラスの材料、厚さ、それぞれの種類等は建具表及び図示による。

合わせガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅱ－1類 ・ Ⅱ－2類 ・ Ⅲ類

強化ガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅲ類

熱線吸収板ガラス
性能 ・ 1種 ・ 2種
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ

複層ガラス
断熱性 ・ T1 ・ T2 ・ T3
・ T4 ・ T5

日射取得性，日射遮蔽性 ・ G ・ S

封止の加速耐久性による区分 ※ Ⅲ類

熱線反射ガラス
日射遮へい性 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
耐久性 ・ A類 ・ B類
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ
・ シルバー
反射皮膜 ・ 内側 ・ 外側
映像調整 ・ 行う ・ 行わない

ガラスの留め材
※ シーリング
・ ガスケット（可動アルミ製建具及び樹脂製建具に限る）

防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。

ガラス溝の大きさ
・図示 ⊙建具の製造所の仕様による

複層ガラスの保証期間は引き渡し日から１０年間とし、メーカー保証書を提出する。

15．ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ（中空）

(16.14.5)

表面形状(JIS A5212)	モジュール呼び寸法による区分（長さ×高さ）		厚さによる区分
正方形	・ 125×125	・ 160×160	・ 80
	・ 200×200	・ 320×320	・ 95
長方形	・ 250×125	・ 320×160	・ 125

品質等

ガラスの種別	柄	目地色	金 属 枠	耐火性能
・ 一般ガラス ・ 乳白ガラス ・ カラーガラス ・ 熱線反射ガラス	・ 無 ・ 有	・ 白 ・ グレー	・ アルミニウム製（表面処理 ） ・ ステンレス製（表面仕上 ）	・ 規定しない ・ 有（ 分間）

17 カーテンウォール工事

1．カーテンウォールの種別

・ メタルカーテンウォール
・ PCカーテンウォール

2．カーテンウォールの性能等

(17.1.2～3)(17.2.2～3)(17.3.2～3)

材 種
耐風圧性
耐 震 性
水 密 性
気 密 性
耐 火 性
耐温度差性
遮 音 性
断 熱 性
材質等性能の確認方法 適切な資料により、監督員の承諾を受ける
層間変異追従性
シーリング材
構造ガスケット
ガ ラ ス
断熱材
摩擦低減材・取付金物 カーテンウォール製作所の仕様による
表面仕上げ

18 塗装工事

①. 一般事項

屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 (18.1.3)

②. 素地ごしらえ

各部の素地ごしらえ (18.2.2～7)

木 部	※A種（不透明塗料塗）※B種（透明塗料塗）	
鉄鋼面	・A種 ・B種	※C種
亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種	
モルタル・プラスター面	・A種 ※B種	
コンクリート・ALC面	・A種 ※B種	
ボード面	※A種（継目処理工法）※B種（その他）	

③. 錆止め塗料塗り

塗料の種別 (18.3.2)
鉄鋼面 ※A種 ※B種（標準仕様書8節の場合）
亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・B種

錆止め塗料塗り (18.3.3)
鉄鋼面 ※A種（見え掛り） ※B種（見え隠れ）
亜鉛めっき鋼面 ※A種（鋼製建具等）※B種(その他) ・C種

4．合成調合樹脂ペイント塗り（ＳＯＰ）

塗料の種別 ※1種 ・2種 (18.4.2)
合成樹脂調合ペイント塗り (18.4.3～5)
鉄鋼面 ・A種 ※B種
木部 ※A種（屋外） ※B種（屋内）

5．ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り（ＣＬ）

木部 ・A種 ※B種 (18.5.2)

18 塗装工事

6．アクリル樹脂非水分散形塗料塗り(屋内)（ＮＡＤ）

コンクリート・モルタル面 ・A種 ※B種 (18.6.2)

7．耐候性塗料塗り(屋外)（ＤＰ）

上塗りの等級 (18.7.2～4)(表18.7.1～3)
鉄鋼面 ※1級 ・2級 ・3級
亜鉛めっき鋼面 ※1級 ・2級 ・3級
コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別
※A種 ・B種 ・C種

8．つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ－Ｇ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他 (18.8.2～4)
のボード面 ・A種 ※B種
鉄鋼面（屋内） ・A種 ※B種

9．合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他 (18.9.2)
のボード面 ・A種 ※B種

10．合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他 (18.10.2)
のボード面(屋内) ・A種 ※B種

11．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

木部 ・A種 ※B種 (18.11.2)

12．ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り（ＯＳ）

木部 ・水性 ・油性 (18.12.2)

13．木材保護塗料塗り（ＷＰ）

木部(屋外) ・A種 ※B種 (18.13.2)

19 内装工事

1．ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)

種 類	記号	色 柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※ 発泡層のないもの	※FS ・TS	※無地 ・マーブル	※ 2.0 ・ 2.5	・帯電防止 ・耐動荷重	※熱溶接 ・突付け
・ 発泡層のあるもの	・HS ・KS	・	・	・	・

目地処理する場合の工法 ・ ・熱溶接工法

2．化粧ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品で，表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色 柄	厚さ(mm)	特殊機能	工 法
FS	※ 木目調 ・ 石目調	※ 2.0 ・ 2.5	・帯電防止 ・耐動荷重	※熱溶接 ・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ
目地処理する場合の工法 ・ ・熱溶接工法

3．ビニル床タイル

JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)

種 類	記号	寸法	暑さ(mm)	特殊機能
※ コンポジションビニル床タイル	※KT	※300×300	※ 2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ 複層ビニル床タイル	・FT	・300×300 ・450×450	・ 2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重

4．ビニル床シート･ビニル床タイルの特殊機能

帯電防止
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023)3kV以下
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454) 1×10^10オーム未満
・ 帯電防止性能評価（JIS A 1455）5.2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454) 1×10^7オーム未満

耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

5．視覚障害者用床タイル

(19.2.2)

材 質	寸 法 (mm)
・ 塩化ビニル系 ・ せっ器質タイル系	３００×３００

6．ビニル幅木

材 種 ・ 軟質 ・ 硬質 (19.2.2)
高 さ (mm) ※ ６０ ・ ７５ ・ １００
厚 さ (mm) ※ １．５ ・ ２．０

7．カーペット敷き

・ タフテッドカーペット (19.2.2)(19.3.3)(表19.3.2)

施工箇所	パイル形状	パイル長さ(mm)	工 法	品 質	帯電性
			※ 全面接着工法 ・ グリッパー工法		(19.3.2)による

品質は参考商品名である
・ タイルカーペット (19.2.2)(19.3.3)(表19.3.2)

施工箇所	種 類	パイル形状	寸 法	総厚さ	帯電性
	※第1種 ・第2種	※ループパイル ・カットパイル	※500×500 ・	※ 6.5 ・	製造所の仕様による

8．合成樹脂塗床

材料の種類 (19.4.2)
・ 厚膜型塗床材
・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
・ エポキシ樹脂系塗床材
・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）
仕上の種類 (19.4.3)
・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・つや消し仕上げ

特記 ・	訂正 ・	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －04
				図名 上り線ＰＡ 特記仕様書３	縮尺 A1:－ A3:－

19 内装工事

9. フローリング張り

・単層フローリング (19.5.2～3) (19.5.5～6)(表19.5.3～4)

種別	樹種	厚さ(mm)	工法	塗装
・ フローリングボード１等	※なら ・	※１５幅　７５ ・長さ400以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・ フローリングブロック１等	※なら ・	※１５（303×303） ・	・接着工法	

・複合フローリング

種別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
・ 複合フローリング	※なら ・さくら ・ひのき ・	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	・行う ※行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス塗り ・生地のままワックス塗り ・既塗装品
・ 大型積層フローリング	・なら ・さくら ・	・	・行う ・行わない	・特殊張り工法（体育館床）	

畳の種別　・ Ａ種　・ Ｂ種　(19.6.2)(表19.6.1)
※ Ｃ種　・ Ｄ種（　　㎡）(19.7.2～3)(表19.7.1)(表19.7.5)

種類又は記号	種別など	厚さ(mm)	規格番号
けい酸カルシウム板（繊維強化セメント板）0.8ＦＫ又は1.0ＦＫ		壁　・ 8(不燃) ・ 10(不燃) ・ 12(不燃) 天井　・ 6(不燃) ・ 12(不燃)	JIS A 5430（タイプ2）
グラスウール吸音ボード（吸音材料）ＧＷ－Ｂ	ガラスクロス（JIS A 3414 EP18程度）額縁張り品	25(不燃)	JIS A 6301（32K）
ロックウール化粧吸音板（吸音材料）ＤＲ	※ 内部用 ・ 軒天用	普通※　9(不燃) ・ 12(不燃) 立体　・ 12(不燃) 模様　・ 15(不燃) ・ 19(不燃)	JIS A 6301
せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｒ		壁　・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・ 15(不燃) 天井　・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	JIS A 6901
シージングせっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｓ		壁　12.5(準不燃) 天井　・ 9.5(準不燃) ※12.5(準不燃)	JIS A 6901
強化せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｆ		・ 12.5(不燃) ・ 15(不燃)	JIS A 6901
不燃積層せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－ＮＣ	トラバーチン模様 色　※白 ・黄	9.5(不燃)	JIS A 6901
化粧せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｄ	木目模様 木目模様（裏桟付き） 特殊模様	壁　・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃) 天井　・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	JIS A 6901

せっこうボードの目地処理　※ 継目処理工法　・ 突付けＶ目地工法
・ 突付け工法　・ 目透し工法

12. 遮音シール材

・ アクリル系シーリング材　※ ジョイントコンパウンド　(19.7.2)

13. 壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	品質	防火種別
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他

品質は参考商品名である。

⑭. 断熱材

断熱材の打込み及び現場発泡工法　(19.9.2)(19.9.3)

種類	箇所	厚さ(mm)	備考
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・Ａ種ビーズ法 ※Ａ種押出法２種ｂ	・ 25 ・	JIS A 9521の JIS表示認証製品
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（Ａ種）	・２種ｂ ・３種ｂ（スキン層あり）	下記以外 接地部分及び屋根防水部分ピット内部	※ 25 ・
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ ・	・	・
・ フェノールフォーム断熱材	・ ・	・	・	JIS A 9521の JIS表示認証製品
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材	※Ａ種１Ｈ ・	・	※ 30 ・	JIS A 9526 による難燃性 ・２級　※３級
・	・	・	・	

※ 施工範囲は建築工事標準詳細図(図7-01-1)による。

上記以外に用いる断熱材

種類	箇所	厚さ(mm)	備考
・ ＪＩＳＡ発泡プラスチック保温材	・Ａ種ビーズ法	※ 25	JIS表示認証製品
	※Ａ種押出法２種ｂ　下記以外		
	※Ａ種押出法３種ｂ（スキン層あり）　接地部分及び屋根防水部分ピット内部		

19 内装工事

⑮. コンクリート表面硬化剤

・ グラスウール保温材	※24Ｋ品		※ 100 ・	JIS表示認証製品

※ グラスウール使用部分の室内側防湿シート
※ 被覆品　・防湿層ポリエチレンフィルム(t0.15)張り　(重ね100)

⊙ ケイ酸塩系コンクリート表面強化材
（株式会社ABC商会　セラミキュア　同等品）

20 ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工場所	工法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力(Ks)	耐荷重性能(N)	表面仕上げ
	・溝工法（置敷工法）		・ 1.0G ※ 0.6G	・ 3,000 ・ 5,000 ・	・帯電防止床タイル ・タイル
	・支柱一体型パネル工法（置敷工法）				
	・支柱分離型パネル工法（支柱調整式工法）				

ボーダー部　※ 一般部分の仕様に準ずる　・ 図示による
床表面仕上げ材の品質は標準仕様書19章による。
配線取出し用切り欠きパネルは１枚／㎡以上とする。
空調用吹き出し(吸い込み)パネル　※ なし
・ 有り（※固定式　・可変式）
施工箇所は図示

2. 可動間仕切（パーテーション）

(20.2.3)

構造形式による種類	スタッド式（内蔵）
構成基材	・アルミニウム合金系　・スチール系
パネル表面材	焼付塗装鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
遮音性	３６dB/500Hz以上
防火性能	不燃

3. 移動間仕切（スライディングドア）

(20.2.4)

パネルの操作方法による種類	規定しない
パネル表面材の材質及び仕上げ	製造所仕様の化粧鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
パネル圧接装置の操作方法	ハンドル回転式又はプッシュ式
遮音性	３６dB/500Hz以上
防火性能	不燃
取り付け用あと施工アンカー	材質，寸法等は図示又は製造所の仕様による

4. トイレブース

(20.2.5)

表面材	メラミン樹脂系化粧板（標準色）
幅　木	ステンレス製 Ｈ＝６０
フレーム	アルミ製
扉	厚４０中心吊りアール形アルミ製エッジ，帽子掛け戸当たり付き

5. 階段滑り止め（ノンスリップ）

(20.2.6)

材　種	ステンレス（SUS304） ビニールタイヤ入り（幅約35mm）
取り付け方法	※ 接着工法　・ 埋込み工法

6. 床目地棒

ステンレスＦＢ（SUS304）　ｔ５～６×Ｈ１２　(20.2.7)
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

7. 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

・黒板
区分　・　※焼き付け
種類　・　※鋼製黒板　・ほうろう黒板
色　※緑
・ホワイトボード

8. 鏡

耐湿鏡　ｔ＝５　ステンレスフレーム付き　(20.2.9)

⑨. 表示

(20.2.10)

衝突防止表示	ＨＬ仕上げ　Φ３０程度　市販品　ステンレス製
誘導標識	市販品
室名札	アクリル板

10. 煙突ライニング材

(20.2.11)

煙突用成形ライニング材	安全使用温度　・４００℃　・６００℃

11. ブラインド

(20.2.12)

形式	※ 横型ブラインド	・ 縦型ブラインド
スラット	※ アルミニウム合金	・ クロススラット ・ **アルミフラット**
開閉方式	※ ギヤ式　・コード式 ・ 操作棒式	※ ２本操作コード方式
スラットの成形（mm）	※ ２５　・	・ ８０　・ １００

12. ロールスクリーン

(20.2.13)

操作方式	・ スプリング式　※ チェーン式　・電動式
スクリーンの生地	無地で製造所仕様の標準タイプ
その他の材料	・　※製造所の仕様による

13. カーテン

(20.2.14)(表20.2.1)

名称・品質など	ひだの種類	形式	引分け装置
	※箱ひだ、つまひだ ・	シングル片引き ・ダブル・引分け	※手引　・ひも引 ・電動
	※箱ひだ、つまひだ ・	シングル片引き ・ダブル・引分け	※手引　・ひも引 ・電動

14. カーテンレール

材　質	※ ステンレス製　・ アルミニウム製
形　状	※ 角型　・ Ｃ型

(20.2.14)

15. アルミニウム製カーテンボックス

(表14.2.1)

表面処理　※ ＢＣ－１種　・ ＢＣ－２種

16. 点検口

施工箇所	材種	寸法	形式
天　井	※ アルミニウム製 ・	※ ４５０×４５０ ・ ６００×６００	※ 目地タイプ ・ 額縁タイプ
床	※ アルミニウム製 ・	・ ４５０×４５０ ※ ６００×６００	※ 一般形貼物用 ・ 一般形充填用

17. くつふきマット

材種	受わく
※ 塩化ビニル製又は塩化ゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス製（SUS 304）	※ ステンレス製（SUS 304） ・ 硬質アルミニウム合金製

18. ステンレス流し台

※ ＢＬ認定商品（システム　※ Ｉ型　）トラップ付

19. コンロ台

※ ＢＬ認定商品（システム　※ Ｉ型　）バックガード（※有　・無）

20. つり戸棚

※ ＢＬ認定商品（システム　※ Ｉ型　）

21. 水切棚

※ １段　・ ２段　・

22. 旗竿受金物

※ ステンレス製（SUS 304）既製品　彫り込みタイプ既製品

23. 旗竿

形　式	※ ハンドル式　・ 同一断面式　Ｈ＝
材　種	※ アルミニウム合金　・　ｍ
操作方式	※ テーパー式　・ ロープ式

24. 屋内掲示板

※ 既製品　アルミニウム製枠　表面発泡シート張り

㉕. 視覚障害者用誘導ブロック

屋　外　※ コンクリート製　・ 磁器質タイル
（※ １００角　・ １５０角）

26. 出隅面取材

材　種	※ アルミニウム合金製　・
高　さ	※ 天井まで　・ １．８ｍ程度

27. かぎ箱

市販品　フック数（本）　・ ３０　・ ４０
・ ６０　・ １００　・

28. 消火器ボックス

鋼製　既製品

29. ピクチャーレール

アルミ製　既製品：ﾜｲﾔｰ，ﾌｯｸ等の吊り金物(4ｾｯﾄ／ｍ) 共

30. 郵便受

図示

21 排水工事

①. グレーチング

※ 鋼製　・ ステンレス製　(21.2.1)

②. 鋳鉄製マンホールふた

簡易密閉式とし，表面には用途別の標準文字付きとする。　(21.2.1)

③. 縁石及び側溝

地業の材料　※再生クラッシャラン　・　(21.3.2)

④. 埋戻し土

※Ｂ種

22 舗装工事

①. 再生材

※ 使用する　・ 使用しない　(22.1.3)

2. 盛土材料

路床の盛土材料　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.2.3)

③. フィルター層及び凍上抑制層材料

フィルター層　※ 砂　(22.2.2)(22.2.3)
凍上抑制層　※ 再生クラッシャラン　・ 切込砂利又は切込砕石

4. 路床安定処理

路床安定処理添加材料　(22.2.2)(22.2.3)(表22.2.1)
※ 普通ポルトランドセメント　・ 高炉セメントＢ種
・ フライアッシュセメントＢ種
・ 生石灰（・特号　・１号）　・ 消石灰(・特号　・１号)

5. 砂の粒度試験

※ 行わない　・ 行う　(22.2.3)

6. 路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験

※ 行わない　・ 行う（※ 乱した土　・ 乱さない土）　(22.2.5)

7. 路床の締固め度の試験

・ 行わない　※ 行う（箇所:埋戻し及び盛土部）　(22.2.5)

⑧. 路盤材料

※ 再生クラッシャラン　ＲＣ－４０　(22.3.3)(表22.3.1)
（透水性舗装の場合を除く）
・ クラッシャラン　Ｃ－４０
・ クラッシャランスラグ　ＣＳ－４０

⑨. 路盤の締固め度の試験

※ 行う　(22.3.5)

⑩. アスファルト舗装

加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.2)(22.4.4)(表22.4.4)

表　層	※ 再生密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 細粒度アスファルト混合物（１３） ・	舗装の厚さは図示による
基　層	※ 再生粗粒度アスファルト混合物（２０） ・ 粗粒度アスファルト混合物（２０） ・	

舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする

アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　⊙行う　(22.4.6)

11. コンクリート舗装

早強ポルトランドセメント　・ 使用する　※ 使用しない　(22.5.3)
溶接金網　※ あり　・ なし

12. カラー舗装

(22.6.2)

種類		部位		厚さ(mm)
加熱系	※ アスファルト混合物	・ 車道部	・ 歩道部	図示による
	・ 石油樹脂系混合物	・ 車道部	・ 歩道部	
常温系	・ ニート工法	・ 車道部	・ 歩道部	３～５
	・ 塗布工法	・ 車道部	・ 歩道部	１程度以下

着色骨材・自然石（　　）　(22.6.3)

13. 透水性アスファルト舗装

構成　・図示　(22.7.2)(22.7.6)
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う
舗装の平たん性は著しい不陸がないものとする

⑭. ブロック系舗装

(22.8.2)(22.8.4)(表22.8.1)

⊙ インターロッキングブロック舗装
・ コンクリート平板舗装　※ 砂目地
・ モルタル目地
・ 舗石舗装基層　※ コンクリート版　・ アスファルト混合物

15. 砂利敷き

※ Ａ種（通路）※ Ｂ種（建物周囲その他）　・　(22.9.2)

⑯. 区画線

※ ＪＩＳＫ５６６５　３種１号
・

23 植栽工事

1. 植栽地の確認等

※排水性及び土壌硬度の確認　(23.1.3)
・水素イオン濃度指数（pH）・電気伝導度（EC）の試験

2. 植栽基盤

(23.2.2)(表23.2.2)

種別	樹種等	植栽基盤の適用
・ Ａ種	樹木	・ 適用する　※ 適用しない
※ Ｂ種	芝，地被類木	※ 適用する　・ 適用しない
・ Ｃ種		
・ Ｄ種		

3. 植込み用土

※ 現場発生の良質土　・ 客土　(23.2.3)

4. 土壌改良材

・ バーク堆肥(50L/㎡)　・ 下水汚泥コンポスト(10L/㎡)　(23.2.3)

5. 芝

種　別　※ コウライシバ　・ ノシバ　(23.4.2)

6. 屋上緑化

(23.5.2)(23.5.3)

工法	土壌層厚さ	排水層
・ 屋上緑化システム	・ ６ｃｍ ・ １５ｃｍ ・ ３０ｃｍ	・ 適用する 材質（・ 軽量骨材 ・ 板状成形品） ・ 適用しない
・ 屋上緑化軽量システム	※ システム製造所の仕様による	

24 総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）測定仕様書

1. 一般事項

試料採取および測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」（以下「厚労省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準拠して行う。

2. 測定対象化学物質

測定対象化学物質は，下記４ 1)，2)の区分に従い，表の①から⑭の１４物質及びＴＶＯＣ又は表の①から⑨の９物質及びＴＶＯＣとする。

3. 測定方法

1） クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
2） トルエン換算で 2.0μg/m3 未満のピークは測定の対象としない。
3） 上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表　測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値		
①ホルムアルデヒド	100　μg/m3	0.08	ppm
②トルエン	260　μg/m3	0.07	ppm
③キシレン	200　μg/m3	0.05	ppm
④エチルベンゼン	3,800　μg/m3	0.88	ppm
⑤スチレン	220　μg/m3	0.05	ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240　μg/m3	0.04	ppm
⑦テトラデカン	330　μg/m3	0.04	ppm
⑧アセトアルデヒド	48　μg/m3	0.03	ppm
⑨ノナナール	(暫定)41　μg/m3	0.007	ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	10　μg/m3	0.0015	ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100　μg/m3	0.0063	ppm
⑫クロルピリホス	1　μg/m3	0.00007	ppm
⑬ダイアジノン	0.29　μg/m3	0.00002	ppm
⑭フェノブカルブ	33　μg/m3	0.0038	ppm
⑮総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400　μg/m3	（暫定目標値）	

4. 測定する室

1） １４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
・ 室名：

2） ９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
・ 室名：

・ 屋外（周囲の建物から離れた場所１か所）

5. 測定結果等報告書の提出

次の事項を記載した報告書を２部提出する。
1） 測定結果（アセトアルデヒドについては，試料採取時の気温が20℃に満たない場合には，「厚労省の測定方法」に定める計算式で20℃，湿度50%に，ホルムアルデヒドについては25℃，湿度50%に補正した濃度を報告すること。）
2） 試料採取時の状況（気温・湿度(屋外，室内)，天候、風の状況、日射進入状況，採取年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成から試料採取までの日数）
3） 試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
4） ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

6. その他

表の化学物質①から⑤のうち，いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は，工事目的物の引渡しを受けない。
ＴＶＯＣの測定の結果，暫定目標値を超える場合は，発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について，協議を行うこと。

特記・

訂正・

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号　下山田　勇

日付 2021・01・05・
古澤　克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事
図名 上り線ＰＡ 特記仕様書４
図面番号 Ａ －０５
縮尺 A1:－ A3:－

各工事の区分表

工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構		備考
構造躯体の貫通スリーブ及び箱入れ	○	○	○	○	○			各工事に必要なｽﾘｰﾌﾞは各々の工事とする（予備は建築工事）
同上貫通の開口補強	○							
同上スリーブ及び箱入れの穴埋め補修	○	○	○	○	○			
工場製作間仕切及び同左の天井，床，各種設備器具の穴開け，取付枠及び補強								
天井付各種設備器具の穴開け，取付枠及び補強・補修	※	○	○	○				※下地補強のみ建築
~~設備関係雑室のシンダーコンクリート~~	○							
屋上、屋外及び屋内設置機器及び水槽類の基礎	○							
同上　仕上（防水）	○							
同上　用架台及びアンカーボルト箱入れ，埋込み		○	○	○				
~~合動ドア・防火扉（シャッター含む）~~	○	※						※煙感からの信号、１次配線
有圧扇及び浴室天井扇及び取付調整			○					ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ除く
同上ダクト接続				○				
同上電源用配管，配線及び接続		○						
~~ユニットバス(ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ含む以下同じ)墨出し及び据付工事~~	○							
~~浴槽及び据付~~	○							浴槽パン共建築工事
~~ユニットバス内シャワー水栓及び取付~~	○							
~~同上廻りシーリング打ち~~	○							
~~同上への配線及び配管接続~~		○	○					※１次側のみ
~~キッチンキャビネット及び据付工事~~	○							
~~同上への配管接続~~			○					
~~帝戸棚・水切棚及び取付（バックガード共）~~	○							
~~同上への照明用電源配線及び接続~~		○						
~~洗面台及び据付~~			○					
~~洗面台カウンター表面板仕上げ（製作物のみ）~~	○							
~~同上給管接続~~			○					
~~同上への照明用及びヒーター用電源配線及び接続~~		○						
~~洗濯パン~~			○					
設備機器用スリーブ，給気用スリーブ及び取付			○	○				
ダクト用ベントキャップ及び取付				○				
床、壁、天井点検口（下地補強共）	○							設備盤用扉は各設備工事
有圧扇・換気扇及び取付枠への取付，配線		※		○				※配線は電気
有圧扇・換気扇取付枠及び躯体への取付				○				
~~非常用工事~~	※1	※2	※2					※１仕上げは建築　※２電気又は空調は電気式・温水式区分による
~~非常用照明及び誘導灯~~		○						
~~消火器~~			○					
~~同上表示及び収納箱~~	○							
各種配管，ダクトの雨掛り躯体貫通部のｼｰﾘﾝｸﾞ打ち		○	○	○				
~~エレベーター各階出入口躯体穴開け・吊りフック~~	○							
~~エレベーター出入口三方枠・廻上部幕板~~					○			
~~三方枠廻りのﾓﾙﾀﾙ詰め~~					○			
~~エレベーター機械室床：穴開け復旧工事~~	○							
資材搬入口の仮設並びに復旧工事	○							
機器類取付後の出入口廻り（壁・床・枠等）仕上工事	○							
竪樋・ドレン・受け樋	○							
竪樋から第一桝までの接続	○							
同上第一桝以降の排水設備（桝・側溝等）						○		
マンホール、ハンドホール等の化粧蓋及びタラップ	※1	○	○					※1タラップは建築工事（躯体に設置する場合）
ＴＶアンテナ、アンカーボルト取付工事		○						
~~屋上点検口，各種タラップ工事~~	○	※	※	※				※図面特記により電気、衛生又は空調
~~ゴミ集積所工事（屋外）~~		※				○		※照明器具の設置及び配線
~~自転車置場（屋外）~~						○		
~~同上照明器具及び接続~~		○						
~~プロパンボンベ庫~~	○	※	※					
~~同上給管工事~~			○					
~~便所の目皿・手摺り~~	○							便器一体の手摺り除く
~~便所のペーパーホルダ~~			○					
~~手洗い乾燥機~~			○					
~~浄化槽・受水槽・オイルタンク躯体~~	※		○					※特殊基礎は建築工事
屋外駐車場，歩道工事						○		
雨水排水側溝設置工事						○		
同上排水管接続			○					

工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構			備考

	工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構			別途	備考
1	・仮設用の上下水道・ガス・電気等の加入金，	○	○	○	○	○	○				
2	・仮設用の上下水道・ガス・電気等に要する費	○	○	○	○	○	○				
3	１，２以外の工事及び調整等に要する上下水電気等に要する費用	○	○	○	○	○	○				
4	上下水道・ガス・電気等の加入金，負担金									○	

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇
古澤 克彦
一級建築士 第300198号

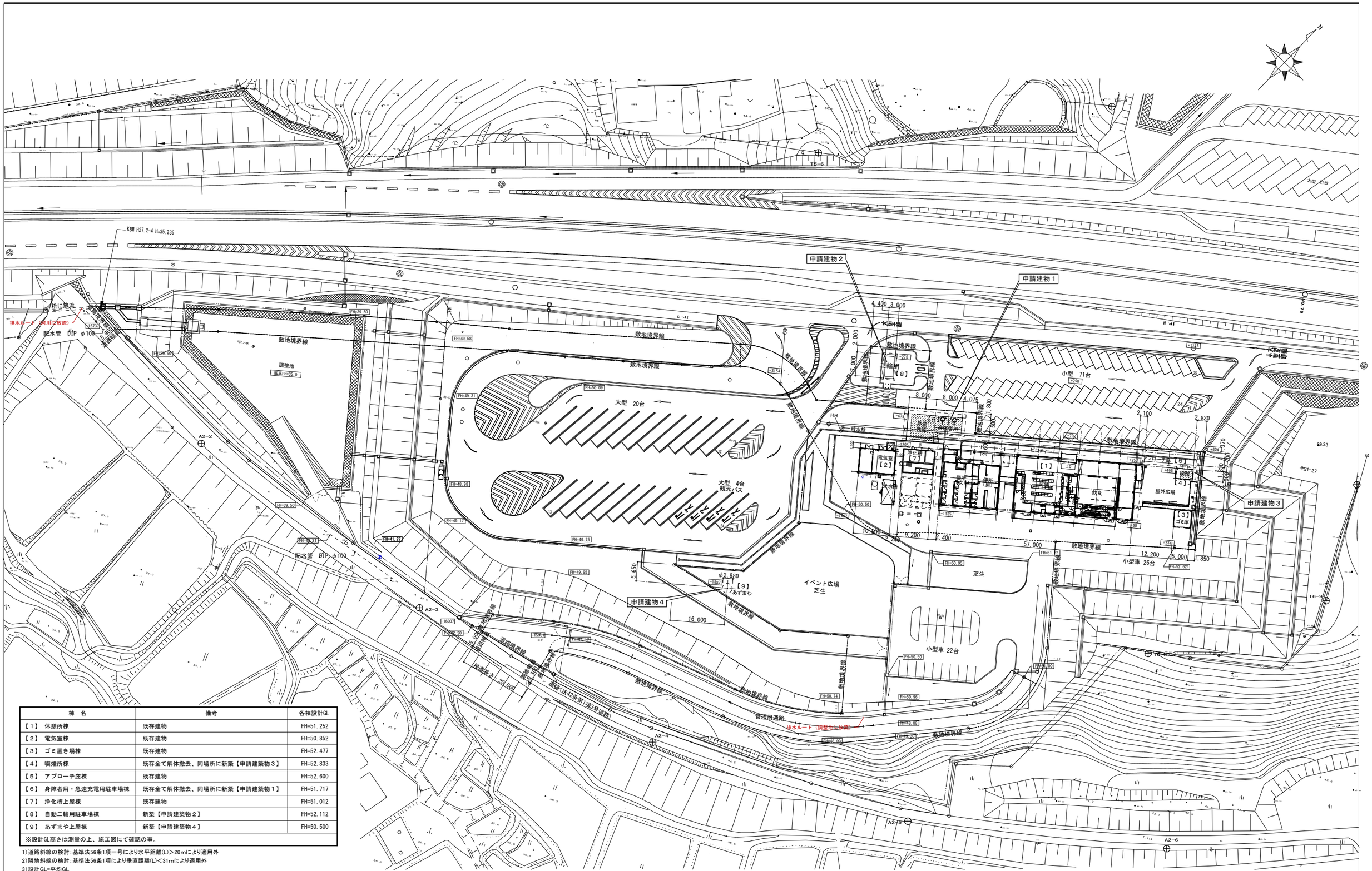
日付 2021・01・05・

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ 特記仕様書５

図面番号 Ａ －０６

縮尺 A1:－ A3:－



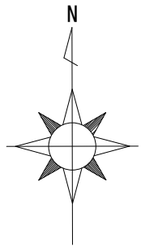
棟 名	備考	各棟設計GL
【１】 休憩所棟	既存建物	FH=51.252
【２】 電気室棟	既存建物	FH=50.852
【３】 ゴミ置き場棟	既存建物	FH=52.477
【４】 喫煙所棟	既存全て解体撤去、同場所に新築【申請建築物３】	FH=52.833
【５】 アプローチ庇棟	既存建物	FH=52.600
【６】 身障者用・急速充電用駐車場棟	既存全て解体撤去、同場所に新築【申請建築物１】	FH=51.717
【７】 浄化槽上屋棟	既存建物	FH=51.012
【８】 自動二輪用駐車場棟	新築【申請建築物２】	FH=52.112
【９】 あずまや上屋棟	新築【申請建築物４】	FH=50.500

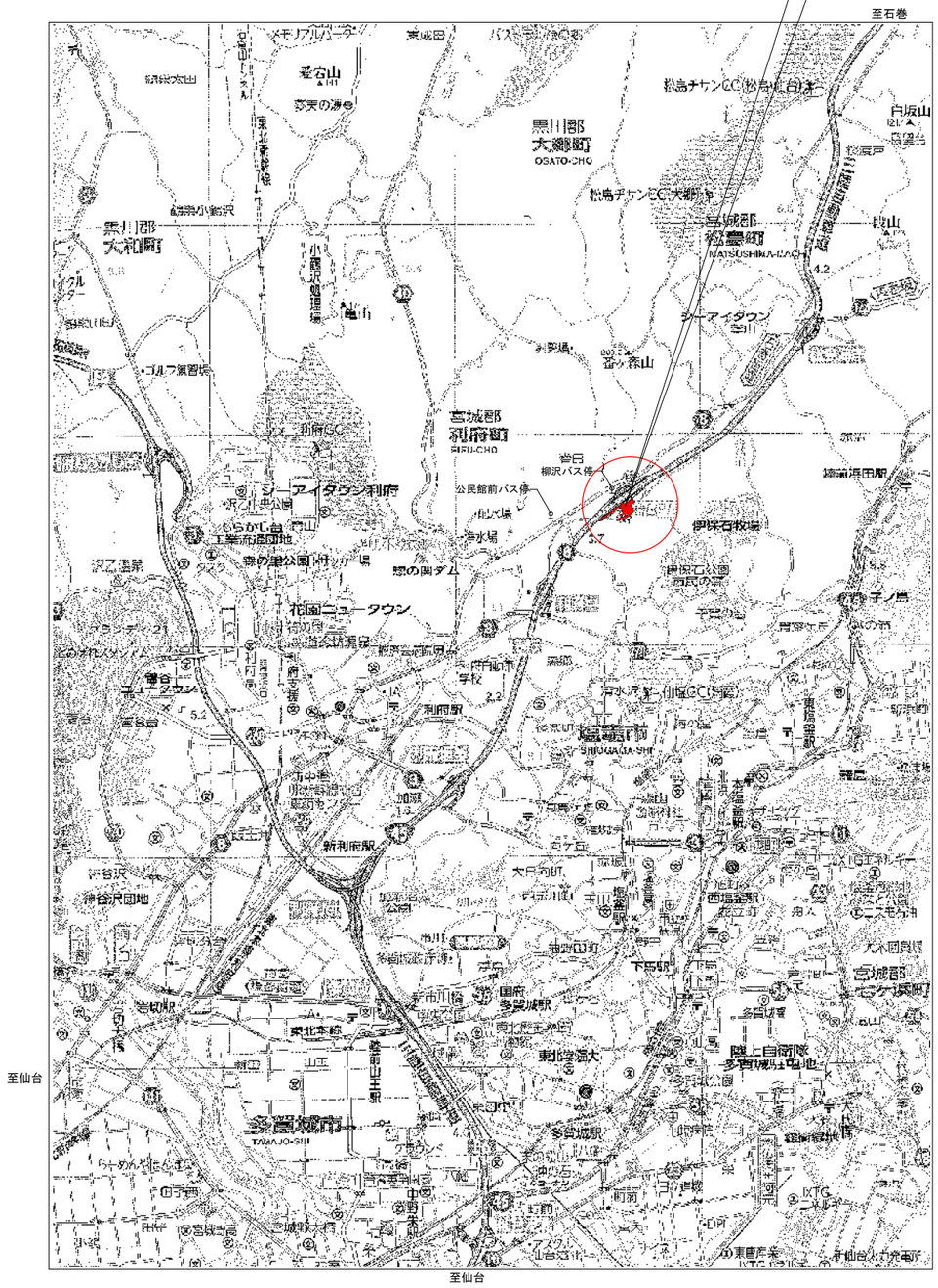
※設計GL高さは測量の上、施工図にて確認の事。

1)道路斜線の検討:基準法56条1項一号により水平距離(L)＞20mにより適用外
2)隣地斜線の検討:基準法56条1項により垂直距離(L)＜31mにより適用外
3)設計GL=平均GL
4)身障者用駐車場上屋、アプローチ庇、浄化槽上屋については、それ自体が
火災の発生の恐れが少ない用途であり、不燃材料で作られているので「延焼の恐れの
ある部分」を生じません。(法第2条第6号)
5)FL-1135を休憩所棟設計GLとする。設計GL=FH51.252とする。
6) ▭ 内数値は休憩所棟FL±0からの高低差を示す。　7) ▨ 既存建物解体撤去範囲を示す。

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号
件名	春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号	A ― 07
図名	上り線ＰＡ 配置図	縮尺	A1:1/500 A3:1/1000

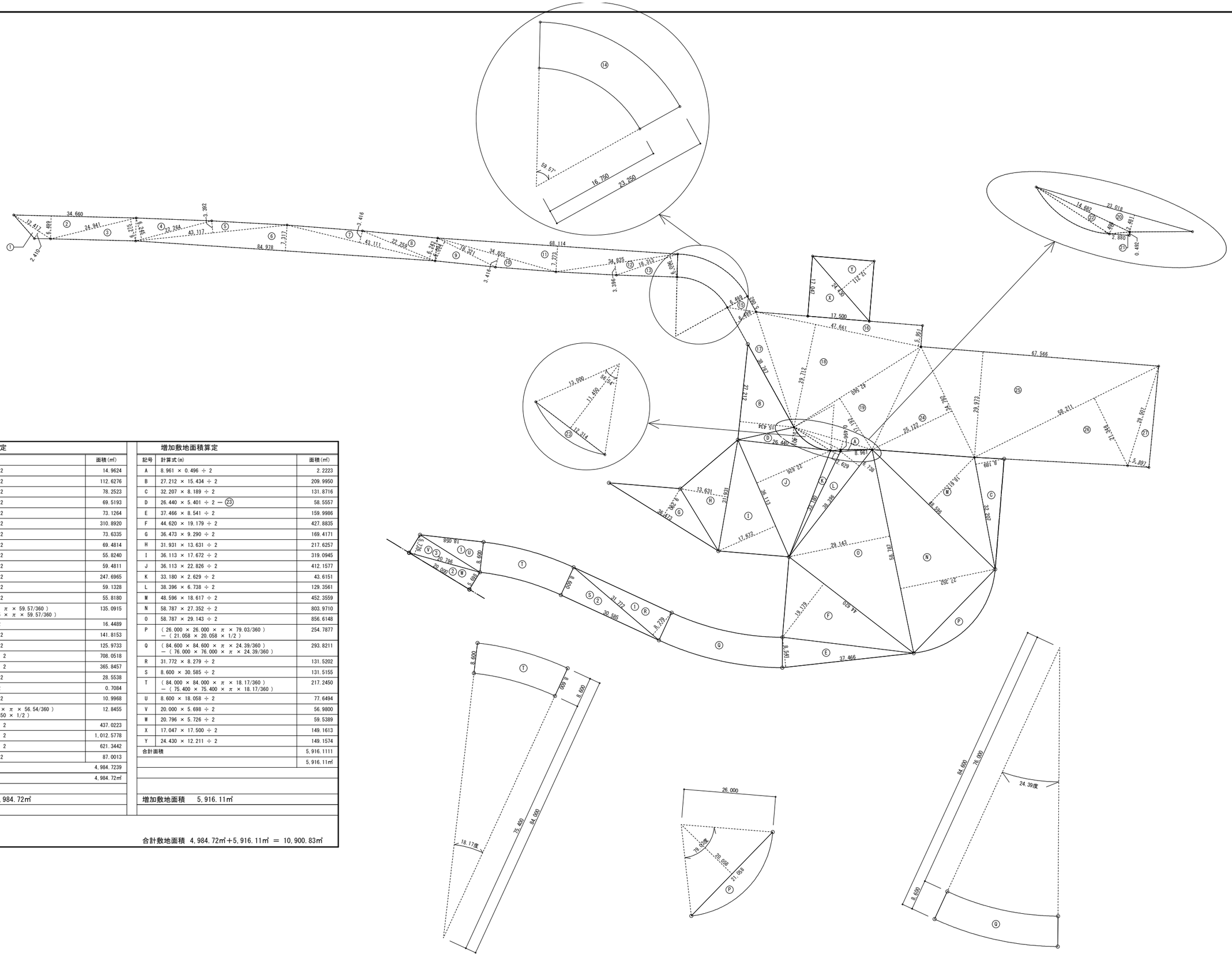
申請地:宮城郡利府町二ツ石 1-1の一部、1-5の一部、4-2の一部、20-18の一部





案 内 図　　S=1:30000

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号		件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 案内図	図面番号 Ａ － ０８ 縮尺 A1:1/30000 A3:1/60000



既存敷地面積算定		
記号	計算式(m)	面積(㎡)
①	12.417 × 2.410 ÷ 2	14.9624
②	34.660 × 6.499 ÷ 2	112.6276
③	24.941 × 6.275 ÷ 2	78.2523
④	22.264 × 6.245 ÷ 2	69.5193
⑤	43.117 × 3.392 ÷ 2	73.1264
⑥	84.978 × 7.317 ÷ 2	310.8920
⑦	43.111 × 3.416 ÷ 2	73.6335
⑧	22.259 × 6.243 ÷ 2	69.4814
⑨	18.321 × 6.094 ÷ 2	55.8240
⑩	34.825 × 3.416 ÷ 2	59.4811
⑪	68.114 × 7.273 ÷ 2	247.6965
⑫	34.825 × 3.396 ÷ 2	59.1328
⑬	18.313 × 6.096 ÷ 2	55.8180
⑭	(23.25 × 23.25 × π × 59.57/360) − (16.75 × 16.75 × π × 59.57/360)	135.0915
⑮	5.062 × 6.499 ÷ 2	16.4489
⑯	47.661 × 5.951 ÷ 2	141.8153
⑰	38.767 × 6.499 ÷ 2	125.9733
⑱	47.661 × 29.712 ÷ 2	708.0518
⑲	42.560 × 17.192 ÷ 2	365.8457
⑳	23.018 × 2.481 ÷ 2	28.5538
㉑	2.880 × 0.492 ÷ 2	0.7084
㉒	14.682 × 1.498 ÷ 2	10.9968
㉓	(13.000 × 13.000 × π × 56.54/360) − (12.314 × 11.450 × 1/2)	12.8455
㉔	34.792 × 25.122 ÷ 2	437.0223
㉕	67.566 × 29.973 ÷ 2	1,012.5778
㉖	58.211 × 21.348 ÷ 2	621.3442
㉗	29.507 × 5.897 ÷ 2	87.0013
合計面積		4,984.7239
		4,984.72㎡

既存敷地面積　4,984.72㎡

増加敷地面積算定		
記号	計算式(m)	面積(㎡)
A	8.961 × 0.496 ÷ 2	2.2223
B	27.212 × 15.434 ÷ 2	209.9950
C	32.207 × 8.189 ÷ 2	131.8716
D	26.440 × 5.401 ÷ 2 − ㉓	58.5557
E	37.466 × 8.541 ÷ 2	159.9986
F	44.620 × 19.179 ÷ 2	427.8835
G	36.473 × 9.290 ÷ 2	169.4171
H	31.931 × 13.631 ÷ 2	217.6257
I	36.113 × 17.672 ÷ 2	319.0945
J	36.113 × 22.826 ÷ 2	412.1577
K	33.180 × 2.629 ÷ 2	43.6151
L	38.396 × 6.738 ÷ 2	129.3561
M	48.596 × 18.617 ÷ 2	452.3559
N	58.787 × 27.352 ÷ 2	803.9710
O	58.787 × 29.143 ÷ 2	856.6148
P	(26.000 × 26.000 × π × 79.03/360) − (21.058 × 20.058 × 1/2)	254.7877
Q	(84.600 × 84.600 × π × 24.39/360) − (76.000 × 76.000 × π × 24.39/360)	293.8211
R	31.772 × 8.279 ÷ 2	131.5202
S	8.600 × 30.585 ÷ 2	131.5155
T	(84.000 × 84.000 × π × 18.17/360) − (75.400 × 75.400 × π × 18.17/360)	217.2450
U	8.600 × 18.058 ÷ 2	77.6494
V	20.000 × 5.698 ÷ 2	56.9800
W	20.796 × 5.726 ÷ 2	59.5389
X	17.047 × 17.500 ÷ 2	149.1613
Y	24.430 × 12.211 ÷ 2	149.1574
合計面積		5,916.1111
		5,916.11㎡

増加敷地面積　5,916.11㎡

合計敷地面積　4,984.72㎡＋5,916.11㎡ ＝ 10,900.83㎡

特記	訂正		日付	件名	図面番号
		株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 敷地求積図	A − 09 縮尺 A1 1:500 A3 1:1000

単位　㎡

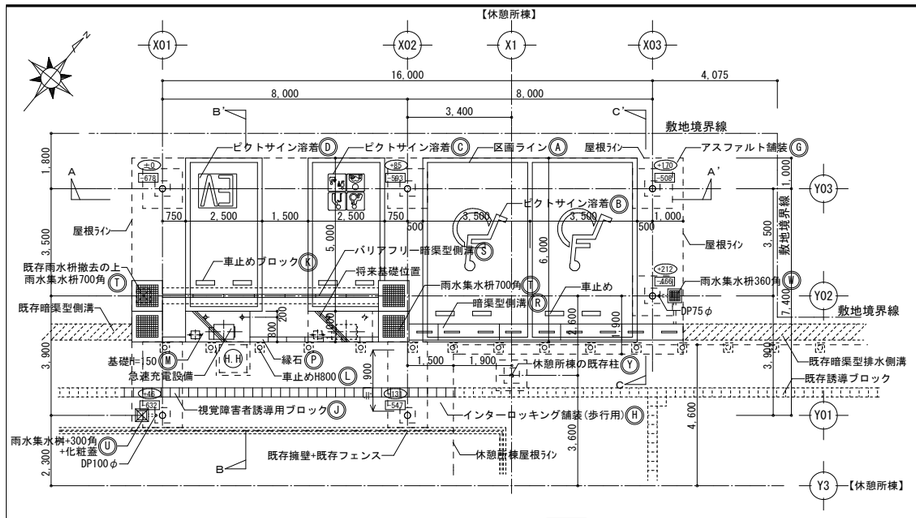
棟　名	床面積	建築面積	既存建物・解体撤去建物・申請建物	構造種別
1　休憩所棟	829.82	1,124.52	既存建物	準耐火建築物(ロ―2)
2　電気室棟	75.26	75.26	既存建物	その他の建築物
3　ゴミ置き場棟	25.00	25.00	既存建物	その他の建築物
4　喫煙所棟	0.00 ~~9.00~~	0.00 ~~9.00~~	既存解体撤去建物	その他の建築物
5　アプローチ庇棟	0.00	39.15	既存建物	その他の建築物
6　身障者用駐車場・自動二輪駐車場棟	0.00 ~~83.35~~	0.00 ~~83.35~~	既存解体撤去建物	その他の建築物
7　浄化槽上屋棟	63.02	63.02	既存建物	その他の建築物
8　身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟	141.45	141.45	申請建物	その他の建築物
9　自動二輪用駐車場棟	21.00	21.00	申請建物	その他の建築物
10　喫煙所棟	15.00	15.00	申請建物	その他の建築物
11　あずまや棟	6.51	6.51	申請建物	その他の建築物
合　　計	1,177.06 ~~1,085.45~~	1,510.91 ~~1,419.30~~		

【申請】棟別面積表

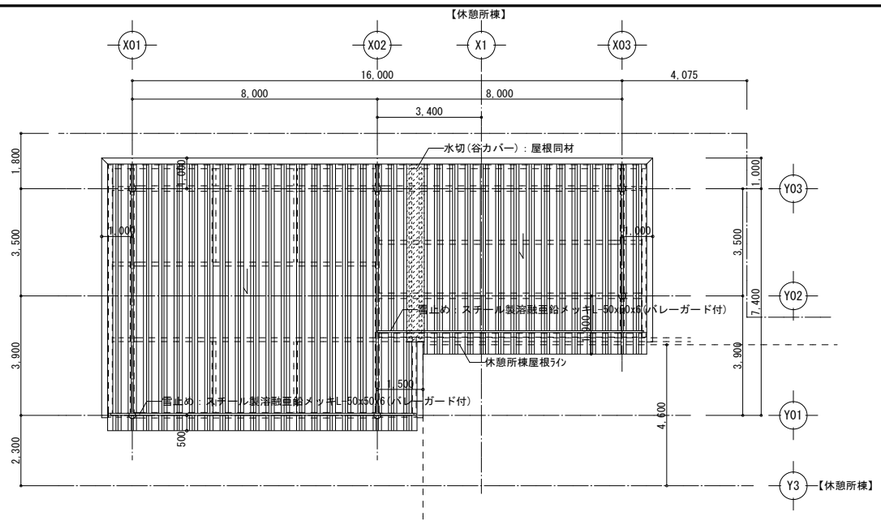
単位　㎡

棟　名	床面積	建築面積	確認済番号	検査済番号	構造種別	階数	最高高さ
1　休憩所棟	829.82	1,124.52	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	準耐火建築物(ロ―2)	平屋建て	7.935m
2　電気室棟	75.26	75.26	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	4.94m
3　ゴミ置き場棟	25.00	25.00	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	3.95m
4　喫煙所棟	9.00	9.00	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	3.575m
5　アプローチ庇棟	0.00	39.15	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	3.80m
6　身障者用駐車場・自動二輪駐車場棟	83.35	83.35	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	4.25m
7　浄化槽上屋棟	63.02	63.02	第H23計認建築宮城仙台00009号(H23.09.13)	第H24計済建築宮城仙台00005号(H24.07.24)	その他の建築物	平屋建て	4.805m
合　　計	1,085.45	1,419.30					

【既存】棟別面積表



平面図 S=1:100



屋根伏図 S=1:100

▽休憩所 FL
▽便所 FL
▽駐車場 設計GL
▽休憩所棟 設計GL

※身障者用駐車場等上屋はそれ自体火災の発生が少ない用途である。

：内数値は休憩所棟FL±0からの高低差を示す

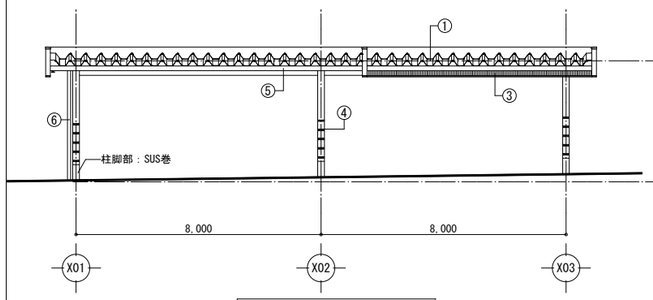
±0 レベル＝設計GL=平均GL

Ⓐ ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

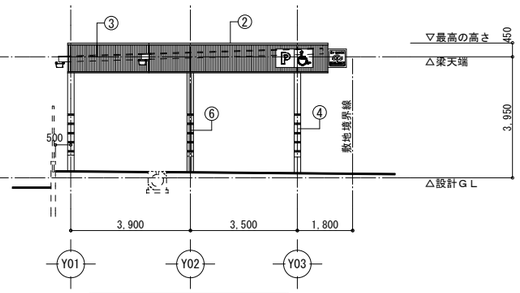
外部仕上表

屋根	①	フッ素樹脂ガルバリウム鋼板t=0.8 丸ハゼ折版Ⅱ型 H=160
笠木	②	フッ素樹脂ガルバリウム鋼板t=0.5包み
幕板	③	フッ素樹脂ガルバリウム鋼板t=0.5(リブタイプ) 目地ポリサルファイド系コーキング
鉄部	④	溶融亜鉛メッキ+FUE塗装(柱脚部：SUS巻)
軒樋	⑤	カラー塩ビ製 w150xh120
竪樋	⑥	カラーVP管75φ,100φ

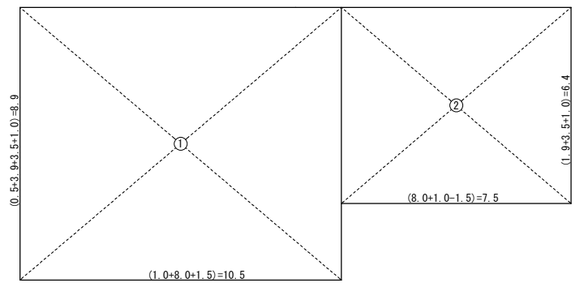
□塗装記号
SOP ： 合成樹脂調合ペイント
FUE ： 常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗装
EP ： 合成樹脂エマルジョンペイント塗装



南側立面図 S=1:100

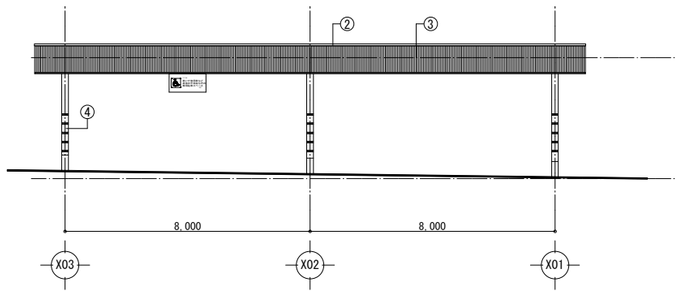


東側立面図 S=1:100

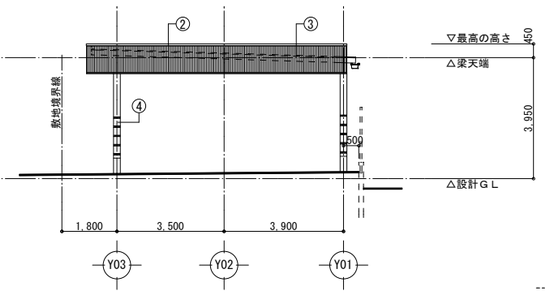


記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	10.50 × 8.90	93.45
2	7.50 × 6.40	48.00
床面積		141.45
建築面積		141.45

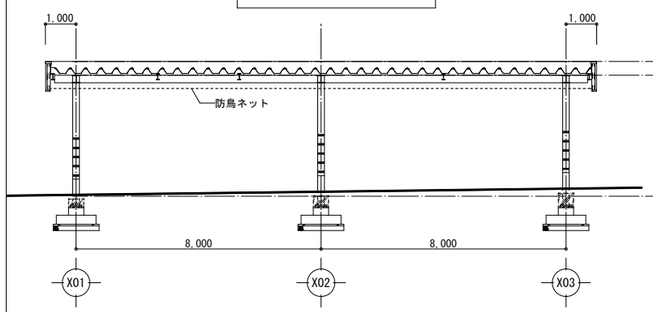
面積表 S=1:100



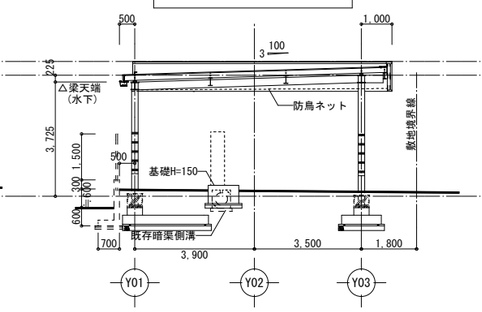
北側立面図 S=1:100



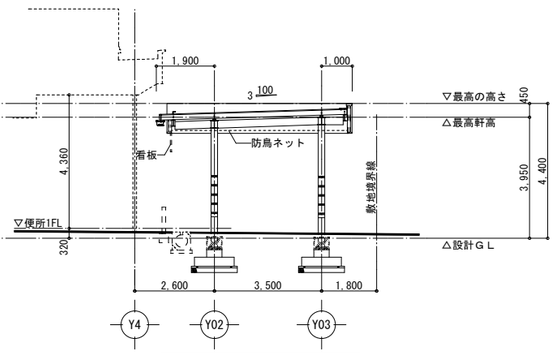
西側立面図 S=1:100



A－A' 断面図 S=1:100

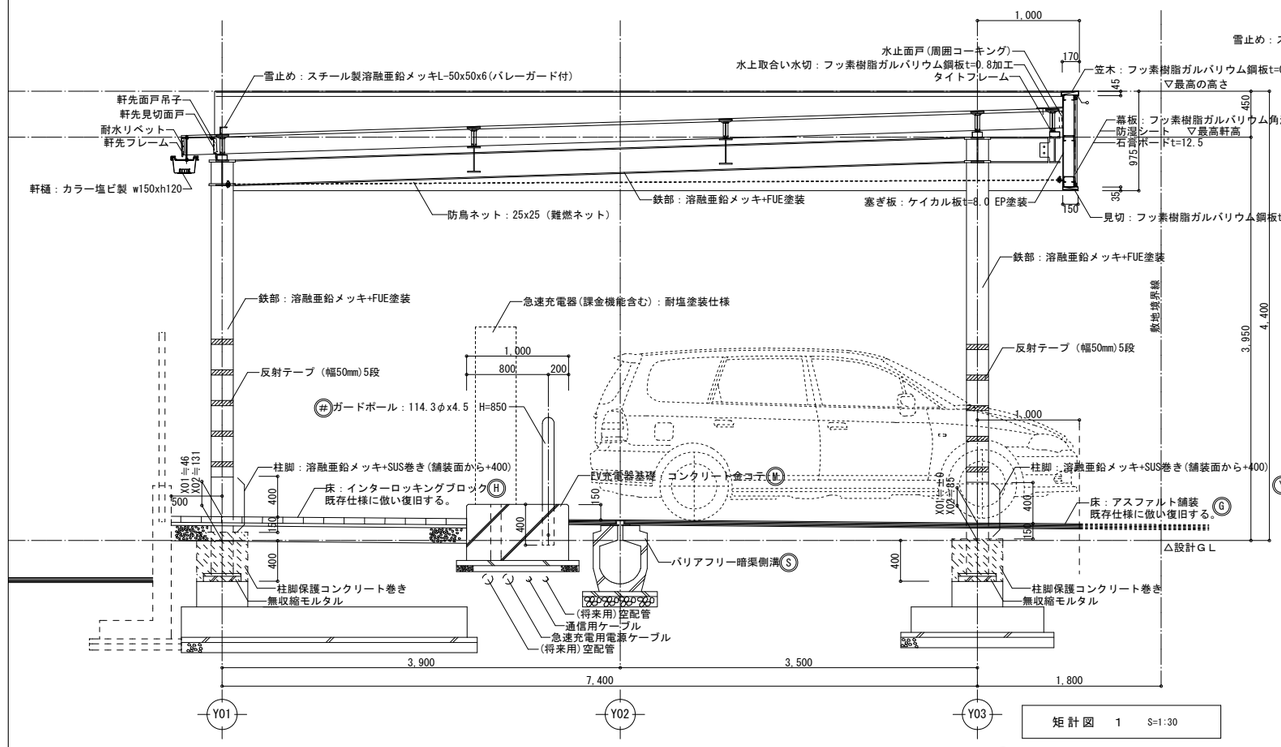


B－B' 断面図 S=1:100



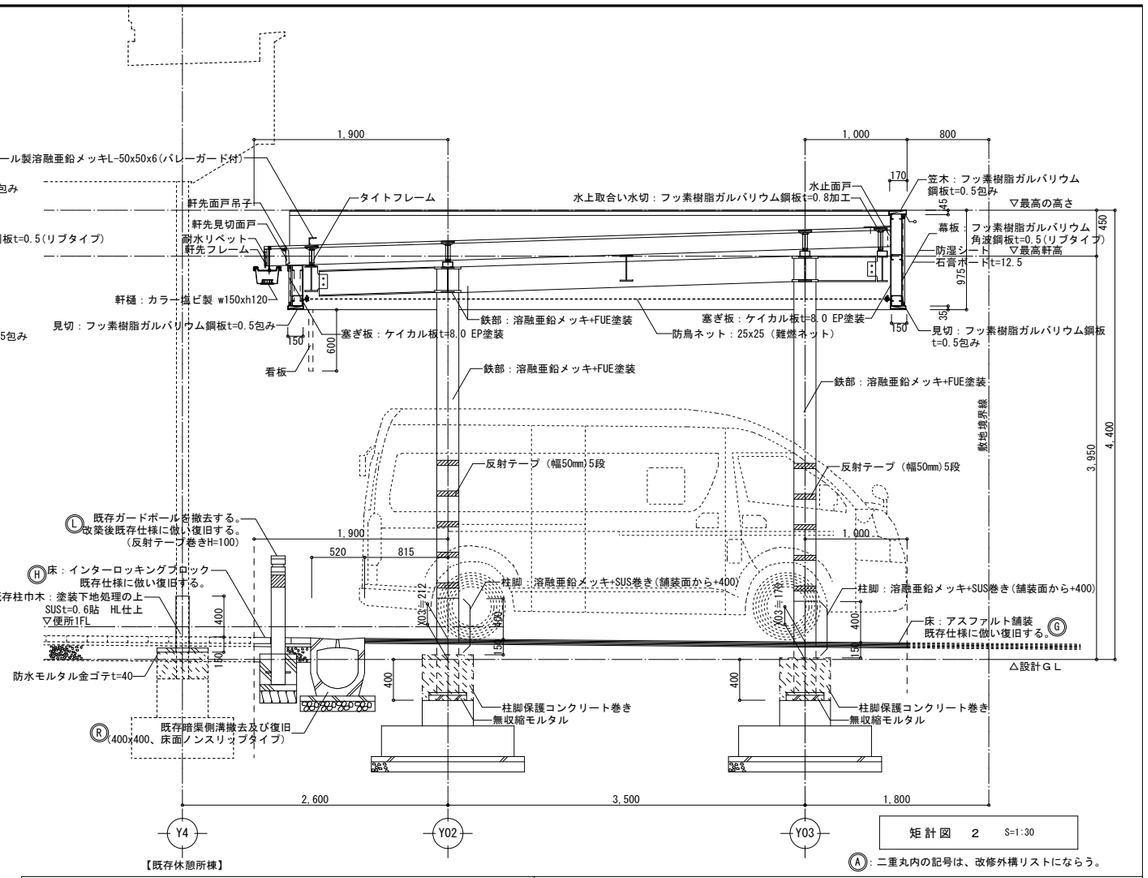
C－C' 断面図 S=1:100

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A ― 11
				図名 上り線ＰＡ 身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟 一般図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200



矩計図　1　S=1:30

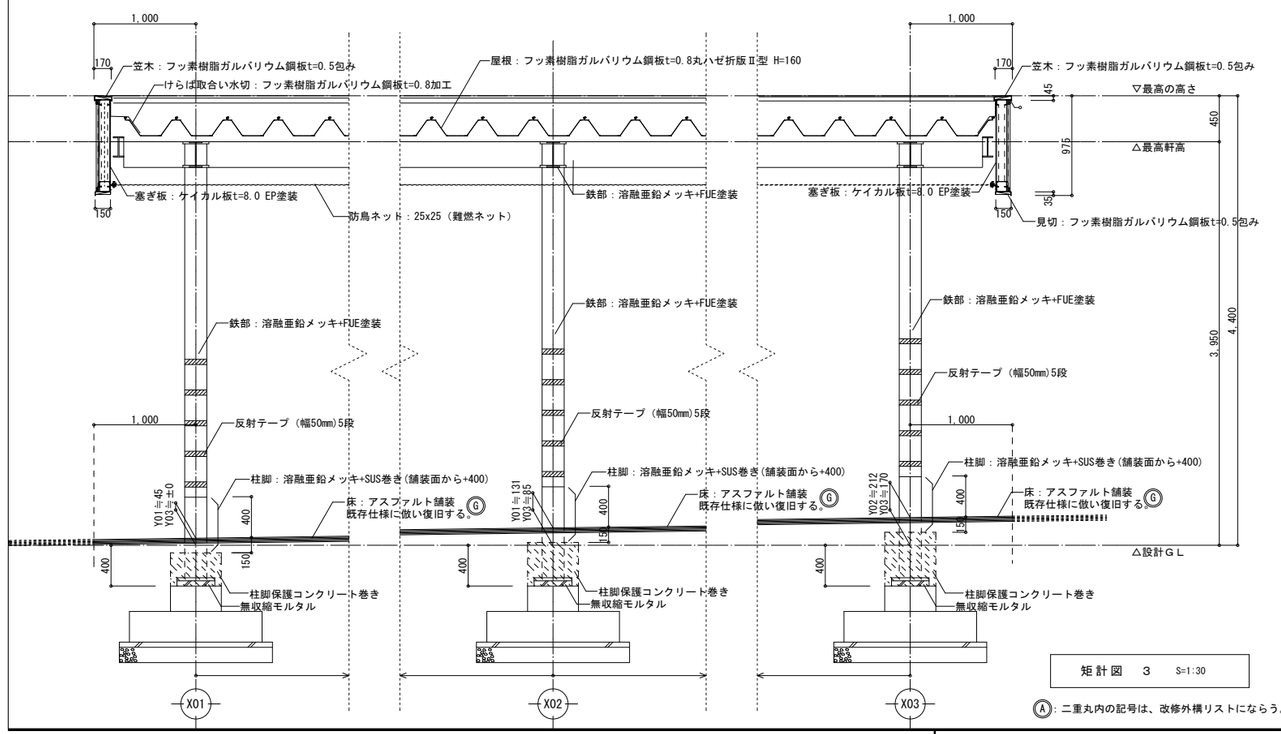
Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。



【既存休憩所様】

矩計図　2　S=1:30

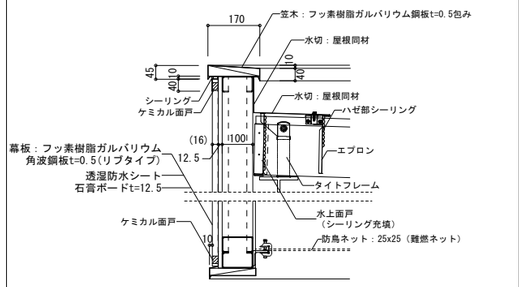
Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。



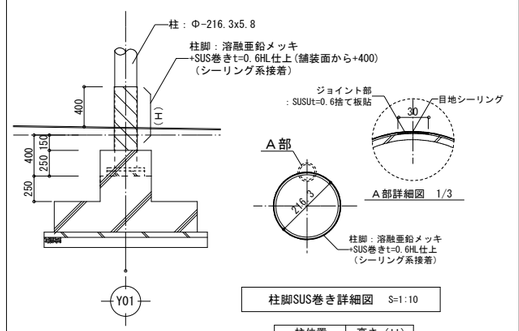
矩計図　3　S=1:30

Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

幕板廻り詳細図　S=1:10



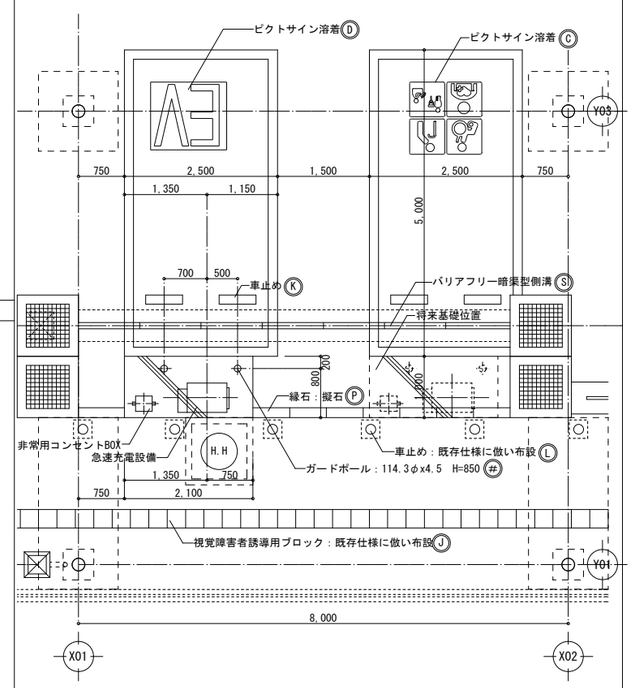
柱脚ステンレス巾木詳細図　S=1:30



柱脚SUS巻き詳細図　S=1:10

柱位置	高さ（H）
共通	550

急速充電廻り平面詳細図　S=1:50



特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

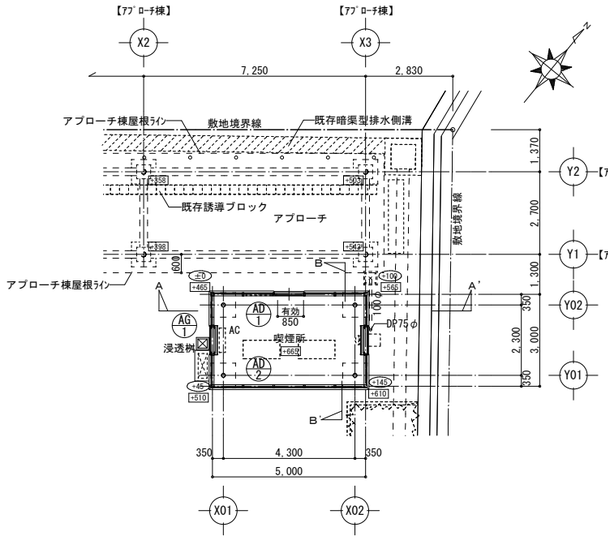
日付 2021・01・05・
古澤 克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

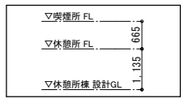
図名 上り線ＰＡ
身障者用駐車場・急速充電用駐車場棟　詳細図

図面番号 Ａ －１２

縮尺 A1:1/30
A3:1/60

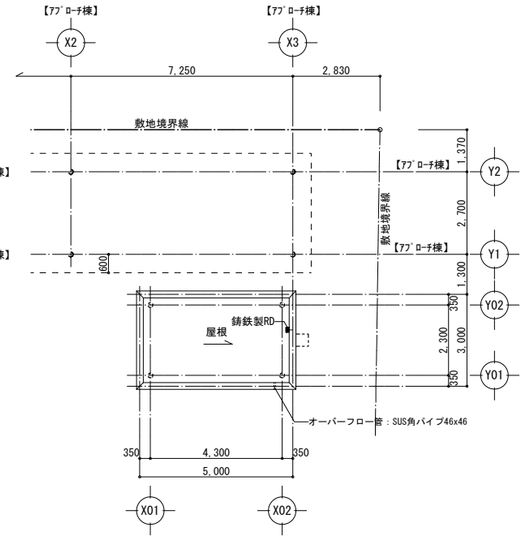


平面図　S=1:100

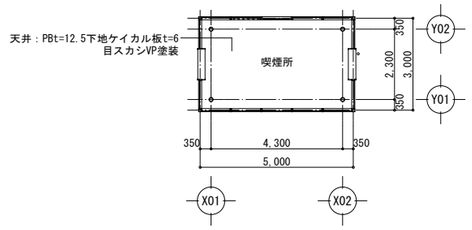


：内数値は休憩所棟FL±0からの高低差を示す

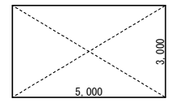
(±0) レベル＝設計GL=平均GL



屋根伏図　S=1:100

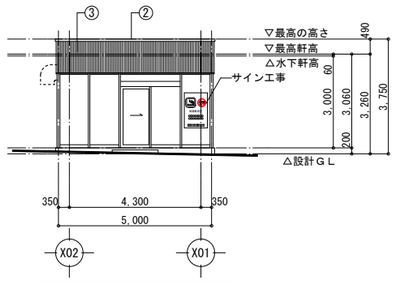


天井伏図　S=1:100

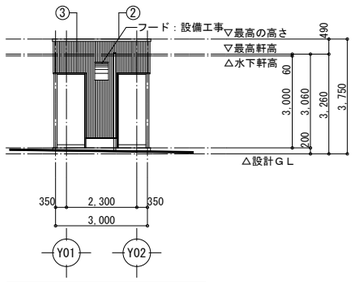


記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	5.00 × 3.00	15.00
床面積		15.00
建築面積		15.00

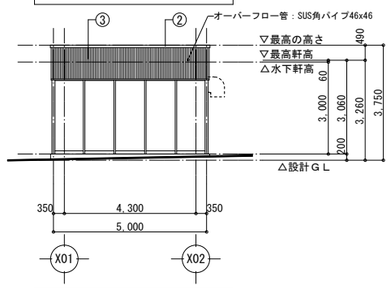
面積表　S=1:100



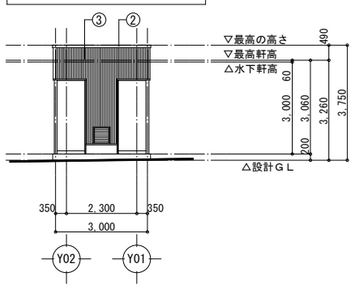
北側立面図　S=1:100



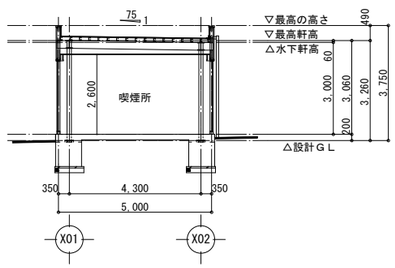
東側立面図　S=1:100



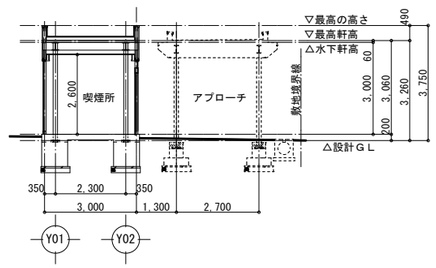
南側立面図　S=1:100



西側立面図　S=1:100



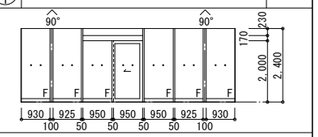
Ａ－Ａ’断面図　S=1:100

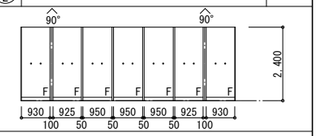


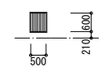
Ｂ－Ｂ’断面図　S=1:100

外部仕上表		
屋根	①	塩ビシートt=1.5　絶縁緩衝シートt=2.5 硬質木毛セメント板t=25（飛び火試験番号DR-0191）
笠木	②	笠木：フッ素樹脂ガルバリウム鋼板t=0.5包み
外壁	③	フッ素樹脂ガルバリウム角波鋼板t=0.5(リブタイプ) 石膏ボードt=12.5+透湿防水シート
オーバーフロー管	④	SUS角パイプ46x46
竪樋	⑤	カラーVP管75φ
ガラス	⑥	磨き網入りガラスt=6.8

□塗装記号
SOP ： 合成樹脂調合ペイント
FUE ： 常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗装
EP ： 合成樹脂エマルジョンペイント塗装

建具記号	AD 1	アルミ製両袖FIX付ハンガードア	1ヵ所
建具形状			
ガラス	磨き網入りガラスt=6.8		
材質・仕上	アルミ製ステンカラー　見込:100		
建具金物	自閉式ハンガー戸(ストッパー付)、握り棒:SUS製L=300		
	下ノンレール式、アルミ製水切、付属金物一式		
備考	衝突防止シール、アルミ製額縁		

建具記号	AD 2	アルミ製FIX連窓	1ヵ所
建具形状			
ガラス	磨き網入りガラスt=6.8		
材質・仕上	アルミ製ステンカラー　見込:100		
建具金物	アルミ製水切、付属金物一式		
備考	衝突防止シール、アルミ製額縁		

建具記号	AG 1	アルミ製ガラリ	1ヵ所
建具形状			
ガラス	―		
材質・仕上	アルミ製ステンカラー　見込:100		
建具金物	アルミ製水切、付属金物一式		
	防水ガラリ(開口率70%)		
備考	アルミ製額縁		

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号　下山田　勇

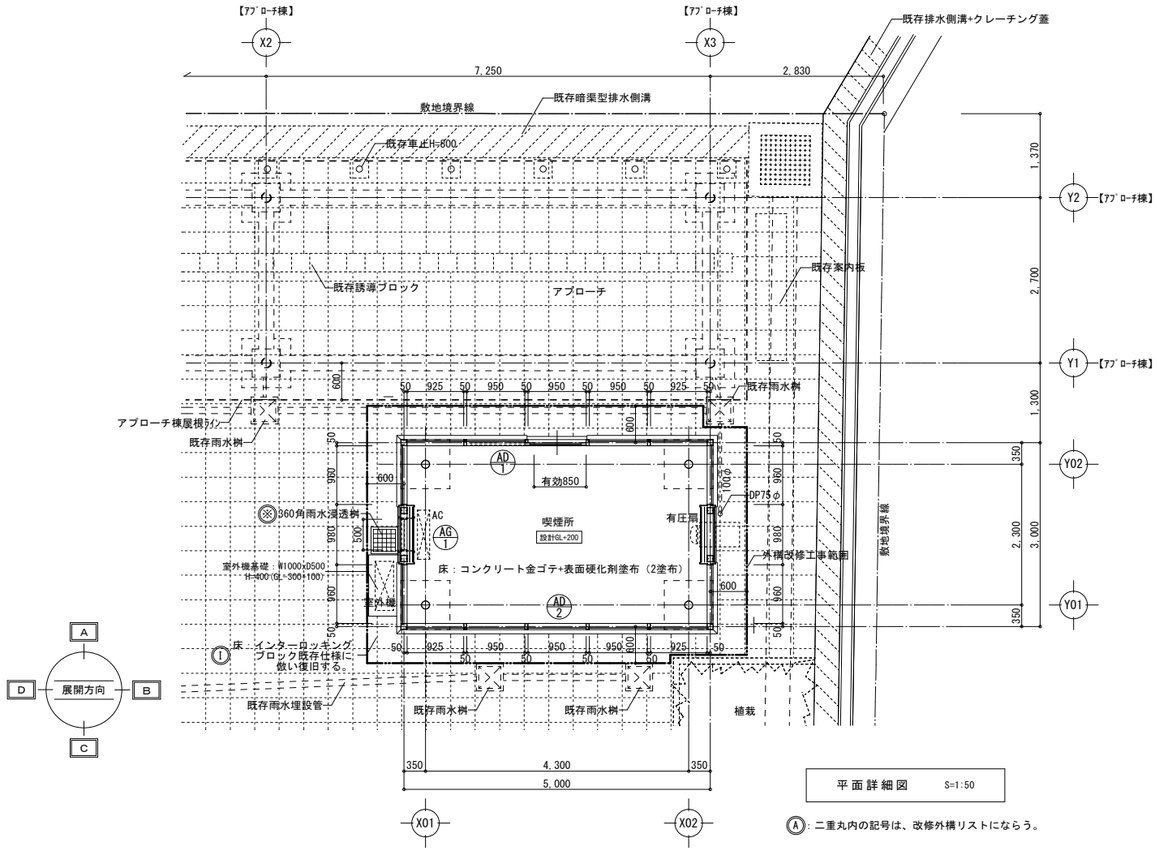
日付 2021・01・05・
古澤　克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ 喫煙所棟　一般図

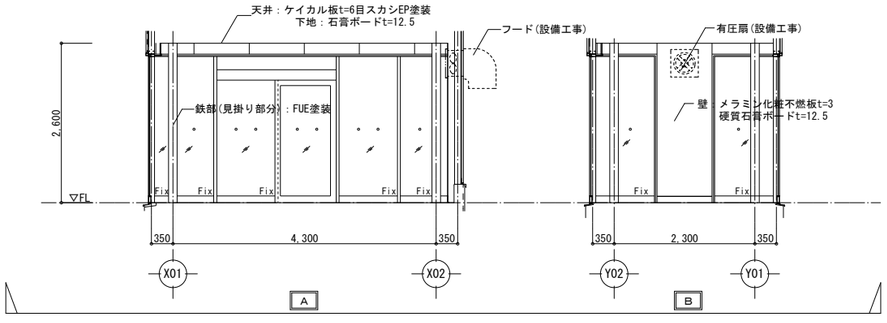
図面番号 Ａ －１３

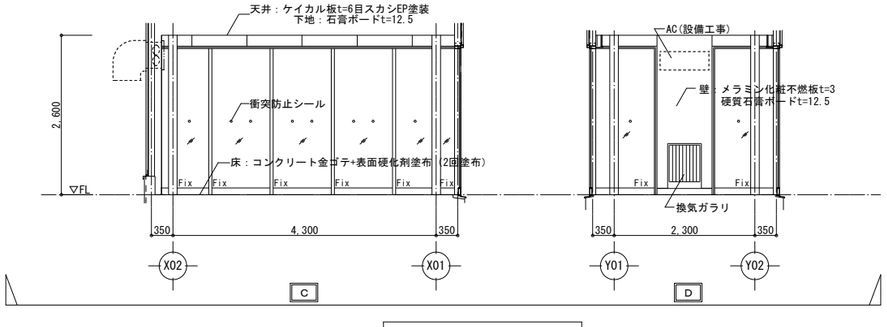
縮尺 A1:1/100 A3:1/200



平面詳細図　S=1:50

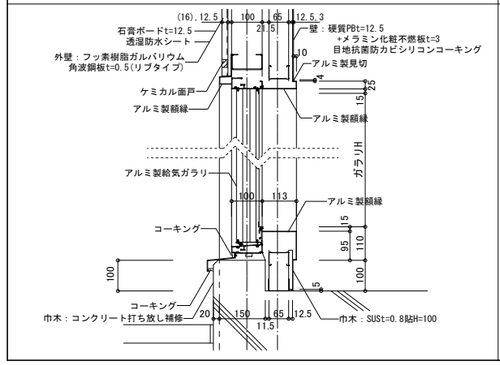
Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。



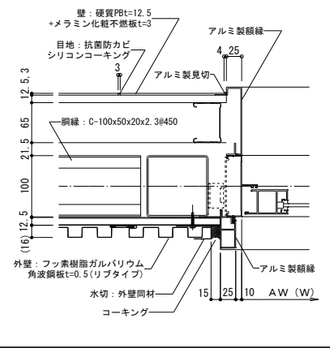


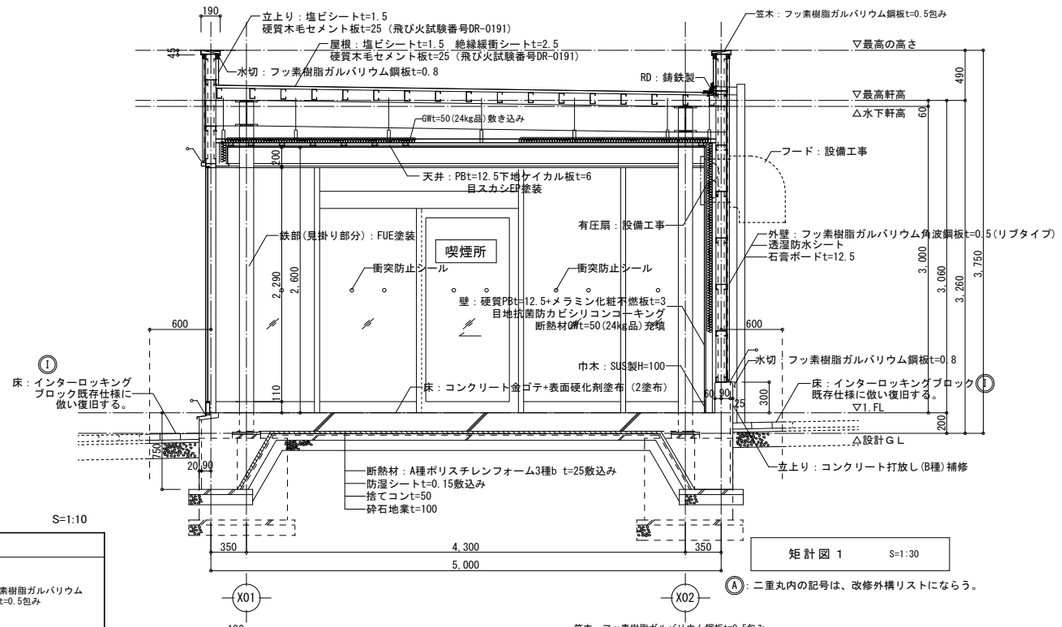
展開図　S=1:50

外壁及び内壁取り合い詳細図　S=1:10



外壁及び内壁サッシ取り合い詳細図　S=1:5

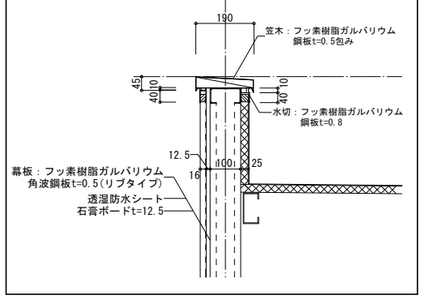




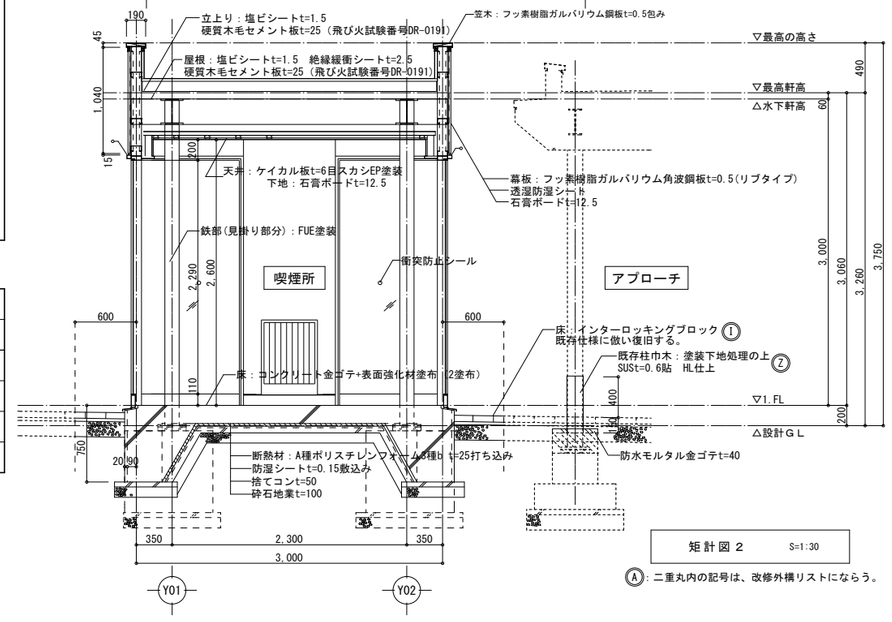
矩計図1　S=1:30

Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

パラペット廻り詳細図　S=1:10



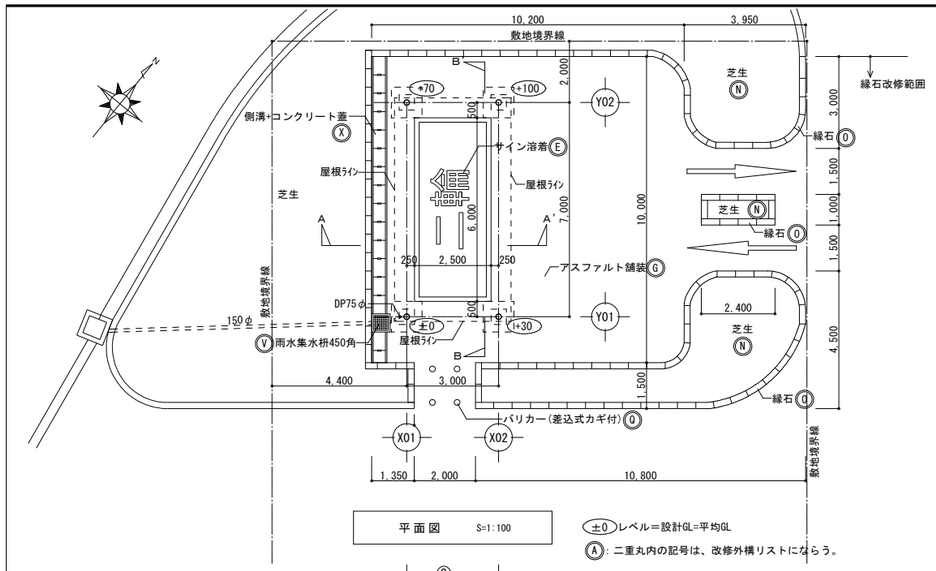
外壁	フッ素樹脂ガルバリウム角波鋼板t=0.5(リブタイプ) 石膏ボードt=12.5+透湿防水シート
外壁巾木	コンクリート打ち放し(B種)補修
内部床	コンクリート金ゴテ　表面強化材塗布（2塗布） （コンクリート打設1回、引渡し時1回）
巾木	SUSt=0.8貼　H=100
内壁	硬質PBt=12.5+メラミン化粧不燃板t=3 目地：抗菌防カビシリコンコーキング
天井	PBt=12.5下地ケイカル板t=6 目スカシEP塗装



矩計図2　S=1:30

Ⓐ：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

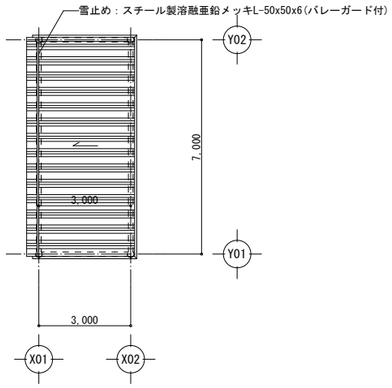
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A ― 14
				図名 上り線ＰＡ 喫煙所棟　詳細図	縮尺 A1:1/30 1/100 A3:1/60 1/200

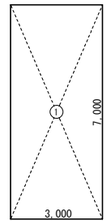


平面図 S=1:100

±0 レベル＝設計GL＝平均GL

A：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

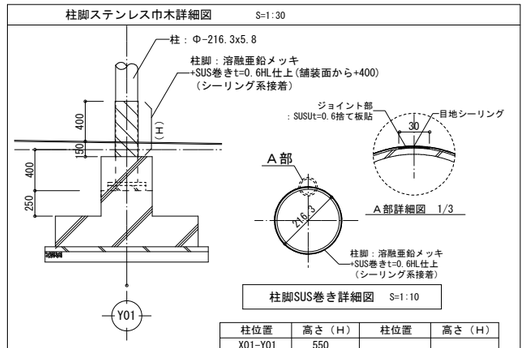




面積求積図 S=1:100

記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	7.00 × 3.00	21.00
床面積		21.00
建築面積		21.00

柱脚ステンレス巾木詳細図 S=1:30



柱脚SUS巻き詳細図 S=1:10

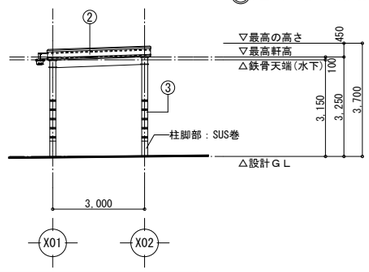
柱位置	高さ（H）	柱位置	高さ（H）
X01-Y01	550		
X01-Y02	550		
X02-Y01	550		
X02-Y02	550		

※高さは目安高さの為、既存舗装面高さ確認の上施工の事。

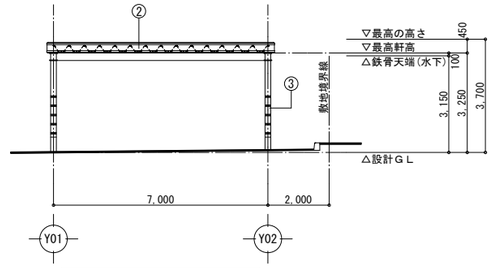
外部仕上表

屋根	①	フッ素樹脂ガルバリウム鋼板t=0.8 丸ハゼ折版Ⅱ型 H=160
幕板	②	カラーガルバリウム鋼板t=0.8 既製品 H=350
鉄部	③	溶融亜鉛メッキ+FUE塗装(柱脚部：SUS巻)
軒樋	④	カラー塩ビ製 w150xh120
竪樋	⑤	カラーVP管75φ

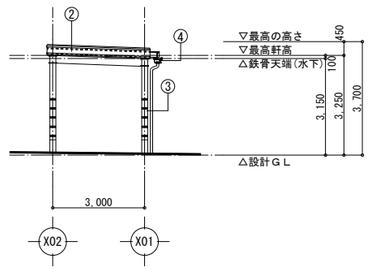
□塗装記号
SOP ： 合成樹脂調合ペイント
FUE ： 常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗装
EP ： 合成樹脂エマルジョンペイント塗装



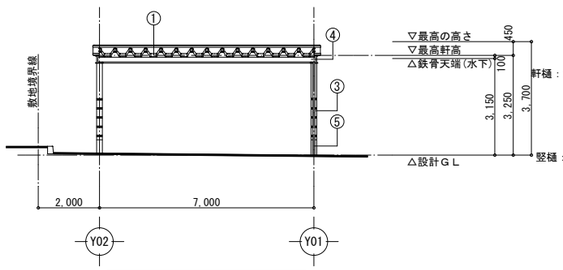
南側立面図 S=1:100



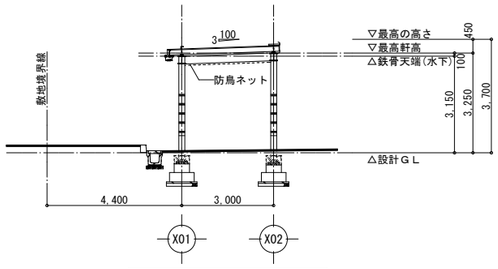
東側立面図 S=1:100



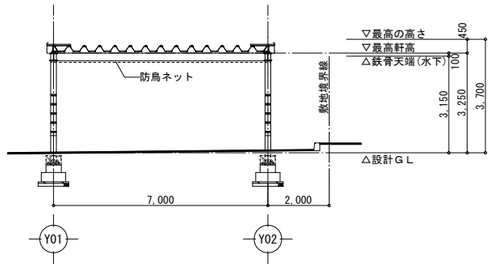
北側立面図 S=1:100



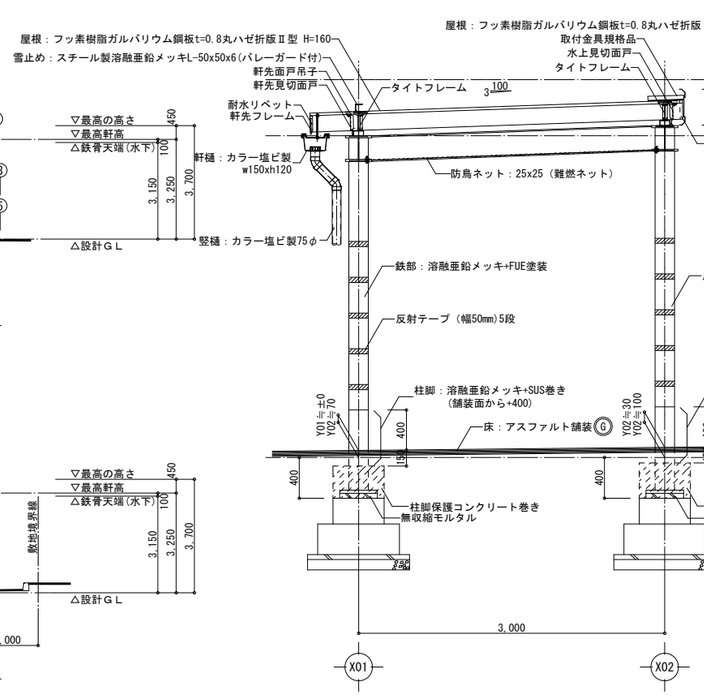
西側立面図 S=1:100



A－A’断面図 S=1:100

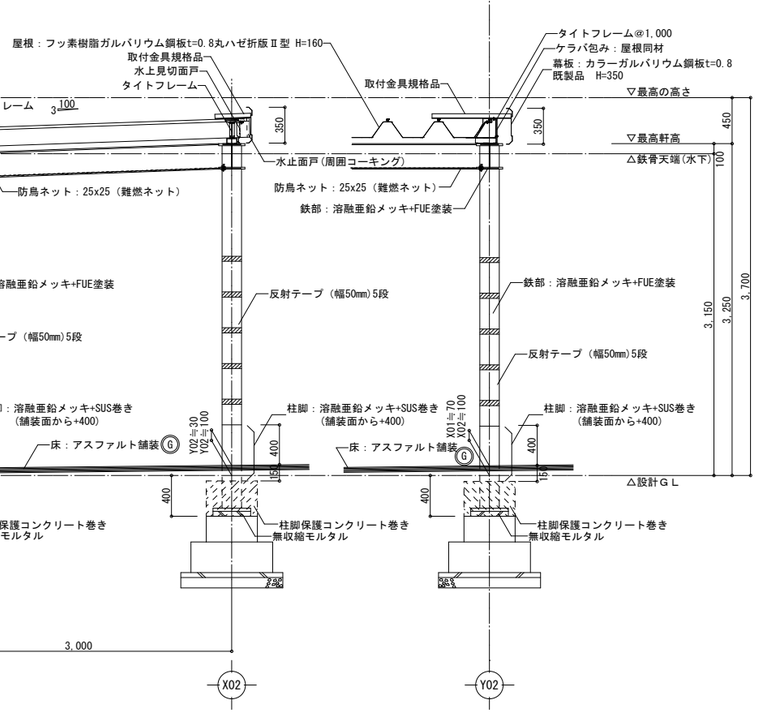


B－B’断面図 S=1:100



矩計図1 S=1:30

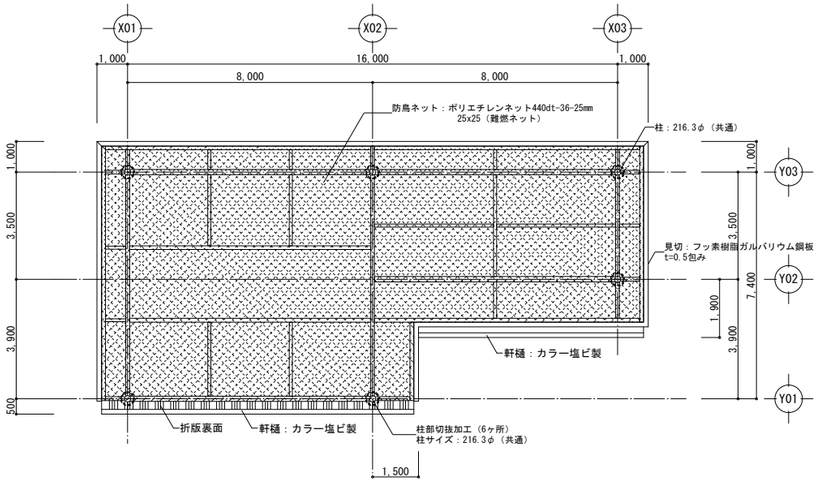
A：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。



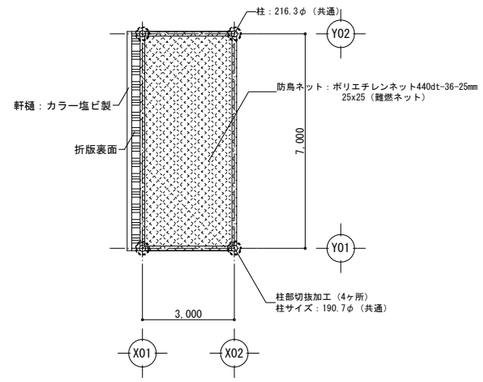
矩計図2 S=1:30

A：二重丸内の記号は、改修外構リストにならう。

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －１５
				図名 上り線ＰＡ 自動二輪用駐車場 棟	縮尺 A1:1/100 A3:1/200



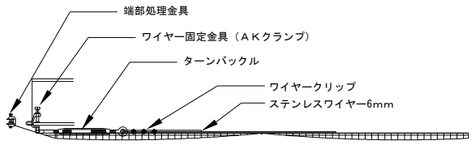
身障者用・急速充電用駐車場　天井伏図　S=1:100



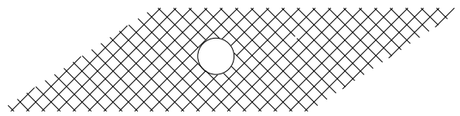
自動二輪駐車場　天井伏図　S=1:100

防鳥ネット参考図

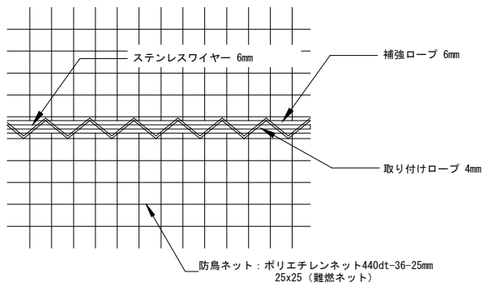
端部仕様図



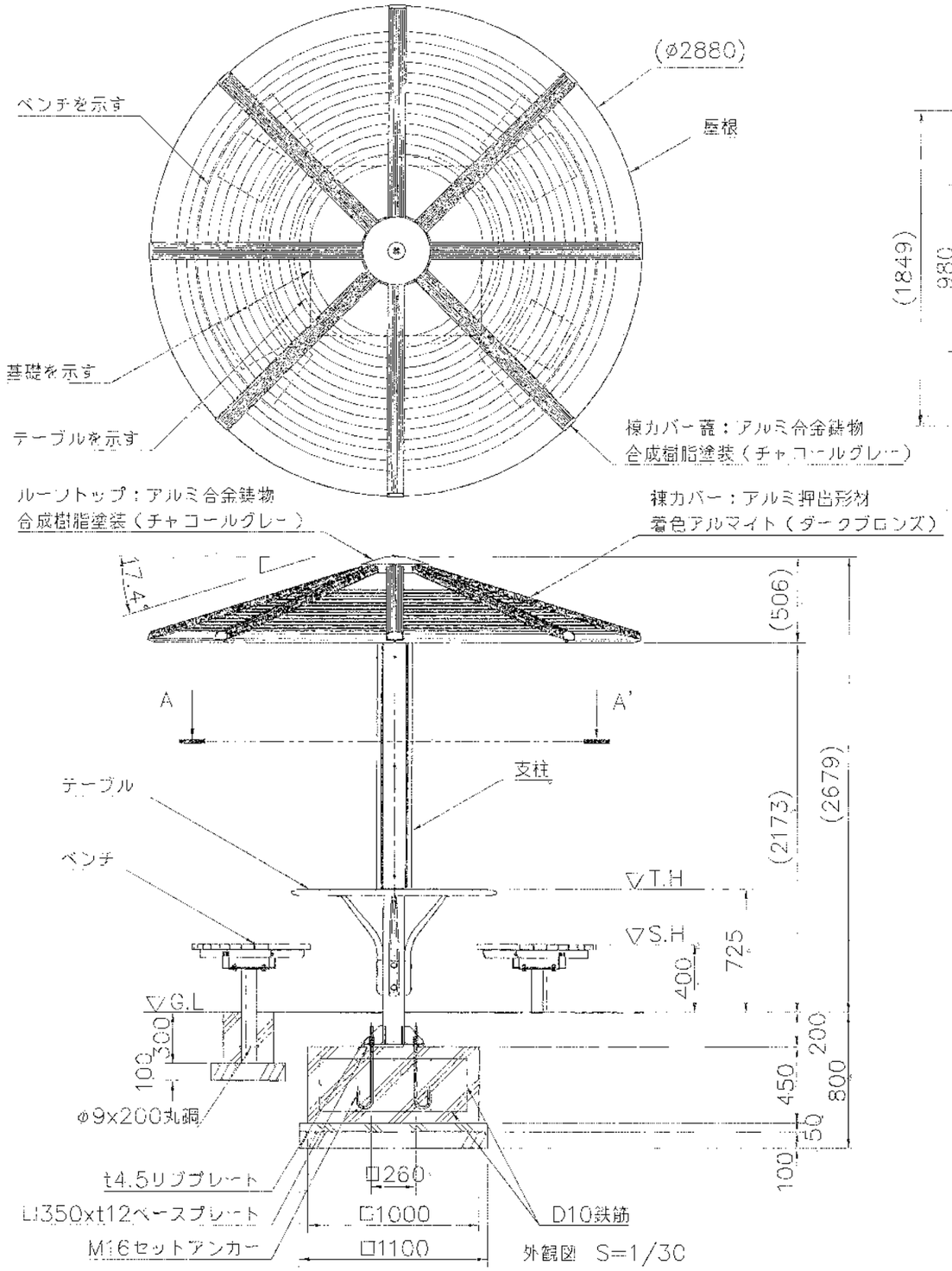
配管部切抜き加工

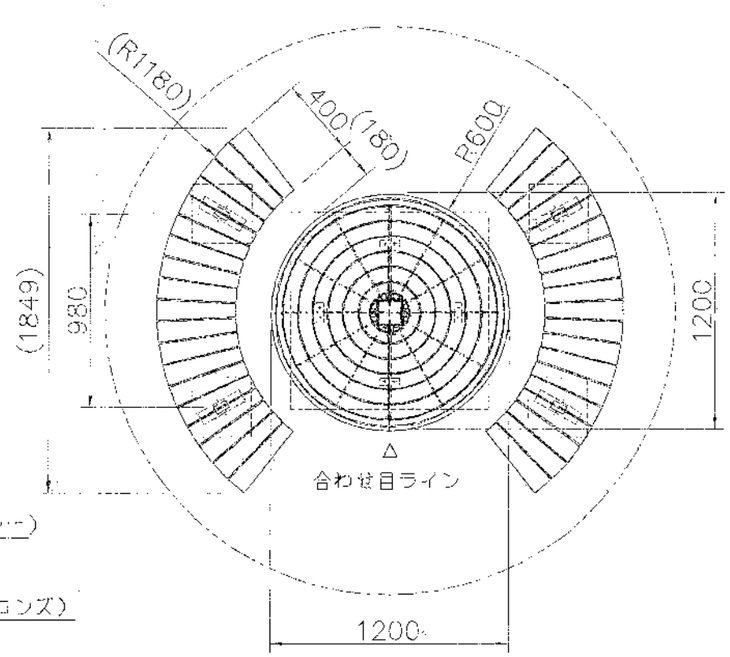


ネット結束図

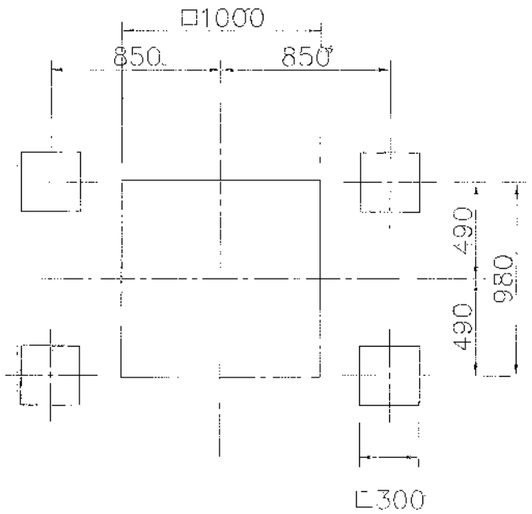


特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 防鳥ネット設置 天井伏図	図面番号 Ａ －１６ 縮尺 A1:1/100 A3:1/200





A→A'断面図　S=1/30



基礎伏図　S=1/50

キャストシェルター
　屋根　　：アルミ合金鋳物 合成樹脂塗装（チャコールグレー）
　支柱　　：□125xt4.5角鋼管　溶融亜鉛メッキ下地　合成樹脂塗装（アースグレー）
　　化粧材 REKWOOD2（レッド）
　受カバー：アルミ合金鋳物 合成樹脂塗装（チャコールグレー）
テーブル
　上台　　：アルミ合金鋳物 合成樹脂塗装（アースグレー）
　フレーム：アルミ合金鋳物 合成樹脂塗装（アースグレー）
ベンチ
　上台　　：REKWOOD2（レッド）
　フレーム：t4.5鋼板加工品、65xt6.0平鋼、
　　ジンクパウダー下地　合成樹脂塗装（アースグレー）
　脚　　：75×45×t3.2角鋼管
　　ジンクパウダー下地　合成樹脂塗装（アースグレー）
　質量：465kg

※指示なきビス仕様は、ステンレスとする

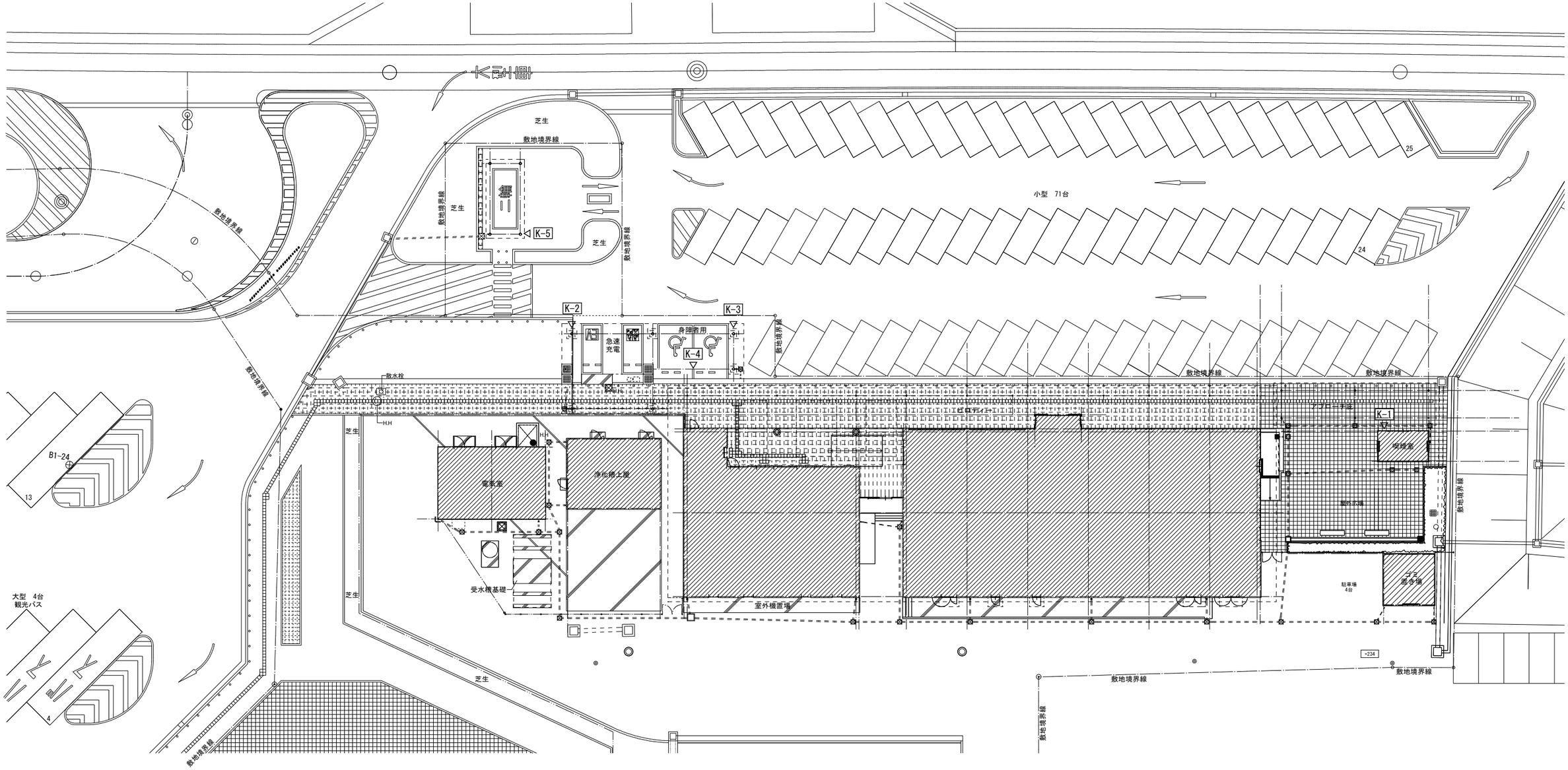
※風荷重設定は風速40m/sec、粗度区分Ⅲとしています。
※積雪荷重設定は一般地域とする。（50cmx20N/cm・m² =1000N/m²）

※ISO9001認証取得企業で品質管理された製品です。
※（一社）日本公園施設業協会　SPL表示認定企業の製造製品です。
※（一社）日本公園施設業協会の生産物賠償責任保険に加入した製品です。

註）別途工事とする。

記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	1.44 × 1.44 × 3.14	6.51
床面積		6.51
建築面積		6.51

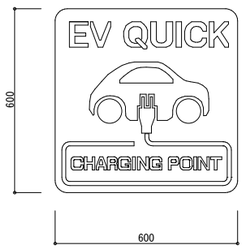
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －17
				図名 上り線ＰＡ あずまや 棟	縮尺 A1:1/15 A3:1/30



K-1 喫煙所のガラス部に設置 S=1/20

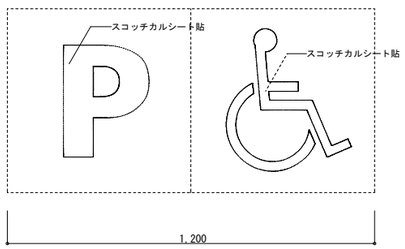
K-2 急速充電所に設置 S=1/10

基板:アルミ板焼付塗装
天井吊タイプ



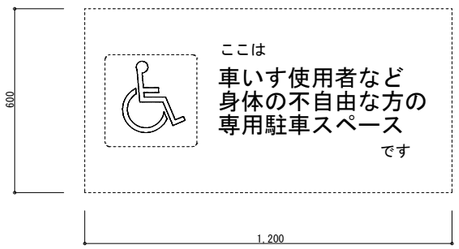
K-3 既存身障者用駐車場からの移設 S=1/10

基板:アルミ板焼付塗装
天井吊タイプ



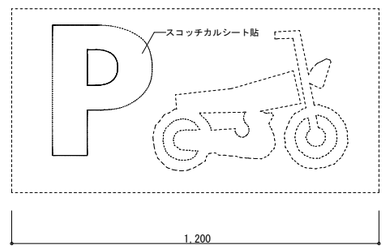
K-4 既存身障者用駐車場からの移設 S=1/10

基板:アルミ板焼付塗装
天井吊タイプ

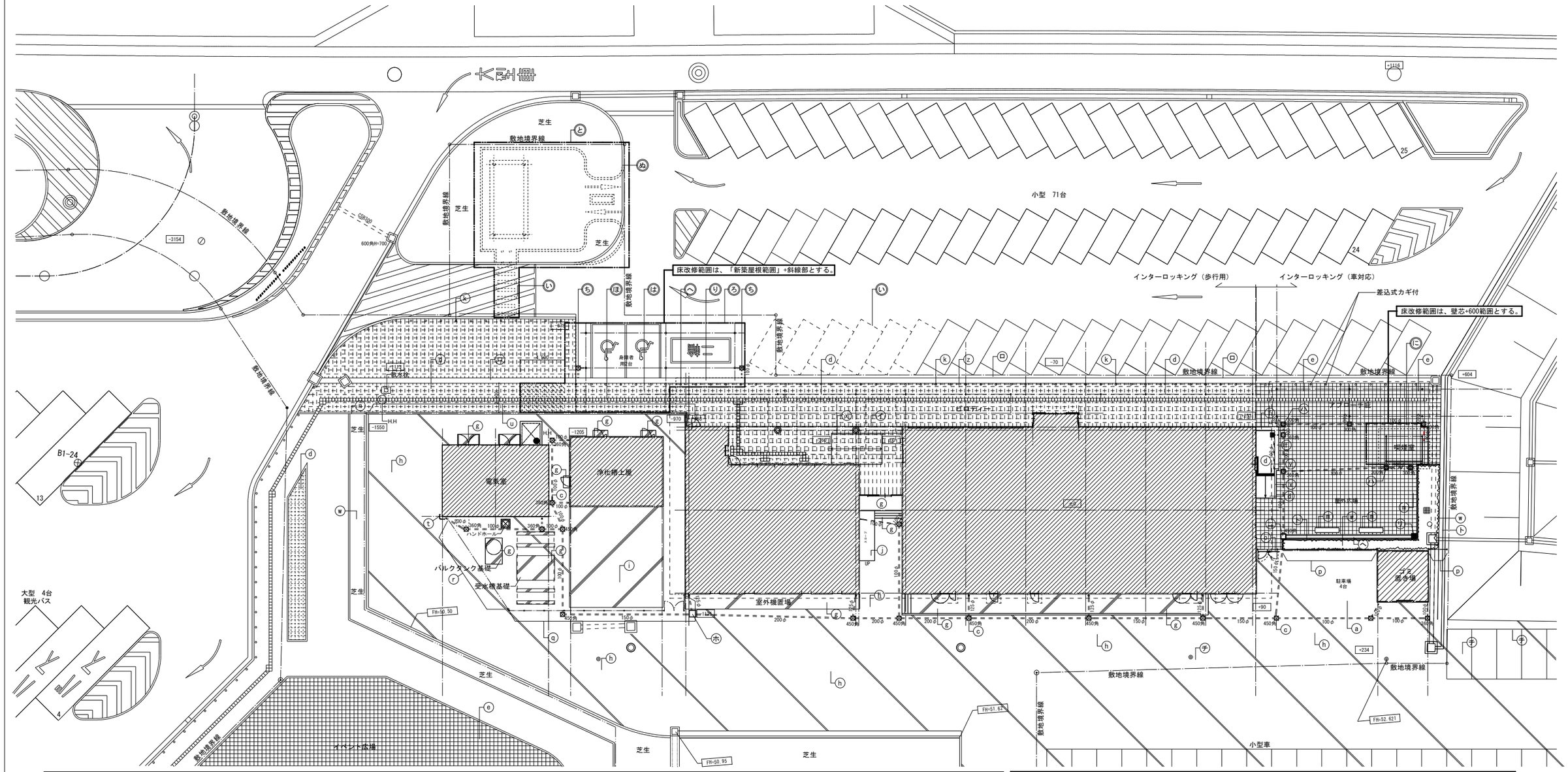


K-5 既存自動二輪駐車場からの移設 S=1/10

基板:アルミ板焼付塗装
天井吊タイプ



特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ サイン図 図面番号 Ａ － １８ 縮尺 A1:1/200 A3:1/400



【既存】外構工事リスト

ⓐ	駐車場：区画ライン引き（溶融式白線）	ⓝ	縁石：コンクリート境ブロックL600xH200xD150(170)	㋑	ステンレス製ゴミ箱
ⓑ	身障者用駐車スペース：ピクトサイン溶着（ハートビル法に準ずる）	ⓞ	門扉：スチール製両開き戸（W2000xH1800)シリンダー錠対応　戸当（あおり止付）	㋺	暗渠側溝　400x400
ⓒ	雨水集水枡360角、450角+コンクリート蓋	ⓟ	目かくしフェンス(L=11,000)：スチール既製品　H=1800 + 独立基礎400x400xH700	㋩	現場打ち雨水集水桝300角・360角 + 化粧蓋(インターロッキングブロック)
ⓓ	インターロッキング舗装（歩行用）：デザイン張り	ⓠ	メッシュフェンス（L=17,000)+門扉（W=2,000)：スチール製既製品　H=1500 + 独立基礎400x400xH700	㋥	現場打ち雨水集水桝450角 + 化粧蓋(カラーグレーチング)
ⓔ	インターロッキング舗装（T-2対応）：デザイン張り	ⓡ	バリカー（L=11,000)：ステンレス既製品76.3φ　H=700（差込式、南京錠付）+チェーン	㋭	雨水集水桝700+細目ノンスリップグレーチング蓋(T-25)
ⓕ	階段ブロック：備石コンクリート	ⓢ	バリカー（L=6,000)：ステンレス既製品76.3φ　H=700（差込式、南京錠付）+チェーン	㋬	現場打ちコンクリート側溝w250 + 化粧蓋(カラーグレーチング)
ⓖ	コンクリート金コテ	ⓣ	コーナーガード（W500xW500)：ステンレス既製品76.3φ　H=800（固定式）	㋣	縁石：擬石150x170x200
ⓗ	アスファルト舗装	ⓤ	コンクリート擁壁（防水型複層塗材E)+目かくしフェンス（スチール既製品　H=1500 ） L=33,000	㋠	地先境界ブロック 120x120x600
ⓘ	コンクリート直均し　溶剤形アクリルウレタン樹脂系塗料	ⓦ	花壇：客土H=600	㋰	雨水集水桝450角+細目ノンスリップグレーチング蓋(T-6)
ⓙ	コンクリート刷毛引き仕上げ	ⓧ	コンクリート立上り：コンクリート打放し		
ⓚ	車止：アルミ既製品115φxH800 ショットブラスト　セラミック塗装　反射テープ2段付	ⓨ	排水側溝（L=3,500）：W=100 ステンレス製スリット（ノンスリップ）+ステンレス枠	：：：：	雨水管（VP管）100φ～200φ
ⓜ	ベンチ（座板：木質樹脂、支柱：鋼管）W1800xD375xH400	ⓩ	視覚障害者誘導用ブロック：300x300x60		

撤去工事リスト

㋑	駐車場：区画ライン・ゼブラライン(溶融式白線)の撤去	図示
㋺	カッター目地の上、アスファルト舗装の撤去	図示
㋩	インターロッキング舗装(歩行用)の撤去	図示
㋥	インターロッキング舗装(T-2用)の撤去	図示
㋭	視覚障害者誘導用ブロック：300x300x60の撤去	図示
㋬	車止：アルミ既製品115φxH800 ショットブラスト　セラミック塗装　反射テープ2段付の撤去(独立基礎共)	12本
㋣	野芝撤去(客土H=300)	図示
㋠	雨水集水枡360角+細目グレーチング蓋の撤去	2箇所
㋰	暗渠側溝　400x400の撤去	図示
㋮	縁石：コンクリート製歩車道境界C種片面Rの撤去	図示

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

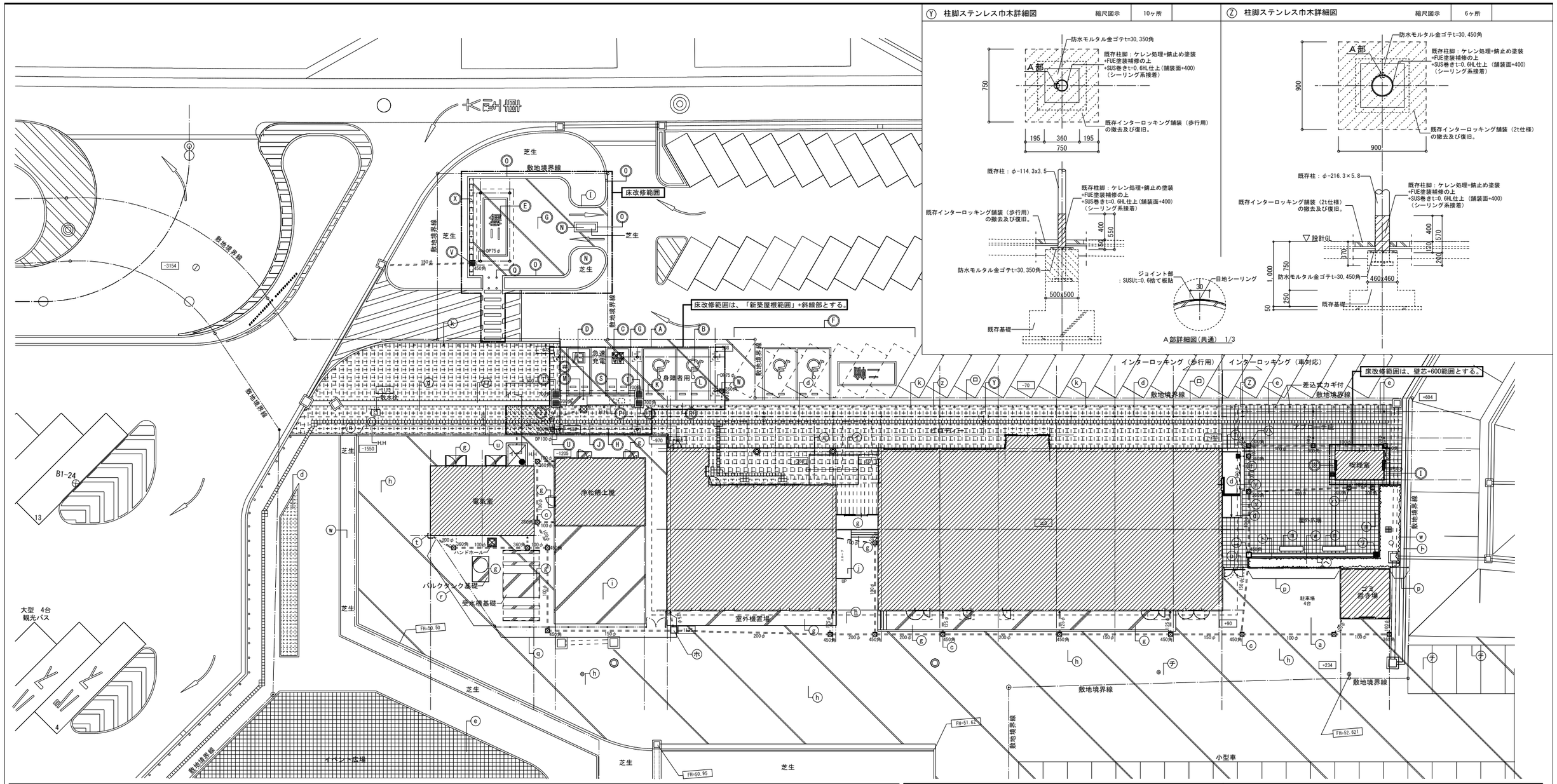
日付 2021・01・05・
古澤 克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ 外構平面図(撤去範囲)

図面番号 Ａ － １９

縮尺 A1:1/200 A3:1/400



【既存】外構工事リスト

ⓐ	駐車場：区画ライン引き（溶融式白線）	ⓝ	縁石：コンクリート境ブロックL600xH200xD150(170)	㋑	ステンレス製ゴミ箱		
ⓑ	身障者用駐車スペース：ピクトサイン溶着（ハートビル法に準ずる）	ⓞ	門扉：スチール製両開き戸（W2000xH1800)シリンダー錠対応　戸当（あおり止付）	㋺	暗渠側溝　400x400		
ⓒ	雨水集水枡360角、450角+コンクリート蓋	ⓟ	目かくしフェンス(L=11,000)：スチール既製品　H=1800 + 独立基礎400x400xH700	㋩	現場打ち雨水集水桝300角・360角 + 化粧蓋(インターロッキングブロック)		
ⓓ	インターロッキング舗装（歩行用）：デザイン張り	ⓠ	メッシュフェンス（L=17,000)+門扉（W=2,000)：スチール製既製品　H=1500 + 独立基礎400x400xH700	㋥	現場打ち雨水集水桝450角 + 化粧蓋(カラーグレーチング)		
ⓔ	インターロッキング舗装（T-2対応）：デザイン張り	ⓡ	バリカー（L=11,000)：ステンレス既製品76.3φ　H=700（差込式、南京錠付）+チェーン	㋭	雨水集水桝700+細目ノンスリップグレーチング蓋(T-25)		
ⓕ	階段ブロック：儀石コンクリート	ⓢ	バリカー（L=6,000)：ステンレス既製品76.3φ　H=700（差込式、南京錠付）+チェーン	㋬	現場打ちコンクリート側溝w250 + 化粧蓋(カラーグレーチング)		
ⓖ	コンクリート金コテ	ⓣ	コーナーガード（W500xW500)：ステンレス既製品76.3φ　H=800（固定式）	㋣	縁石：擬石150x170x200		
ⓗ	アスファルト舗装	ⓤ	コンクリート擁壁（防水型複層塗材E)+目かくしフェンス（スチール既製品　H=1500) L=33,000	㋠	地先境界ブロック 120x120x600		
ⓘ	コンクリート直均し　溶剤形アクリルウレタン樹脂系塗料	ⓦ	花壇：客土H=600	㋡	雨水集水桝450角+細目ノンスリップグレーチング蓋(T-6)		
ⓙ	コンクリート刷毛引き仕上げ	ⓧ	コンクリート立上り：コンクリート打放し				
ⓚ	車止：アルミ既製品115φxH800 ショットブラスト　セラミック塗装　反射テープ2段付	ⓨ	排水側溝（L=3,500)：W=100 ステンレス製スリット（ノンスリップ）+ステンレス枠	：：：：	雨水管（VP管）100φ～200φ		
ⓜ	ベンチ（座板：木質樹脂、支柱：鋼管）W1800xD375xH400	ⓩ	視覚障害者誘導用ブロック：300x300x60				

【改修】外構工事リスト

Ⓐ	駐車場：区画ライン・横断歩道ライン引き・矢印ライン（溶融式白線）	図示	Ⓞ	縁石：コンクリート製歩車道境界C種片面R	図示
Ⓑ	身障者用駐車スペース：ピクトサイン溶着（ハートビル法に準ずる）	2箇所	Ⓟ	縁石：擬石(100xh120)	図示
Ⓒ	ゆずりあい用駐車スペース：ピクトサイン溶着	1ヶ所	Ⓠ	バリカー：ステンレス既製品 76.3φxH700	4箇所
Ⓓ	急速充電用駐車スペース：ピクトサイン溶着	1ヶ所	Ⓡ	暗渠側溝　400x400	図示
Ⓔ	二輪用駐車スペース・ピクトサイン溶接	1ヶ所	Ⓢ	バリアフリー用暗渠側溝　400x400	図示
Ⓕ	工事期間中、身障者用・自動二輪駐車場に変更+工事完了後乗用車マスに戻す	図示	Ⓣ	雨水集水桝700+細目ノンスリップグレーチング蓋(T-25)	4か所
Ⓖ	アスファルト舗装	図示	Ⓤ	現場打ち雨水集水桝300角 + 化粧蓋(インターロッキングブロック)	1ヶ所
Ⓗ	インターロッキング舗装（歩行用）：デザイン張り	図示	Ⓥ	雨水集水桝450角+細目ノンスリップグレーチング蓋	1ヶ所
Ⓘ	インターロッキング舗装（T-2対応）：デザイン張り	図示	Ⓦ	雨水集水桝360角+細目ノンスリップグレーチング蓋	1ヶ所
Ⓙ	視覚障害者誘導用ブロック：300x300x60	図示	Ⓧ	道路用コンクリート側溝300A+コンクリート蓋	図示
Ⓚ	車止めブロック　コンクリート既製品L=600(打ち込みアンカー付)	12か所	Ⓨ	既存柱(114.3φ)巾木：塗装下地処理の上SUSt=0.6貼　HL仕上	10か所
Ⓛ	車止：アルミ既製品115φxH800 ショットブラスト　セラミック塗装　反射テープ2段付	12本	Ⓩ	既存柱(216.3φ)巾木：塗装下地処理の上SUSt=0.6貼　HL仕上	6か所
Ⓜ	急速充電器基礎：コンクリート金ゴテ押え	図示	※	雨水浸透桝360角+細目ノンスリップグレーチング蓋	1ヶ所
Ⓝ	野芝(客土H=300)	図示	#	ガードポール：114.3φx4.5　H=850	2ヶ所

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

日付 2021・01・05・
古澤 克彦
一級建築士 第300198号

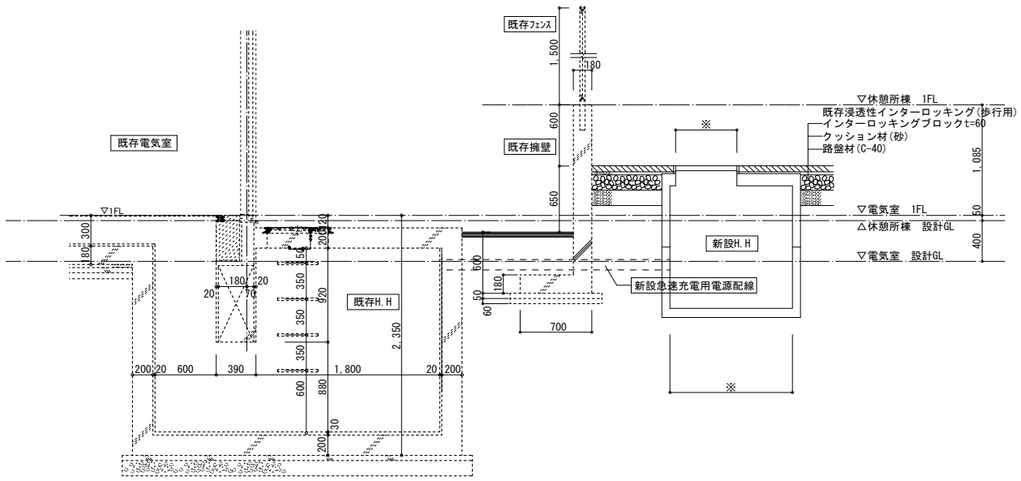
件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ
外構平面図(改修範囲)

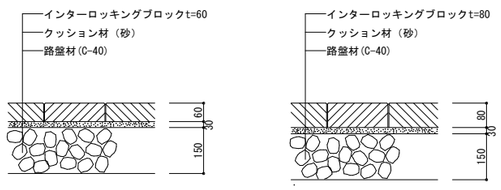
図面番号 Ａ － ２０

縮尺 A1:1/200 A3:1/400

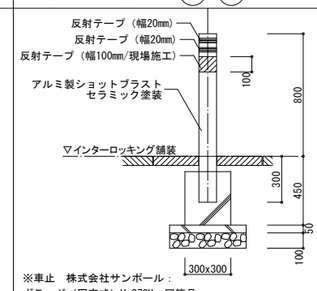
イーイ' 断面図　S=1/30



透水性インターロッキング　はⒽ　にⒾ　S=1/10

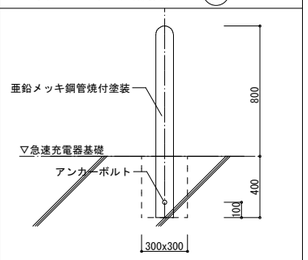


車止：アルミ既製品　へⓁ　S=1/20



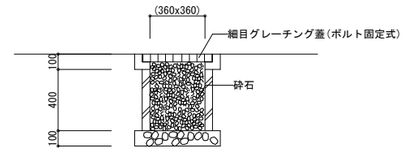
※車止　株式会社サンポール：
ポラード（固定式）V-370U　同等品

バリカー：スチール既製品　#　S=1/20

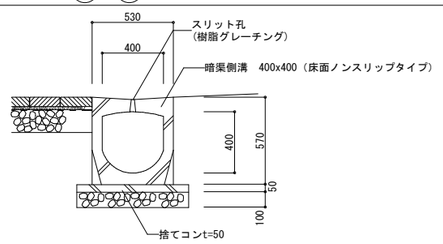


※車止　株式会社サンポール：
(固定式)FPA-12U4(フック無し)　同等品

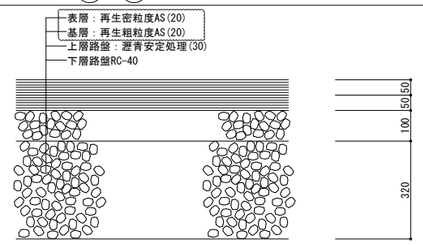
浸透枡　※　S=1/20



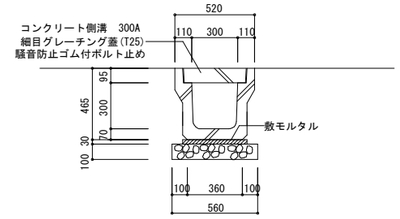
暗渠側溝　りⓅ　S=1/20



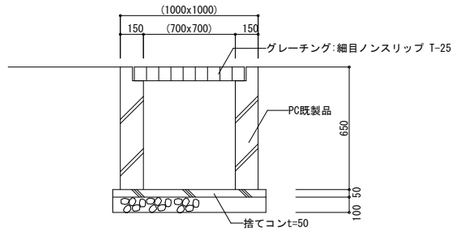
アスファルト舗装　ろⒼ



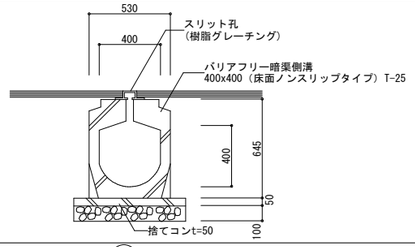
コンクリート側溝　Ⓤ　S=1/20



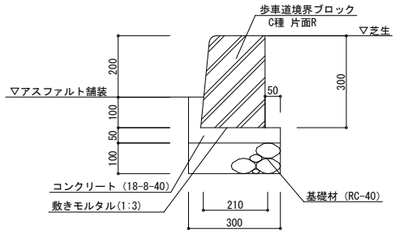
雨水集水桝　Ⓢ　S=1/20



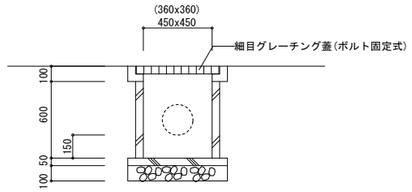
バリアフリー暗渠側溝　Ⓠ　S=1/20



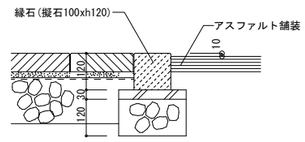
縁石　ぬⓄ　S=1/10



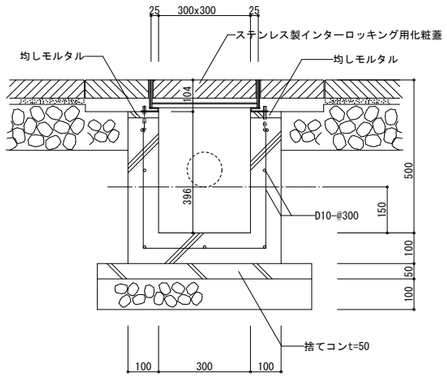
雨水集水桝　ちⓋⓌ　S=1/20



縁石(擬石)　Ⓟ　S=1/10

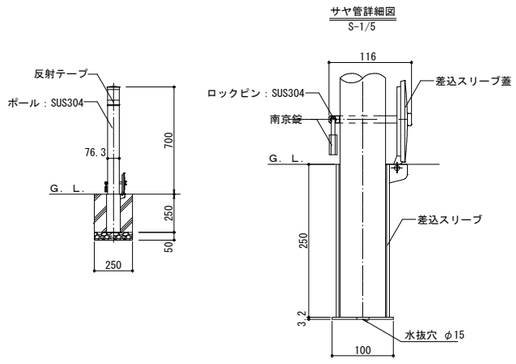


現場打ち雨水集水桝 + 化粧蓋　Ⓤ　S=1/10



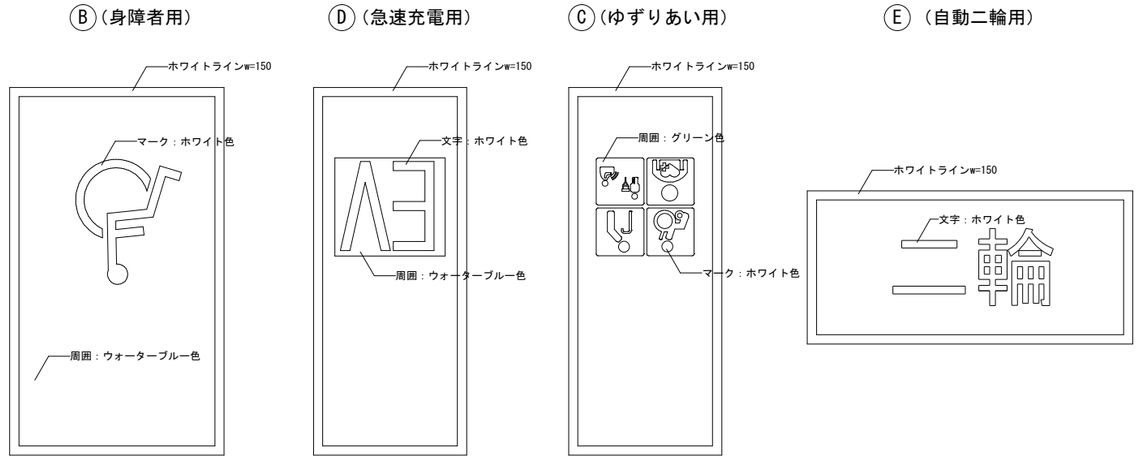
※ステンレス枠化粧蓋:カネソウ㈱インターロッキング用ステンレス製集水桝蓋　同等品

バリカー：ステンレス既製品　Ⓟ　S=1/20　S=1/5

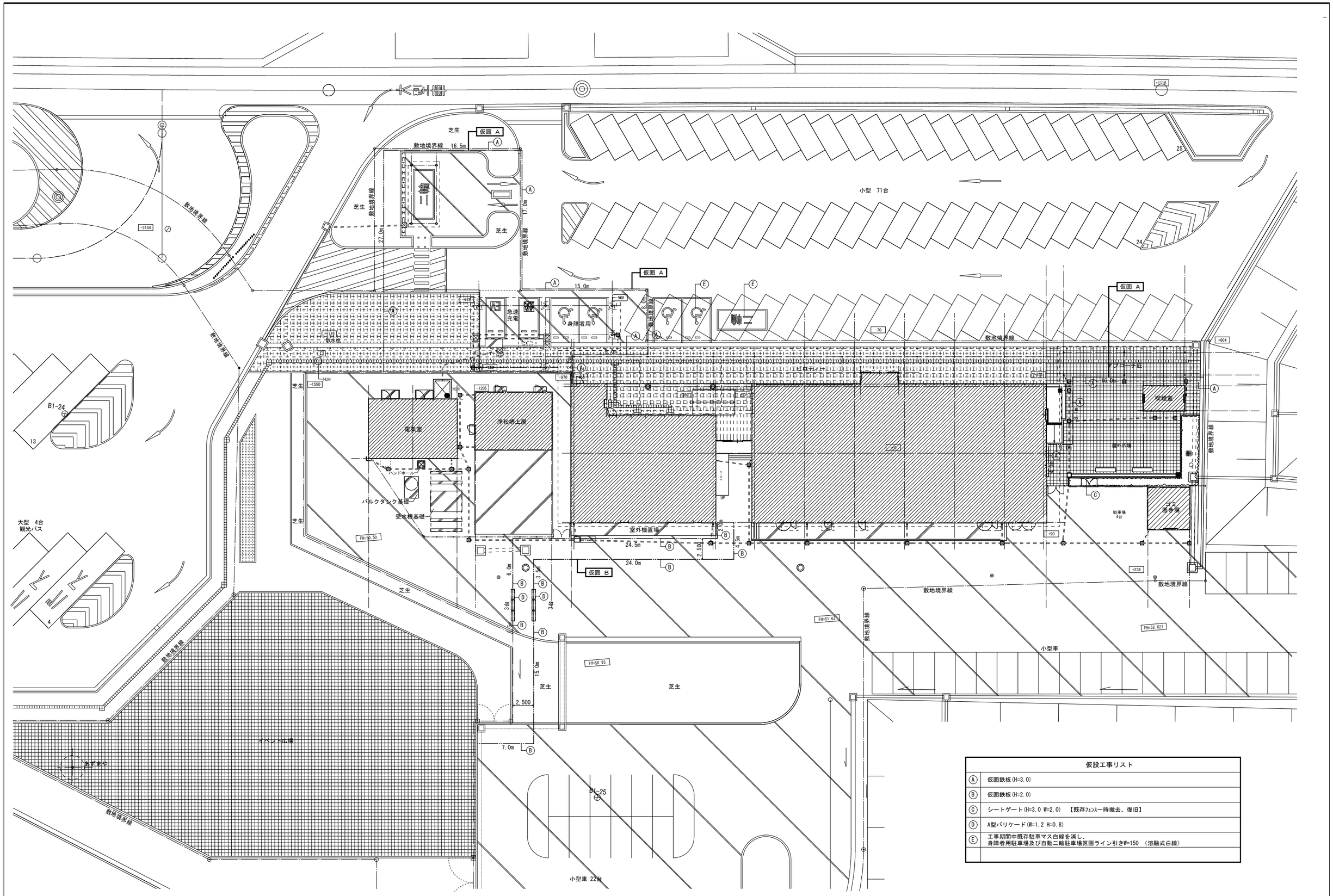


※バリカー　株式会社サンポール：リフター（差込式カギ付）LA-8SK　同等品

車止：アルミ既製品　ⒷⒹⒸⒺ　S=1/50

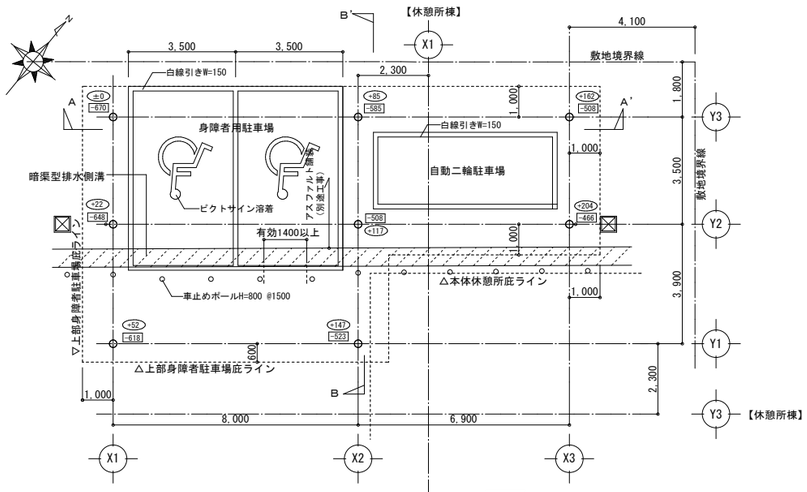


特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 外構詳細図	図面番号 Ａ － ２１ 縮尺 A1:1/30 A3:1/60

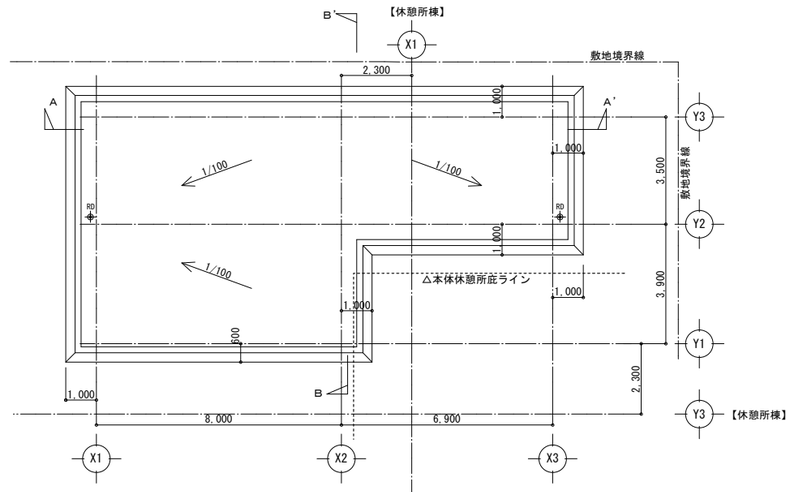


仮設工事リスト	
Ⓐ	仮囲鉄板(H=3.0)
Ⓑ	仮囲鉄板(H=2.0)
Ⓒ	シートゲート(H=3.0 W=2.0) 【既存ﾌｪﾝｽ一時撤去、復旧】
Ⓓ	A型バリケード(W=1.2 H=0.8)
Ⓔ	工事期間中既存駐車マス白線を消し、 身障者用駐車場及び自動二輪駐車場区画ライン引きW=150 (溶融式白線)

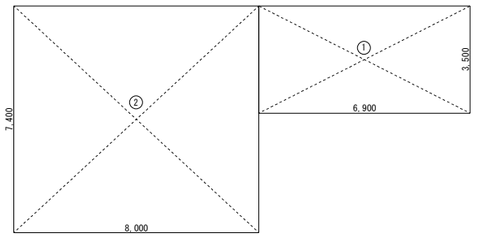
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A — 22
				図名 上り線ＰＡ 仮設計画図	縮尺 A1:1/200 A3:1/400



平面図　S=1:100



屋根伏図　S=1:100



記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	6.90 × 3.50	24.15
2	8.00 × 7.40	59.20
床面積		83.35
建築面積		83.35

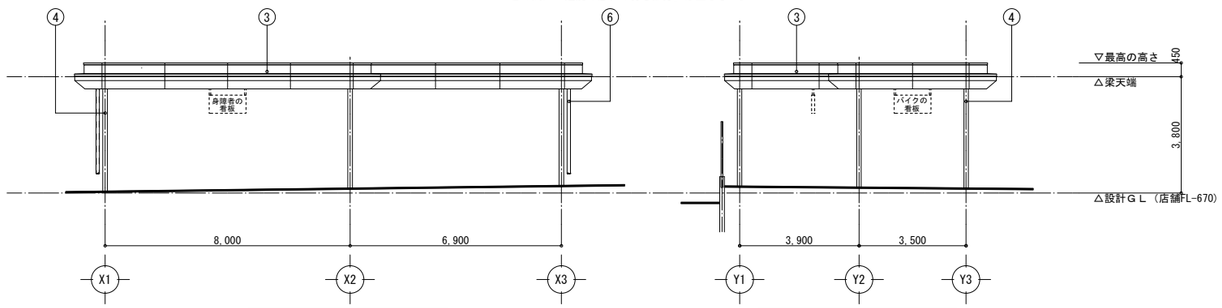
：内数値は休憩所様FL±0からの高低差を示す

±0 レベル＝設計GL=平均GL

註）「建築物の防火避難規定の解説」により物置の主要構造部が不燃材で造られ、延焼の恐れのある部分に防火設備が設けられた場合は附属建物との間に「延焼の恐れのある部分」は生じない。

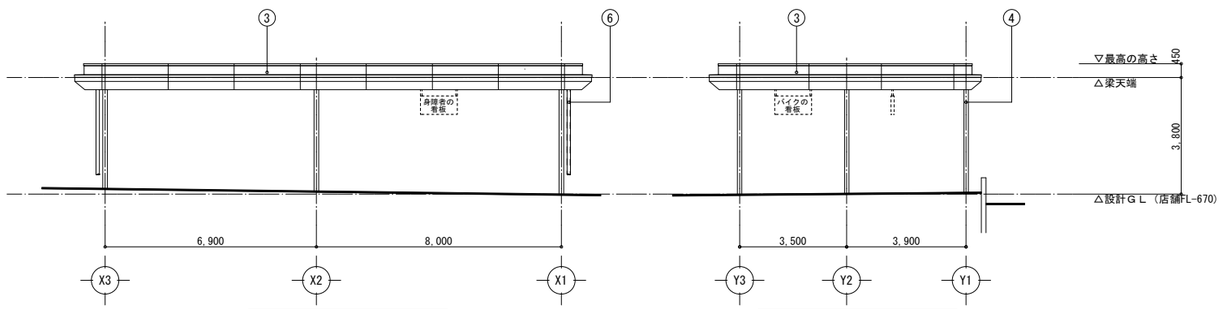
外部仕上表

屋根	①	塩ビシートt=1.5　絶縁緩衝シートt=2.5 硬質木毛セメント板t=25（飛び火試験番号DR-0191）	□塗装記号 SOP ： 合成樹脂調合ペイント FUE ： 常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗装 EP　： 合成樹脂エマルジョンペイント塗装
軒天	②	アルミスパンドレル張り（リブタイプ）　アクリル焼付塗装	
笠木・幕板	③	アルミt=2.0加工　アクリル系焼付塗装　目地ポリサルファイド系コーキング	
鉄部見え掛り	④	FUE塗装	
ルーフドレン	⑤	塩ビ製自在ドレン75φ（既製品）　周囲50cm角スチールプレートt0.8補強	
竪樋	⑥	カラーVP管75φ	



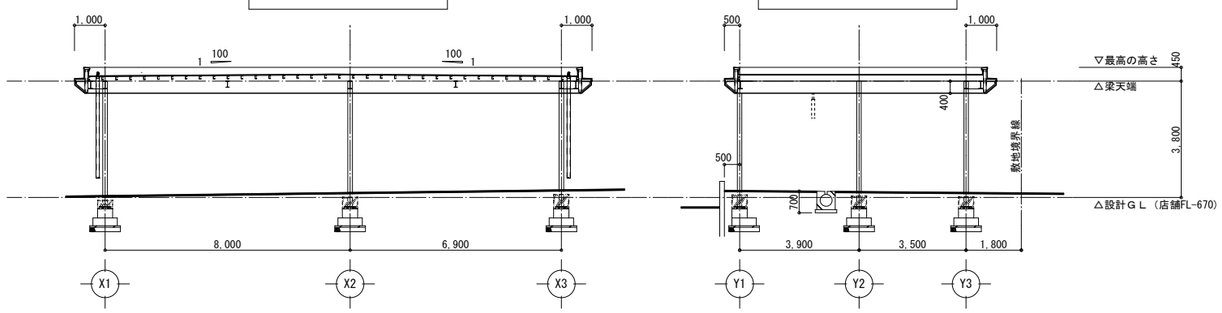
南側立面図　S=1:100

東側立面図　S=1:100



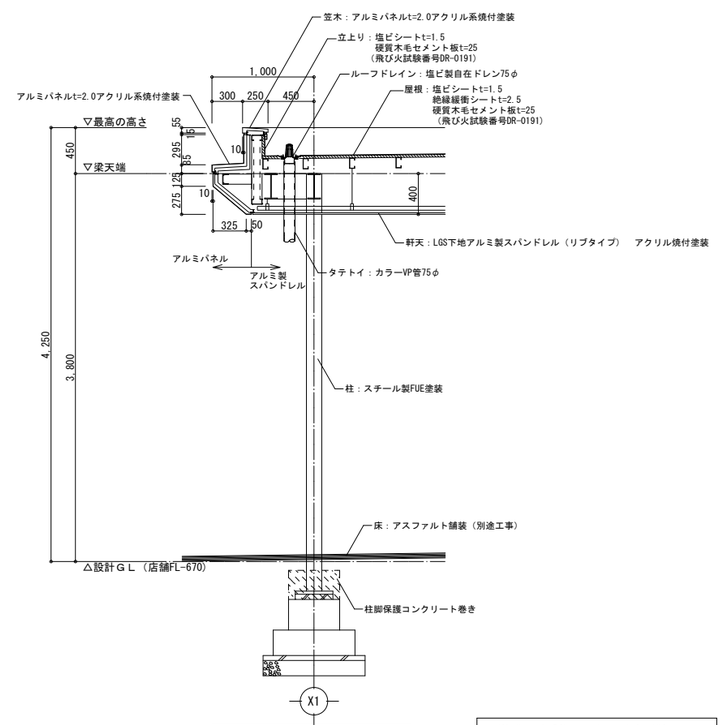
北側立面図　S=1:100

西側立面図　S=1:100



Ａ－Ａ’断面図　S=1:100

Ｂ－Ｂ’断面図　S=1:100



断面詳細図　S=1:30

※ 鉄骨柱部分、変成エポキシ樹脂サビ止め塗装2回塗の上　FUE塗装

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

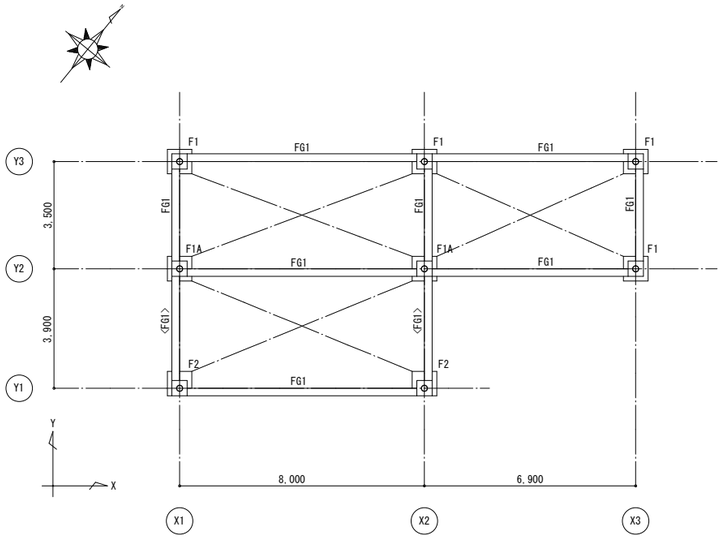
日付 2021・01・05・
古澤 克彦
一級建築士 第300198号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名 上り線ＰＡ
既存(解体撤去)_身障者用駐車場棟(意匠図)

図面番号 Ａ －２３

縮尺 A1 1:100 1/30
A3 1:200 1/60



基礎伏図　1/100　（見下げ図）

（設計GL=標高51.717）

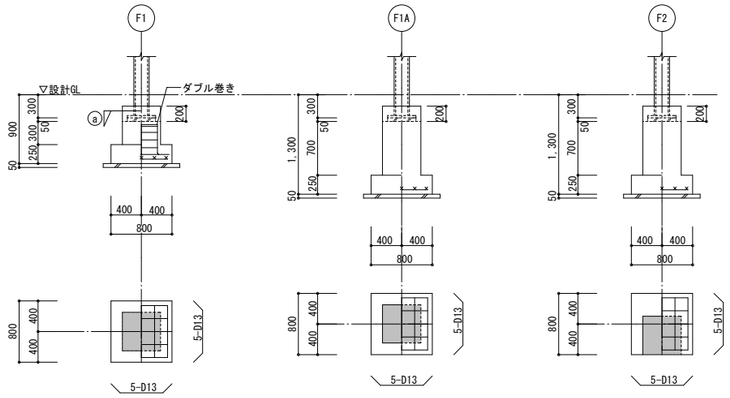
特記なき限り下記による。

1. 基礎梁上端　：　設計GL-350

　　< >付　：　設計GL-750

基礎断面リスト　1/40

設計用地耐力　300kN/㎡



基礎梁断面リスト　1/40

特記なき限り下記による。

1. 鉄筋　：　D10(SD295A),D19(SD345)

2. 幅止め筋　：　D10-@1,000以内

符号	FG1
位置	全断面
断面	▽設計GL 350 (750) 500 50 250
上端筋	2-D19
下端筋	2-D19
スターラップ	□-D10-@200
腹筋	——

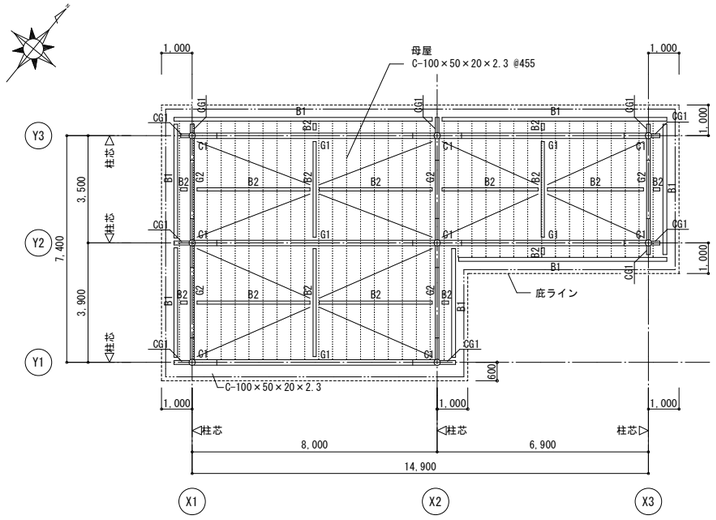
柱形断面リスト　1/40

特記なき限り下記による。

1. 鉄筋　：　D10(SD295A),D19(SD345)

符号	C1
断面	500 500
主筋	8-D19
フープ	□-D10-@100
ⓐ 視図	
断面	500 500
主筋	4-D13
フープ	□-D10-@150

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －24
				図名 上り線ＰＡ 既存(解体撤去)_身障者用駐車場棟(構造図1)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200

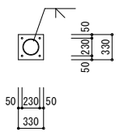


屋根伏図 1/100 （見上げ図）

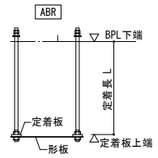
特記なき限り下記による。
1. 屋根ブレース ： 1-M16（ターンバックル付き）

鉄骨柱断面リスト 1/40

特記なき限り下記による
1. 使用材料 ： STK400
2. A.BOLT ： ワッシャー付き、ダブルナット締めとする。

符 号	C1
主 材	Φ-216.3x5.8
接合部	
柱 脚	
BASE.PL	PL-19 (SN490C)
A.BOLT	4-M20 (ABR400)
L	400

アンカーボルト要領



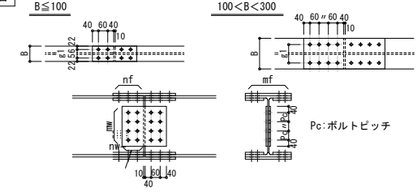
鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400,SSC400
2. 高力ボルト ： S10T,F10T

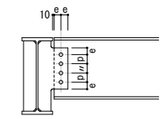
符 号	位 置	断面寸法	剛接合 フランジ ボルト nf×mf	ゲージ g1	ゲージ g2	外PL 厚×長さ	内PL 厚×幅	ウェブ ボルト mw×nw	Pc	PL寸法 厚×幅×長さ	ピン接合 ウェブ PL	H.T.B	GPL	備 考
G1	全断面	H-244×175×7×11 (SN400B)	3×2-M16	105	-	PL- 9×410	2PL- 9× 70	2×2-M16	90	2PL- 6×170×290				
G2	全断面	H-250×125×6×9 (SN400B)	3×2-M16	75	-	PL-12×410	-	2×2-M16	90	2PL- 6×170×290				
CG1		H-250×125×6×9 (SN400B)									GPL-6	2-M20		柱に溶接
B1		H-248×124×5×8									GPL-6	2-M20		
B2		H-198×99×4.5×7									GPL-6	2-M16		
屋根ブレース		1-M16（ターンバックル付き）									GPL- 9	1-M16		
母 屋		C-100×50×20×2.3 @455									L-90×90×7 GPL-4.5	2-M12 （中ボルト）		
パラペット		C-100×50×20×2.3 @455									GPL-4.5	2-M12 （中ボルト）		

継手標準図

剛接合

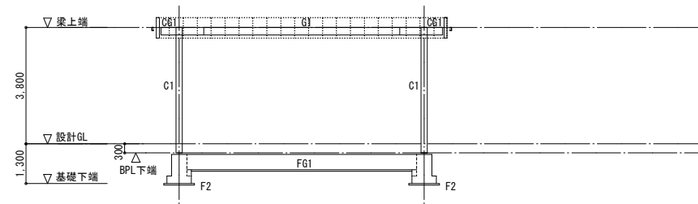


ピン接合

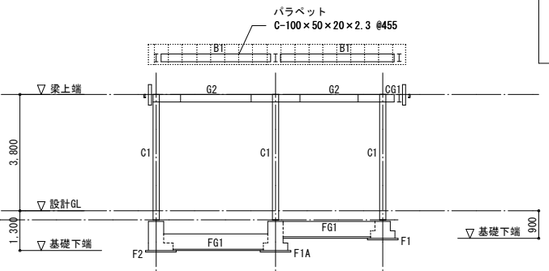


1. 高力ボルトピッチ、はしあき、ゲージは下表に示す。

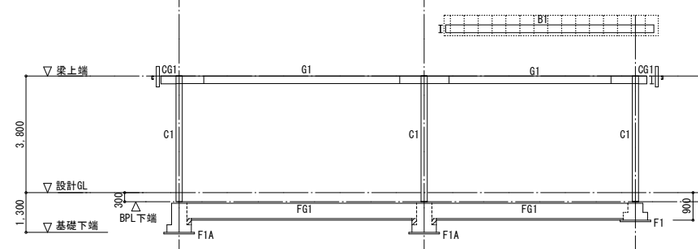
	e	p
M16	40	60
M20	40	60
M22	45	70



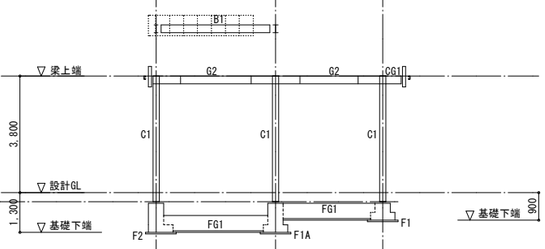
Y1 通り軸組図 1/100



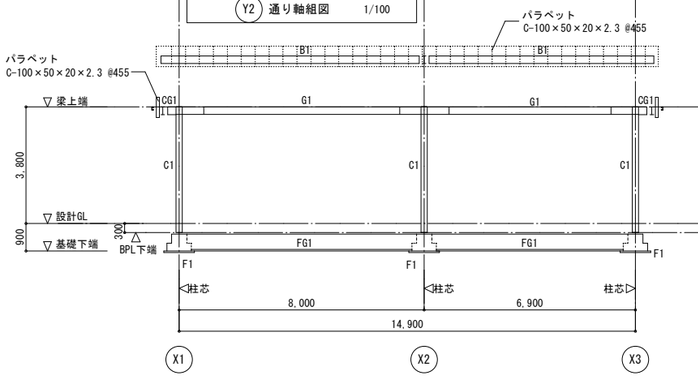
X1 通り軸組図 1/100



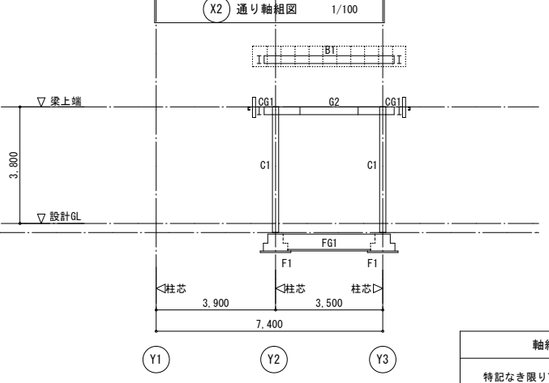
Y2 通り軸組図 1/100



X2 通り軸組図 1/100



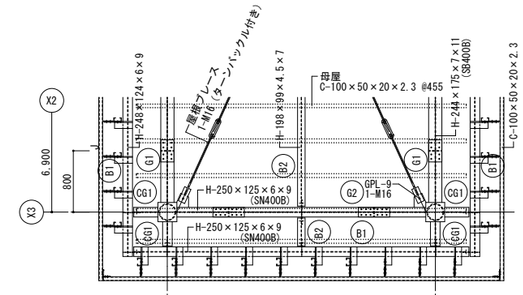
Y3 通り軸組図 1/100

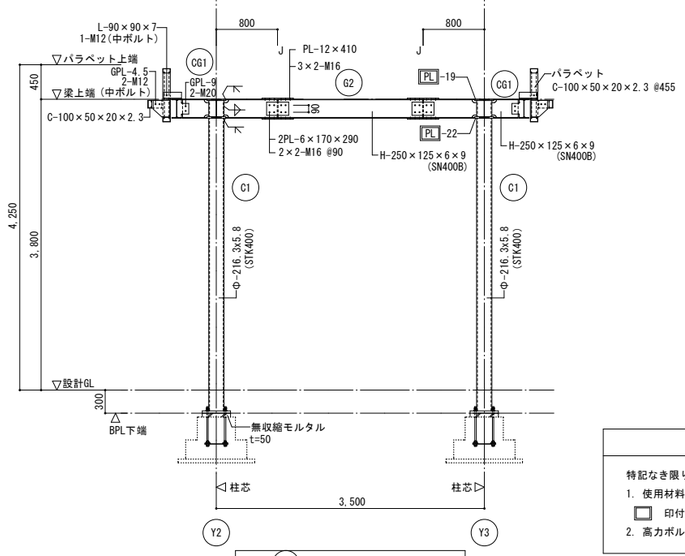


X3 通り軸組図 1/100

軸組図共通事項

特記なき限り下記による。
1. 梁JOINT位置 ： 柱芯より800



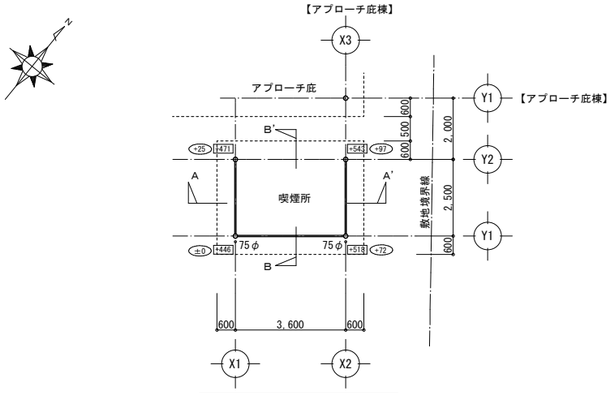


X3 通り鉄骨詳細図 1/40

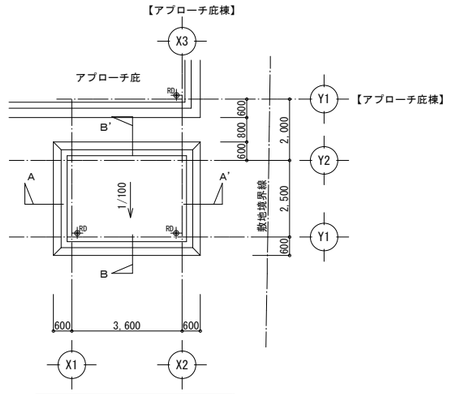
共通事項

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400
□ 印付 ： SN490C
2. 高力ボルト ： F10T,S10T

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A ― 25
				図名 上り線ＰＡ 既存(解体撤去)_身障者用駐車場棟(構造図2)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200



平面図　S=1:100

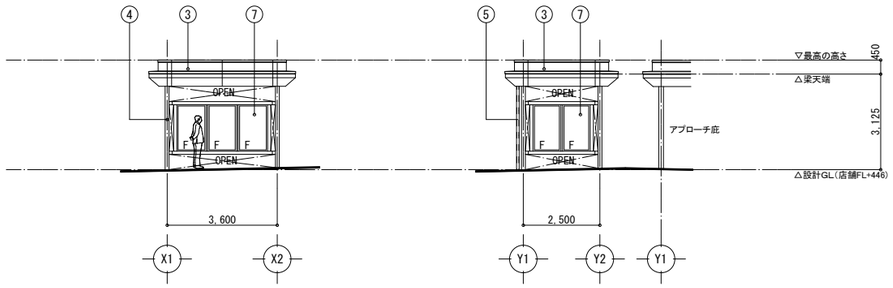


屋根伏図　S=1:100

：内数値は休憩所棟FL±0からの高低差を示す

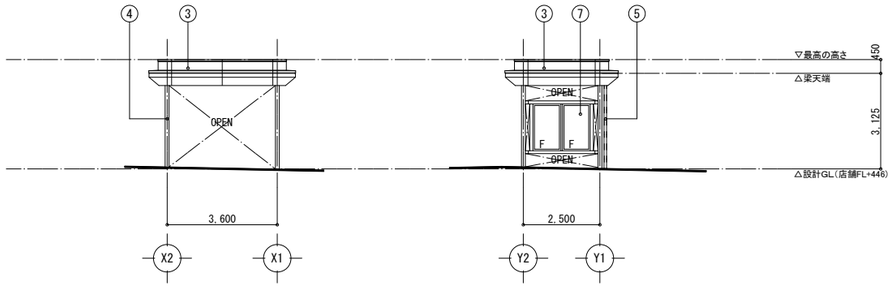
(±0) レベル＝設計GL=平均GL

註）アプローチ庇と合計して500㎡以内なので隣棟間の延焼ラインは発生しません。（法2条6項）



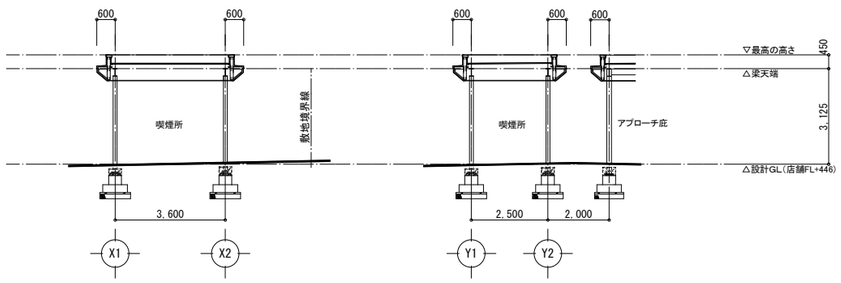
南側立面図　S=1:100

東側立面図　S=1:100



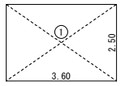
北側立面図　S=1:100

西側立面図　S=1:100

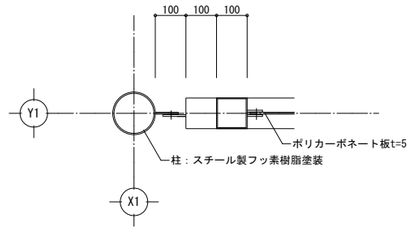


A－A’断面図　S=1:100

B－B’断面図　S=1:100



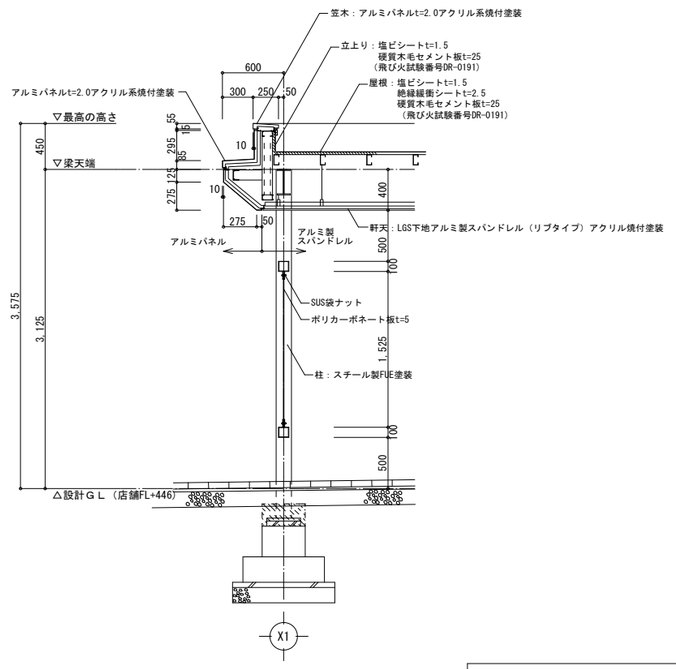
記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	3.60 × 2.50	9.00
床面積		9.00
建築面積		9.00



部分詳細図　S=1:100

外部仕上表

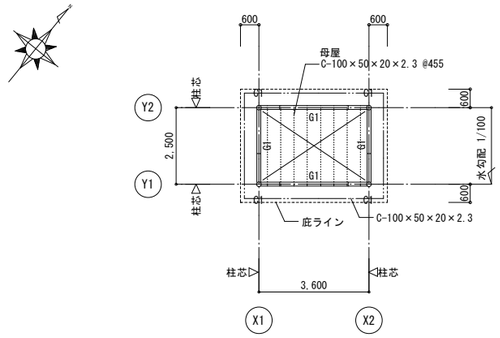
屋根	①	塩ビシートt=1.5　絶縁緩衝シートt=2.5 硬質木毛セメント板t=25（飛び火試験番号DR-0191）	□塗装記号 SOP ： 合成樹脂調合ペイント FUE ： 常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗装 EP ： 合成樹脂エマルジョンペイント塗装
軒天	②	アルミスパンドレル張り（リブタイプ）　アクリル焼付塗装	
笠木・幕板	③	アルミt=2.0加工　アクリル系焼付塗装　目地ポリサルファイド系コーキング	
鉄部見え掛り	④	FUE塗装	
ルーフドレン	⑤	塩ビ製自在ドレン75φ（既製品）　周囲50cm角スチールプレートt0.8補強	
竪樋	⑥	カラーVP管75φ	
ポリカーボネート	⑦	ポリカーボネート板 t5	



断面詳細図　S=1:30

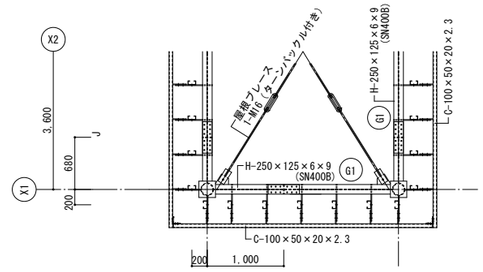
※ 鉄骨柱部分、変成エポキシ樹脂
サビ止め塗装2回塗の上　FUE塗装

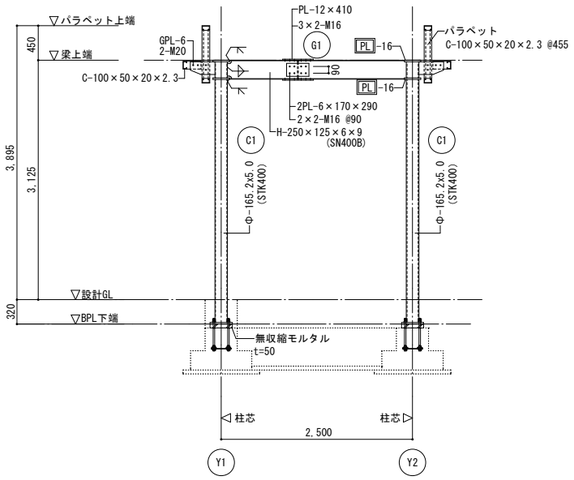
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 既存(解体撤去)_喫煙所棟(意匠図)	図面番号 Ａ －２６ 縮尺 A1 1:100 1/30 A3 1:200 1/60



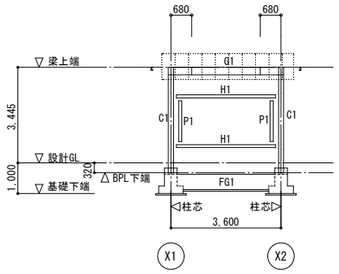
屋根伏図　1/100　（見上げ図）

特記なき限り下記による。
1. 屋根ブレース ： 1-M16（ターンバックル付き）

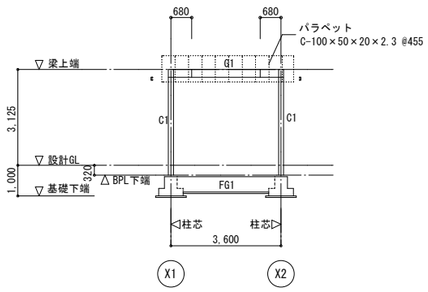




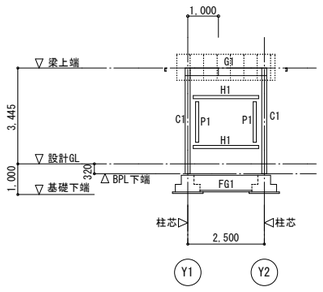
X1 通り鉄骨詳細図　1/40



Y1 通り軸組図　1/100



Y2 通り軸組図　1/100



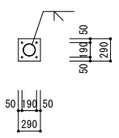
X1・X2 通り軸組図　1/100

共通事項

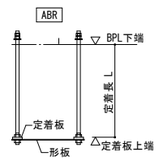
特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400
   □ 印付 ： SN490C
2. 高力ボルト ： F10T,S10T

鉄骨柱断面リスト　1/40

特記なき限り下記による
1. 使用材料 ： STK400
2. A.BOLT ： ワッシャー付き、
   ダブルナット締めとする。

符　号	C1
主　材	Φ-165.2×5.0
接合部	
柱　脚	
BASE.PL	PL-22 (SN490C)
A.BOLT	4-M16 (ABR400)
L	320

アンカーボルト要領



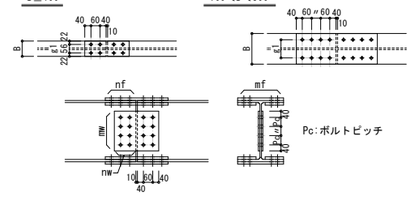
鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400
2. 高力ボルト ： S10T,F10T

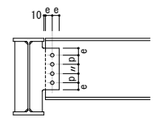
符　号	位　置	断面寸法	剛接合 フランジ ボルト nf×mf	ゲージ g1	ゲージ g2	外PL 厚×長さ	内PL 厚×幅	ウェブ ボルト mw×nw	Pc	PL寸法 厚×幅×長さ	ピン接合 ウェブ PL	H.T.B	GPL	備　考
G1	全断面	H-250×125×6×9 (SN400B)	3×2-M16	75	-	PL-12×410	-	2×2-M16	90	2PL- 6×170×290				
屋根ブレース		1-M16（ターンバックル付き）									GPL- 9	1-M16		
H1		□-100×100×2.3 (STKR400)									GPL-4.5	2-M12（中ボルト）		
P1		□-100×100×2.3 (STKR400)									GPL-4.5	2-M12（中ボルト）		
母　屋		C-100×50×20×2.3 @455									GPL-4.5	2-M12（中ボルト）		
パラペット		C-100×50×20×2.3 @455									GPL-4.5	2-M12（中ボルト）		

継手標準図

剛接合

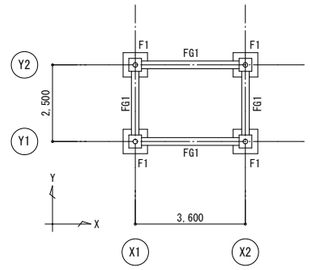


ピン接合



1. 高力ボルトピッチ、はしあき、ゲージは下表に示す。

	e	p
M16	40	60
M20	40	60
M22	45	70

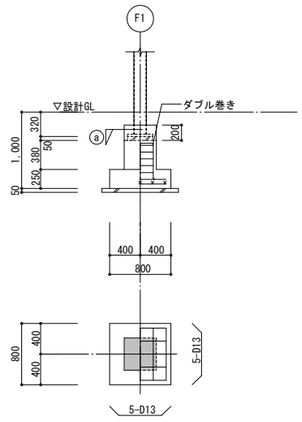


基礎伏図　1/100　（見下げ図）
（設計GL=標高52.833）

特記なき限り下記による。
1. 基礎梁上端 ： 設計GL-370

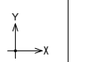
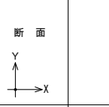
基礎断面リスト　1/40

設計用地耐力　300kN/㎡



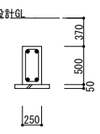
柱形断面リスト　1/40

特記なき限り下記による。
1. 鉄筋 ： D10(SD295A),D19(SD345)

符　号	C1
断　面	
主　筋	8-D19
フープ	□-D10-@100
ⓐ 視図	
断　面	
主　筋	4-D13
フープ	□-D10-@150

基礎梁断面リスト　1/40

特記なき限り下記による。
1. 鉄筋 ： D10(SD295A),D19(SD345)
2. 幅止め筋 ： D10-@1,000以内

符　号	FG1
位　置	全断面
断　面	
上端筋	2-D19
下端筋	2-D19
スターラップ	□-D10-@200
腹　筋	——

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 A －27
				図名 上り線ＰＡ 既存(解体撤去)_喫煙所棟(構造図)	縮尺 A1 1:40 1:100 A3 1:80 1:200

構造設計条件

1．建物概要等

建物概要

工事名称	春日PA身障者用駐車場等改築工事
工事場所	宮城県宮城郡利府町春日ニッ石 1-1の一部、1-5の一部、4-2の一部、20-18の一部
用途	自動車のみの交通の用に供する道路に設けられる休憩所
延べ面積	（　　－　　）㎡　※意匠図参照
建築面積	（　　－　　）㎡　※意匠図参照
階数	地上（ 1 ）階　地下（ － ）階　塔屋（ － ）階
高さ関係	高さ（　　－　　）m　※各軸組図参照 軒高（　　－　　）m　※各軸組図参照
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転 ・大規模の修繕　・大規模の模様替

構造概要

構造種別	地上	（　鉄骨　）造	地下	（　－　）造
架構形式	X方向	（　ラーメン　）構造		
	Y方向	（　ラーメン　）構造		
耐震構造方式	⊙耐震構造　・制振構造 ・免震構造（免震層の位置　・基礎下免震　・中間層免震（　）階）			
基礎方式	⊙直接基礎（⊙独立　・連続　・べた　・　） ・杭基礎（・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭） ・耐震構造　鋼管杭　・			
耐震安全性の分類	・Ⅰ類（I=1.5）　・Ⅱ類（I=1.25）　⊙Ⅲ類（I=1.0）			

2．構造設計条件等

計算方法

計算ルート	⊙許容応力度計算（令第82条各号＋令第82条の4）【ルート１】
	・許容応力度等計算　【ルート２】
	・保有水平耐力計算　【ルート３】
	・その他の計算法（　　）

外力等

地震力	地震地域係数（Z）	Z=　⊙1.0　・0.9　・0.8　・0.7	
	地盤の種別	第（ 2 ）種地盤	
	標準せん断力係数	X方向	Y方向
	一次設計	Co=（ 0.3 ）	Co=（ 0.3 ）
	二次設計	Co=（ － ）	Co=（ － ）
風圧力	地表面粗度区分	基準風速（Vo）	
	・Ⅰ⊙Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（ 30 ）m/s	
積雪荷重	区域	・多雪区域　⊙多雪区域以外	
	設計垂直積雪量	（ 40 ）cm	
	単位荷重	（ 20 ）N/m²/cm	
	垂直積雪量の低減	・低減する　⊙低減しない	

3．地盤調査資料

調査報告書
⊙当該敷地の既住調査報告書のみによる
・当該敷地の既住調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査報告書による
※工事着手前に当該敷地内で（　　）図に示す地盤調査を行う
調査内容（既住調査内容含む）
・サウンディング
※標準貫入試験
・スウェーデン式サウンディング試験
・オランダ式二重管コーン貫入試験
・
・土質試験
・物理的性能試験
（・土粒子密度試験　・含水比試験　・粒度試験　・液性限界、塑性限界試験
・細粒分含有率試験　・湿潤密度試験　・　　）
・力学的性能試験
（・一軸圧縮試験　・圧密試験　・直接せん断試験　・三軸圧縮試験
・振動三軸試験　・中空ねじりせん断試験　・　　）
・現場浸水試験
・孔内水平載荷試験
・弾性波速度検層
・常時微動測定
・平板載荷試験
・

4．液状化対策

・有り
（施工範囲、工法、仕様、計測、試験等は図示による。）
⊙無し

特記仕様書（構造関係）その１

Ⅱ　建築工事仕様(構造関係)

1．標準仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制度の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成 31 年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2．特記仕様書の表記
（1）項目は、番号に ◯ 印のついたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙ 印のついたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印のついたものを適用する。
⊙ 印と ※ 印のついた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（ . . ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4） G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成25年2月閣議決定）」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

章	項　目	特　記　事　項

4 地業工事

① 支持地盤

・杭基礎　(4.3.4～4.3.5)(4.5.5～4.5.6)
支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む）
・図示による　・
⊙直接基礎
支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む）
⊙図示による　・
長期設計地耐力
⊙（ 100 ）kN/m²
試験堀り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1)
・行わない
⊙行う
位置等　・図示による
⊙地盤の載荷試験　(4.2.4)
試験の位置、方法等
⊙図示による　⊙平板載荷試験により設計地耐力(長期)以上を確認すること

2 既製コンクリート杭地業

種類　(4.3.3)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490　・
・

寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）　(4.2.2)(4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	セット数	長期設計支持力(kN/本)
試験杭	上杭							
	中杭			図　示				
	下杭							
本杭	上杭							
	中杭			図　示				
	下杭							

試験杭　(4.2.2)(4.3.4)(4.3.5)
試験杭の位置
・図示による
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
・杭の傾斜
・1/100以内　・
杭先端部形状　(4.3.3)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・
施工方法　(4.3.5)
・セメントミルク工法　(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・1.5m程度　・
杭の支持地盤への根入れ深さ
・1.0m以上　・
・特定埋込杭工法　(4.3.5)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で α=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α、β、γ が以下の値を採用できる工法
α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭周固定液
・使用する　・使用しない
杭継手工法　(4.3.3)(4.3.6)
・アーク溶接継手
・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法
※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・
検査
※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・
施工
※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・
杭頭の処理等　(4.3.8)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による
杭頭の中詰め材料
※基礎のコンクリートと同調合のもの　・

3 鋼杭地業

種類の記号　(4.4.3)
・SKK400　・SKK490　・
寸法、継手等　(4.4.3)

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)
試験杭	上杭							
	中杭				図　示			
	下杭							
本杭	上杭							
	中杭				図　示			
	下杭							

試験杭　(4.2.2)(4.4.4)
試験杭の位置
・図示による
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
・杭の傾斜
・1/100以内　・
杭先端部形状　(4.4.3)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

施工方法　(4.4.1)
・特定埋込杭工法　(4.4.4)
・H13国交告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で α=250を採用できる工法
・H13国交告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α、β、γ が下記の値を採用できる工法
α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)
工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭の現場継手　(4.4.5)
・溶接継手
・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
※審査（評定又は大臣認定）を受けた工法
検査
※審査（評定又は大臣認定）により定められた項目
施工
※審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による

杭頭の処理等　(4.3.8)(4.4.6)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による
杭頭の中詰め材料
※基礎のコンクリートと同調合のもの　・

4 場所打ちコンクリート杭地業

掘削工法　(4.5.1)(4.5.5)
・アースドリル工法（安定液　・使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない）
併用する工法　(4.5.1)(4.5.6)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）
・

寸法等　(4.2.2)

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類　(4.5.4)
主筋　・SD345　・SD390　・
帯筋　・SD295A　・
帯筋　(4.5.4)
・図示による
・
鉄筋かごの補強　(4.5.4)
・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。
・
鉄筋の最小かぶり厚さ　(4.5.4)
・100mm　・
鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ　(4.5.4～4.5.6)
・図示による　・
セメントの種類　(4.5.4)
・高炉セメントB種 G　・
コンクリートの種別　(4.5.4)
・A種　・B種　・審査（評定又は大臣認定）された内容による
コンクリートの設計基準強度　(4.5.4)
・図示による　・
構造体強度補正　(4.5.4)
・3N/mm²
・図示による　・
・審査（評定又は大臣認定）された内容による
鋼管巻き材料
・SKK400　・SKK490　・
試験杭　(4.2.2)(4.5.5)(4.5.6)
試験杭の位置
・図示による　・

孔壁測定　(4.5.5)(4.5.6)
・行わない
・行う
測定箇所
・試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所　・
杭の精度　(4.5.5)(4.5.6)
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
・1/100以内　・

⑤ 砂利地業

材料　(4.6.2)
・再生クラッシャラン G　⊙切込砂利及び切込砕石
砂利厚さ　(4.6.3)
※60mm　⊙100
適用箇所
⊙基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・図示による　・

⑥ 捨コンクリート地業

捨てコンクリート厚さ　(4.6.4)
※50mm　・
適用範囲　(4.6.4)(6.14.1)
⊙基礎梁下、土に接するスラブ下
・図示による　・
設計基準強度　(4.6.4)(6.14.1)
※18N/mm²　・
スランプ　(4.6.4)(6.14.1)
※15cm又は18cm　・

⑦ 床下防湿層

材料　(4.6.2)
⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
施工範囲　(4.6.5)
⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）

8 地盤改良

種類及び施工方法等
・図示による　・

5 鉄筋工事

① 鉄筋　(5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所
⊙ SD295A	・D16以下	リスト参照
⊙ SD345	・D19～D25	リスト参照
・ SD390	・D29以上	

2 溶接金網

形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
・ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

継手方法等　(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

部位	継手方法と呼び径
⊙ 柱、梁の主筋	⊙ ガス圧接(D19以上)　・ 機械式継手　・ 溶接継手
・ 耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手　・
⊙ その他の鉄筋 （　　）	⊙ 重ね継手　・

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ（構造躯体表面から算出を行う）　(5.3.5)
⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）
柱及び梁の主筋に D29以上の使用の有無
⊙無し
・有り　適用箇所(　　)
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
⊙無し
・有り　適用箇所(　　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ　(　　)mm

5 機械式継手

使用箇所
・図示による　・
H12建告第1463号に適合する性能　(5.5.2)
・A級　・
機械式継手の種類及び工法（　　）　(5.5.2)
鉄筋相互のあき　(5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）
・
品質の確認方法　(5.5.2)
・図示による
不良となった継手の修正方法等　(5.5.2)
・図示による

6 溶接継手

使用箇所
・図示による　・
H12建告第1463号に適合する性能　(5.6.3)
・A級　・
鉄筋相互のあき　(5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）
・
継手の工法　(5.6.3)
・図示による
品質の確認方法　(5.6.3)
・図示による
不良となった継手の修正方法等　(5.6.3)
・図示による

⑦ 圧接完了後の試験

外観試験　(5.4.10)(5.4.11)
※行う（全数）
抜取試験　(5.4.10)(5.4.11)
※超音波探傷試験
⊙引張試験
試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとする

特記仕様書（構造関係）その２

6 コンクリート工事

①コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

・普通コンクリート (6.2.1～6.2.4)

設計基準強度 (N/mm²)	ｽﾗﾝﾌﾟ（フロー） (cm)	単位質量 (t/m³)	適用箇所
⊙21	15	2.3t/m³程度	躯体全体

②コンクリートの類別　類別 (6.2.1)
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

③セメント　種類 (6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする）　使用部位（　　）
・高炉セメントB種 G　使用部位（　　）
・フライアッシュセメントB種 G　使用部位（　　）

④骨材　アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※A　・B

⑤混和材料　・混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(a)による　・
・混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(b)による　・

⑥寒中コンクリート　適用期間 (6.11.1)
月　日　～　月　日
施工前に、建設地の期間を調査し適用すること。

⑦暑中コンクリート　構造体強度補正値 (6.12.2)
※6N/mm²　・

8 マスコンクリート　適用箇所 (6.2.1)(6.13.1)
・図示による　・
セメントの種類 (6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・シリカセメント
・普通ポルトランドセメントに標準仕様書6.13.2(2)(イ)の混和材を混合したもの
混和材料
・混和剤 (6.13.2)
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤
・
スランプ (6.13.2)
※15cm　・

⑨無筋コンクリート　設計基準強度 (6.14.1)
※18（N/mm²）
スランプ (6.14.1)
※15cm　又は　18cm　・
適用箇所 (6.2.1)(6.14.1)
※標準仕様書6.14.1(4)による箇所
・図示による　・

10 ひび割れ誘発目地打継目地　目地寸法 (6.6.4)(6.8.2)(9.7.3)
・標準仕様書9.7.3による　・
間隔、位置、形状 (6.8.2)
・図示による
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、意匠図による

⑪コンクリートの仕上り　部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値 (6.2.5)
・標準仕様書6.2.3による　・
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)

種　別	適用箇所
・A種	
⊙B種	
・C種	

⑫打増し厚さ（打放し仕上げ部）　打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
⊙20mm　・
打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
⊙10mm　・20mm　・

⑬型枠　せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
⊙合板（※12mm　・　　）
スリーブの材種 (6.8.2)
※標準仕様書6.8.2(9)(ア)(イ)による　・

⑭型枠の存置期間及び取外し　標準仕様書6.8.4による。 (6.8.4)

⑮コンクリートの養生方法　標準仕様書第6章第7節による。 (6.7.1～3)

⑯圧縮強度及び試験方法　標準仕様書6.5.5、6.9.2、6.9.3、6.9.4による。 (6.5.5)(6.9.2～4)

⑰コンクリートの単位水量測定
・行わない　⊙行う
（１）単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
（２）単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(2)(ⅲ)による。
（３）単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
１）測定した単位水量が、配合計画書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま打設する。
２）測定した単位水量が設計値±15kg/m³を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンは打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
３）測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後単位水量が設計値±20kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
４）３）の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
（４）単位水量管理についての記録を書面（配合計画書、製造管理記録、打ち込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
（５）単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

①鉄骨製作工場　鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.1)(7.1.3)
※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に応じる（　M　）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

②施工管理技術者　⊙配置する (7.1.3)(7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)(7.12.3)
・配置しない

③鋼材　材料は規格品とし，証明書付とする。 (7.2.1)
a　形鋼，鋼板　：　⊙SS400　・SM490A
・SN400A　⊙SN400B　・SN400C
・SN490B　⊙SN490C
b　鋼　管　：　⊙STK400　・STK490
・STKN400B　・STKN490B
c　角形鋼管　：　⊙STKR400　・STKR490
・BCR295　・BCP235　・BCP325
d　軽量形鋼　：　⊙SSC400

④高力ボルト　ボルトの区分 (7.2.2)
⊙トルシア形高力ボルト
セットの種類　2種(S10T)
⊙JIS形高力ボルト
セットの種類　2種(F10T)
高力ボルトの径 (7.2.2)
⊙図示による　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）１－１縁端距離、ボルト間隔）
・
すべり係数試験 (7.4.2)
※行わない
・行う

⑤溶融亜鉛めっき高力ボルト　セットの種類 (7.2.2)
⊙1種(F8T相当)
摩擦面の処理
⊙ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上） (7.12.5)
⊙ブラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による　・
すべり耐力等の確認方法
※すべり耐力試験　・行わない
試験方法等
・図示による
・技術協会「溶融亜鉛めっき高力ボルト接合設計施工指針」のうち「溶融亜鉛めっき高力ボルト摩擦接合すべり試験要領」による

⑥アンカーボルト　適用 (7.2.4)(7.10.3)
⊙構造用アンカーボルト
⊙セットの種類
(JIS B 1220：2015)　⊙ABR400　・ABR490　・
(JIS B 1220：2015)　・ABM400　・ABM490　・
(JIS G 3138)　・SNR400B　・SNR490B　・
・既製品柱脚の大臣認定内容による
・建方用アンカーボルト
種類　・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格、仕上げの程度
※標準仕様書表7.2.3による　・
構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
⊙図示による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み方法 (7.10.3)
種別
・A種　・B種

⑦溶接材料　溶接材料 (7.2.5)
⊙標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・図示による
・

⑧ターンバックル　種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴
※割枠式　・
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト　・
ねじの呼び
⊙図示による

9 デッキプレート（床構造用）　材質、形状及び寸法 (7.2.7)
・図示による

10 スタッド　材質、形状及び寸法
※頭付スタッド JIS B 1198　・
種類等
・図示による

⑪柱底均しモルタル　モルタルの種別 (7.2.9)
⊙無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合材料、調合等
※標準仕様書7.2.9による　・
・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
※標準仕様書表7.10.2（※A種［厚さ50］　・B種［厚さ30］）による

⑫工作図　監督職員による原寸検査 (7.3.2)
・行わない
⊙行う
増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う。

⑬製作精度　※標準仕様書7.3.3による (7.3.3)
通しダイアフラムの許容誤差
⊙ダイアフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
⊙「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・
⊙全てのダイアフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること

⑭溶接作業者の技量付加試験　溶接技能者技量付加試験 (7.6.3)
⊙行う
ただし建築鉄骨溶接技量検定（AW検定）の合格者、または同等の技量を有すると監理者が認めた者は免除する。
・行わない
ただし溶接技能者は、溶接条件に応じたJIS Z 3801及びJIS Z 3841の有資格者であること。

⑮溶接接合　開先の形状 (7.6.4)
⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2）
スカラップの形状 (7.6.7)
⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4）
エンドタブの切除する部分
⊙見え掛り部となる部分 (7.6.7)
・見え隠れ部となる部分
・切除する部分なし
溶接部の余盛り高さ
⊙JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3[溶接]による

⑯現場溶接の有無　⊙無し
・有り

⑰入熱，パス間温度の溶接条件　鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4）
・

⑱溶接部の試験　完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12)
⊙工場溶接の場合
AOQL（%）
※4.0　・2.5

節	・すべて	・	・	・
検査水準	※第６水準	・	・	・

⊙工事現場溶接の場合
AOQL（%）
※4.0　・2.5
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

⑲錆止め塗装　塗料の種別 (7.8.4)(18.3.2)
a　材　料　：　⊙A種　ＪＩＳ Ｋ ５６７４（鉛・クロムフリーさび止めペイント）１種
・B種
・ＪＡＳＳ １８ Ｍ－１１１（水系さび止めペイント）
・ＪＩＳ Ｋ ５６７４（鉛・クロムフリーさび止めペイント）２種
b　素地ごしらえ　：　⊙標準仕様書１８章２節による。
・Ａ種　⊙Ｂ種　⊙Ｃ種
c　塗装回数　：　⊙工場［⊙１回　⊙２回　］但し鉄骨スリーブ内を含む。
・現場［・１回　・２回　］

20 耐火被覆　種類 (7.9.2～7.9.7)

種　類	材料・工法	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
	・	
	・	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板	
	・	
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール	
	・	
・ラス張りモルタル塗り	―――	

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする

性能 (7.9.2～7.9.7)

性　能	適用箇所（部位・部分）
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

㉑建方精度　※JASS6 付則6「鉄骨精度検査基準」　付表5「工事現場」による (7.10.2)

㉒溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る）　種別等 (7.12.4)

亜鉛めっきの種別	材　料	適用部位
A種(HDZ55)	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種(HDZ45)	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

23 梁貫通孔の補強　補強方法
・補強プレート法
・補強トラス法
・既製品貫通孔補強の大臣認定内容による
適用箇所
・図示による

その他

1 建築設備の構造耐力上の安全性の確認　令第129条の2の3の事項
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。

⊙建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
・屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
・煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
・煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
⊙建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
⊙建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
⊙建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずる恐れがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
⊙建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
⊙法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
・給湯設備＊は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
＊印「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

令第39条の規定（屋根ふき材等）　⊙屋根ふき材、内装材、外装材、帳壁その他これらに類する建築物の部分及び広告塔、装飾等その他建築物の屋外に取り付けるものは、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃によって脱落しないものとすること。
⊙屋根ふき材、外装材及び屋外に面する帳壁の構造は、構造耐力上安全なものとすること。

現場変更に伴う申請図作成　現場の変更に伴う申請に必要な構造図の修正は施工者が行い、設計者が承認の上申請する。

特記・

訂正・

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

日付	件名	図面番号
2021・01・05・	春日PA身障者用駐車場等改築工事	S －０２
	図名：上り線PA 特記仕様書(構造関係その2)	縮尺

構造関係共通事項

1．1　適用範囲

（1）構造関係共通図（配筋標準図）は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
（2）構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
（3）構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、設計図及び監督職員の指示による。

1．2　優先順位

（a）設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
　1．特記仕様書（構造関係）
　2．図面┬ 2－1　構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）を除く図面
　　└ 2－2　構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
　3．国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」

1．3　用語の定義

（1）設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図面をいう。
（2）異形鉄筋の径（本文、図、表において「D，d」で示す）は、呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

1．4　記号等

設計図中で使用する記号は、表1～表4を標準とする。

表 1　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建　築	○	×	⌀	●	○	◉	⊗	◎

表 2　各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
SO	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（ＣＢ壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○	耐力壁の種別		

表 3　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400		
建　築																	

表 4　スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

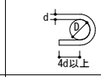
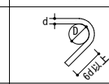
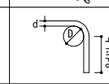
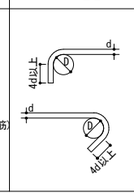
建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

構造関係共通図（配筋標準図）

1．1　鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は，表 1.1 を標準とする。

表 1.1　鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B，SD345 D16以下	SD295A SD295B，SD345 D19～D38	SD390 D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90°（幅止め筋）				

（注）1．片持スラブ先端，壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は，余長を4d以上とする。
　　2．90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2．1　異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

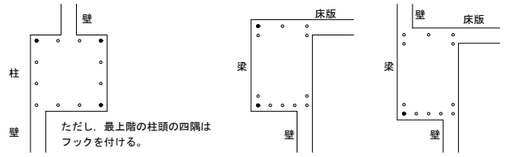


図 2.1　末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（ ● 印）

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（3）杭基礎のベース筋
（4）帯筋，あばら筋及び幅止め筋

3．1　継手及び定着

（a）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは，細い鉄筋の径による。
（2）鉄筋の重ね継手の長さは，表3.1による。

表 3.1　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）1．L1，L1h ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
　　2．フックありの場合の L1h は，図 3.1に示すようにフック部分 I を含まない。
　　3．軽量コンクリートの場合は，表の値に5ｄを加えたものとする。

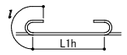
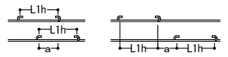
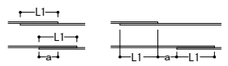
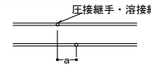


図 3.1　フックありの場合の重ね継手の長さ

（3）鉄筋の重ね継手の長さとは，フックありなしにかかわらず40d以上（軽量骨材を使用する場合は50d以上）と表 3.1 の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（4）隣り合う継手の位置は，表 3.2 による。
　ただし，壁の場合及びスラブ筋で D16 以下の場合は除く。

表 3.2　隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	 a＝0.5 L1h　a ≧0.5 L1h
	フックなしの場合	 a ＝0.5 L1　a ≧0.5 L1
溶接継手	——	 a ≧400mm
機械式継手	——	a≧400mm，かつ，a≧（b＋40）mm

（b）鉄筋の定着

（1）鉄筋の定着の長さは，特記による。特記がなければ，表 3.3 及び 図 3.2 による。

表 3.3　鉄筋の定着の長さ

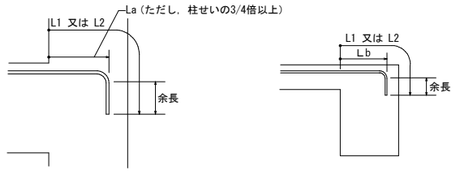
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	直線定着の長さ L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d	（片持小梁の場合は25d）	（片持小梁の場合は25d）	30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L1，L1h：2．から4．まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　　2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　　3．L3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし，基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　　4．L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
　　5．フックあり定着の場合は，図3.2に示すようにフック部分 I を含まない。
　　また，中間部での折曲げは行わない。
　　6．軽量コンクリートの場合は，表の値に 5d を加えたものとする。

直線定着の長さ　　フックあり定着の長さ

図 3.2　直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（2）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は，特記による。
　特記がなければ，図 3.3により，次の（ｉ），（ii）及び（iii）をすべて満足するものとする。
　（ｉ）全長は 表 3.3 に示す直線定着の長さ以上
　（ii）余長は 8d 以上
　（iii）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは 表 3.4 に示す長さとする。ただし，梁主筋の柱内定着においては，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

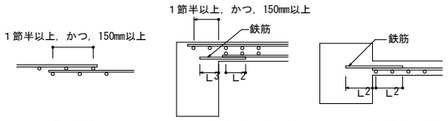
図 3.3　折曲げ定着の方法

表 3.4　鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

（注）1．La ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁，片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
　　2．Lb ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
　　3．軽量コンクリートの場合は，表の値に 5d を加えたものとする。

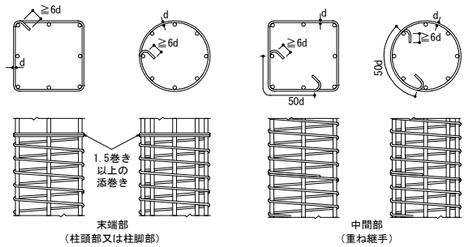
（3）溶接金網の継手及び定着は，図 3.4 による。
　なお，L2 及び L3 は 表 3.3 の（注）による。



重ね継手　　定着（スラブの場合）　　定着（壁の場合）

図 3.4　溶接金網の継手及び定着

（4）スパイラル筋の継手及び定着は，図 3.5 による。



末端部（柱頭部又は柱脚部）　　中間部（重ね継手）

図 3.5　スパイラル筋の継手及び定着

4．1　最小かぶり厚さ

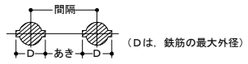
（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは，特記による。特記がなければ，表4.1による。
　ただし，柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は，主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				最小かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．この表は，普通コンクリートに適用し，軽量コンクリートには適用しない。
　　また，塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
　　2．「仕上げあり」とは，モルタル塗り等の仕上げのあるものとし，鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上げ塗材，塗装等）のものを除く。
　　3．スラブ，梁，基礎及び擁壁で，直接土に接する部分のかぶり厚さには，捨コンクリートの厚さを含まない。
　　4．杭基礎の場合のかぶり厚さは，杭天端からとする。
　　5．塩害を受けるおそれのある部分等，耐久性上不利な箇所は，特記による。

（b）柱，梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは，最小かぶり厚さに１０mmを加えた数値を標準とする。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。
（d）鉄筋相互のあきは図4.1により，次の値のうち最大のもの以上とする。ただし，機械式継手及び溶接継手の場合のあきは，特記による。
　（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
　（2）２５mm
　（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）1.5倍



（Dは，鉄筋の最大外径）

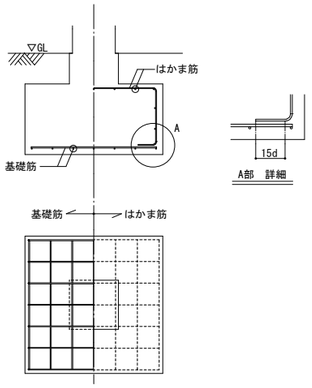
図 4.1　鉄筋相互のあき

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合，主筋と平行する鉄骨とのあきは（d）による。
（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。

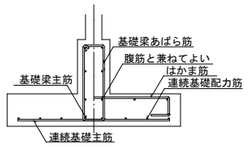
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －03
				図名 上り線PA 構造関係共通図(配筋標準図その1)	縮尺

5．1　基礎

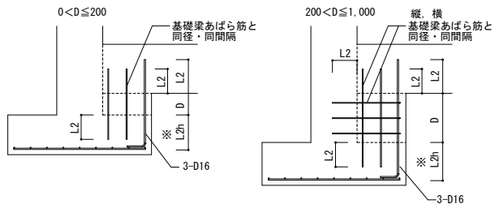
(a)　独立基礎の配筋



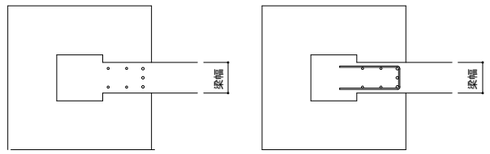
(b)　連続基礎の配筋



(c)　基礎接合部の補強



※　L2hが確保できない場合は，［継手及び定着長さ(b)］によることができる。



(注)　Dが1,000を越える場合は特記による。

5．2　基礎梁

（a）　一般事項

（1）梁筋は，連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし，鉄筋の本数が異なる場合は，図 5.1 のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

（2）梁筋を柱内に定着する場合は，7.1(b)(4)による。

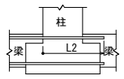
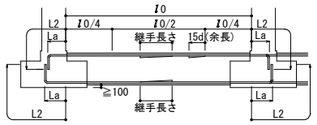


図 5.1　梁筋の基礎梁内への定着

（b）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手，定着及び余長は，図 5.2 による。



(注) 1. 図示のない事項は，7.1 による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. Laは梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

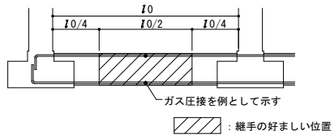
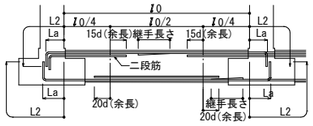


図 5.2　主筋の継手，定着及び余長（その１）

（c）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手，定着及び余長は，図 5.3 による。
ただし，耐圧スラブが付く場合は，（d）による。



(注) 1. 図示のない事項は，7.1 による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. Laは梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

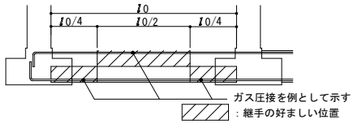
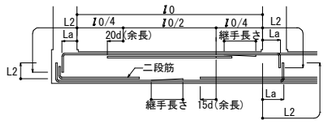


図 5.3　主筋の継手，定着及び余長（その２）

（d）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手，定着及び余長は，図 5.4 による。



(注) 1. 図示のない事項は，7.1 による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. Laは梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

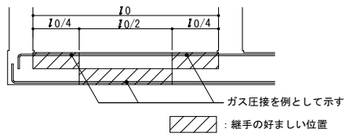


図 5.4　主筋の継手，定着及び余長（その３）

5．3　基礎梁のあばら筋

（a）　一般事項

（1）あばら筋の径及び間隔は，特記による。

（2）あばら筋組立の形及びフックの位置は，7.2(b)による。
ただし，梁の上下端にスラブが付く場合で，かつ，梁せいが1.5m以上の場合は，図 5.5 によることができる。

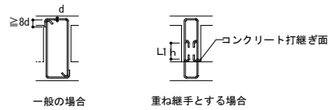


図 5.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）腹筋及び幅止め筋は，7.2による。
ただし，梁せいが1.5m以上の場合は特記による。

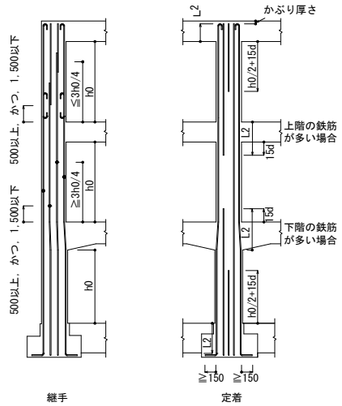
（c）あばら筋の割付けは，7.2(c)による。

6．1　柱

（a）一般事項

（1）継手の中心位置は，梁上端から500mm以上，1,500mm以下，かつ，3h0 /4（h0 は柱の内法高さ）以下とする。

（2）継手，定着及び余長は 図 6.1 による。
ただし，柱頭定着長さL2を確保できない場合は，特記による。



(注) 1. 柱の四隅にある主筋で，重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には，フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は，表 3.2「隣り合う継手の位置」による。
3. 継手及び定着は，すべての階に適用できる。

図 6.1　柱主筋の継手，定着及び余長

（b）柱打ち増し部

（a）打増し部分に，壁，梁，スラブ筋等が取り付く場合は，壁，梁，スラブ筋等の定着長さには，打増し部分を含まない。

（b）土に接する柱周囲の打増しは 図 6.2 による。

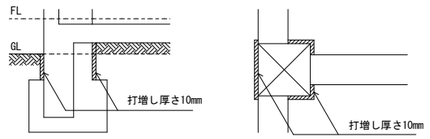


図 6.2　柱打増し部

6．2　帯筋

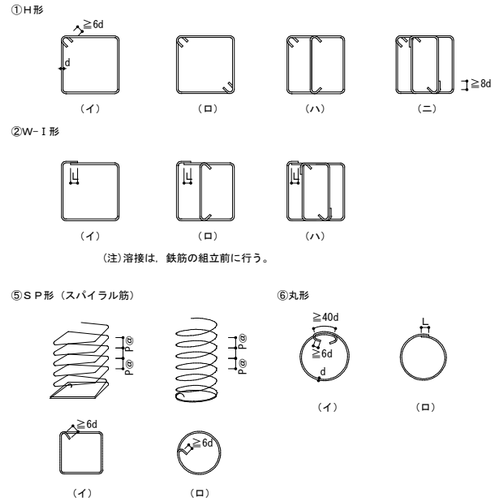
（a）帯筋の種類及び間隔は，特記による

（b）帯筋組立の形は図6.3により，適用は特記による。

（1）Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は，Ｗ－Ｉ形とする。

（2）溶接する場合の溶接長さＬは，両面フレア溶接の場合は5d以上，片面フレア溶接の場合は10d以上とする。

（3）ＳＰ形において，柱頭及び注脚の端部は，1.5巻以上の添巻きを行う。

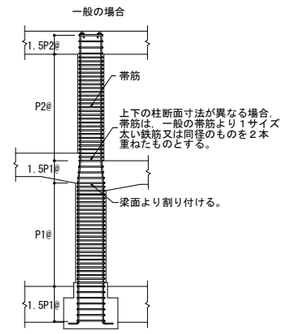


(注)溶接は，鉄筋の組立前に行う。

図6.3　帯筋組立の形

（c）フック及び継手の位置は交互とする。

（d）帯筋の割付けは，図 6.4 とし，それ以外の場合は特記による。



(注) 1. 図示のない事項については，一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合，帯筋の間隔を 1.5P1@ または 1.5P2 @とする範囲は，
そのはしらに取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお，P1@，P2@ は，特記された帯筋の間隔を示す。

図 6.4　帯筋の割付け

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・		件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －04
					図名 上り線PA 構造関係共通図(配筋標準図その2)	縮尺

7．1　大梁

（a）　一般事項

（1）梁の上がり下がりは，ＦＬを基準とした寸法値とする。
（2）地中梁下の砂利地業厚さ及び捨コンクリート地業厚さは，特記による。
（3）打増し部分に，スラブ，壁，梁筋等が取り付く場合は，スラブ，壁，梁筋等の定着長さには，打増し部分を含まない。

（b）　大梁主筋の継手及び定着の一般事項

（1）継手中心位置は，次による。
　上端筋：中央 l_0/2以内
　下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し，l_0/4を加えた範囲以内
（2）継手中央部の位置，定着長さ及び余長は，図 7.3 及び 図 7.4 による。
（3）梁主筋は，連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は，柱をまたいで引き通すものとし，鉄筋の本数が異なる場合には，図 7.1 のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では折り曲げて定着する。

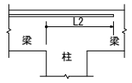


図 7.1　梁主筋の梁内定着

（4）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
　なお，定着の方法は，3.1 (b)(2)による。

　上端筋：曲げ降ろす。
　下端筋(一般)：原則，曲げ上げる。
　下端筋(ハンチ付き)：原則，曲げ上げる。

（5）梁にハンチを付ける場合，その傾斜は特記による。
（6）段違い梁は，図 7.2 による。

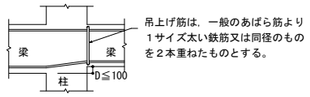
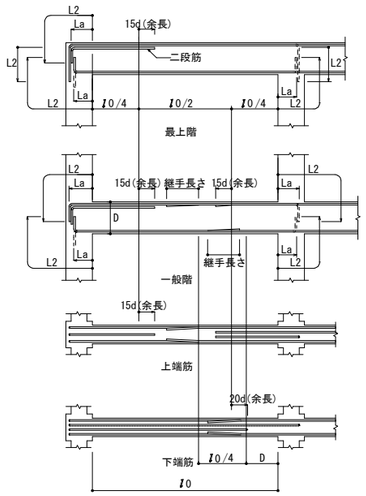


図 7.2　段違い梁

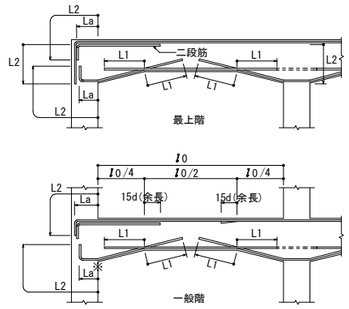
（c）ハンチのない場合の重ね継手，定着及び余長は，図 7.3 による。



（注）1．梁主筋の重ね継手が，梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）
　　には，フックを付ける。
　　2．━━━━ 印は，継手及び余長を示す。
　　3．破線は，柱内定着の場合を示す。
　　4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図 7.3　大梁の重ね継手，定着及び余長

（d）ハンチのある場合の重ね継手，定着及び余長は，図 7.4 による。



（注）1．梁主筋の重ね継手が，梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）
　　には，フックを付ける。
　　2．━━━━ 印は，継手及び余長を示す。
　　3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは，======== のように引き通すことができる。
　　4．破線は，柱内定着の場合を示す。
　　5．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図 7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7．2　あばら筋等

（a）　あばら筋，腹筋及び幅止め筋の一般事項

（1）あばら筋の種類，径及び間隔は，特記による。
（2）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは，150mm程度とし，定着長さは図7.6による。
　　ただし，腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着長さは，特記による。
（3）幅止め筋及び受け用幅止め筋は，D10−1,000@程度とする。

（b）　あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は，図 7.5(イ)とする。
　　ただし，Ｌ形梁の場合は，(ロ)又は(ハ)，Ｔ形梁の場合は，(ロ)～(ニ)とすることができる。
（2）フックの位置
　Ⅰ．(イ)の場合は，交互とする。
　Ⅱ．(ロ)の場合は，Ｌ形ではスラブの付く側，Ｔ形では交互とする。
　Ⅲ．(ハ)の場合は，床板の付く側を90°折曲げとする。

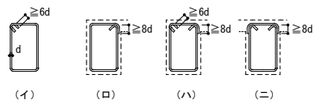
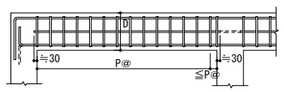


図 7.5　あばら筋組立の形

（c）あばら筋の割付け

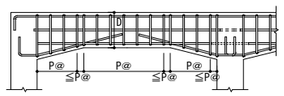
（1）間隔が一様でハンチのない場合は，図 7.6 による。



（注）1．あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
　　2．図中のＰ@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 7.6　あばら筋の割付け　(その1)

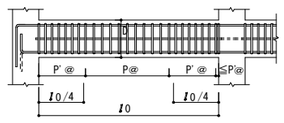
（2）間隔が一様でハンチがある場合は，図 7.7 による。



（注）1．あばら筋は，柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
　　2．図中のＰ@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 7.7　あばら筋の割付け　(その2)

（3）梁の端部で間隔の異なる場合は，図 7.8 による。



（注）1．あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
　　2．図中Ｐ@，Ｐ'@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 7.8　あばら筋の割付け　(その3)

（d）　腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁は，図 7.9 による。

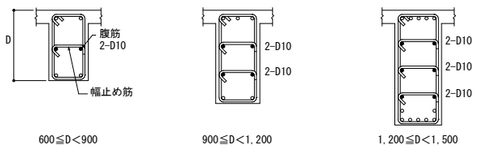
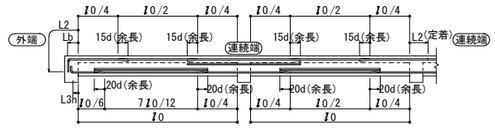


図 7.9　腹筋及び幅止め筋

7．3　小梁

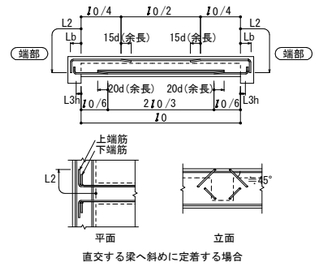
（a）　連続小梁の場合は，図 7.10 による。



（注）1．図示のない事項は，5.1 及び 7.1 に準ずる。
　　2．━━━━ 印は，余長位置を示す。

図 7.10　小梁主筋の継手，定着及び余長(その1)

（b）　単独小梁の場合は，図 7.11 による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

（注）1．図示のない事項は，5.1 及び 7.1 に準ずる。
　　2．━━━━ 印は，余長位置を示す。

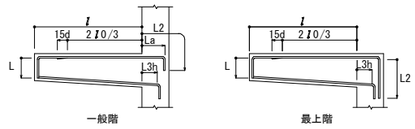
図 7.11　小梁主筋の継手，定着及び余長(その2)

（c）　あばら筋は，7.2 による。

7．4　片持梁

（a）片持梁主筋の定着及び余長

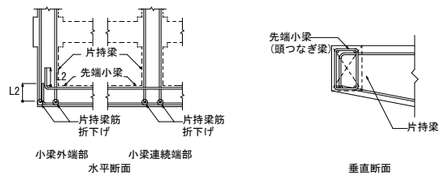
（1）先端に小梁のない場合は，図 7.12 による。



（注）1．図示のない事項は，7.1 による。
　　2．━━━━ 印は，余長位置を示す。
　　3．先端の折曲げの長さは，梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図 7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（2）先端に小梁がある場合は，図 7.13 による。



（注）1．図示のない事項は，(1)による。
　　2．先端小梁終端部の主筋は，片持梁内に水平定着する。
　　3．先端小梁の連続端は，片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

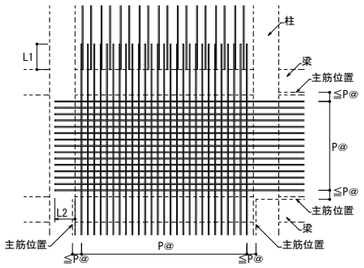
図 7.13　片持梁主筋の定着

（b）あばら筋は，7.2による。

8．1　壁

（a）一般事項

（1）壁配筋の重ね継手及び定着の長さは，重ね継手長さを L1，定着長さを L2 とする。
（2）幅止め筋は，縦横ともD10−1,000@程度とする。
（3）EWOO，EKWOO，ERWOOの配筋は，WOO，KWOO，RWOOに同じで，かぶり厚さ，定着長さ及び継手長さは，3.1，4.1 による。
（4）打増し部分に，壁及びスラブ筋等が取り付く場合は，壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。



（注）　図中のＰ@は，特記された壁筋の間隔を示す。

図 8.1　壁の配筋

（b）壁の配筋は表8.1により，種別は特記による。

表 8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	

（注）　壁筋の配筋順序は，規定しない。

（c）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は 表 8.2 により，種別は特記による。

表 8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	縦筋の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	180	KA1
	横筋	D13-200@ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	200	KA2
	横筋	D13-200@ダブル		KA4

（注）　縦筋は，横筋の外側に配筋する。

（d）壁の交差部及び端部の配筋は 図 8.2 による。

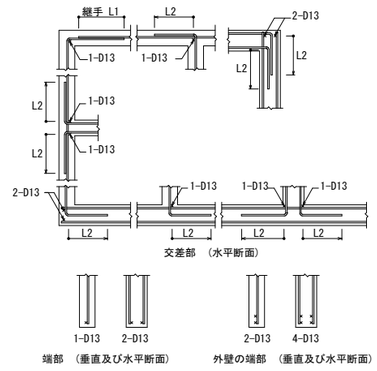


図 8.2　壁の交差部及び端部の配筋

特記	訂正		日付	件名	図面番号
		株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	2021・01・05・	春日PA身障者用駐車場等改築工事	S −05
				図名 上り線PA 構造関係共通図(配筋標準図その3)	縮尺

8．2　壁の補強

（a）　壁開口部の補強

（1）耐震壁を除く壁開口部の補強筋は，A形は 表 8.3，B形は 表 8.4 とし，適用は特記による。
なお，耐震壁の補強筋は，特記による。

表8.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表8.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（2）　壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。

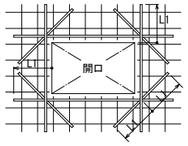


図 8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（3）　コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は，特記による。

9．1　スラブ

（1）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは，ＦＬを基準としたす法値とする。
（2）土間スラブ下の砂利地業厚さ及び捨てコンクリート厚は，特記による。
（3）土間コンクリート補強筋（Do）の配筋及びコンクリート厚さは，特記による。
（4）スラブの配筋（Ｓ形配筋）は 表 9.1 及び 図 9.1 により，配筋種別及びスラブ厚さは，特記による。

表 9.1　S形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域	配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10，D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10，D13-150@	S10	D10，D13-200@	D10，D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10，D13-150@	S12	同上	D10-250@
S 6	同上	D13-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10，D13-150@	D10，D13-150@	S14	同上	D10-250@

（注）　上端筋，下端筋とも同一配筋とする。

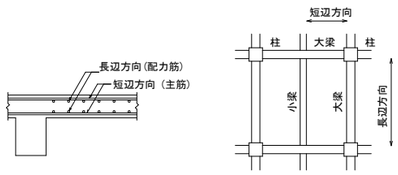


図 9.1　スラブの配筋

（5）配筋の割付けは，中央から行い，端部は定められた間隔以下とする。
（6）鉄筋の重ね継手長さは，L1 とする。

（7）定着長さ及び受け筋は，図 9.2 による。
ただし，引き通すことができない場合は，図 9.3 により梁内に定着する。

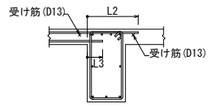
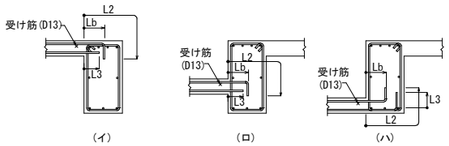
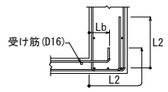


図 9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)



一般スラブの場合



耐圧スラブの場合

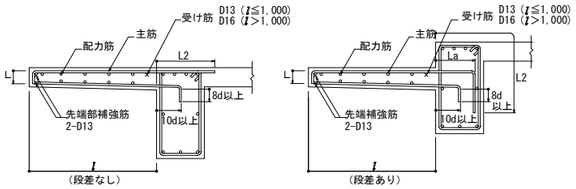
図 9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

9．2　片持スラブ

片持スラブの配筋は，次による。
（1）片持スラブの配筋（ＣＳ形配筋）は，表 9.2 並びに 図 9.4 及び 図 9.5 により，配筋種別及びスラブ厚さは，特記による。

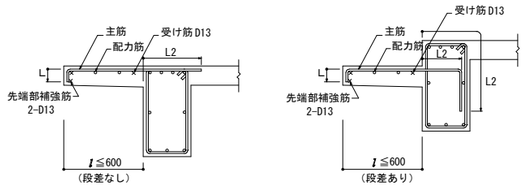
表 9.2　CS形配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10，D13-200@
	下	D13-300@		下	―――
CS3	上	D10，D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10，D13-300@		下	―――
CS4	上	D10，D13-200@			
	下	D10-200@			



（注）　1．先端の折曲げ長さＬは，スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図 9.4　片持スラブの配筋（CS1 から CS5）



（注）　1．先端の折曲げ長さＬは，スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図 9.5　片持スラブの配筋（CS6 及び CS7）

（2）先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

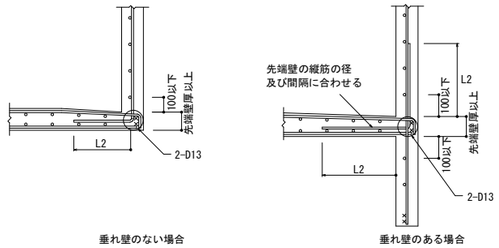


図 9.6　先端に壁が付く場合の配筋

（3）出隅部
（i）補強の配筋は特記により，配筋方法は，図 9.7による。
（ii）出隅受け部分（図 9.9 の斜線部分）の補強筋は特記による。

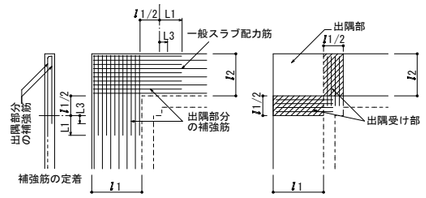


図 9.7　片持スラブ出隅部の補強配筋

9．3　スラブ等の補強

（a）スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は，特記による。
（i）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は，図 9.8 により，開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し，隅角部に斜め方向に2-D13（l＝2L1 ）シングルを上下筋の内側に配筋する。

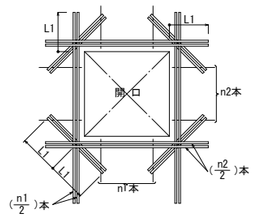


図 9.8　スラブ開口部の補強配筋

（ii）スラブの開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で，鉄筋を緩やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
（b）屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には，図 9.9 により，補強筋を上端筋の下側に配置する。

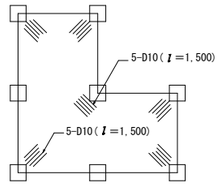
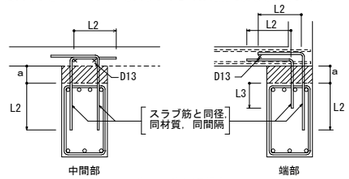


図 9.9　出隅及び入隅部の補強配筋

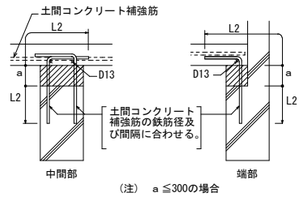
（c）土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで，打継ぎを設ける場合の補強は，図 9.10 による。
ただし，土間スラブとは，土に接するスラブでＳ形の配筋によるものをいう。



（注）　a ≦300の場合

図 9.10　打継ぎ補強配筋

（d）土間コンクリート補強
土間コンクリートの補強筋は，特記による。
なお，基礎梁との接合部は 図 9.11による。



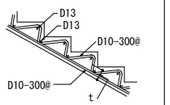
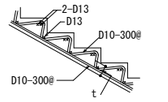
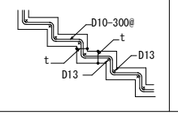
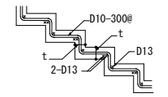
（注）　a ≦300の場合

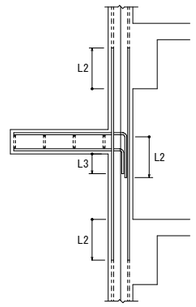
図 9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10．1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は，表 10.1 及び 図 10.1 により，寸法及び配筋種別は，特記による。

表 10.1　片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



（注）　1．　片持スラブ形階段を受ける壁配筋は，8.1(c)による。
2．　階段主筋は，壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3．　スラブ配力筋の継手及び定着の長さは，表 3.3「鉄筋の定着長さ」の L3 とする。

図 10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

特記	訂正		日付	件名	図面番号
・	・	株式会社 ゴウ構造	2021・01・05・	春日PA身障者用駐車場等改築工事	S －06
・	・	一級建築士 第302881号 下山田 勇		図名 上り線PA 構造関係共通図(配筋標準図その4)	縮尺
・	・				
・	・				

１０．２　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は，表 10.2 並びに 図 10.2 及び 図 10.3 により，寸法及び配筋種別は，特記による。

表 10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋，下端筋とも(全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13,D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

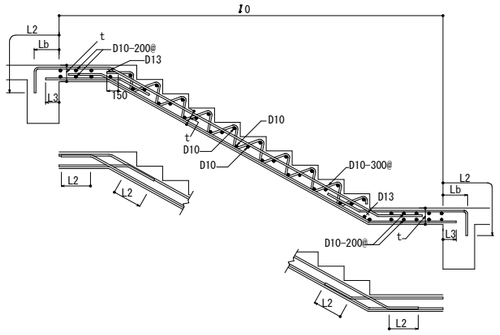
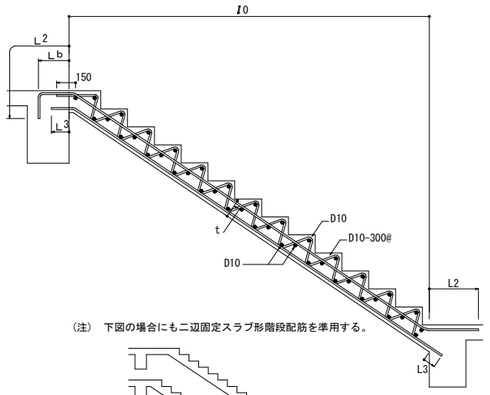


図 10.2　二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注)　下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

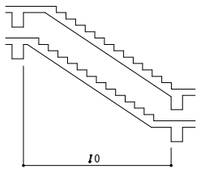


図 10.3　二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

１１．１　梁貫通孔

（ａ）梁貫通孔は，次による。
（１）梁貫通孔補強筋の名称等は，図 11.1 による。
（２）孔の径は，梁せいの1/3以下とする。
（３）孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし，梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
（４）孔は，柱面から，原則として，1.5D以上離す。ただし，基礎梁及び壁付帯梁は除く。
（５）孔が並列する場合の中心間隔は，孔の径の平均値の３倍以上とする。
（６）縦筋及び上下縦筋は，あばら筋の形に配筋する。
（７）補強筋は，主筋の内側とする。また，鉄筋の定着長さは，図 11.2 による。
（８）孔の径が梁せいの1/10以下，かつ，150mm未満のものは，鉄筋を緩やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
（９）溶接金網の余長は1格子以上とし，突出しは10mm以上とする。
（10）溶接金網の貫通孔部分には，鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお，リング筋は，溶接金網に４箇所以上溶接する。
（11）溶接金網の割付け始点は，横筋であばら筋の下側とし，縦筋では貫通孔の中心とする。

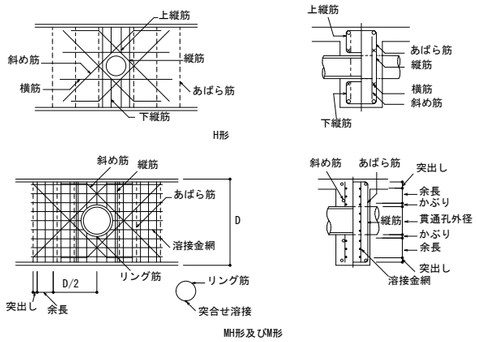


図 11.1　梁貫通孔補強筋の名称等

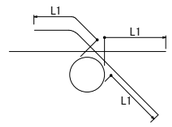


図 11.2　補強筋の定着長さ

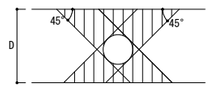
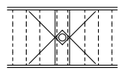
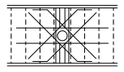
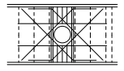


図 11.3　他の開孔を設けない範囲

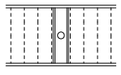
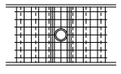
（ｂ）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により，配筋種別は特記による。

表 11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

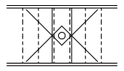
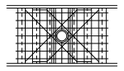
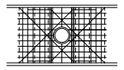
(注)------は，一般部分のあばら筋を示す。

表 11.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13		

(注)------は，一般部分のあばら筋を示す。

表 11.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

(注)------は，一般部分のあばら筋を示す。

１１．２　コンクリートブロック帳壁との取合い

（ａ）控壁は，次による。
（１）控壁の配筋図，特記による。
（２）配筋は，図 11.4 による。

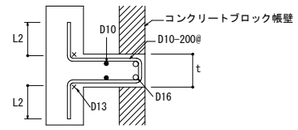


図 11.4　控壁の配筋(水平，垂直とも)

（ｂ）　帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は，図 11.5 による。

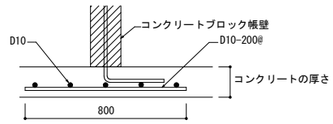


図 11.5　壁付き土間コンクリートの補強配筋

１１．３　パラペット

パラペットの配筋は 図 11.6 による。
コンクリート厚さ，縦筋は特記による。

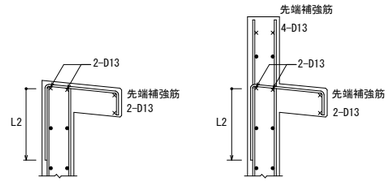


図 11.6　パラペットの配筋

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －07
				図名 上り線PA 構造関係共通図(配筋標準図その5)	縮尺

構造関係共通図（鉄骨標準図）

1　縁端距離及びボルト間隔等

（ａ）縁端距離及びボルト間隔

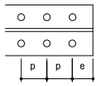
縁端距離及びボルト間隔は，表1.1による。

ただし，引張材の接合部分において，せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は，特記による。特記がなければ，ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また，アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位：mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

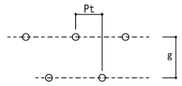


（ｂ）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は，表1.2による。

表1.2　千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔　（単位：mm）

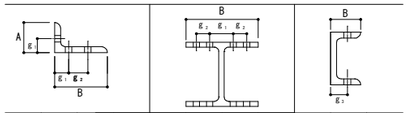
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔　Pt ねじの呼び M12,M16,M20,M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



（ｃ）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は，表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位：mm）



A又はB	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

（ｄ）ボルト記号

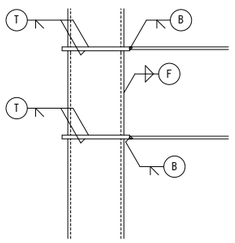
表1.4　高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	○	⊕	⊕	⊛	✳
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	/	|	┼	✳	✳

表1.5　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	⊕	⊕	⊛	✳

溶接要領図



2　溶接記号

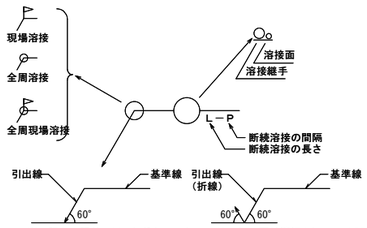
設計図中で使用する記号は，表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分	類		記号
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		Ｔ型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		ＦＬ
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表2.2　溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚐
全周溶接	○
全周現場溶接	⚐○
断続溶接の長さ及び間隔	Ｌ－Ｐ

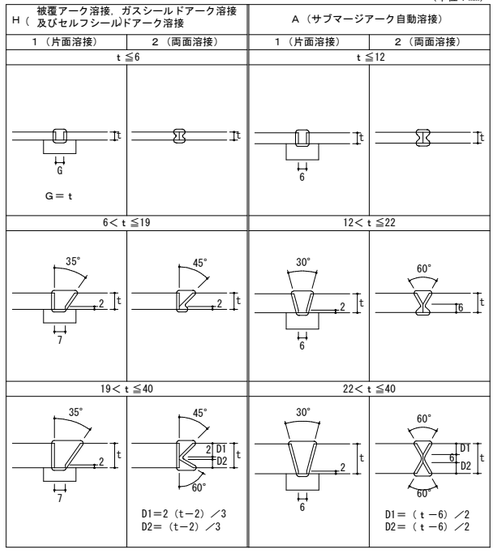


※特記なき限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

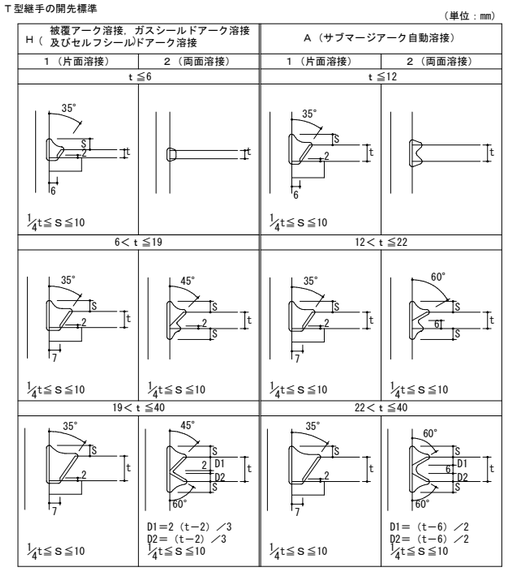
図2.1　溶接記号の記載例

3　溶接継手の種類別開先標準

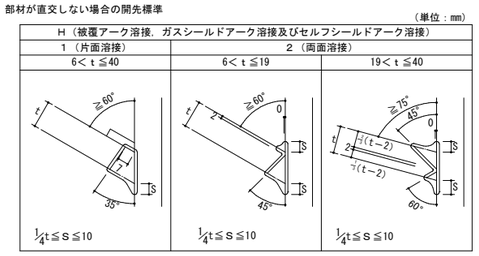
突合せ継手の開先標準　（単位：mm）



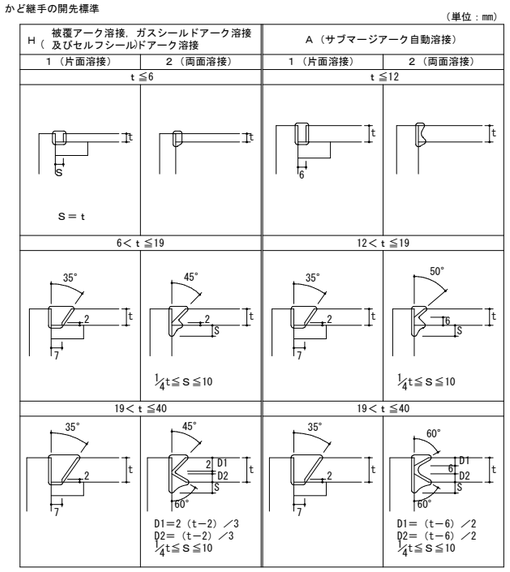
Ｔ型継手の開先標準　（単位：mm）



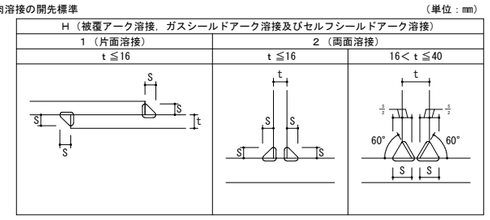
部材が直交しない場合の開先標準　（単位：mm）



かど継手の開先標準　（単位：mm）



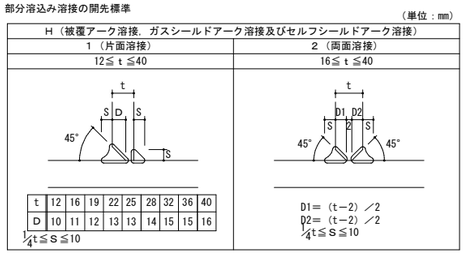
隅肉溶接の開先標準　（単位：mm）



隅肉溶接のサイズ　（単位：mm）

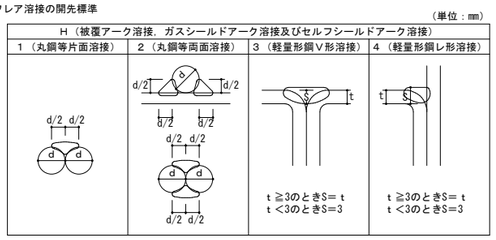
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準　（単位：mm）



t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

フレア溶接の開先標準　（単位：mm）

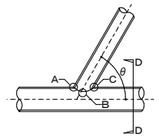


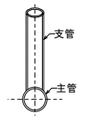
4　鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。　（単位：mm）

適用管厚　3.2mm≦ｔ≦12mm

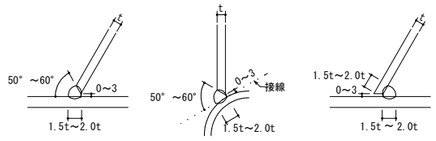
交角　30°≦θ≦150°





Ｄ－Ｄ断面図

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

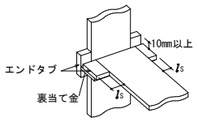


Ａ部断面　Ｂ部断面　Ｃ部断面

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －08
				図名 上り線PA 構造関係共通図(鉄骨標準図その1)	縮尺

5　鉄骨溶接施工

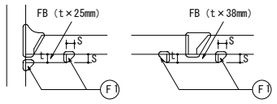
（ａ）フィラープレートの鋼材種別は，SS400とする。
（ｂ）エンドタブ
　（１）エンドタブの形状は母材と同厚，同開先のものとする。
　（２）エンドタブ・裏当て金・スプライスプレートの鋼材の種別及び引張強さによる区分は，母材と同等とする。



エンドタブの長さ（単位：mm）

溶接方法	ℓs
手　溶　接	35以上
半自動溶接	38以上
自 動 溶 接	70以上

（ｃ）裏当て金
　裏当て金の溶接
　（１）裏当て金の組立溶接は，接合部に影響を与えないように，エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い，梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
　（２）完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ（単位：mm）

溶接方法	t
手　溶　接	6以上
半自動溶接	9以上
自 動 溶 接	12以上

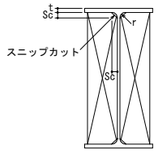
溶接のサイズ（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t>9	9

（ｄ）スカラップ
　改良型スカラップ
　（１）スカラップ半径 Sr1 は35mmとする。Sr2 は10mmとする。
　（２）スカラップ円弧の曲線は，フランジに滑らかに接するように加工し，複合円は滑らかに仕上げる。

　従来型スカラップ
　　スカラップ半径Srは35mmとする。

（ｅ）スニップカット
（１）スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

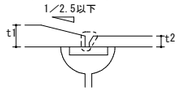


スニップカットの寸法　（単位：mm）

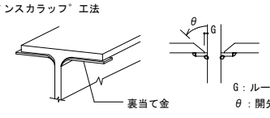
t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

ただし，既製形鋼のスニップカットについては，Sc＝r+2により求めるものとする。

（ｆ）溶接部分の段差
（１）完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合



ノンスカラップ゛工法



（ｇ）鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱（kJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11，15	40以下	350以下
		YGW-18，19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3215	YGA-50W，50P		
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11，15	30以下	250以下
		YGW-18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W，50P		
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-18，19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級鋼STKR，BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-11，15	30以下	250以下
		YGW-18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N級鋼STKR，及びBCP	JIS Z 3312	YGW-18，19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

6　フレア溶接を行う場合の溶接長さ

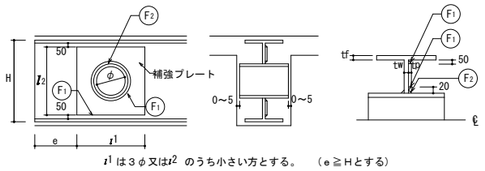
（ａ）鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下記による。
（ｂ）有効溶接長さ（Ｌ）は，ビートの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた長さとする。

　Ｌ：片面フレア溶接の場合　10d
　　両面フレア溶接の場合　 5d
　Ｌａ及びＬｂ＝１Ｓ（鉄筋については1d）以上
　　ｄ：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
　　Ｓ：溶接のサイズ

7　梁貫通孔補強

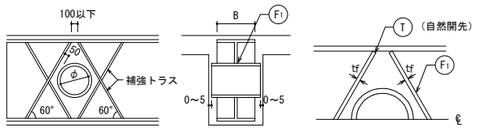
（ａ）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
（ｂ）貫通孔の内径寸法は，鉄骨せいの1/2以下，かつ，鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
（ｃ）貫通孔間隔は，両側の貫通孔径の平均値の，鉄骨造で2倍以上，鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

　補強プレート法
　（１）補強プレートが16mm以上となる場合は，必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
　（２）補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

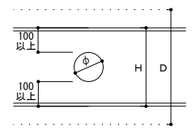


ℓ1 は３φ又はℓ2 のうち小さい方とする。　（ｅ≧Ｈとする）

　補強トラス法
　（１）スリーブの取付けは，全周隅肉溶接とする。



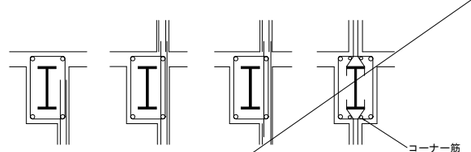
梁貫通孔の位置の限度　（単位：mm）



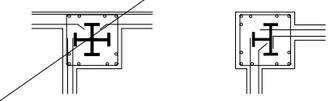
Ｈ：鉄骨せい
Ｄ：梁せい
φ：貫通孔内径寸法
　（φ≦H/2，かつ，φ≦D/3）

8　壁筋の周辺部材への定着

鉄筋を折り曲げる場合は，鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後，緩やかに折り曲げる。



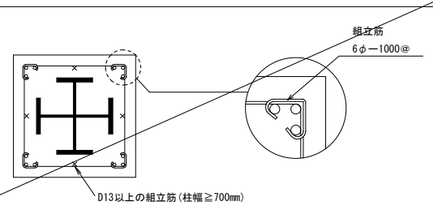
梁への定着方法



柱への定着方法

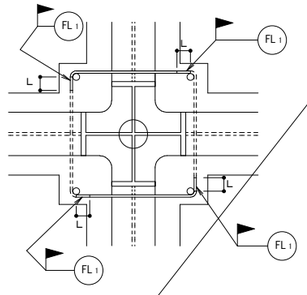
9　柱組立筋

柱組立筋



１０　仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ（L）は，鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし，溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



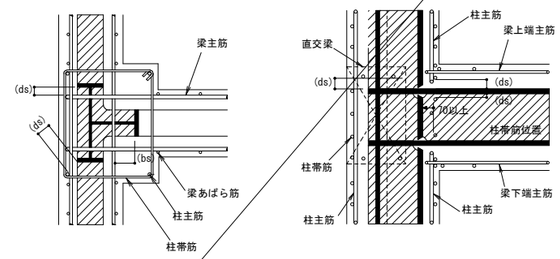
１１　鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径
　鉄筋の貫通孔径の最大は，下表による。

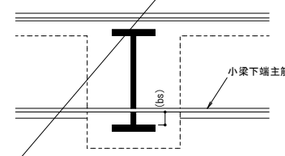
（単位：mm）

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

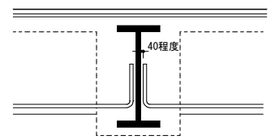
鉄筋貫通孔の位置　（単位：mm）
　鉄骨フランジは，鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合　（単位：mm）



（bs）：主筋と平行する鉄骨とのあき

１２　広幅平鋼の取扱い

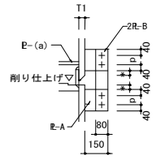
（1）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは，PL表記であっても FB又はPLとする。
（2）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○	○

１３　普通ボルト接合

母屋、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は二重ナット、もしくは、スプリングワッシャー等の戻り止め防止処置を行うこと。

１４　エレクションピース詳細図（見積もり用）



＊は30以上
ピッチ　p=60

PL-(a)は厚さ9 mmとし、T1≦16以下の場合は省略してよい。

	PL-A	2PL-B	ボルト
T1＜25	T1/2以上	A/2以上	2-M20
T1≧25			3-M20

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士　第302881号　下山田　勇

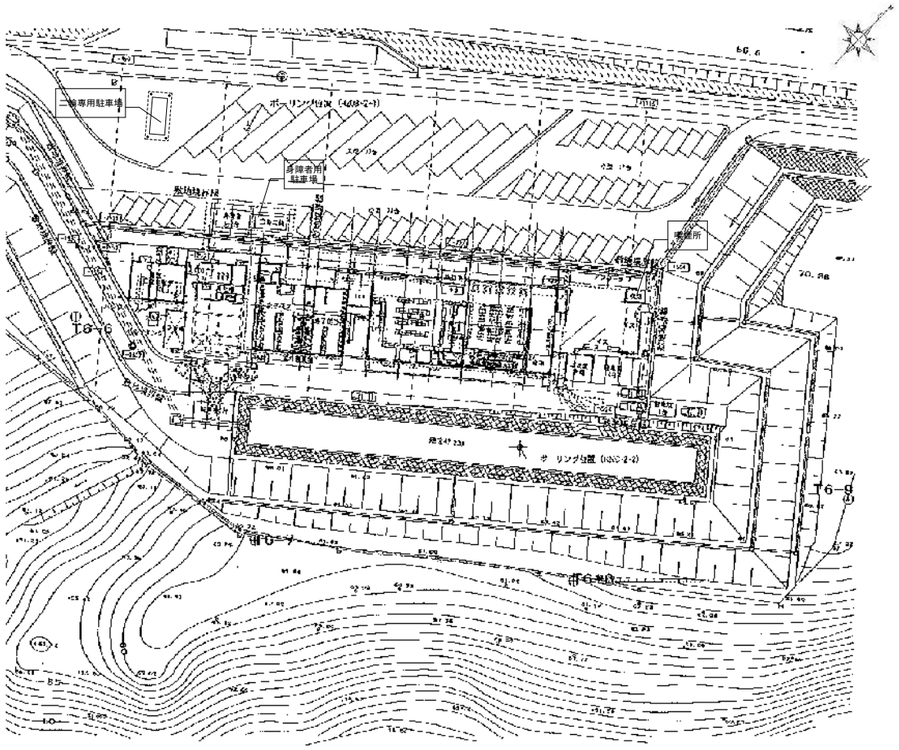
日付　2021・01・05・

件名　春日PA身障者用駐車場等改築工事

図名　上り線PA
構造関係共通図（鉄骨標準図その2）

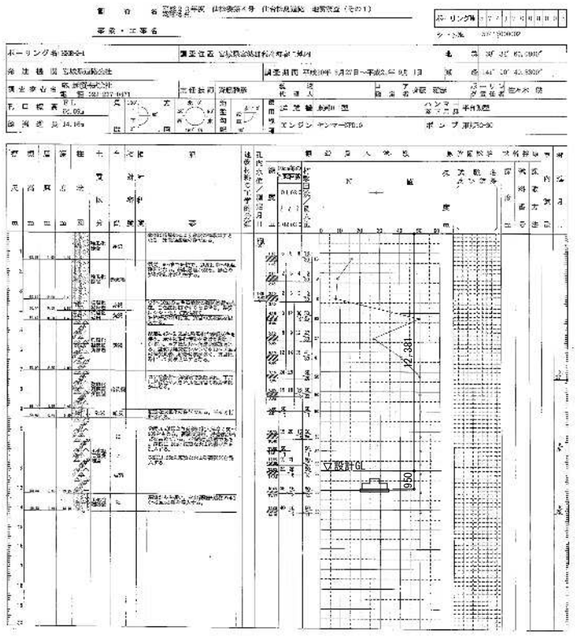
図面番号　S －09

縮尺

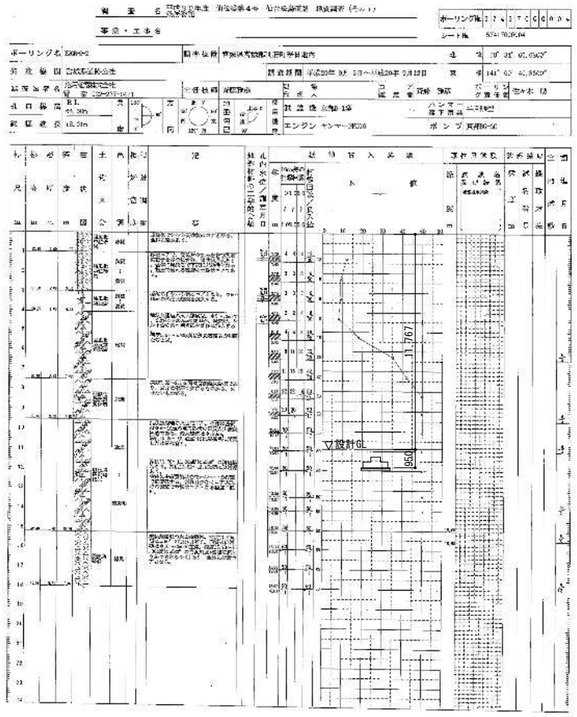


調査位置図	喫煙所棟(標高 設計GL=FH=52.833) 身障者用駐車場棟(標高 設計GL=FH=51.709) 二輪専用駐車場棟(標高 設計GL=FH=51.012)

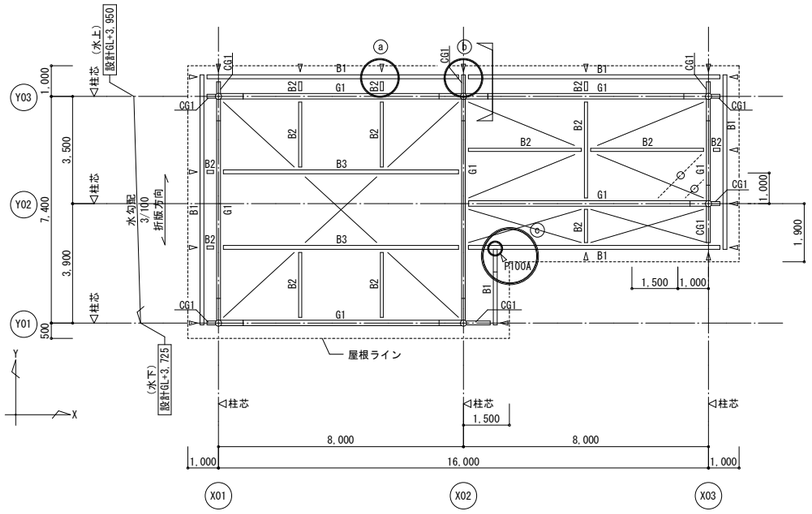
ボーリング柱状図



ボーリング柱状図



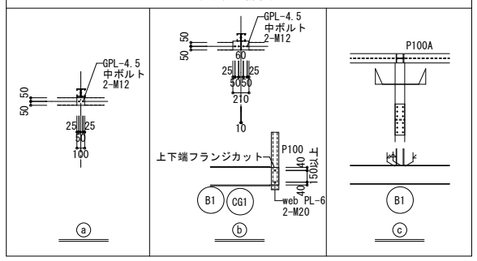
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －10
				図名 上り線PA (ボーリング柱状図)	縮尺 A1 － A3 －

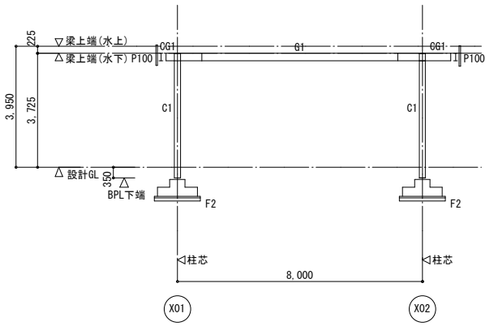


屋根伏図　1/100　（見上げ図）

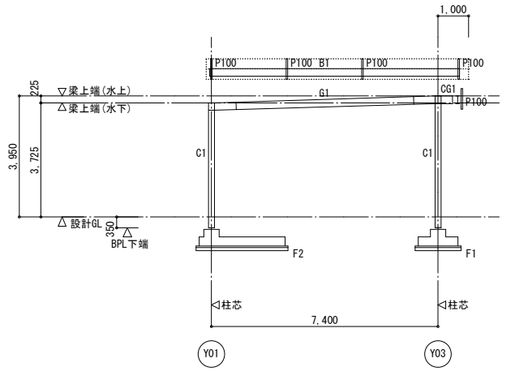
特記なき限り下記による。
1. 鉄骨梁上端 ： 水勾配なり
2. 屋根ブレース ： 1-M16（ターンバックル付き）
3. ▽ 印 ：P100位置
4. ○ 印 ： 剛接合（完全溶込み溶接）
5. ---○--- 印 ： 火打ち材 B4

取り合い詳細図　1/40

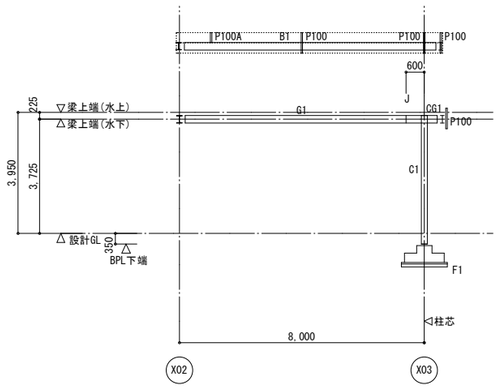




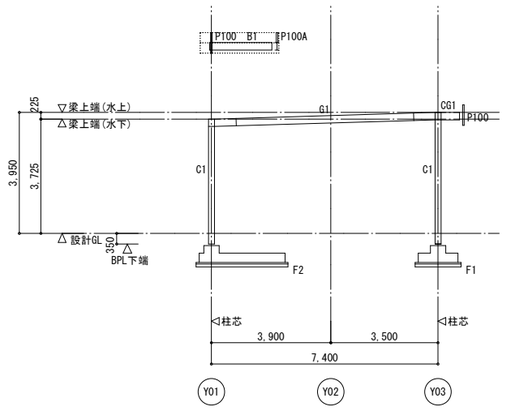
Y01 通り軸組図　1/100



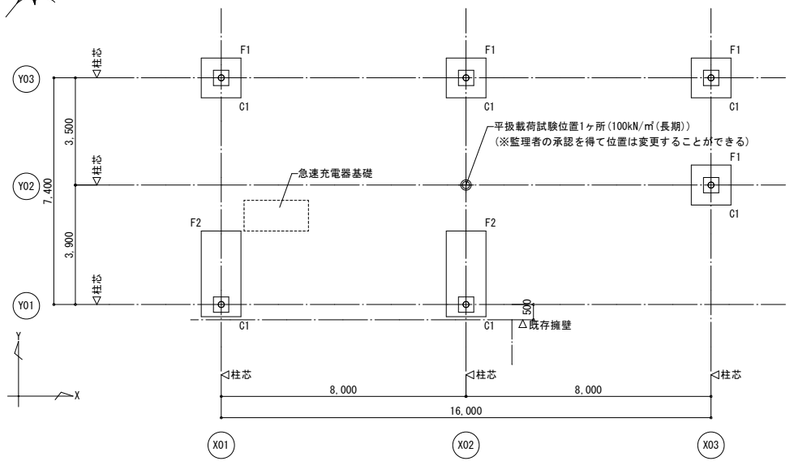
X01 通り軸組図　1/100



Y02 通り軸組図　1/100

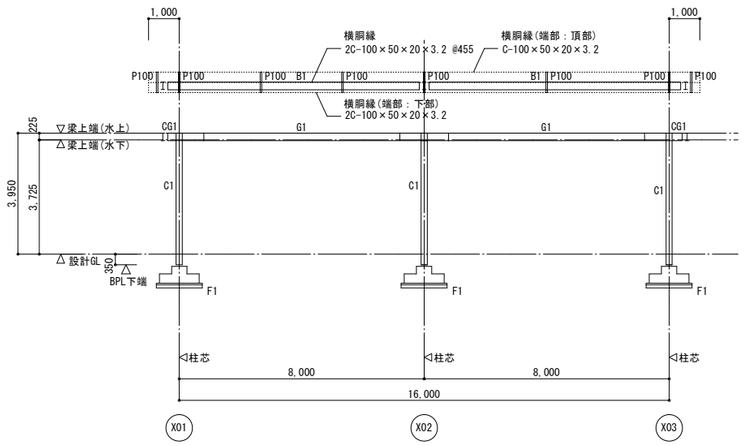


X02 通り軸組図　1/100

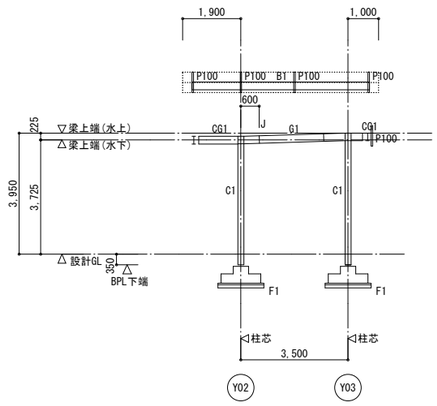


基礎伏図　1/100　（見下げ図）
（設計GL=FH=51.709）

特記なき限り下記による。
1. 基礎下端 ： 設計GL-950
2. BPL下端 ： 設計GL-350
3. 柱形上端 ： 設計GL-400



Y03 通り軸組図　1/100



X03 通り軸組図　1/100

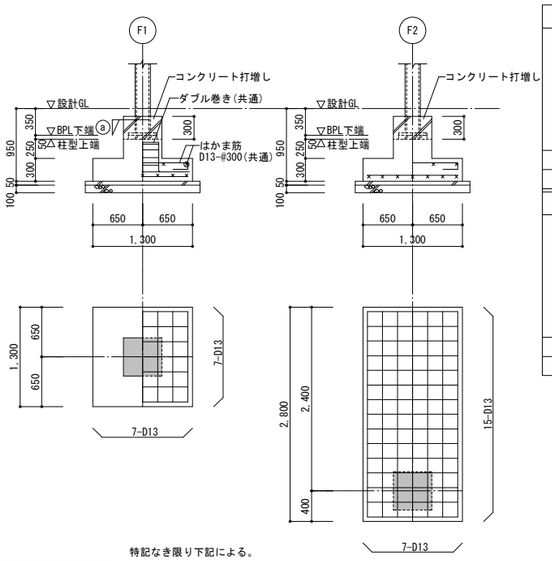
軸組図共通事項

特記なき限り下記による。
1. 梁JOINT位置 ： 柱芯より800
2. 胴縁の詳細配置は意匠図を参照

特記	訂正		日付		件名	図面番号
		株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	2021・01・05・		春日PA身障者用駐車場等改築工事	S －11
					図名 上り線PA 身障者用駐車場 棟 （伏図、軸組図）	縮尺 A1 1:100 1:40 A3 1:200 1:80

基礎断面リスト 1/40

設計用地耐力 100kN/㎡(長期)



特記なき限り下記による。

1. 使用材料 : SS400,SSC400,STKR400
2. 高力ボルト : S10T,F10T(溶融亜鉛めっき部材はF8Tめっきボルト)
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. 溶接部材はSN400Bとする
5. 中ボルトは戻り止め措置を行う

柱形断面リスト 1/40

特記なき限り下記による。

1. 鉄筋 : D10(SD295A),D19(SD345)

符号	C1
断面	500 × 500
主筋	8-D19
フープ	□-D10-@100

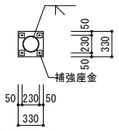
ⓐ 視図

断面	500 × 500
主筋	4-D13
フープ	□-D10-@100

鉄骨柱断面リスト 1/40

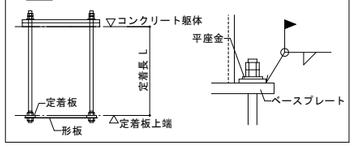
特記なき限り下記による

1. 使用材料 : STK400
2. A.BOLT : ワッシャー付き、ダブルナット締め。
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. ナット、座金は、JIS規格品を使用の事。
   ナット:JIS B1181(中・1種)、平座金:JIS B1256(並形)
   (但し、ABR及びABMの場合は、
   各々JIS B 1220及びJIS B 1221の規格品を使用の事。)

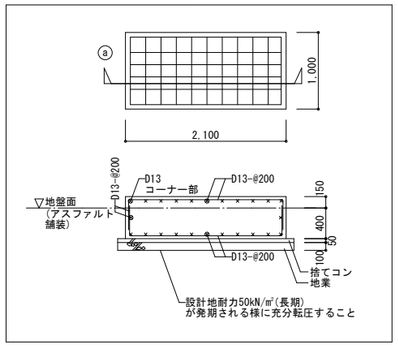
符号	C1
主材	Φ-216.3x5.8
接合部	Φ-216.3x5.8
柱脚	 ※座金とBPLは溶接とし、補強座金PL-6×60(SS400)を使用する。溶接サイズは4.5全周片すみ肉溶接とする。
BASE.PL	PL-19 (SN490C)
A.BOLT	4-M20 (ABR400)
L	400

アンカーボルト要領

ABR 無収縮モルタル t=50



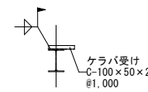
急速充電器基礎 1/40



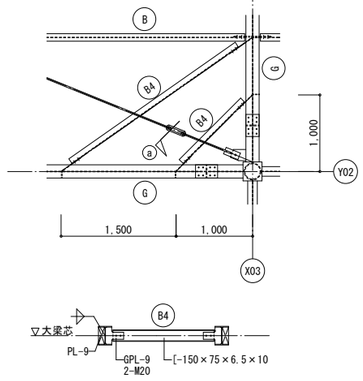
鉄骨部材リスト

符号	位置	断面寸法	剛接合 フランジ ボルト nf×mf	ゲージ g1	ゲージ g2	外PL 厚×長さ	内PL 厚×幅	ウェブ ボルト mw×nw	Pc	PL寸法 厚×幅×長さ	ピン接合 ウェブ PL	H.T.B	GPL	備考
G1	全断面	H-244×175×7×11 (SN400B)	3×2-M16	105	-	PL- 9×410	2PL- 9× 70	2×3-M16	60	2PL- 9×140×410	GPL-9	2-M20		
CG1		H-250×125×6×9 (SN400B)												柱に溶接
B1		H-248×124×5×8	3×2-M16	75	-	PL-12×410	-	2×2-M16	90	2PL- 9×170×290	GPL-6	2-M20		
B2		H-198×99×4.5×7									GPL-6	2-M20		
B3		H-250×125×6×9									GPL-6	2-M16		
B4		[-150×75×6.5×10									GPL-9	2-M20		火打ち材
屋根ブレース		1-M16 (ターンバックル付き)									GPL- 9	1-M16		
折板受け		C-100×50×20×2.3									L-90×90×7 GPL-4.5	2-M12 (中ボルト)		
横胴縁 (端部:下部)		2C-100×50×20×3.2 @455									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		連続梁とする
(端部:頂部)		C-100×50×20×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
(コーナー部)		2C-100×50×20×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
		□-100×100×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
P100		2C-100×50×20×3.2									GPL- 6	2-M20		
P100A		H-100×100×6×8									——	——		

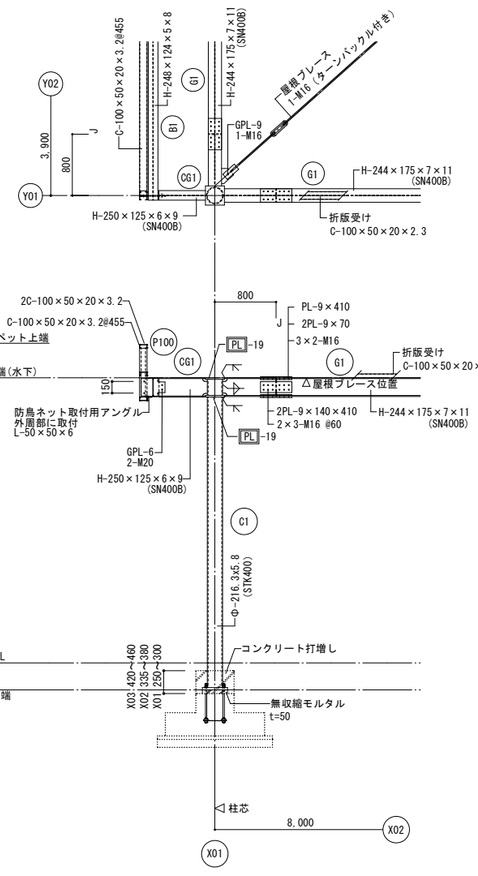
ケラバ受け取合い要領



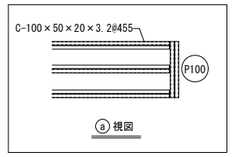
火打ち材 取合い要領 1/40



ⓐ 視図



Y01 通り鉄骨詳細図 1/40



ⓐ 視図

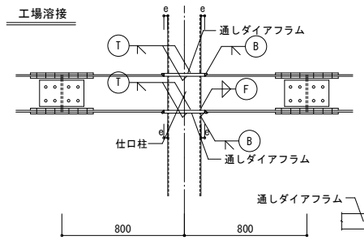
共通事項

特記なき限り下記による。

1. 使用材料 : SS400
   □ 印付 : SN490C
2. 高力ボルト : F10T,S10T
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする

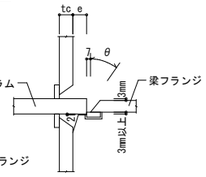
仕口部要領

工場溶接



通しダイアフラムの寸法

■出寸法 e
e=25mm (tc<28mm)
e=30mm (tc≧28mm)
tc:角形鋼管管厚

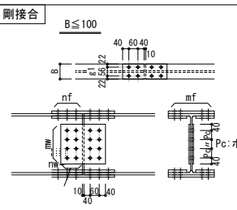


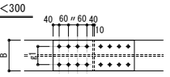
特記なき限り下記による。

1. 柱梁仕口パネル部分の通しダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN490C)
2. 内ダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN400B)
3. 仕口柱のサイズは上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とし、かつ上下柱の板厚以上とする。
4. 摩擦面の処理は黒皮などをショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、赤さび状態であること。
5. ダイアフラムの板厚が40mmを超える場合は、TMCP325C同等品以上を使用のこと。

継手標準図

剛接合





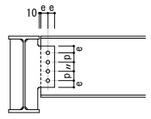
・ 高力ボルトゲージ

B	g1	g2
125	75	-
175	105	-

・フランジ添板

B	外側	内側
125	125	
175	175	70

ピン接合



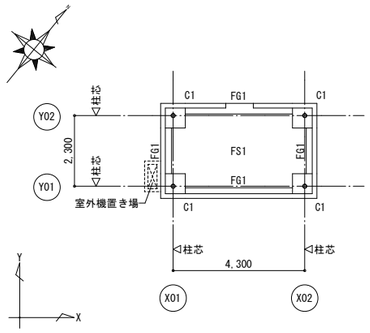
1. 高力ボルトピッチ、はしあき、ゲージは下表に示す。

	e	p
M16	40	60
M20	40	60

特記	
訂正	

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

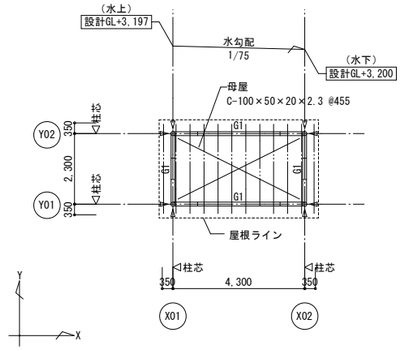
日付 2021・01・05・	件名	春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S —12
	図名	上り線PA 身障者用駐車場 棟 (基礎リスト、鉄骨部材リスト、鉄骨詳細図)	縮尺 A1 1:40 A3 1:80



基礎伏図 1/100 （見下げ図）

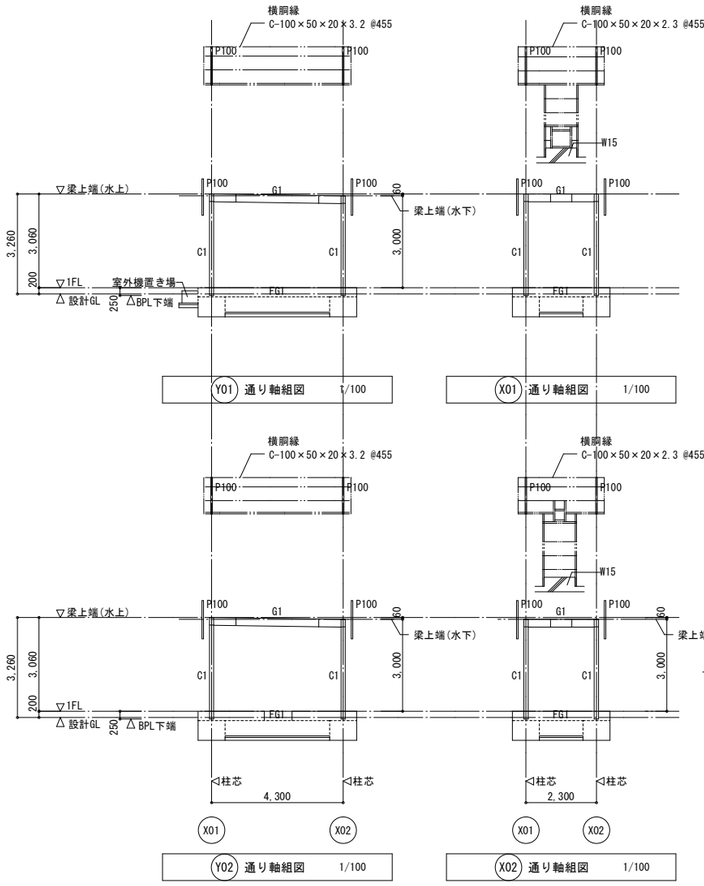
（1FL=設計GL+200）（設計GL=FH=52.833）

特記なき限り下記による。
1. 立上り壁　：W15
2. 基礎梁上端 ： 1FL-300
3. BPL下端 ： 1FL-250
4. 柱形上端 ： 1FL-300



屋根伏図 1/100 （見上げ図）

特記なき限り下記による。
1. 鉄骨梁上端 ： 1FL+2,800
2. 屋根ブレース ： 1-M16（ターンバックル付き）
3. ▽　印 ： P100位置

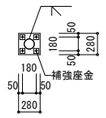


軸組図共通事項

特記なき限り下記による。
1. 梁JOINT位置 ： 柱芯より800

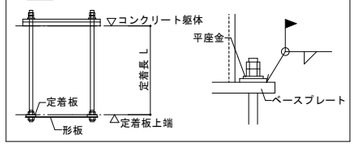
鉄骨柱断面リスト 1/40

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： STK400
2. A.BOLT ： ワッシャー付き、ダブルナット締め。
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. ナット、座金は、JIS規格品を使用の事。
ナット：JIS B1181（中・1種）、平座金：JIS B1256（並形）
（但し、ABR及びABMの場合は、
各々JIS B 1220及びJIS B 1221の規格品を使用の事。）

符　号	C1
主　材	φ-139.8×4.5(STK400)
接合部	φ-139.8×4.5(STK400)
柱　脚	 ※座金とBPLは溶接とし、補強座金PL-6×60(SS400)を使用する。溶接サイズは4.5全周片すみ肉溶接とする。
BASE.PL	PL-19(SN490C)
A.BOLT	4-M20(ABR400)
L	400

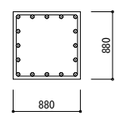
アンカーボルト要領

ABR　無収縮モルタル t=50

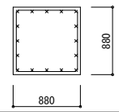


柱形断面リスト 1/40

特記なき限り下記による。
1. 鉄筋 ： D10(SD295A),D25(SD345)

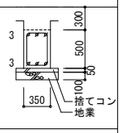
符　号	C1
断　面	
主　筋	16-D25
フープ	□-D13-@100

ⓐ 視図

断　面	
主　筋	16-D13
フープ	□-D13-@100

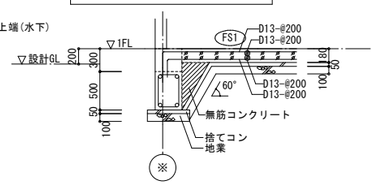
基礎梁断面リスト

特記なき限り下記による
1. 鉄筋 ： D13-D16(SD295A)
2. 幅止め筋 ： D10-@1,000以内

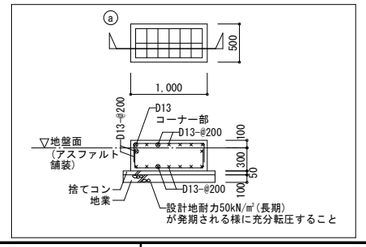
符　号	FG1
位　置	全断面
▽1FL 断　面	
上端筋	3-D16
下端筋	3-D16
スターラップ	□-D10-@200
腹　筋	-

基礎断面リスト 1/40

設計用地耐力　100kN/㎡(長期)



室外機置場基礎 1/40



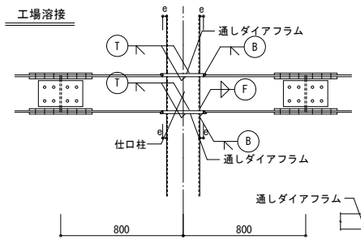
鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400,SSC400,STKR400
2. 高力ボルト ： S10T,F10T(溶融亜鉛めっき部材はF8Tめっきボルト)
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. 溶接部材はSN400Bとする
5. 中ボルトは戻り止め措置を行う

符　号	位　置	断面寸法	剛接合 フランジ ボルト nf×mf	ゲージ g1	ゲージ g2	外PL 厚×長さ	内PL 厚×幅	ウェブ ボルト mw×nw	ウェブ ボルト Pc	ウェブ PL寸法 厚×幅×長さ	ピン接合 ウェブ PL	ウェブ H.T.B	ウェブ GPL	備　考
G1	全断面	H-250×125×6×9 (SN400B)	4×2-M16	75	-	PL-12×530	-	2×2-M16	90	2PL- 6×170×290				
屋根ブレース		1-M16（ターンバックル付き）									GPL- 9	1-M16		
母　屋		C-100×50×20×2.3 @455									L-90×90×7 GPL-4.5	2-M12 (中ボルト)		
横胴縁		C-100×50×20×2.3 @455									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		連続梁とする
		C-100×50×20×3.2 @455									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		連続梁とする
(開口補強)		2C-100×50×20×2.3									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
		2C-100×50×20×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
(端部)		C-100×50×20×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
(コーナー部)		2C-100×50×20×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
		□-100×100×3.2									GPL- 4.5	2-M12 (中ボルト)		
P100		2C-100×50×20×3.2									GPL- 6	2-M20		

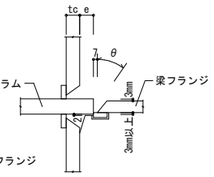
仕口部要領

工場溶接



通しダイアフラムの寸法

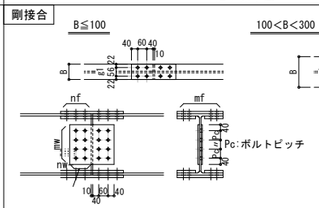
■出寸法　e
e=25mm（tc<28mm）
e=30mm（tc≧28mm）
tc：角形鋼管管厚



特記なき限り下記による。
1. 柱梁仕口パネル部分の通しダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN490C)
2. 内ダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN400B)
3. 仕口柱のサイズは上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とし、かつ上下柱の板厚以上とする。
4. 摩擦面の処理は黒皮などをショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、赤さび状態であること。
5. ダイアフラムの板厚が40mmを超える場合は、TMCP325C同等品以上を使用のこと。

継手標準図

剛接合



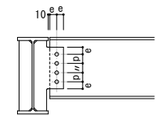
・高力ボルトゲージ

B	g1	g2
125	75	-

・フランジ添板

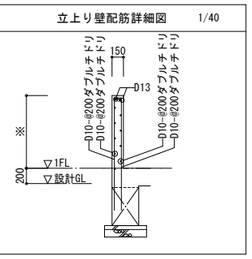
B	外側	内側
125	125	

ピン接合

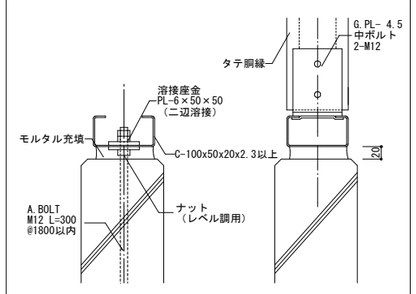


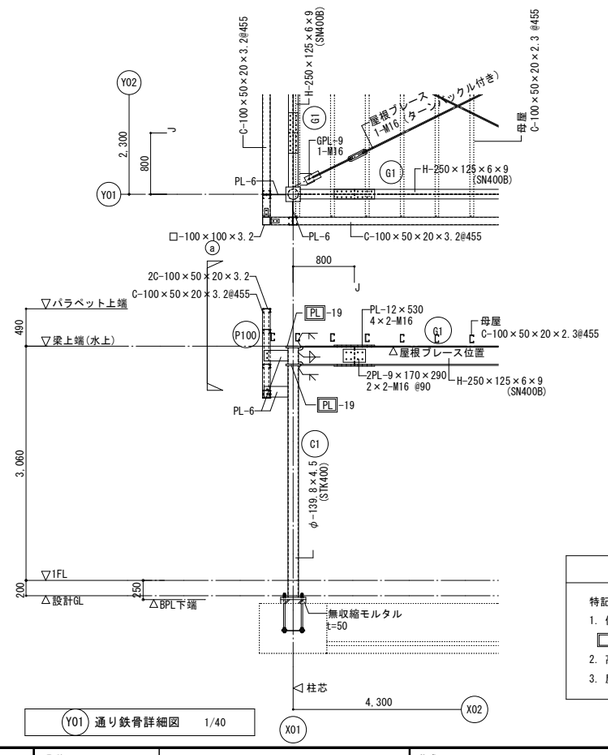
	e	p
M16	40	60

立上り壁配筋詳細図 1/40



下端胴縁の取合い



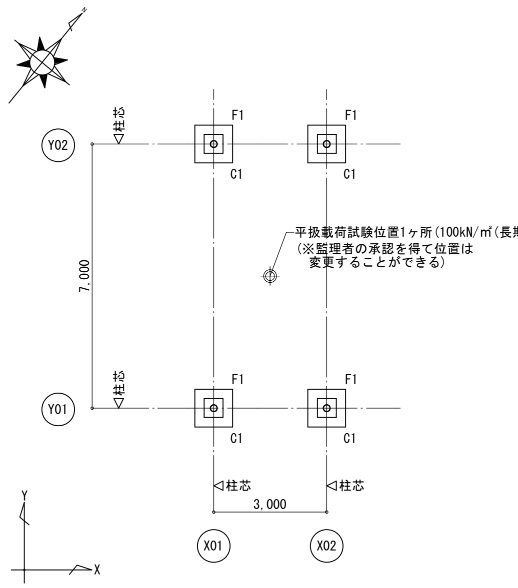


Y01 通り鉄骨詳細図 1/40

共通事項

特記なき限り下記による。
1. 使用材料 ： SS400
□ 印付 ： SN490C
2. 高力ボルト ： F10T,S10T
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 S －13
				図名 上り線PA 喫煙所 棟 (伏図、軸組図、基礎リスト、鉄骨部材リスト、詳細図)	縮尺 A1 1:100 1:40 A3 1:200 1:80

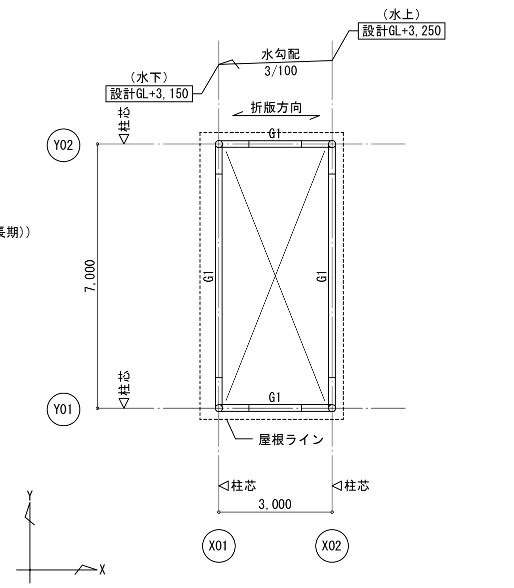


基礎伏図 1/100 (見下げ図)

(設計GL=FH=51.012)

特記なき限り下記による。

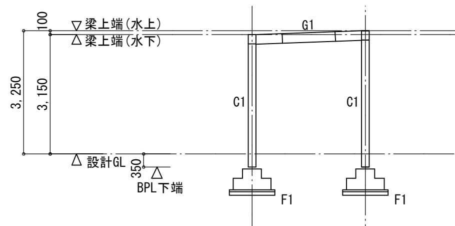
1. 基礎下端 : 設計GL-950
2. BPL下端 : 設計GL-350
3. 柱形上端 : 設計GL-400



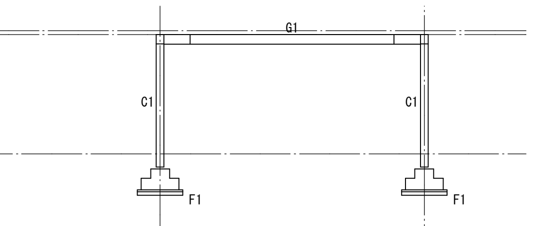
屋根伏図 1/100 (見上げ図)

特記なき限り下記による。

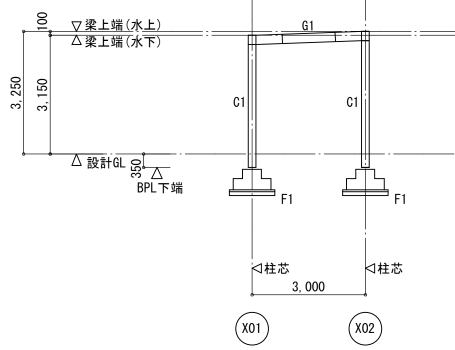
1. 鉄骨梁上端 : 水勾配なり
2. 屋根ブレース : 1-M16（ターンバックル付き）



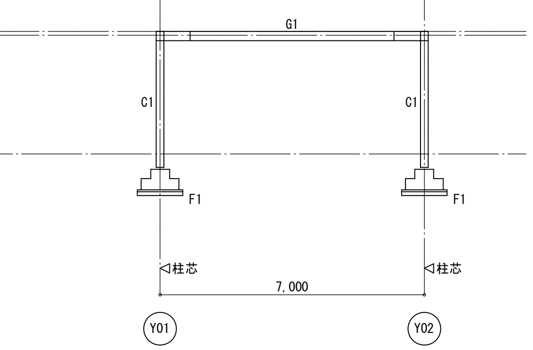
(Y01) 通り軸組図 1/100



(X01) 通り軸組図 1/100



(Y02) 通り軸組図 1/100



(X02) 通り軸組図 1/100

軸組図共通事項

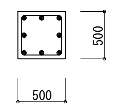
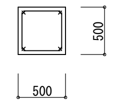
特記なき限り下記による。

1. 梁JOINT位置 : 柱芯より800

柱形断面リスト 1/40

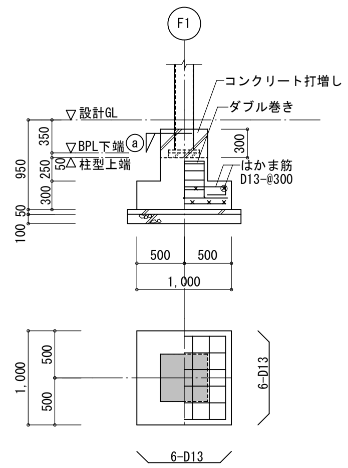
特記なき限り下記による。

1. 鉄筋 : D10(SD295A),D19(SD345)

符号	C1
断面	 500 500
主筋	8-D19
フープ	□-D10-@100
(a) 視図	
断面	 500 500
主筋	4-D13
フープ	□-D10-@100

基礎断面リスト 1/40

設計用地耐力 100kN/㎡(長期)



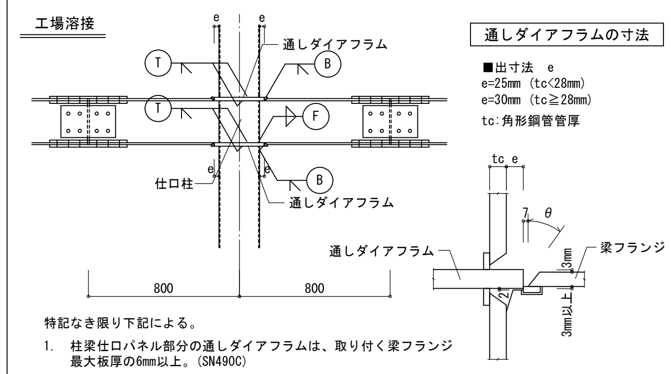
鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。

1. 使用材料 : SS400,SSC400
2. 高力ボルト : S10T,F10T(溶融亜鉛めっき部材はF8Tめっきボルト)
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. 溶接部材はSN400Bとする
5. 中ボルトは戻り止め措置を行う

符号	位置	断面寸法	剛接合								ピン接合			備考
			フランジ					ウェブ			ウェブ			
			ボルト nf×mf	ゲージ g1	ゲージ g2	外PL 厚×長さ	内PL 厚×幅	ボルト mw×nw	Pc	PL寸法 厚×幅×長さ	PL	H.T.B	GPL	
G1	全断面	H-244×175×7×11 (SN400B)	3×2-M16	105	-	PL- 9×410	2PL- 9× 70	2×3-M16	60	2PL- 9×140×410				
屋根ブレース		1-M16（ターンバックル付き）									GPL- 9	1-M16		
折版受け		C-100×50×20×2.3												梁に溶接

仕口部要領

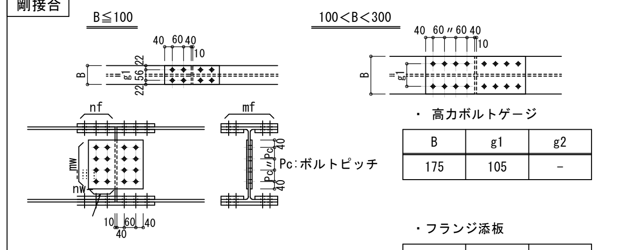


特記なき限り下記による。

1. 柱梁仕口パネル部分の通しダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN490C)
2. 内ダイアフラムは、取り付く梁フランジ最大板厚の6mm以上。(SN400B)
3. 仕口柱のサイズは上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とし、かつ上下柱の板厚以上とする。
4. 摩擦面の処理は黒皮などをショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、赤さび状態であること。
5. ダイアフラムの板厚が40mmを超える場合は、TMCP325C同等品以上を使用のこと。

継手標準図

剛接合



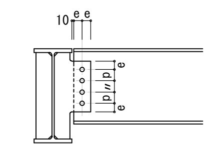
・ 高力ボルトゲージ

B	g1	g2
175	105	-

・フランジ添板

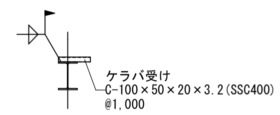
B	外側	内側
175	175	70

ピン接合



	e	p
M16	40	60

ケラバ受け取合い要領



鉄骨柱断面リスト 1/40

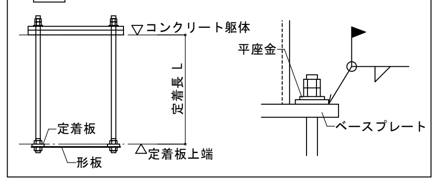
特記なき限り下記による。

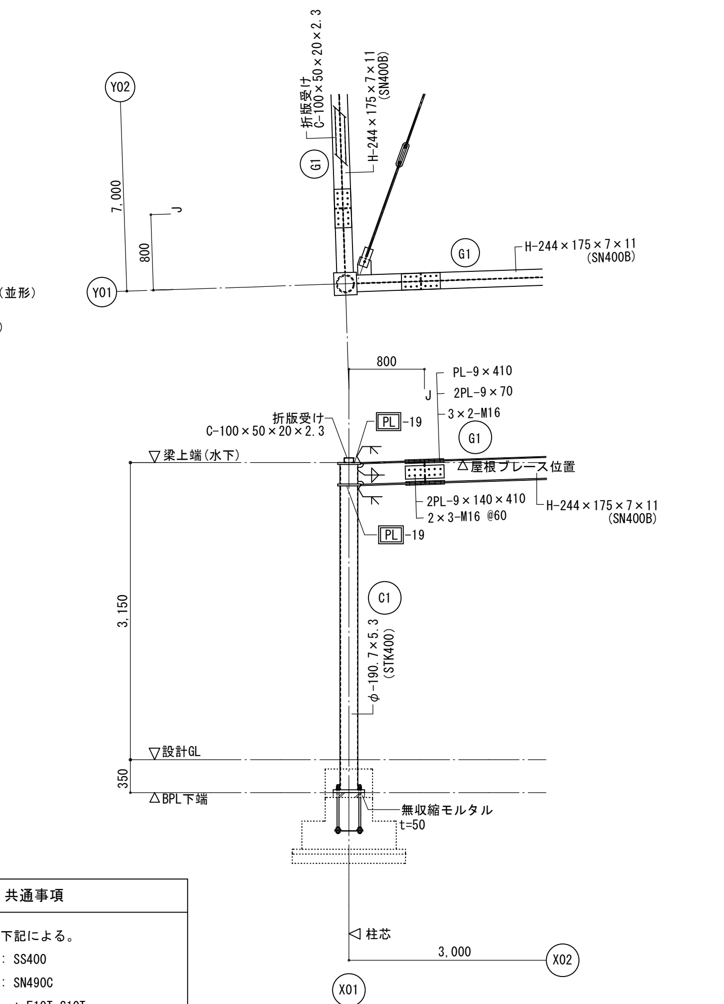
1. 使用材料 : STK400
2. A.BOLT : ワッシャー付き、ダブルナット締め。
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする
4. ナット、座金は、JIS規格品を使用の事。
   ナット：JIS B1181（中・1種）、平座金：JIS B1256（並形）
   但し、ABR及びABMの場合は、
   各々JIS B 1220及びJIS B 1221の規格品を使用の事。）

符号	C1
主材	φ-190.7×5.3(STK400)
接合部	φ-190.7×5.3(STK400)
柱脚	補強座金 50 230 50 330 ※座金とBPLは溶接とし、補強座金PL-6×60(SS400)を使用する。溶接サイズは4.5全周片すみ肉溶接とする。
BASE.PL	PL-19(SN490C)
A.BOLT	4-M20(ABR400)
L	400

アンカーボルト要領

ABR 無収縮モルタル t=50





(Y01) 通り鉄骨詳細図 1/40

共通事項

特記なき限り下記による。

1. 使用材料 : SS400
   □ 印付 : SN490C
2. 高力ボルト : F10T,S10T
3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっき処理とする

特記	訂正		日付	件名	図面番号
• • • •	• • • •	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	2021・01・05・	春日PA身障者用駐車場等改築工事	S －14
				図名: 上り線PA 二輪専用駐車場 棟 （伏図、軸組図、基礎リスト、鉄骨部材リスト、詳細図）	縮尺 A1 1:100 1:40 A3 1:200 1:80

電気設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事名　春日PA(上り線)身障者用駐車場等改築工事

2．工事場所　宮城郡利府町春日字二ツ石1-1の一部、1-5の一部、4-2の一部、20-18の一部

3．建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備 考
身障者用駐車場・急速充電所	S造	地上1階			15項	
喫煙所	S造	地上1階			15項	
二輪専用駐車場	S造	地上1階			15項	

4．工事種目（⊙印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	身障者用駐車場・急速充電所	喫煙所	二輪専用駐車場	屋 外	備 考
⊙電灯設備	新設一式	新設一式	新設一式		
・動力設備					
・電熱設備					
・雷保護設備					
・受変電設備					
・電力貯蔵設備					
・発電設備					
・構内情報通信網設備					
・構内交換設備					
・情報表示設備					
・映像・音響設備					
・拡声設備					
・誘導支援設備					
・テレビ共同受信設備					
・監視カメラ設備					
・駐車場管制設備					
・防犯・入退室管理設備					
・自動火災報知設備					
・中央監視制御設備					
⊙構内配電線路				改修一式	外灯設備を含む
・構内通信線路					
・テレビ電波障害防除					
⊙急速充電設備	新設一式				

5．指定部分　※ なし　・ あり（工　期：令和　年　月　日）（対象部分：　）

6．概成工期　※ なし　・ あり（工事工期より　日前）

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項

（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編，平成３１年版），公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編，平成３１年版），国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編，平成３１年版）」による。

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図，建築工事の特記仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項

（1）項目は番号に⊙印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は，⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。⊙印と※印の付いた場合は，共に適用するものとする。

章	項 目	特 記 事 項
一般共通事項	① 適用基準等	※ 建設工事執行規則(昭和３９年３月宮城県規則第９号) ※ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（最新版） ※ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成３１年版） ・ 宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成１２年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜電気設備工事編＞（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成３０年版）
	② 機 材 等	※ 本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本産業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」（(一社)公共建築協会）によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は，評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	④ 保 険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出する。
	⑤ 雇 用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。
	⑥ 施工計画書・施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書及び施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。
	7．手続き	工事の着手，施工及び完成において，官公署その他関係機関への必要な諸手続き等は監督職員と協議の上，受注者が遅滞なく処理する。なお，当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
	8．施工条件	別添の施工条件明示書による。
	⑨ 工事の一時中止	工事請負契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は，工事の続行に備え中止期間中における工事現場の管理計画書を提出すること。本計画書には，中止時点における工事の出来高，搬入材料及び建設機械器具等の調書，中止期間中の体制及び工事現場の維持管理に関することを記載すること。
	10．工事実績情報の登録（CORINS）	請負額が500万円以上の場合は，工事実績情報を登録する。 受注時，変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，登録手続きを行い，工事カルテの受領証を，監督職員に提出のこと。
	⑪ 事故報告	施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑫ 電気保安技術者	電気工作物に係る工事においては，電気保安技術者を置くものとする。
	⑬ 工事用電力，水，他	本工事に必要な工事用電力，水などの費用は引渡までずべて受注者の負担とする。
	⑭ 工事用仮設物	構内につくることが　※ できる　⊙ できない
	⑮ 監督職員事務所	※ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事）
	⑯ 足場，さん橋類	⊙ 別契約の関係請負者が設置したものは，無償で使用できる。　・ 本工事で設置する。 なお，枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月改訂）によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑰ 工事表示板	※ 設置する　設置枚数　1枚 営繕工事における工事及びコスト表示要領(平成14年2月6日宮城県土木部営繕課･設備室制定)により設置する。 ・ 設置しない
	18．工事用通路	※ 指定しない　・指定する（図示）
	⑲ 発生材の処理等	発生材の処理 ・ 引渡しを要するもの（　） ・ 特別管理産業廃棄物（・ ＰＣＢ使用機器　・　） 受入施設名・所在地　： ・ 現場において再利用を図るもの（　） ・ 再資源化を図るもの（下表） ・ その他安定型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ・ その他管理型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ＰＣＢを含有する機器等については飛散，流出がないように適切な場所に保管し，工事完了後監督職員に引き渡す。

種 類	受 入 施 設 名	所在地（ｋｍ）	備 考

章	項 目	特 記 事 項
一般共通事項	⑳ 残土処理	※ 構内指示の場所に敷き均し　⊙ 構内指示の場所に堆積　・ 構外搬出
	㉑ 耐震施工	耐震施工における設備機器の固定は，「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（(独) 建築研究所監修）による。本工事の施設分類は（・ 特定の施設　⊙ 一般の施設 ）で地域係数は１とし，設計用標準水平震度は下表のとおりとする。なお，（ ）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。（下表） 重要機器類 ・ 配電盤　・ 発電装置　・ ＵＰＳ装置　・ 直流電源装置　⊙ 急速充電装置 ・ 交換機　・ 受信機（自立型）　・ 中央監視装置　・ 情報通信ラック 重量が１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても，耐震を考慮し，据付等を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。

設置場所 ＼ 設計用標準震度	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階，屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中層階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一階及び地下層	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

章	項 目	特 記 事 項
一般共通事項	22．風圧加重	※ 風速６０ｍ／ｓ　・　ｍ／ｓ ・ 雷保護設備受雷部　・ 照明ポール・基礎　・ テレビ共同受信装置アンテナ・アンテナマスト
	23．他工事との工事区分	他工事との工事区分は図面に特記なき場合，「各工事の工事区分表」による。
	24．保温，結露防止	外部に面する壁，天井でＦＰ板（スタイロホーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは，保温，結露防止処理を行う。
	㉕ 電線類	本工事では環境配慮の観点から，原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。
	㉖ 合成樹脂製可とう管	合成樹脂製可とう管は，ＰＦ管(一重管)とし，温度による分類はタイプ－25とする。
	㉗ 二種金属製可とう管	露出箇所　⊙ ビニル被覆あり　・ ビニル被覆なし いんぺい箇所　・ ビニル被覆あり　⊙ ビニル被覆なし
	㉘ 電線本数，管路など	分電盤，制御盤，端子盤などの２次側以降の配線経路，電線太さ，電線本数，管径などは，監督職員の承諾を受け変更してもさしつかえない。
	29．インサート	鋼鉄製とする。なお，床版で保温板打込み部分は，断熱材用インサート（亜鉛めっき製品）を使用する。
	㉚ 呼び線	長さ１ｍ以上の通線しない電線管には，１．２㎜以上のビニル被覆鉄線を通線する。
	㉛ フラッシュプレート	図面に特記なき場合，（ ※ 金属製（ステンレス・新金属も含む）　・ 樹脂製 ）とする。
	32．フロアプレート･ベース	※ 水平高低調節付（空転防止リング付）　・ 銅合金製　・ アルミ合金製
	33．ハンドホール蓋	県章およびチェーン（ステンレス製）付のものとする。
	㉞ 支持金物，固定金物	屋外の機器及び配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製とし，屋外機器のアンカーボルトのナットには，ナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 また，振動をともなう機器の支持金物のナットは，ダブルナットとする。
	35．あと施工アンカー	施工方法　・ 接着系（ ※ 有機系　・ 接着剤 ） ・ 金属拡張系（ ※ 本体打込式　・　） 性能・施工確認　※ 行わない　・ 行う
	㊱ 接地極の種別・表示等	接地極は図面に特記なき場合，下表による。なお，ＥＢの長さは１，５００㎜とする。 ただし，Ｄ＝１０は１，０００㎜，Ｗ＝３０は１，２００㎜とする。 装柱機器及び屋外灯用接地極の埋設標は不要とする。（下表）

	接 地 の 種 別	記 号	接地抵抗値	接地極の規格，数量
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＰ×２
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×　連－　組
・	共同接地	EA・ED・ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	共同接地	EA・EC・ED	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	Ａ種	EA	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×２
⊙	Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
⊙	Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×１
・				
・	構内交換機（陽極）用	Et	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－　組
・	本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	電話引込口の保安器	EDt	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×１
・	拡声増幅器	EDa	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×１
・	防犯装置用	ES	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－　組
・				
・	測定用	Eo	――――	ＥＢ(Ｄ＝10又はW＝30)×１
・	避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×３連－２組
・	避雷器用（モデム用）	EMD	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はW＝40)×１
・	構造体接地			建築構造体利用（通信用も含む）

章	項 目	特 記 事 項
一般共通事項	㊲ 総合調整	各機器の個別運転後に総合調整を行い，報告書を提出すること。 ・ 受変電設備　・ 発電設備　⊙ 照明装置　・ 構内交換設備　⊙ 急速充電装置
	㊳ 塗装工事	下記部位に使用する外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ※ 屋外　※ 居室　・
電灯設備	① 工事範囲	⊙ 配管　⊙ 配線　⊙ 分電盤類　⊙ 機器類
	② 電気方式	⊙ 幹線　三相３線式　２１０Ｖ　５０Ｈｚ　⊙ 三相４線式　１８２／１０５Ｖ ⊙ 分岐　単相２線式　１００Ｖ ⊙ 分岐　単相２線式　２００Ｖ 幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
	③ 施工方法	分岐　電灯　⊙ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　⊙ ケーブル配線　・ その他（　） コンセント　⊙ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　⊙ フロアダクト配線　・ その他（　） 屋外露出　・ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　・ ケーブル配線 ボックス　⊙ 合成樹脂製　・ 金属製
	④ 照明器具	ＬＥＤ　⊙ 一体型　・ 直管型(JEL801)　・ 直管型(JEL802)　⊙ ダウンライト　・ その他
	5．防災用照明器具	・ 非常用照明器具（ ※ 電池内蔵形　・ 電源別置形 ） ・ 誘導灯（ ※ ＬＥＤ誘導灯　・ 誘導標識 ）
	6．照度測定	照度測定は，原則，本工事範囲全て行うものとするが，これにより難い場合は監督職員との協議による。
	7．ハイテンションアウトレット	※ 銅合金製　・ アルミ製 ※ 飛び出し形　・ 外部固定形
	⑧ 人感センサプレート	照明の人感センサ制御を行う部屋には，注意プレートを設置する。
	9．予備配管	埋込形分電盤からの立上り予備配管は，予備の配線用遮断器が４個以下の場合は（ＰＦ２２）を１本，５個以上の場合は（ＰＦ２２）を２本以上，天井裏まで立上げる。 梁下に配管・配線スペースのない梁には，１スパンにＶＥ（３６）２本を予備スリーブとして埋込む。
動力設備	1．工事範囲	・ 配管　・ 配線　・ 制御盤類
	2．電気方式	・ 幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ ・ 分岐　三相３線式　２００Ｖ
	3．施工方法	幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線　・ その他 分岐　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ その他 屋外露出　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線 ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製
	4．警報盤	※ 壁掛形（電源装置　※ 内蔵　・ 別置 ）　・
	5．電磁開閉器用押釦（遠方操作用）	※ 埋込連用形配線器具　・
	6．機器への接続	電動機などへの接続は本工事とする。
	7．電動機等の接地	図示以外は金属管接地とする。
	8．進相用コンデンサ	各負荷ごとに適合するコンデンサを取り付ける。
	9．電気自動車用充電装置	・ 機器類　・ ・ 普通充電装置　電圧　相　Ｖ　・ 屋外型　・ 屋内型 ・ 急速充電装置　直流電圧　Ｖ
電熱設備	1．電気方式	幹線　相　線式　Ｖ　５０Hz 分岐　相　線式　Ｖ
	2．施工場所及び面積	・　（　㎡）　・　（　㎡）

章	項 目	特 記 事 項
雷保護設備	1．工事範囲	・ 受雷部　・ 引下げ導線　・ 接地極埋設
	2．受雷部	・ 突針　・ 棟上導体　・ 笠木（別途）など
	3．避雷導線	・ 引下げ導線　・ 構造体利用
	4．接地極	※ 接地極埋設　・ 構造体利用（測定時期　回数　）
	5．測定用補助接地極	・ 設置
受変電設備	① 工事範囲	・ 機器類　⊙ 既設配電盤の改修
	2．電気方式	・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ ・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ　・ 低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ
	3．引込ケーブル	・ ＥＭ－ＣＥＴ３８°　・ ＥＭ－ＣＥＴ６０° ・ ＥＭ－ＣＥ３８°－３Ｃ　・ ＥＭ－ＣＥ６０°－３Ｃ　・
	④ 配電盤	⊙ 屋内形　・ 屋外形（防塵処理及び結露対策を施す） ⊙ キュービクル式配電盤　・ 高圧閉鎖配電盤　・　・
	5．主遮断装置	※ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ－Ｓ）　・ 高圧交流遮断器（ＣＢ） 定格遮断電流　ｋＡ
	6．高圧機器類	・ 油入式　・ モールド ・ 手動　・ 電動　・電磁
	7．変圧器	・ 単相変圧器　ｋＶＡ　・ 三相変圧器　ｋＶＡ （油入式：JIS C4304-2013適合品 乾式：JIS C4306-2013適合品）
	8．進相用コンデンサ	※ 低圧　・ 高圧 ・ 油入式　・ モールド　・ガス式
	9．リアクトル	・ ６％　・ １３％ ・ 油入式　・ モールド
	10．自動力率制御装置	※ メーターリレー形　・ 静止形
	11．測定用補助接地極	・ 設置
電力貯蔵設備	1．直流電源装置	※ 非常用照明器具電源，受変電設備制御電源供用　・ 受変電設備制御専用　・ 非常用照明器具専用 蓄電池　・ 鉛蓄電池（ ・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　） ・ アルカリ蓄電池（ ・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　） ・ リチウムイオン電池
	2．交流無停電電源装置	用途（　） 容量　ｋＶＡ 蓄電池　・ 鉛蓄電池（ ・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　） ・ アルカリ蓄電池（ ・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　） ・ リチウムイオン蓄電池
発電設備	1．工事範囲	・ 機器類　・
	2．形 式	・ 簡易形　・ キュービクル式　・ オープン形　・ ・ 屋内形　・ 屋外形
	3．発電機	電気方式　相　線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ　運転時間　時間
	4．原動機	種類　・ ディーゼル　・ ガスタービン　・ 定格出力　kW以上（　ＰＳ以上） 始動方式　※ 電気式　・ 空気式 冷却方式　・ ラジエータ式　・ 水冷循環式
	5．燃 料	種類　・ 軽油　・ 灯油　・ Ａ重油 燃料小出槽　Ｌ 主貯油槽　・ なし　・ あり（ ・ 別途　・ 本工事：　）
	6．太陽光発電装置	太陽電池アレイ公称出力　ｋW パワーコンディショナ　相　線式　定格電圧　Ｖ　定格出力　ｋW 自立運転　・ 有　・ 無 蓄電池　・ 有（定格容量　ｋWｈ）　・ 無
	7．系統連系	・ 有　・ 無
構内交換設備	1．工事範囲	・ 交換機　・ 電話機　・ 配線（ ・ 全部　・ 端子盤以降 ）
	2．電話交換機	形式　・ ボタン電話装置　・ デジタルＰＢＸ　・ＩＰ－ＰＢＸ　・ＶｏＩＰサーバ 回線数　局線　／　回線　内線　／　回線
	3．電話機への配線	電話機１台につき，下記のものを見込む。 ・ ＥＭ－ＴＩＥＦ０．６５－２Ｃ（ ・ ２０ｍ　・　） ・ ＥＭ－ＥＢＴ０．４－２Ｐ（ ・ ２０ｍ　・　） ・ ワイヤープロテクタ（樹脂製　外形寸法約２０×８）１．５ｍ
	4．ローテンションアウトレット（亀甲形）	※ 一般電話用　個（ ・ 納入する　・ 取り付ける ） ※ 銅合金製　・ アルミ製
	5．保安器用接地	※ 本工事　・ 別途工事
通信・情報設備	1．工事範囲及び施工方法	（下表） ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製　・

項 目	工事範囲 配管	工事範囲 配線	工事範囲 機器類	施工方法 合成樹脂管配線	施工方法 金属管配線	施工方法 ケーブル配線
・ 構内情報通信網	・	・	・	・	・	・
・ 情報表示	・	・	・	・	・	・
・ 映像・音響	・	・	・	・	・	・
・ 拡声	・	・	・	・	・	・
・ 誘導支援	・	・	・	・	・	・
・ テレビ共同受信	・	・	・	・	・	・
・ テレビ電波障害防除設備	・	・	・	・	・	・
・ 監視カメラ	・	・	・	・	・	・
・ 駐車場管制設備	・	・	・	・	・	・
・ 防犯・入退室管理	・	・	・	・	・	・

章	項 目	特 記 事 項
通信・情報設備	2．構内情報通信網設備	種類　・ １０ＢＡＳＥ－Ｔ　・ １００ＢＡＳＥ－ＴＸ　・ １０００ＢＡＳＥ－Ｔ ・ １０ＧＢＡＳＥ－ＳＲ　・
	3．情報表示設備	・ 親時計　回線（ ※ 壁掛形　・ 自立形 ） （ ・ 電子式チャイム組込　・ プログラムタイマ組込 ）
	4．映像・音響設備	・ 増幅器　Ｗ ・ ＶＴＲ（ ・ ＤＶＤ　・ ＢＤ　・ Ｓ－ＶＨＳ　・　） ・ プロジェクタ（ ※ 前面投射式　・ 背面投射式 ） ・ 音響設備（ ・ ＣＤ　・ オーディオレコーダー　・ カセット　・　）
	5．拡声設備	・ 一般放送用　・ 非常放送兼用 ・ 増幅器　Ｗ（ ※ 卓上形　・ キャビネットラック形）
	6．誘導支援設備	・ インターホン　・ トイレ等呼出装置　・ 音声誘導装置
	7．テレビ共同受信設備	・ テレビアンテナ（ ・ ＡＵ－　・ ＣＳＢＳＡ－　・ ＣＳＡ－ ） ・ 地上波アンテナマスト（ ※ 壁面取付形　・ 自立形 ） ・ ＢＳアンテナマスト（ ・ 壁面取付形　・ 自立形 ） ・ 電界強度測定及び受信調査（ ※ 全チャンネル ）
	8．テレビ電波障害防除設備	・ 事前調査　・ 機器類
	9．監視カメラ設備	・ 白黒方式　※ カラー方式 ・ 伝送方式（ ・ アナログ　・ ネットワーク ）
	10．駐車場管制設備	・ 管制盤　・ 検知器（ ・ 光線式　・ ループコイル式） ・ 信号灯・警報灯　・ 発券機　・ カーゲート　・ カードリーダー
	11．防犯・入退室管理設備	・ 接地工事（ ※ 本工事　・ 別途 ）
火災報知設備	1．工事範囲	・ 配管　・ 配線　・ 機器類
	2．火災報知装置	・ 壁掛形　・ 自立形 ・ 受信機　型　級　回線（　アドレス） ・ 複合盤　型　級　回線（火報　回線，自動閉鎖　回線，ガス漏れ　回線） ・ 副受信機　型　級　回線 ・ 機器収容箱　・ 専用形（ ・ 埋込形　・ 露出形 ）　・ 屋内消火栓箱に組込み ・ 感知器類　型用　総数　個（ ・ 自動試験機能付 ）
	3．非常警報装置	・ 非常ベル（自動式サイレンを含む）　・ 非常放送装置
	4．自動閉鎖装置	・ 連動制御器 ・ 自動閉鎖装置（ ・ 防火戸用　・ 防煙ダンパ用　・ 防火シャッター用 ） ・ 感知器
	5．ガス漏れ火災警報装置	・ 受信機　回線（ ・ 都市ガス用　・ 液化石油ガス用） ・ 単独（ ・ 壁掛形　・ 自立形 ）　・ 火災受信機などとの複合盤 ・ 検知器 ・ 併設　・ 連動 ・ 定格電圧（ ・ ＡＣ１００Ｖ　・ ＤＣ２４Ｖ ） ・ ガス検知出力信号（ ・ 有電圧出力方式　・ 無電圧接点方式 ）
	6．消火器類	・ 消火器　種別 ・　数量　本 ・ 消火器収納箱　仕様 ・　材質 ・　数量　面
中央監視制御設備	1．工事範囲	・ 配管　・ 配線　・ 機器類
	2．監視制御対象設備	・ 動力設備　・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 火災報知設備
	3．表示操作盤	・ 壁掛形　・ 自立形 組込み機器　・　・ ・　・
	4．監視制御装置	構成機器　・ グラフィックパネル　・内照式液晶ディスプレイ　・ 操作卓 ・ 監視操作装置　・ 信号処理装置　・ 伝送装置　・ 分散処理装置 ・ 中央処理装置　・ 補助記憶装置　・ 記録装置　・ 電源装置 ・ 帳票用印字装置（ ・ インクジェット式　・ 写真式 ）
構内配電線路	① 工事範囲	⊙ 管路　⊙ 配線　⊙ 機器類
	② 電気方式	・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Hz ⊙ 低圧　三相３線式　２１０Ｖ ⊙ 低圧　単相４線式　１８２／２１０Ｖ ⊙ 低圧　単相２線式　１００Ｖ
	③ 布設方法	※ 地中埋設式（ ⊙ ＦＥＰ　・ ＧＬＴ　⊙ 厚鋼電線管 ）　・ 架空線式
	4．柱上機器	・ 高圧負荷開閉器　※ 一般用　・ 耐重塩じん用 ※ 地絡継電器付き（※ 方向性　・ 無方向性） ・ 避雷器　※ 一般用　・ 耐塩用 ・ 高圧カットアウト，がいしなど　※ 一般用　・ 耐塩用
	5．高圧ケーブルの端末処理	屋外側　※ 一般用　・ 耐塩用 ※ 処理者銘板取付（屋内外共，線名，作業日，氏名を表示）
	6．その他	東北電力（株）外線工事基準（架空線編）に準ずる。
	⑦ 外灯設備	・ 定格電圧　Ｖ　Ｗ　⊙ ソーラー外灯単独
	⑧ 沈下対策	地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は，沈下対策を施す。（　）
	⑨ 標識シート	・ 高圧ケーブル　⊙ 低圧ケーブル
	10．予備配管	屋外キュービクルから第１ハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ１００：１本）を設ける。 分電盤，動力盤から建物へのハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ８０：２本）を設ける。
構内通信線路	1．工事範囲	・ 管路　・ 配線
	2．用途	・ 電話用　・ 時計，拡声用　・ 火災報知用
	3．施工方法	※ 地中埋設式（ ・ ＦＥＰ　・ ＧＬＴ　・ 厚鋼電線管）　・ 架空線式
	4．標識シート	※ 弱電用

表２「機器取付高さ」　図面に特記なき場合は下表による。ただし，これによりがたい場合は監督員と協議する。

電 力 設 備

	名 称	測 点	取付高（㎜）
電力共通	取引用計器	地上～窓中心	約 1,800
	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,200
	分電盤	床上～中心	1,500(上端1,900以下)
電灯	スイッチ（一 般）	床上～中心	1,300
	〃（和 室）	〃	1,200
	コンセント(一 般)	〃	300
	〃（和 室）	〃	150～ 200
	〃（台 上）	台上～中心	100
	〃（ファン用）	床上～下端	ファン下端
	〃（厨 房）	床上～中心	800～1,000
	〃（車 庫）	〃	1,300
	〃（機械室）	〃	500～1,000
	〃（土 間）	〃	800～1,300
	ブラケット(一 般)	床上～中心	2,100～2,300
	〃（踊 場）	〃	2,000～2,500
	〃（鏡 上）	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500(上端2,000以下)
	開閉器箱	〃	1,500
	電磁開閉器用ボタン	〃	1,300
身障者用	非常ボタン(便所用)	床上～中心	400、900
	壁付インターホン(親機)	〃	1,300
	〃（玄関子機）	〃	1,100
	廊下表示灯(復旧ボタン付)	〃	1,300
	身障表示ランプ	〃	1,500
	スイッチ	〃	1,100

通 信 設 備

	名 称	測 点	取付高（㎜）
電話	引込線留め高	地上～引込点	
	集合保安器箱	天井下～上端	200
	端子盤(廊下、室内)	床上～下端	300
	〃（ＥＰＳなど）	床上～中心	1,500
	壁付アウトレット(一 般)	床上～中心	300
	〃（和 室）		150～200
時計・拡声・通信設備	壁掛形親時計	床上～中心	1,500(上端2,000以下)
	子時計	〃	2,300
	壁掛形スピーカ	〃	2,300
	壁付アッテネータ	〃	1,300
	壁付インターホン(一 般)	床上～中心	1,300
	〃（身体障害者）	〃	1,300
	壁付アウトレット(一 般)	〃	300
	〃（和 室）	〃	150～200
	機器収容箱	天井下～上端	200
	直列ユニット(一 般)	床上～中心	300
	〃（和 室）	〃	200
警報・表示等	表示盤	床上～中心	2,300
	壁付発信機	〃	1,300
	ベル，ブザー，チャイム	〃	2,300
	壁付押しボタン(一 般)	床上～中心	1,300
	〃（身体障害者玄関）	〃	900
火災報知器	受信機	床上～中心	800～1,500
	副受信機	〃	800～1,500
	機器収容箱	〃	800～1,500
	発信機	〃	800～1,500
	表示灯	床上～中心	2,100
	ベル	〃	2,300
	液化石油ガス用検知器	床上～上端	250
	都市ガス用検知器（軽質）	天井～上端	150
	〃（重質）	床上～上端	250

表１「完成書類」　引き渡し時には下記の書類を提出する。

名 称	完 成 書 類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡要領（平成３１年１月１５日版）	1部
2　完成図書	Ａ４版：黒表紙金文字製本（機器完成図，取扱説明書と合本可。ただし，厚さが８０㎜を越える場合は分冊とする。）	1部
3　完成原図	Ａ１版は三つ折りケース収納 Ａ２版は二つ折りケース収納	1組
4　完成図	白焼製本 Ａ１版又はＡ２版の二つ折り	1部
5　完成図(縮小)	白焼縮小製本 Ａ３版二つ折り うち１部は設備課保管	2部
6　完成図(電子データ)	JWW又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式	ＣＤ 2枚
7　施工図	白焼製本 Ａ１版又はＡ２版の二つ折り (施工図の枚数が少ない場合は，4　完成図と合本可)	1部
8　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査成績書 ④工場試験成績書 ⑤工場立会検査成績書 ⑥現場据付試験成績書 ⑦総合試運転成績書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （２　完成図書と合本可）	1部
9　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （２　完成図書と合本可）	1部
10　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
11　工事写真 ①施工写真	Ａ４版：チューブ式ファイル （着手前，施工状況，完成の各写真）	1部
②完成写真	Ａ４版：ペーパーファイル 完成届に添付	1部
12　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報又は日報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部

注記：機器参考図について

本図面中で，機器の品質・グレードを規定する目的で機器の寸法形状や諸元を参考図として記載している。

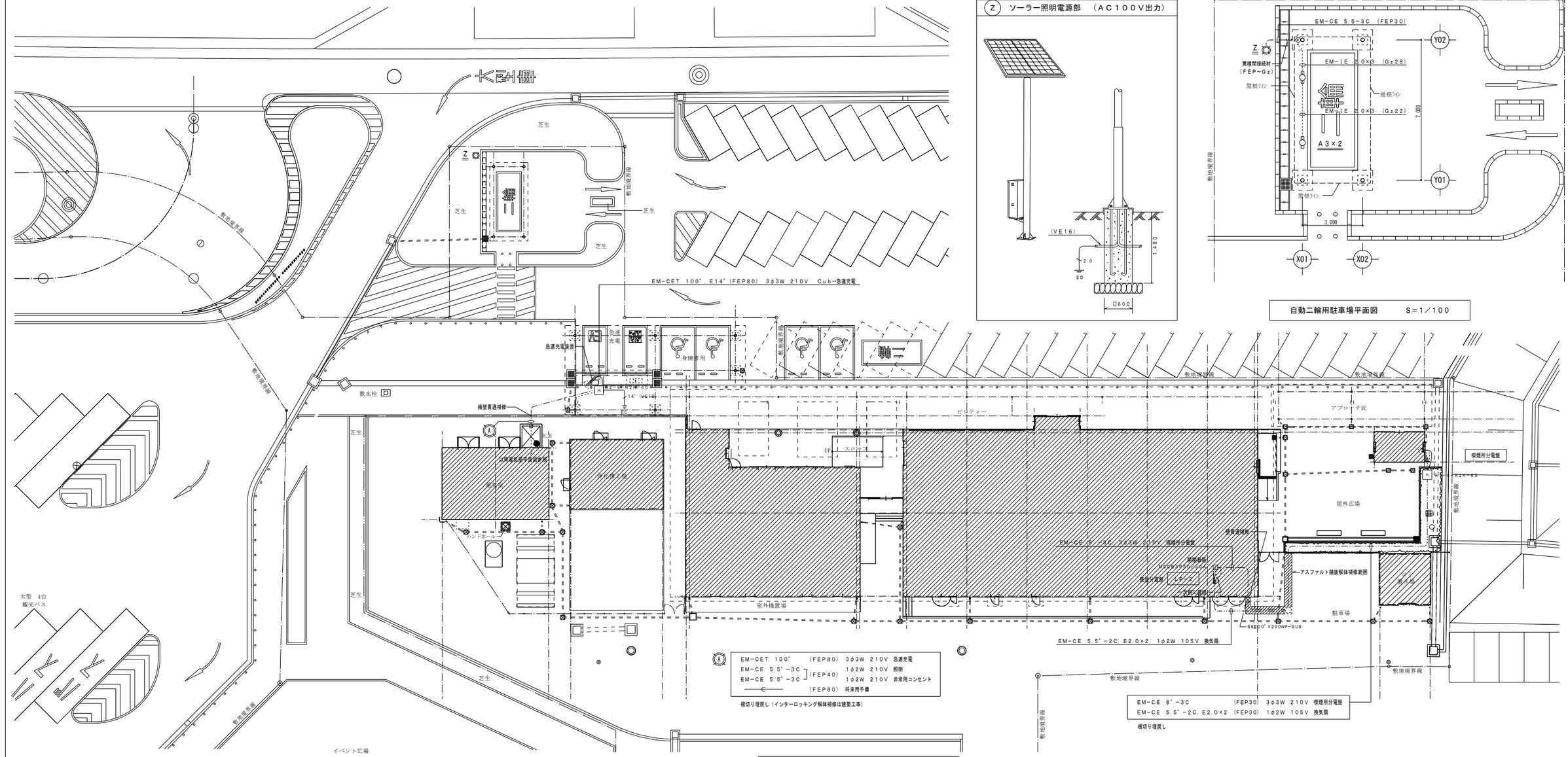
これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

特記　・
・
・
・

訂正　・
・
・
・

株式会社 ゴウ構造
一級建築士　第302881号　下山田　勇

日付		件名	図面番号
2021・01・05・		春日PA身障者用駐車場等改築工事	Ｅ－０１
古澤　克彦 一級建築士 第300198号	伊藤　雅子 一級建築士　第273862号	図名：上り線ＰＡ 電気設備工事特記仕様書	縮尺 A1:----- A3:-----

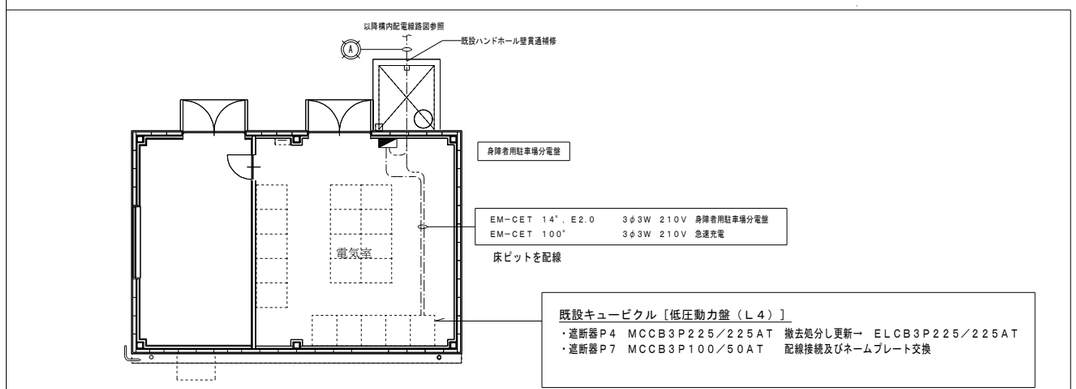


構内配電線路図　S=1／200

照明器具参考姿図

Z ソーラー照明電源部　（AC100V出力）

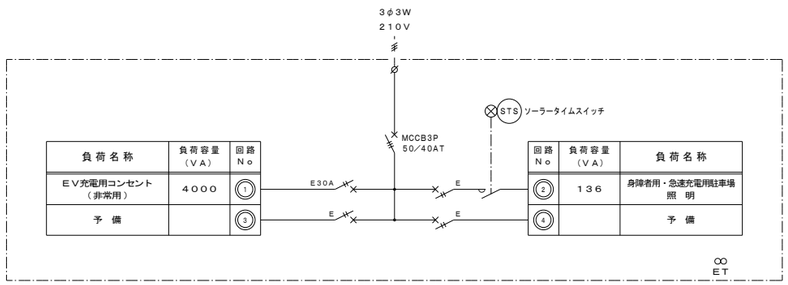
自動二輪用駐車場平面図　S=1／100



既設キュービクル［低圧動力盤（L4）］

・遮断器P4　MCCB3P225／225AT　撤去処分し更新→　ELCB3P225／225AT
・遮断器P7　MCCB3P100／50AT　配線接続及びネームプレート交換

電気室平面図　S=1／100



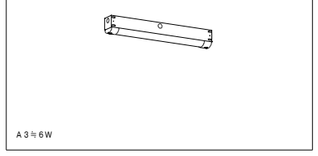
負荷名称	負荷容量（VA）	回路No
EV充電用コンセント（非常用）	4000	1
予備		3

回路No	負荷容量（VA）	負荷名称
2	136	身障者用・急速充電用駐車場照明
4		予備

身障者用駐車場分電盤結線図　キャビネット形式 T

・鋼板製露出型
・標準色仕上

A3 LSS1MP/RP-2-07 （100V）



特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号 伊藤 雅子 一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線PA 構内配電線路図	図面番号 E－02 縮尺 A1:1/200 A3:1/400

１．一般仕様

１．１　設置環境

設置場所	屋外
周囲温度	－１０℃～４０℃
周囲湿度	３０％～９０％
標　高	１０００ｍ以下

１．２　準拠規格

- ○　JEC　2410　　半導体電力変換装置
- ○　JEC　5919　　電力通信用電源装置（その３）静止型交流無停電電源システム
- ○　JEVS G 105　　電気自動車用エコ・ステーション急速充電システムのコネクタ
- ○　JEVS G 109　　電気自動車用コンダクティブ充電システム一般要求事項
- ○　CHAdeMO　　電気自動車用急速充電スタンド標準仕様書　Ver 0.9.1/1.1

２．電気仕様

項目		定格および特性 HFR1-50B8-A3	定格および特性 ~~HFR1-30B8-A3~~	備考
形式	定格	Ａ０		１００％連続
	冷却方式	強制風冷		－
	絶縁方式	高周波トランス絶縁方式		－
	接地方式	直流非接地		－
交流入力	定格電圧	ＡＣ２００Ｖ		－
	電圧変動範囲	±１５％以内		－
	相数	三相三線		－
	定格周波数	５０Ｈｚまたは６０Ｈｚ		－
	周波数変動範囲	±５％以内		－
	入力力率	０．９５以上		定格運転において
	入力電力	５６kVA以下	~~３４kVA以下~~	定格運転において
	高調波電流	総合　５％以内 各次　３％以内		－
	地絡検出	２００ｍＡ		漏電遮断器にて検出
直流出力	定格出力容量	５０ｋＷ	~~３０ｋＷ~~	－
	定格電圧	４００Ｖ		－
	電圧変動範囲	５０Ｖ～４５０Ｖ		－
	定格電流	１２５Ａ	~~７５Ａ~~	－
	電流可変範囲	０Ａ～１２５Ａ （最大５０kW）	~~０Ａ～７５Ａ~~ ~~（最大３０kW）~~	－
	電圧制御精度	±２％以内		－
	電流制御精度	±５％以内		－
	指令値応答速度	１００％／０．５sec以上		電圧／電流に対して
その他	変換効率	９０％以上		定格入出力にて
	騒音	６５ｄＢ以下		－
	絶縁抵抗	５ＭΩ以上		ＤＣ５００Ｖメガー
	絶縁耐圧	ＡＣ２０００Ｖ　１分間		－

３．構造仕様

３．１　盤構造

（１）盤構造	屋外閉鎖自立盤
（２）保護等級	ＩＰ４４

３．２　接続

（１）交流入力	端子台接続（MAX１００ｓｑ）
（２）直流出力	急速充電器用給電コネクタ（約５ｍ）
（３）接地	Ｃ種接地

３．３　塗装

塗装色：本体　白（マンセル N9.3近似　全艶）　　耐塩塗装

ベース　無塗装（ＺＡＭ鋼板）

３．４　配線

配線・・・・・・・ＪＥＭ１１３４に準拠　（配線材は弊社標準）

３．５　名称

「ＥＶ ＱＵＩＣＫ ＣＨＡＲＧＥＲ」

３．６　冷却

（１）吸気	装置右側面（ギャラリー付き）
（２）排気	装置左側面（ギャラリー付き）

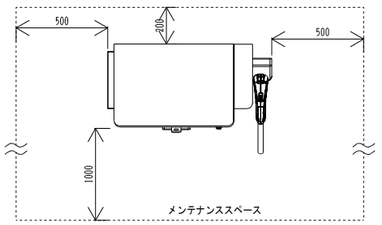
３．７　その他

ジャパンチャージネットワーク認証対応

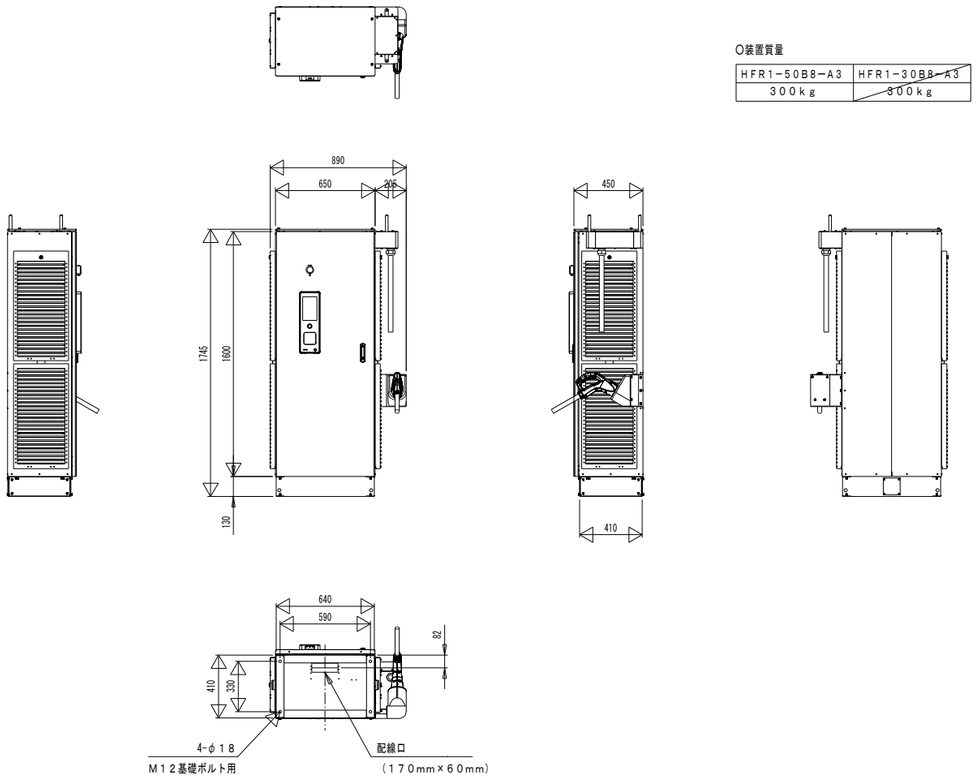
４．設置仕様

４．１　設置

（１）吊り上げ	装置ベース部吊穴加工	４点吊り
（２）固定	装置底面基礎ボルト（Ｍ１２）	４点固定
（３）メンテナンススペース	下図参照	



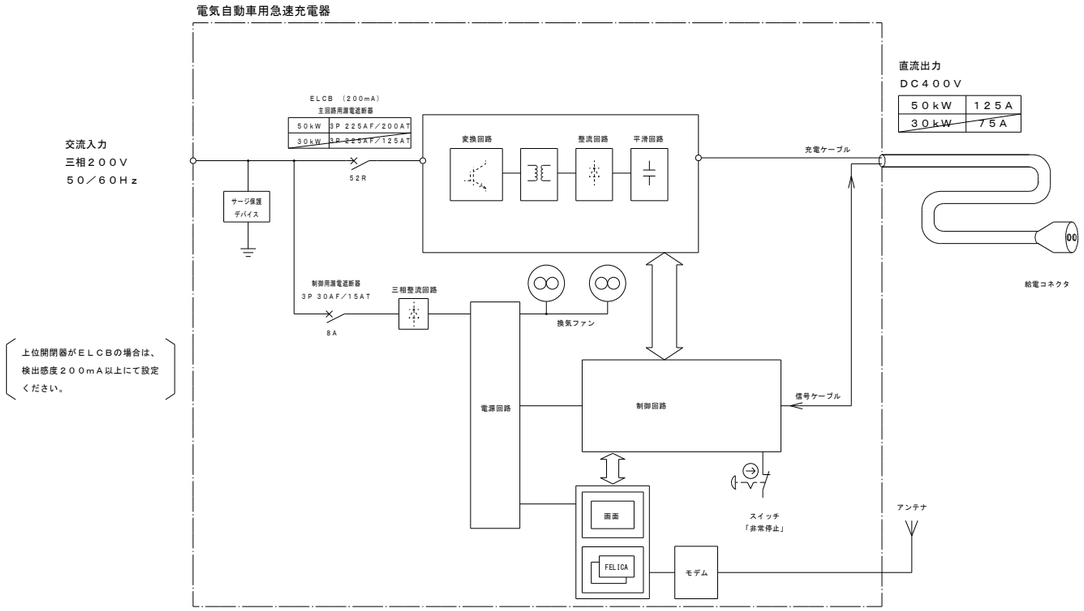
急速充電装置参考姿図

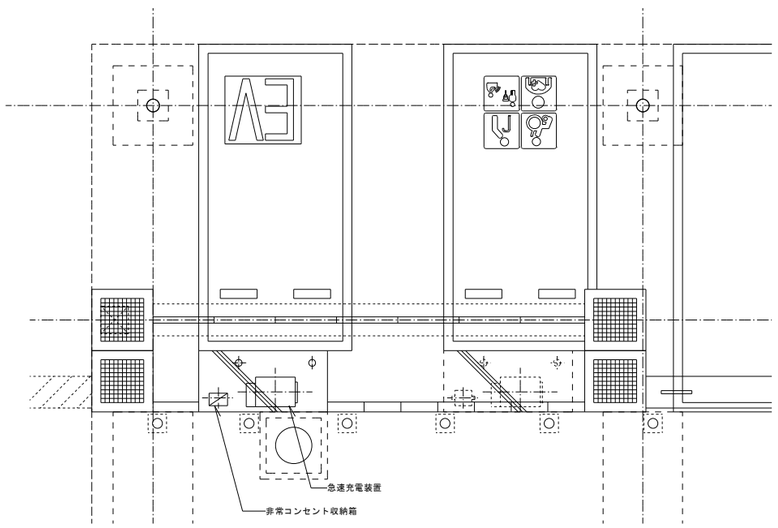


○装置質量

HFR1-50B8-A3	~~HFR1-30B8-A3~~
３００ｋｇ	~~３００ｋｇ~~

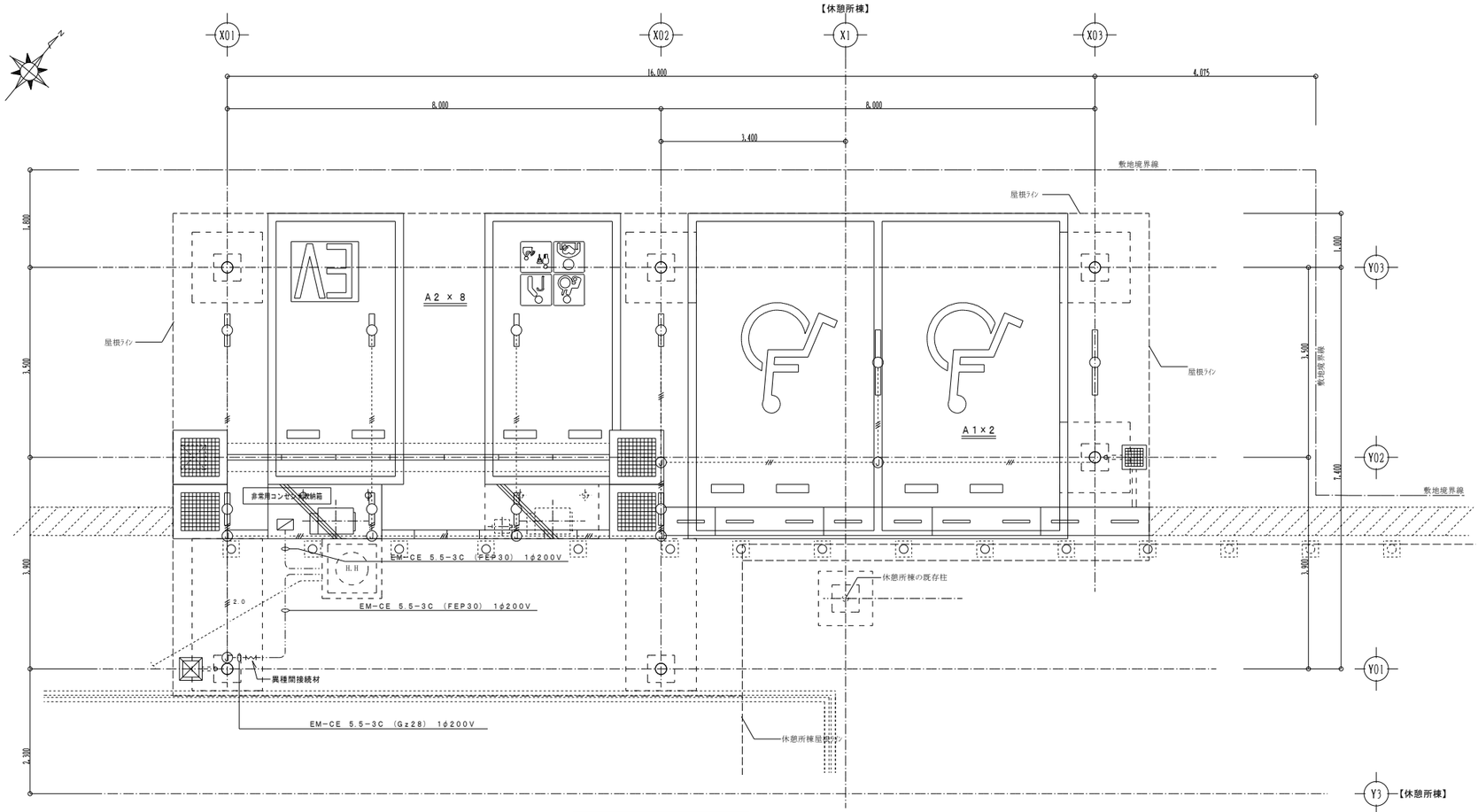
電気自動車用急速充電器





平面図　　S=1:50

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	伊藤 雅子 一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 Ｅ －０３
					図名 上り線ＰＡ 急速充電装置仕様書・参考姿図・急速充電用駐車場棟平面図	縮尺 A1:1/50 A3:1/100

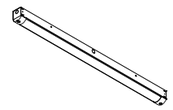


平面図　S=1:50

照明器具参考姿図

A1	LSS1MP/RP−4−30 (200V)

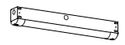
電球色



A1≒20W

A2	LSS1MP/RP−2−14 (200V)

電球色



A2≒12W

注記

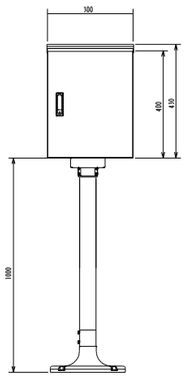
1．図中特記無き配管配線は下記による。

- ---------- EM−IE 1.6×2 (Gz16)
- ------//------ EM−IE 1.6×3 (Gz16)
- -----////----- EM−IE 1.6×6 (Gz22)
- ----////---- EM−IE 1.6×7 (Gz22)
- ------//2.0------ EM−IE 2.0×3 (Gz16)

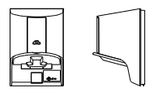
非常用コンセント収納箱参考姿図

収納箱　屋外防雨型	EV充電用コンセント（左図収納箱に取付）

フカサ200mm

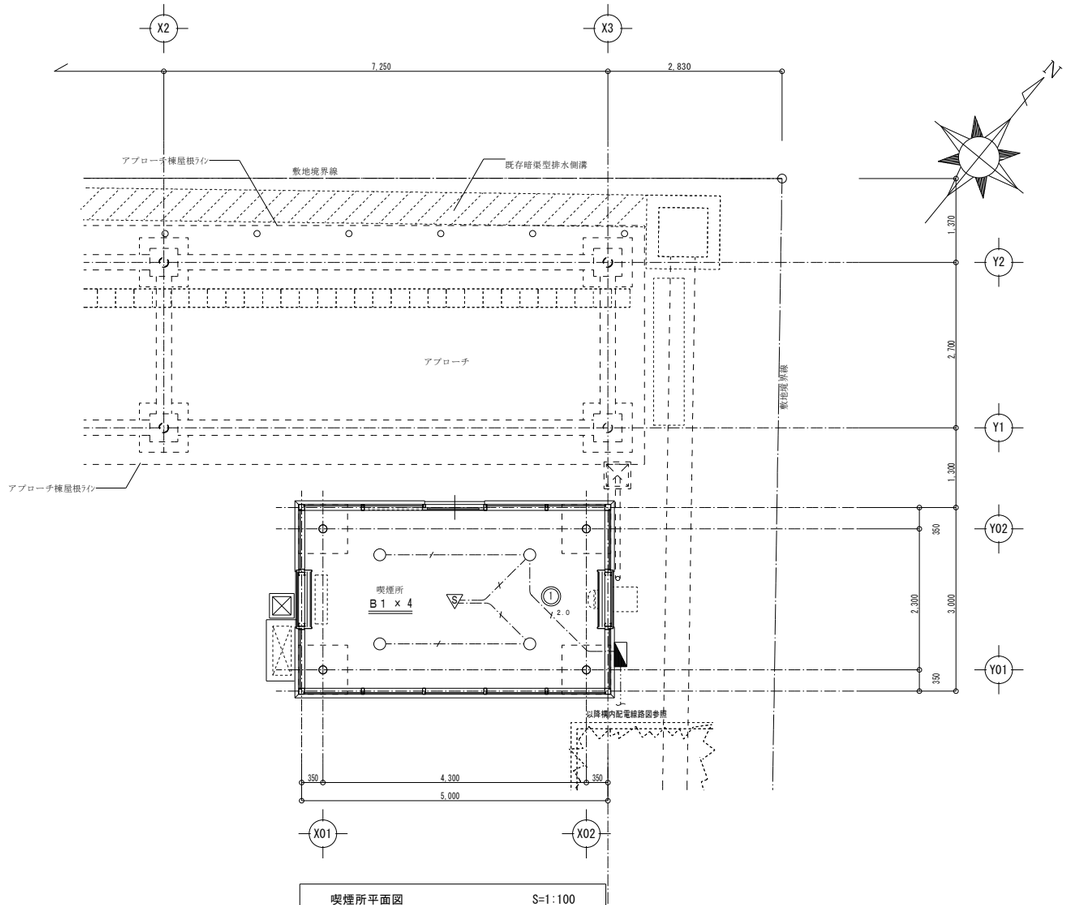


EV・PHEV充電用 15A・20A兼用接地型外ｺﾝｾﾝﾄ
（露出・埋込両用）（200V用）（ホワイトシルバー）

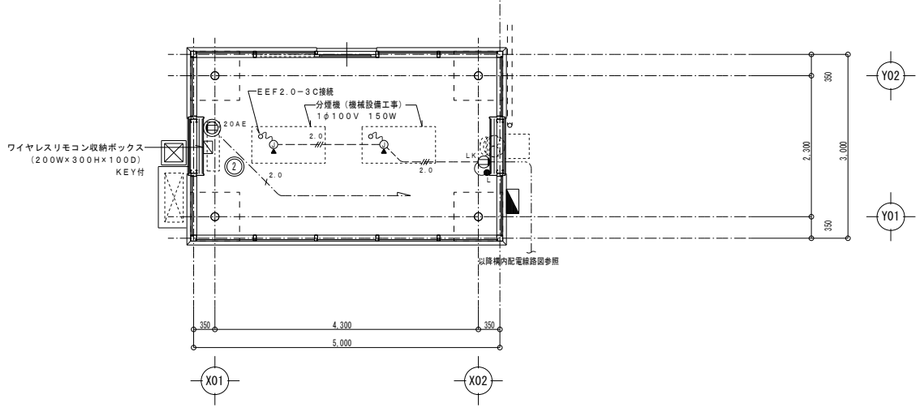


定格	20A 250V

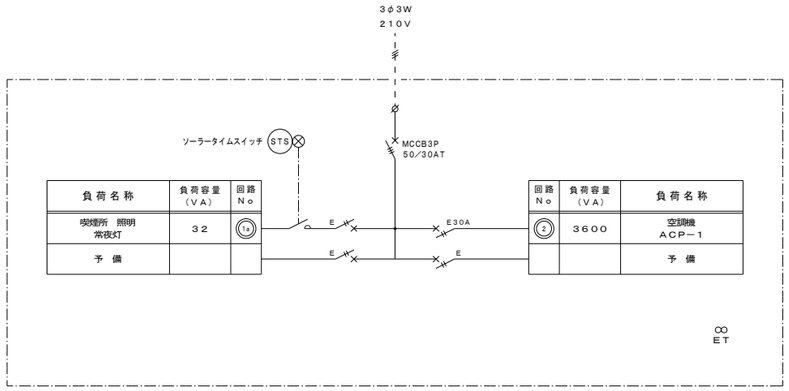
特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	伊藤 雅子 一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 E −04
					図名 上り線PA 身障者用・急速充電用駐車場棟 平面図	縮尺 A1:1/50 A3:1/100



喫煙所平面図　S=1:100



喫煙所平面図　S=1:100



喫煙所分電盤結線図　キャビネット形式 (T)

・鋼板製露出型
・標準色仕上
・屋外防雨型

注記

1．図中特記無き配管配線は下記による。

EM−EEF 1.6−2C
EM−EEF 1.6−3C
EM−EEF 2.0−3C
EM−IE 2.0×3 (PF16)

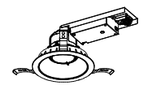
2．ケーブルの壁立ち上がり部分は適合ＰＦ管にて保護すること

3．配線器具類　凡例

人感センサー（明るさセンサー付）
LK　2P15A×1　抜止
20AE　2P20AE×1 (200V)
フロアボックス　分煙機下部隠蔽箇所に取付

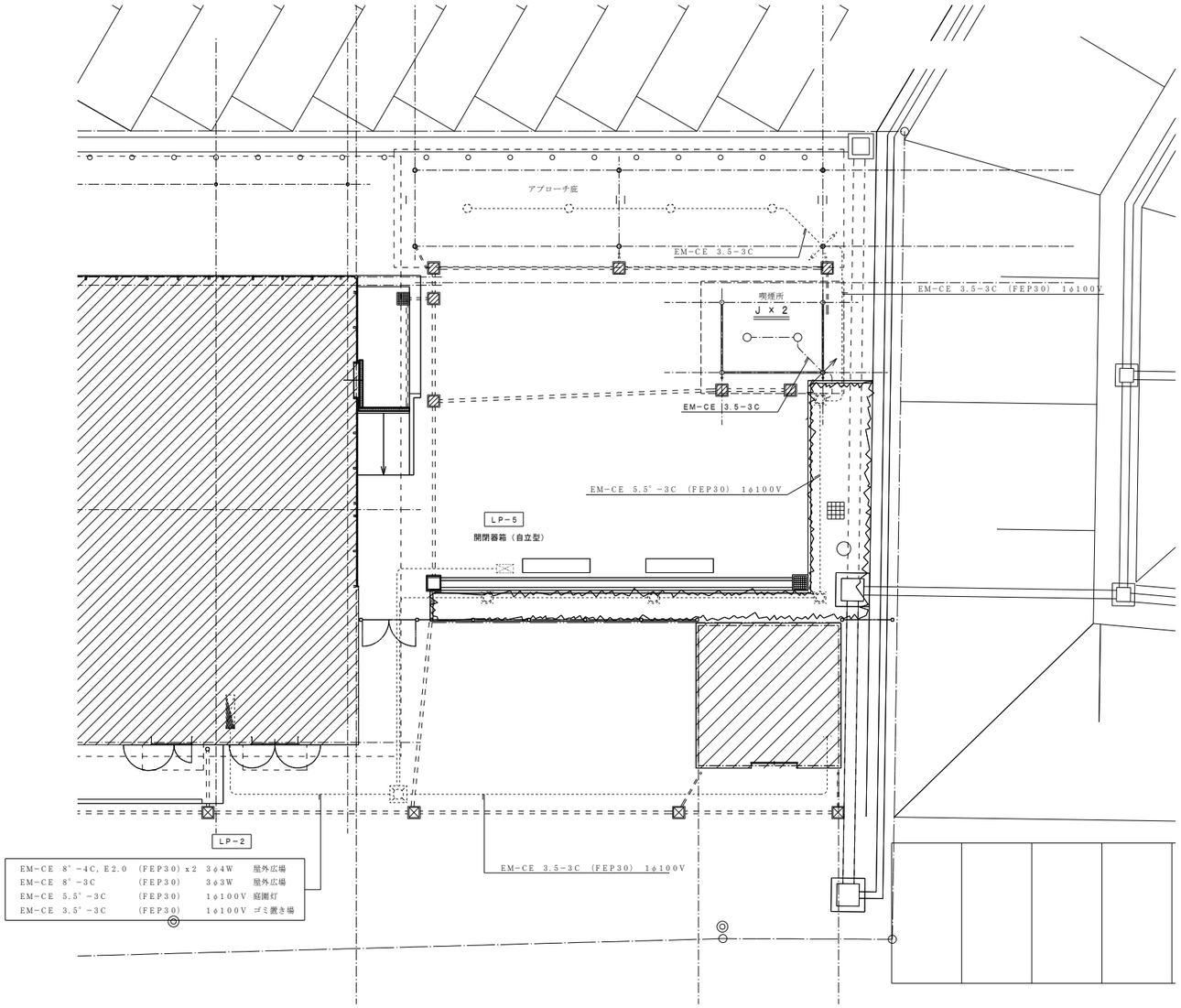
照明器具参考姿図

(B1)　LRS8−08



B1≒8W

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	伊藤 雅子 一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事	図面番号 E −05
					図名 上り線ＰＡ 電気設備 喫煙所棟平面図	縮尺 A1:1/50 A3:1/100

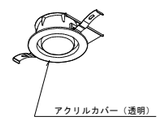


既存喫煙所平面図（撤去）　S=1:100

既設照明器具姿図

Ⓙ　LED6W　軒下用ダウンライト　（RP）

断熱施工可能型



注記

1．喫煙所解体に伴い、図中に太線で示す器具、配管配線類を撤去処分する。
2．破線表記は既設のままとする。
3．特記のない器具類でも不要と思われる物は監督員と協議の上、撤去処分とする。

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号 下山田 勇	日付 2021・01・05・ 古澤 克彦 一級建築士 第300198号	伊藤 雅子 一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線ＰＡ 電気設備 喫煙所棟平面図（撤去図）	図面番号 Ｅ －０６ 縮尺 A1:1/50 A3:1/100

機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　春日PA身障者用駐車場等改築工事

2．工事場所　宮城郡利府町

3．建物概要

建物名称	構造	階数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
パーキングサービスエリア	S造					

4．工事種目（◎印のついたものを適用する。）

工事種目＼建設場所	屋外	喫煙室	工事種別	屋外
◎空気調和設備		新設一式		
◎換気設備		新設一式		
・排煙設備				
・自動制御設備				
・衛生器具設備				
・給水設備				新設一式
・排水設備				新設一式
・給湯設備				
・消火設備				
・厨房機器設備				
・ガス設備				
・さく井設備				
・浄化槽設備				
・昇降機設備				
・その他設備				

5．指定部分　※　なし　・　あり　（工期：令和　年　月　日）（対象部分：　）

6．概成工期　※　なし　・　あり

7．設備概要　（◎印のついたものは、主要方式を示す）

方式	設備概要
空気調和方式等	・空気調和　・全空気方式　・ファンコイルユニット、ダクト併用方式　◎パッケージ方式
	・温風暖房　・全空気方式　・ファンコンベクター、ダクト併用方式
	・直接暖房　・温水暖房　・
自動制御方式	・電気式　・電子式　・デジタル式　・空気式　・中央監視制御
給水方式	・水道直結方式　・高置タンク方式　・タンクレスブースター方式　・
排水方式	建物内の汚水及び雑排水（・分流式　・合流式） 建物外の汚水及び雑排水（・分流式　・合流式） 放流先　汚水（・下水道直放流　・浄化槽） 雑排水（・下水道直放流　・浄化槽　・側溝　・別途側）
給湯方式	・局所式　・中央式
消火設備方式	・屋内消火栓（・湿式　・乾式）　・連結送水管　・屋外消火栓 ・スプリンクラー（・湿式　・乾式）　・不活性ガス消火　・泡消化 ・粉末消火　・連結散水　・ハロゲン化物消火　・パッケージ型自動消火　◎消火器
ガス設備方式	・都市ガス　種別（　）　kJ／m3（N）（供給圧力　Pa）　・液化石油ガス

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項　（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　平成31年版）」（以下「標準仕様書」という。）、同部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　平成31年版）」（以下「標準図」という。）による。

（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図、建築工事の工事仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項　（1）項目は番号に◎印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、◎印の付いたものを適用する。◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
◎印と◎印の付いた場合は、共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	①適用基準等	◎公共建築工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成31年版） ◎建設工事執行規則（昭和39年3月宮城県規則第9号） ◎宮城県建設工事共通仕様書（最新版） ◎宮城県建設工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成12年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜機械設備工事編＞（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成30年版）
	②機材等	※本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの、またはこれらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 ※本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※使用する材料のホルムアルデヒド仕様は、日本産業規格及び日本農林規格のF☆☆☆☆規格品、建築基準法第28条の2に適合する製品とし、化学物質等製品安全データシート等に……ホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③機材の品質・性能証明	本工事着手前に機器製作図を提出し、監督職員の承諾を受けるものとする。また、設備機材は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等の写しを監督職員に提出して、承諾を受けるものとする。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等を除く。
	④保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を、本工事完了後引渡し期日まで、火災保険及びその他の保険に付し、写しを監督職員に提出のこと。
	⑤雇用	本工事は、公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努めること。
	⑥施工計画書および施工図等	工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。工事の施工に先立ち、工種別施工要領書および施工図等を作成し、監督職員の承諾を受けること。また、県が実施する「公共事業環境マネジメントシステム」の対象工事においては、環境配慮計画（実施）書を作成し、監督職員に提出する。
	⑦工事実績情報の登録	請負額が500万円以上の工事は、本工事実績情報に登録する。受注時、変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領証を監督職員に提出のこと。
	⑧手続	工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。なお、当該手続きに係る費用は、受注者の負担とする。
	⑨事故報告	施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出のこと。
	10．電気保安技術者	※配置する　・配置しない
	⑪技能士の適用	本工事に下記の当該職種別技能士（①1級②2級）を適用させる。（資格証の写しを提出する） ◎配管（配管工事）　・建築板金（ダクト製作及び取付け）　◎熱絶縁施工（保温工事） ・冷凍空気調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空気調和機の据付及び調整）
	⑫足場等	◎別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・本工事で設置 枠組足場を設置する場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月改訂）」によるものとし、二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑬監督職員事務所	※設けない　・設ける（　号・・建築工事仕様書）
	⑭工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続などの費用はすべて引渡まで受注者の負担とする。
	15．工事用仮設物	構内に作ることが　※できる　・できない
	16．残土処理	・構外搬出　※構内指示の場所に敷き均し　・構内指示の場所にたい積
	⑰発生材の処理	（1）建設リサイクル法の規定に基づく通知義務等の該当　◎なし　・あり（　） （2）フロンガス回収破壊法の規定に基づく措置の該当　◎なし　・あり（　） （3）引渡しを要するもの　◎なし　・あり（　） （4）廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し、場外搬出の上、適切に処分すること。 （ア）特別管理産業廃棄物　※なし　・あり（　） （イ）特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う施設 ・コンクリート（　） ・コンクリート及び鉄から成る建設資材（　） ・木材（　） ・アスファルトコンクリート（　） （ウ）その他発生材の処分を行う施設 ・コンクリートガラ等の安定型の産業廃棄物（　） ・木くず等の管理型の産業廃棄物（　）
		建設リサイクル法 ・対象工事 落札が決定した業者は、分別解体等省令で定める様式第1号別表1～3のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し、契約締結前に、契約担当者等に説明書を提出するものとする。また、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づいて書面により報告すること。 ・対象外工事
	⑱総合試運転調整等	※本工事において下記の総合試運転調整等を行い、報告書を提出する。　・別途 総合試運転調整等の項目 ・風量調整　・水量調整　◎室内外空気の温湿度測定 ・室内気流及びじんあいの測定　・騒音の測定　◎初期運転状態の記録 ・末端水栓の水質測定　・し尿浄化槽放流水質の測定 ◎機器の絶縁抵抗の測定　・水圧調整 測定箇所は、監督職員の指示による。
	⑲容量等の表示	（1）機器類の能力、容量等は指示された数値以上とする。 （2）電動機出力、燃料消費量及び圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	⑳耐震措置	機器、配管、ダクト等は耐震を考慮し堅固に据え付け、取付け又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外すべて建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立法人建築研究所監修2014年版）による。

設置場所	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中層階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
一階及び地下階	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

（設計用標準水平震度（Ks））

注（1）設置場所の区分は標準仕様書による。　注（2）（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
（2）本工事の施設は（◎一般の施設　・特定の施設）とする。
（3）地域係数は1.0とする。
（4）100kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し、据付又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
（5）重要機器類（高置タンク、受水タンクは機器表による。）
（6）昇降機のつり合おもりブロックの脱落防止は、十分な強度を有する方法で固定し、水平相互方向の地震力に対して、つり合おもりが枠から脱落しないように構造とすること。

章	項目	特記事項
一般共通事項	21．弁等のサイズ	特記されていない弁等のサイズは、機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。
	㉒電線類	本工事では環境配慮の観点から、原則としてEMケーブルを使用するものとする。なお、電気設備工事編標準仕様書第6編通信・情報設備工事による。
	23．溶接部の非破壊検査	対象配管系統　・冷温水　・冷却水　・消火（水用）　・油　・ガス 検査の種類　・浸透探傷検査（PT）又は磁粉探傷検査（MT）　・放射線透過検査（RT）
	24．はつり	既存のコンクリート部の床、壁の配管貫通部等の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
	㉕支持及び固定	（1）標準仕様書以外の天吊り機器の支持は、標準仕様書第3編2．1．13（b）に準ずる。 （2）横走り主ダクト・主管の振れ止めは端部も行うこと。
	㉖支持金物・固定金具	（1）ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナット及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS304）とし、ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 （2）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。 （3）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。
	27．埋戻し土・盛土	図面に特記のない場合は下記によるほか標準仕様書第2編による。ただし、各工事種目で別に指定されたものは除く。 ・根切り土の中の良質土（ただしヒューム管以外の管の周囲は山砂の類）　◎山砂の類
	28．地中埋設線及び埋設表示用テープ	地中埋設線及び埋設用テープは、下記により屋外埋設部分に布設する。なお、地中埋設線の設置場所は図示によるほか、屋外埋設管の分岐及び曲がり部に設置する。 （1）給水管　・地中埋設線　・埋設用表示テープ （2）ガス管　・地中埋設線　・埋設用表示テープ （3）油管　・地中埋設線　・埋設用表示テープ （4）消火管　・地中埋設線　・埋設用表示テープ
	㉙保温	・主な機械室は下記の室とし、他は各階機械室とする。 主機械室： ・ダクトの保温の外装は下記による。内装は（・ロックウール　・グラスウール）

区分	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	・アルミガラスクロス
	各階機械室	・アルミガラスクロス
	主機械室	・アルミガラスクロス
	居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板
屋内隠ぺい、PS内		・アルミガラスクロス
屋外露出、多湿箇所		・ステンレス鋼板

◎配管の保温の外装は下記による。内装は（・ロックウール　・グラスウール　・ポリスチレンフォーム）

区分	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	・アルミガラスクロス
	各階機械室	・アルミガラスクロス
	主機械室	・アルミガラスクロス
	居室・廊下など	◎合成樹脂製カバー
屋内隠ぺい、PS内		・アルミガラスクロス
屋外露出、多湿箇所		・ステンレス鋼板
		・アスファルトプライマー　・着色アスファルトプライマー ◎合成樹脂製カバー

章	項目	特記事項
一般共通事項	30．塗装	（1）下記部位に使用する、外面めっき鋼管の露出配管には塗装を施す。 ※屋外露出　※居室 （2）保温を行わない居室・便所・給湯室及び屋外の露出配管（鋼管）には塗装を行う。
	31．防食処理	土中埋設の鋼管（ステンレス鋼管及び外面被覆鋼管は除く）及び金属製継手類（給水製弁・継手を含む）にはペトロラタム系防食テープ及びプラスチックテープによる防食処理を行う。（埋設配管は原則として、防食処理不要の管材とする。）
	32．山留め	切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き、掘削の深さが1．5mを超える場合には、山留めを設けるものとする。
	33．鋪装工事	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築工事標準仕様書22章（鋪装工事）による。
	34．他工事との取り合い	図面に特記なき場合は、表「工事区分表」による。
	35．予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として、20％納入する（種別ごと最低1個）。
	㊱施工条件	別添の施工条件明示書による。
	㊲三相誘導電動機	省エネ法の特定機器の対象となる機器はJIS C 4034-30:2011のIE3（プレミアム効率）に相当する機器を導入すること。
空気調和・冷房・暖房設備	①設計温湿度	（下表）

	外気 乾球温度(DB)	外気 湿度(RH)	屋内（調整目標値）一般系統	乾球温度(DB)	湿度(RH)	乾球温度(DB)	湿度(RH)	コンピューター室系統 乾球温度(DB)	湿度(RH)
夏期	32.7　℃	65.5　%	成り行き	℃	%	℃	%		
冬期	-2.0　℃	69.2　%	成り行き	℃	%	℃	%		

章	項目	特記事項
空気調和・冷房・暖房設備	2．ばい煙測定計	取付箇所は図示による。
	3．煙突	※別途　・本工事（鋼板厚　mm、高さ　m以上）
	4．煙道	※煙道径300mm以下は鋼板厚3．2mm、300mmを超えるものは4．5mmとする。　・図示による。 （煙道径が400mmを超えるものには、掃除口に蝶番を取り付ける。）
	5．ダクトの区分	低圧とする（高圧1及び高圧2の部位は図示による。）
	6．長方形ダクトの工法	・アングルフランジ工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライド）
	7．風量測定口	取付け場所は図示による。取付け個数は監督職員の指示による。
	8．チャンバ	（1）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 （2）空気調和機に取付けるサプライチャンバー及びレタンチャンバーで消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設ける。なお点検口の大きさは図示による。 （3）外壁に直接するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
	9．防煙ダンパ	（1）復帰方式　※遠隔式（電気式（定格入力DC24V、0．7A以下） （2）復帰動作　※順送り
	⑩配管材料	（1）冷温水管　※配管用炭素鋼鋼管（白） （2）冷却水管　※配管用炭素鋼鋼管（白） （3）蒸気管（給気管）　※配管用炭素鋼鋼管（黒） （還水管）　※圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch40） （4）油管、油用通気管（一般）　※配管用炭素鋼鋼管（黒） （土中）　※ポリエチレン被覆鋼管 （5）膨張管、空気抜き管、膨張タンクよりボイラ等への給水管　※配管用炭素鋼鋼管（白） （6）空調用排水管　※配管用炭素鋼鋼管（白）　◎硬質ポリ塩化ビニル管（VP） （7）冷媒管　※断熱材被覆銅管（難燃性）　（断熱材厚　※液管10mmガス管20mm　◎配管者標準品）
	11．弁類	※JIS又はJV5K　・JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
	12．鋼管用伸縮管継手	※ベローズ形　・スリーブ形
	13．温度計	※標準仕様書、標準図による他、図示した箇所に取り付ける。（配管用はL形、ダクト用は円形） ・空気調和機、温風暖房機まわりの給気ダクト、還気ダクト及び外気ダクト ・冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各還り管 ・パッケージ形空気調和機の冷却水及び温水の出入口
	14．瞬間流量計	※着脱可能形（※全数　・図示による） 着脱可能形の場合、その指示部（・40A用　個　・100A用　個　・250A用　個）を付属する。 ・固定形（止水コック付）　・測定用タッピング（32mmピトー管流量計用）
	15．オイルタンク	（1）オイルタンク本体は図示による。 （2）遠隔油面指示計　※取付ける　・取付けない （3）計量尺は、青銅製、黄銅製又はアルミ製とし、100リットル実測目盛刻印とする。計量口は錠付とする。
	16．積算油量計	図示の箇所に取付ける（熱源機器等）。
	17．注油口及び指示ﾎﾞｯｸｽ	標準図（機材　6　）による。 ・単独形　・共用形（・　ローリーアース付）
	18．消音内貼り	（1）施工箇所は図示による。 （2）内貼りチャンバー類の寸法表示は、外形寸法とする。 （3）吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは別図による。
	⑲保温	（1）建物内の空気抜き管の保温は空気抜き弁までとし（空気抜き弁も含む）、仕様は冷温水管の項による。 （2）屋外露出配管の保温は、給水設備の項による。 （3）外気取り入れダクト及びチャンバーボックスの保温　※要（全熱交換器の給気ダクトを含む）　・不要 （4）排気ダクトの外壁開放部より1m程度保温する。（チャンバーボックスを含む） （5）冷媒管（断熱材被覆銅管）の保温外装 屋内露出部　・保温化粧ケース（樹脂製）　・外装なし 屋外　◎保温化粧ケース（樹脂製）　・外装なし （6）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は　mmとする。
	20．電気工事の範囲	（1）動力盤から機器の二次側配線　※別途　・本工事 （2）防煙ダンパと連動制御器盤の配管配線及び連動制御器盤から煙感知器盤の配線配管は ※別途　・本工事
	21．塗装	（1）屋内露出保温ダクトの塗装（居室及び廊下）は　※行わない　・行う （2）屋内露出冷却水配管の塗装（居室は除く）は　※行わない　・行う
換気設備	①準拠事項	［空気調和・冷房・暖房］の当該事項に準ずる。 ・5　・6　・7　・9　・18　・19
	2．開放形温風暖房器排気ﾌｰﾄﾞ	※別途　・本工事　・既設
	3．厨房用排気ダクト	※亜鉛鉄板　・ステンレス鋼板（SUS304）（板厚は高圧ダクトによる）
	4．厨房用排気ダクト工法	※アングルフランジ工法　・コーナーボルト工法（共板フランジ又はスライドオンフランジ）
	5．厨房用排気フード	（1）フード周囲の天幕（フード面から天井面まで）　※取り付ける　・取り付けない （2）フードコック　※取り付ける　・取り付けない （3）材質（天幕とも）　※ステンレス鋼板（SUS430又はSUS304）
	6．多湿箇所の排気ﾀﾞｸﾄ	次の系統のダクトのシールは、標準図（施工45、46）のNシール＋Aシール＋Bシールとし、水抜きを設ける。 ・（　）
排煙設備	1．ダクト	・亜鉛鉄板製　・鋼板製（1．6mm以上）
	2．排煙口の形式	・可動羽根（スリット共）　・可動パネル
	3．排煙口開放装置	・ワイヤー式　・電気式（遠隔操作機能　・要　・不要）
	4．排煙風量測定方式	建築設協定期規模検査務指導書（（財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方式に準ずる。
自動制御設備	1．中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
	2．計装工事の配線	（1）屋外・屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 （2）天井内隠ぺいの配線は、図示に特記なければケーブル配線とする。
衛生器具設備	1．大便器洗浄弁	・洗浄タンク方式　・洗浄弁方式（不凍結節水弁付）
	2．便器洗浄用タンク	※手洗なし　・手洗付
	3．小便器自動洗浄	個別感知方式とする。（・小便器一体型　・小便器分離型）
	4．器具付属品	固定ごまど（節水こま）とする。
	5．自動水栓	※電源供給方式（※AC100V）　・乾電池　・自己給電
	6．温水洗浄便座加熱方式	・瞬間式　・貯湯式
	7．大便器耐火カバー	設ける（ピット内を除く）
給水設備	1．量水器	（1）親メーター　※借用　・買取り　（隔測メーター・有　・無） （2）子メーター　※買取り　（隔測メーター・有　・無）
	2．量水器桝	（1）親メーター用　※水道事業者の指定品　・標準図（機材57） （2）子メーター用　※標準図（機材57）　・水道事業者の指定品
	3．配管材料	（1）一般用　（3）屋外土中用 ・ステンレス鋼管（SUS304）　・ステンレス鋼管（SUS316） ・塩ビライニング鋼管（・VA　・VB）　・塩ビライニング鋼管（VD） ・ポリ粉体鋼管（・PA　◎PB）　・ポリ粉体鋼管（PD） ・水道用硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・　〃　（HIVP） ・ポリエチレン管 （2）土間配管用（厨房、浴室等のシンダー内含む）　・水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 ・ステンレス鋼管（SUS316） ・塩ビライニング鋼管（VD） ・ポリ粉体鋼管（PD）
	4．不凍水栓柱	化粧ケーシング（・アルミ合金製　・合成樹脂製・）　〃　（HIVP）
	5．弁類	（1）水道直結部分　※JIS又はJV10K　・水道事業所の規定による　K （2）その他の部分　※JIS又はJV5K　・JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
	6．給水栓	（1）屋内（※一般水栓　・耐寒水栓　）　（2）屋外（※耐寒水栓　・一般水栓　） 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。　耐寒水栓はJWWAの認証品とする。
	7．埋設深さ	（1）一般敷地内（0．45m以上）　（2）敷地内車両通路（0．6　m以上） （3）公道部分（※水道事業者及び道路管理者規定による）
	8．保温	（1）量水器桝内の保温を行う。 （2）屋外露出配管（弁フランジを含む）は、標準仕様書第2編（表2．3．6　e2・（ハ））とし厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。
	9．埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※含む（水道事業者管理用以外の弁操作用）　・含まない
	10．水道加入金等	水道加入金　・要（・本工事　・別途　）　・不要 ・その他（　）
	11．ステンレス管の接合方法	（1）呼び径60SU以下　SAS322（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （2）呼び径75SU以上　・溶接接合　・ハウジング形管継手による接合　・フランジ接合
	12．その他	給水管の最小口径は20mmとする。ただし、器具接続部分を除く。
排水設備	1．配管材料	（1）屋内汚水管　（2）屋内雑排水管　（3）屋外土中汚水、雑排水管 ・排水用塩ビライニング鋼管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・鉛管　・排水用塩ビライニング鋼管　・硬質ポリ塩化ビニル管（VU） ・硬質ポリ塩化ビニル管（VP）　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP）・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（REP-VU） （4）土間配管用　（5）通気管　（6）ポンプアップ排水管 ・排水用塩ビライニング鋼管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・ポリ粉体鋼管（PD） ・硬質ポリ塩化ビニル管（VP）　・硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） 台所流し等の床上露出部分の排水管は、硬質ポリ塩化ビニル管でもよい。
	2．排水桝	・桝リストは図面番号（M-07　） （1）材料　・RC　・硬質塩化ビニル　・ポリプロピレン　・SC （2）ふた　・鋳鉄製（・MHA　・MHB　・T8A　） ・樹脂製 ※県マーク、流体名入りおよび樹脂製ふたは原則としてSUSチェーン付 （3）規格　・日本下水道協会（JSWAS）　・プラスチック・マスマンホール協会（PMMS） ・市町村要綱（・有　・無）
	3．グリース阻集器	・FRP製（　L）・SUS製（　L）　詳細は図示。
	4．満水試験継手	図示の箇所に取付け、満水試験を行うこと。
	5．試験	・衛生器具などの取付完了後、排水試験又は通水試験を行う。 ・衛生器具などの取付完了後、煙試験を行う。
	6．放流負担金等	・不要　・要（・別途工事　・本工事）
	7．基礎材	※再生クラッシャーラン
給湯設備	1．配管材料	・ステンレス鋼管（SUS304）　・耐熱性ライニング鋼管　・銅管　・被覆銅管 ・保温付被覆銅管　＜膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む。＞
	2．弁類	給水設備の当該事項による。
	3．湯沸器の排気筒	厚さ0．5mm以上のステンレス鋼板製とする。
	4．保温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。標準仕様書第2編3．1．5表2．3．5の（ト・(イ)・X）
	5．ステンレス管の接合方法	（1）呼び径60SU以下　SAS322（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （2）呼び径75SU以上　・溶接接合　・ハウジング形管継手による接合　・フランジ接合
消火設備	1．配管材料	（1）一般　（2）地中埋設部 ・配管用炭素鋼鋼管（白）　・外面被覆鋼管（SGP-VS） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch40）　・ポリエチレン被覆鋼管（SGP-PS） ・外面被覆鋼管（STPG-370VS） ・ポリエチレン被覆鋼管（STPG-370PS） （3）二酸化炭素用 ・圧力配管用炭素鋼鋼管（継目無管）（Sch80）
	2．屋内消火栓種別	・易操作性1号消火栓　・2号消火栓　・広範囲型2号消火栓
	3．消火栓開閉弁	・JIS10K　・JIS20K
	4．保温	（1）屋外露出部については給水管に準ずる。 （2）充水タンクの保温　・施工しない　・施工する （3）消火配管の保温　屋内消火栓　・施工しない　◎施工する スプリンクラー　・施工しない　・施工する
	5．消火器類	（1）消火器　種別・数量（　） （2）消火器収納箱　仕様・材質・数量（　）
厨房機器設備	1．厨房機器類	（1）図示による（材質などは標準仕様書による）。ただし、寸法は参考とする。 （2）厨房機器据付け基準は、標準図施工74による。
ガス設備	1．配管材料	（1）一般　（2）地中埋設部 ※配管用炭素鋼鋼管（白）　※ポリエチレン被覆鋼管 ・ガス事業者の規定による　・ガス事業者の規定による ・　・ガス用ポリエチレン管
	2．都市ガス	（1）ガスメーター 親メーターはガス事業者の設置、子メーターは本工事 （2）引込み負担金　・不要　・要（・別途工事　・本工事）
	3．液化石油ガス	（1）ガスボンベ　※借用　・買い取り　（・10kg　・20kg　・50kg　本） （2）ガスメーター　親メーターはガス事業者の設置、子メーターは本工事とする。 （3）集合装置　・標準図（施工72）による（　本組） （4）転倒防止等　・標準図（施工73）［・(a)　・(b)］　・ボルト、チェーン等はSUS製とする。 ・容器固定具をGL＋300に追加設置する。
	4．ガス漏れ警報器	図示の場所に取付ける（・分離形　・一体形）　・別途電気工事 外部出力端子（・あり　・なし）
	5．埋設深さ	（1）一般敷地内（　m以上）（2）敷地内車両通路（　m以上） （3）公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）
	6．その他	配管工事は、原則としてガス供給事業者の責任施工とする。　供給事業者名（　）

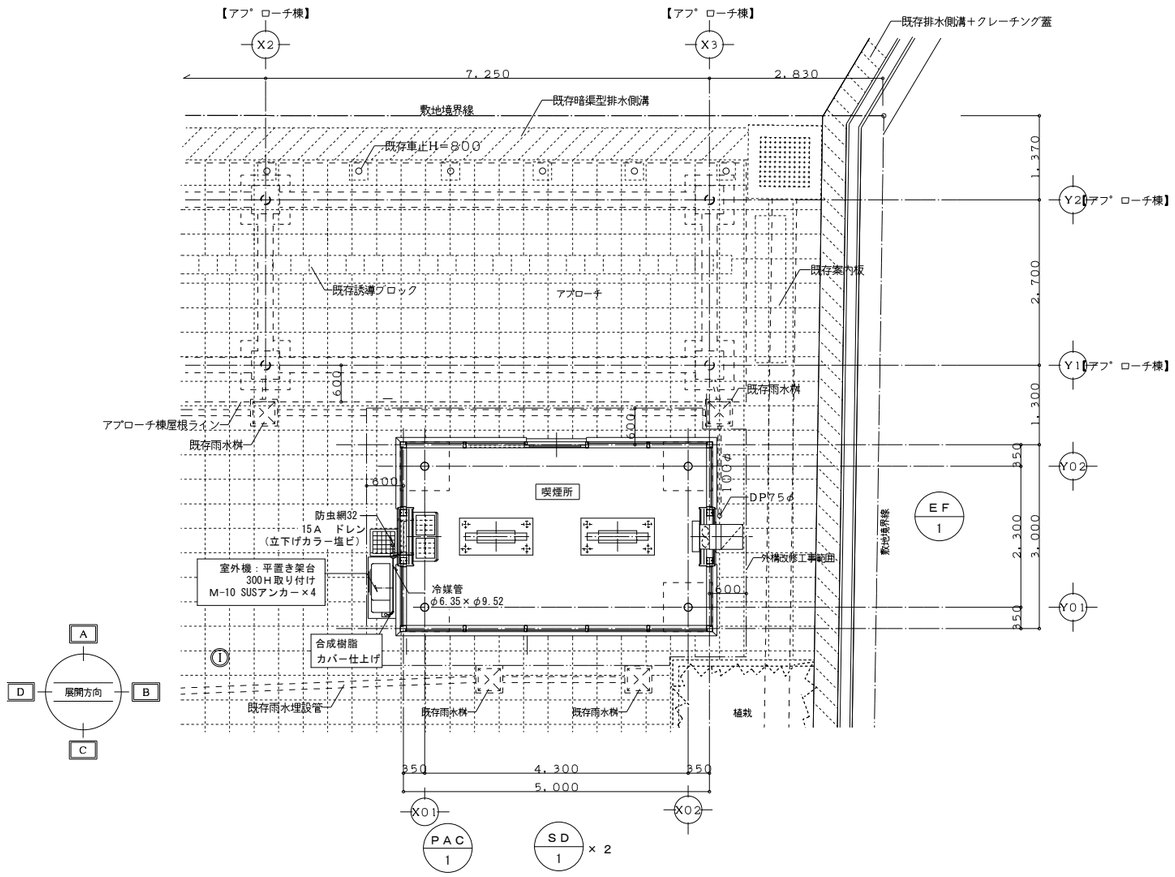
表1「完成書類」　本工事終了後下記の書類を提出すること。

名称	完成書類	部数
1 完成調書	宮城工事完成引渡要領（平成31年1月15日版）（作成は、主たる請負業者が、他の工事および監督員の協力を得て作成すること。）	1部
2 完成図 ①業表紙全文字製本	A4版 （4　機器完成図、5　取扱説明書とまとめて1冊にしてもよいが、厚さ80mmを超える場合は分冊とする。）	1部
②白焼きニつ折り製本	A1版またはA2版の二つ折り	1部
③白焼きニつ折り製本（縮小）	A4版（A3版二つ折り） 1部は設置保管用	2部
④原図	三つ折りケース収納	1部
⑤完成図書電子データ	JWW又はDXF形式のCADデータもしくはPDF形式	CD 2枚
3 施工図 ①白焼きニつ折り製本	A1版またはA2版の二つ折り （施工図の枚数が少ない場合は、完成図の二つ折り製本と合本可）	1部
②原図	三つ折りケース収納	1部
4 機器完成図	A4版　黒表紙金文字製本 （2　完成図と合本可）	1部
5 取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧	A4版　黒表紙金文字製本 （2　完成図と合本可）	1部
6 管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	A4版　チューブ式ファイル	1部

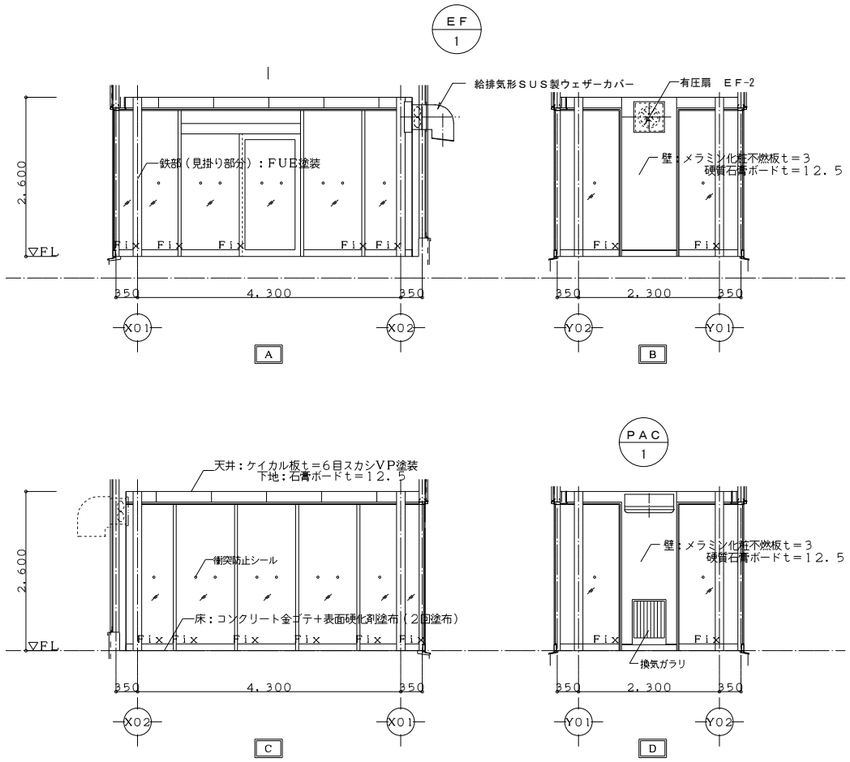
名称	完成書類	部数
7 工事写真 ①工事施工写真	A4版　チューブ式ファイル 工事施工写真は、履行写真（着手前写真と完了写真）並びに施工状況写真とする。で構成される。	1部
②完成写真	A4版　ペーパーファイル 完成届に添付	1部
8 工事週報	A4版　チューブ式ファイル	1部
9 工事打ち合わせ議事録	A4版　チューブ式ファイル	1部
10 工事に関する承諾確認書 ①施工計画書 ②施工要領書 ③確認書・承諾書 ④協議書 ⑤安全に関する書類 ⑥建設廃棄物ﾏﾆﾌｪｽﾄ	A4版　チューブ式ファイル	1式
11 各種保証書	A4版　チューブ式ファイル	1部
12 その他 ①機器試験成績書 ・機材材質証明書 ・機材検査試験報告書 ・工場検査報告書 ・工場立会検査報告書 ②現場試験成績書 ・工事別試験報告書 ・総合運転および試験報告書		1部

注記：機器及びシステム参考図について
本図面中で、機器又はシステムの品質・グレードを規定する目的で、対象品の寸法形状、諸元及びシステム構成等を参考図として記載している。
これらのものについては、その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

特記	訂正	株式会社 ゴウ構造 一級建築士 第302881号　下山田　勇	日付 2021・01・05・ 吉澤　克彦　一級建築士 第300198号 伊藤　雅子　一級建築士 第273862号	件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事 図名 上り線PA 機械設備工事特記仕様書	図面番号 M－01 縮尺 A1:－ A3:－
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・				



上り線　平面詳細図 S=1:50



展開図　S=1:50

空調機器表　（改修後）

<グリーン購入法対象機器>
注記1．機器電気容量は参考とする。

記号	設置場所	室外ユニット 熱源形式	冷房能力 kW	暖房能力 kW	消費電力 kW 冷房	消費電力 kW 暖房（定格）	圧縮機 kW	送風機 kW	電源 φ V	数量	室内ユニット 付属品：ワイヤレスリモコン 室内ﾕﾆｯﾄ形式	冷房能力 kW	暖房能力 kW	送風機 kW	風量(CMH) 静圧(Pa)	電源 φ V	数量	備考
																		付属品：SUS製防雪フード（吹出）、防振パット
PAC－1	屋外機：屋外 屋内機：上り喫煙室	ヒートポンプエアコン	5.6 (5.6~6.0)	6.7 (0.6~11.6)	2.02 (1.72)	3.67 (1.58)	1.50	－－	1/200	1	壁掛け形	5.6	6.7	－－	－－	1/200	1	平地措き架台（300H） （溶融亜鉛メッキ）
																		（VVF2.0×3C）操作線

送風機類

※　電動機の電気容量は参考値とする。

記号	形式	設置場所	羽根径 φ	風量 m3/h	静圧 Pa	送風機 kW	電源 φ V	数量	備考
ＥＦ－１	有圧換気扇（業務用）メッシュ形	上り喫煙室	350	1600	40	0.085	1/100	1	電動式シャッター、ＳＵＳ製給排気形ウェザーカバー(防虫網付) 取付枠含む
ＳＤ－１	集塵・脱臭機（テーブル600W付）	上り喫煙室	-	720	40	0.15	1/100	2	捕煙機能・灰皿付き（1200*600*1000H・1813H） 自動運転、集塵HEPAフィルター、特殊活性炭、プラズマ脱臭

特記

訂正

株式会社 ゴウ構造
一級建築士 第302881号 下山田 勇

日付 2021・01・05・
古澤 克彦 一級建築士 第300198号
伊藤 雅子 一級建築士 第273862号

件名 春日PA身障者用駐車場等改築工事
図名 上り線ＰＡ 空調・換気設備 喫煙所詳細図
図面番号 Ｍ －０２
縮尺 A1:1/50 A3:1/100